

第 8 期 群 馬 県 高 齢 者 保 健 福 祉 計 画
の 策 定 の た め の 県 民 意 識 調 査
《 報 告 書 》

令 和 2 年 3 月

群 馬 県

目次

I	調査の概要	1
II	調査結果（介護保険制度等に関する県民意識調査）	5
1	属性	7
2	日常生活について	8
	（1） 自家用車を使っての外出状況	8
	（2） 日常生活の満足度	12
	（3） 日常生活の困っていること、不便に感じていること	16
	（4） 将来の不安や心配事	22
3	介護保険サービスの利用について	28
	（1） 介護保険の利用状況	28
	（2） 介護保険利用者との関係性	32
	（3） 利用しているサービス	33
	（4） 利用サービスの満足度	38
	（5） 利用サービスにおいて不満に感じること	39
	（6） 介護が必要となった場合の希望	41
	（7） 施設を選ぶ際の条件	43
4	介護予防について	44
	（1） 「フレイル」の認知度	44
	（2） 介護予防方法の認知度	48
	（3） 介護予防の取り組み	52
5	介護保険料について	56
	（1） 介護保険料について	56
	（2） 介護サービスの利用料	60
6	地域包括支援センターについて	64
	（1） 「地域包括支援センター」の認知度	64
	（2） 地域包括支援センターに期待すること	68
7	認知症について	74
	（1） 認知症についての相談場所	74
	（2） 認知症施策において重要なこと	79
	（3） 「認知症疾患医療センター」の認知度	84
8	在宅医療・介護について	88
	（1） 在宅療養の希望について	88
	（2） 在宅療養の実現性	92
	（3） 在宅療養が実現困難な理由	96
	（4） 在宅療養が実現可能か分からない理由	97
9	人生最終段階の医療・ケアについて	98

(1)	最期を過ごしたい場所について	98
(2)	「アドバンス・ケア・プランニング」の認知度	102
(3)	「アドバンス・ケア・プランニング」の取り組み	106
10	薬局について	107
(1)	「かかりつけ薬剤師」の認知度	107
(2)	今後、薬局に期待すること	111
(3)	薬について相談したいこと	115
(4)	薬以外の健康、食品、生活などについて相談したいこと	119
III	調査結果（介護家族等に関する県民意識調査）	123
1	属性	125
2	介護保険制度について	126
(1)	介護についての知識や介護保険の仕組みの認知度	126
(2)	介護保険料について	130
3	家庭における介護や介護保険サービスの利用について	134
(1)	介護が必要となった場合の希望	134
(2)	施設を選ぶ際の条件	139
(3)	親族の介護経験	140
(4)	介護の対象者との関係性	144
(5)	介護保険サービスの利用の有無	145
(6)	利用サービスの満足度	146
4	介護離職について	147
(1)	介護離職の経験の有無	147
(2)	介護離職の理由について	148
(3)	介護離職しなかった理由について	149
5	介護・育児の同時対応や子どもによる介護・育児について	150
(1)	介護と育児のダブルケアの経験について	150
(2)	ダブルケアによる就業への影響	151
(3)	ダブルケアの負担感について	152
(4)	ダブルケアの課題に対して取り組むべき支援策	153
(5)	子どもに介護・育児を手伝ってもらった経験	155
(6)	子どもの状態の変化について	156
6	地域包括支援センターについて	158
(1)	「地域包括支援センター」の認知度	158
(2)	地域包括支援センターに相談したいことについて	162
(3)	地域包括支援センターに期待すること	168
7	その他	174
(1)	県・市町村が取り組むべき介護への支援	174

I 調査の概要

1 調査の目的

高齢者の保健福祉、介護保険等に関する県民の皆様の意識や意見・要望などを把握し、「第8期群馬県高齢者保健福祉計画」の策定及び政策立案の基礎資料とする。

2 調査の内容

- (1) 介護保険制度等に関する県民意識調査
 - 1) 属性
 - 2) 日常生活について
 - 3) 介護保険サービスの利用について
 - 4) 介護予防について
 - 5) 介護保険料について
 - 6) 地域包括支援センターについて
 - 7) 認知症について
 - 8) 在宅医療・介護について
 - 9) 人生最終段階の医療・ケアについて
 - 10) 薬局について
 - 11) その他
- (2) 介護家族等に関する県民意識調査
 - 1) 属性
 - 2) 介護保険制度について
 - 3) 家庭における介護や介護保険サービス利用について
 - 4) 介護離職について
 - 5) 介護・育児の同時対応や子どもによる介護・育児について
 - 6) 地域包括支援センターについて
 - 7) その他

3 調査の設計

- (1) 対象地域 群馬県全域
- (2) 調査対象 介護保険制度等に関する県民意識調査：群馬県内在住の65歳以上の男女
介護家族等に関する県民意識調査：群馬県内在住の40歳以上65歳未満の男女
- (3) 標本数 各1,600人
- (4) 抽出方法 各市町村の人口をもとに対象者数を市町村ごとに割り当て、各市町村において住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間 令和2年1月10日（金）～令和2年1月27日（月）
- (7) 調査機関 株式会社タイム・エージェント

4 回収結果

高齢者 保健福祉圏域	構成市町村	介護保険制度等に関する 県民意識調査			介護家族等に関する 県民意識調査		
		対象数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)	対象数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
前橋	前橋市	230	134	58.3	220	88	40.0
高崎安中	高崎市、安中市	310	180	58.1	290	121	41.7
渋川	渋川市、榛東村、吉岡町	100	58	58.0	95	40	42.1
藤岡	藤岡市、上野村、神流町	90	48	53.3	80	32	40.0
富岡	富岡市、下仁田町、南牧村、 甘楽町	95	48	50.5	85	40	47.1
吾妻	中之条町、長野原町、嬭恋村、 草津町、高山村、東吾妻町	95	53	55.8	90	47	52.2
沼田	沼田市、片品村、川場村、 昭和村、みなかみ町	105	58	55.2	105	46	43.8
伊勢崎	伊勢崎市、玉村町	150	74	49.3	190	76	40.0
桐生	桐生市、みどり市	130	66	50.8	120	53	44.2
太田館林	太田市、館林市、板倉町、明和 町、千代田町、大泉町、邑楽町	295	155	52.5	325	129	39.7
	不明	-	25	-	-	4	-
	合計	1,600	899	56.2	1,600	676	42.3

5 報告書の見方

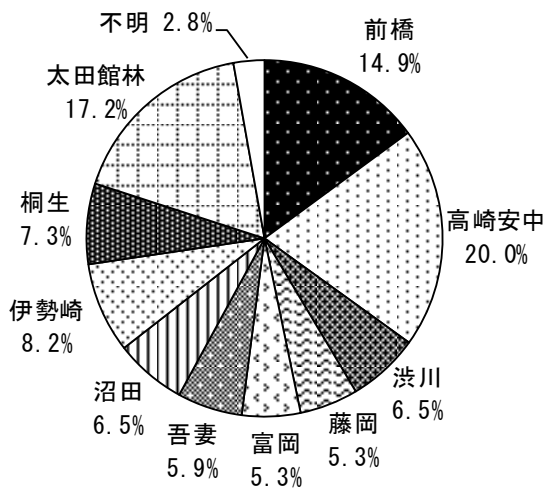
- (1) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって単数回答の設問については、すべての選択肢の合計が100.0%に満たない、または上回る場合がある。
- (2) 複数回答の設問については、すべての選択肢の比率の合計が、通常100.0%を超える。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) グラフに表記されている「n=*」(*は数字)は、集計対象の母数を表している。
- (5) 分析の軸(=縦軸)とした属性や設問は、無回答を除いているため、各属性の回答者の合計が全体と一致しない場合がある。
- (6) 回答者数が少ないものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (7) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。

Ⅱ 調査結果（介護保険制度等に関する県民意識調査）

1 属性

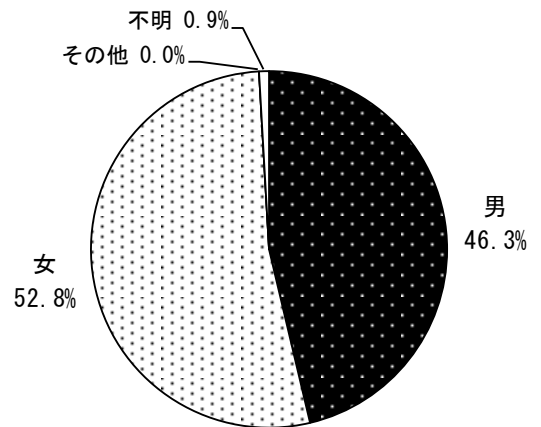
(1) お住まいの保健福祉圏域

n=899



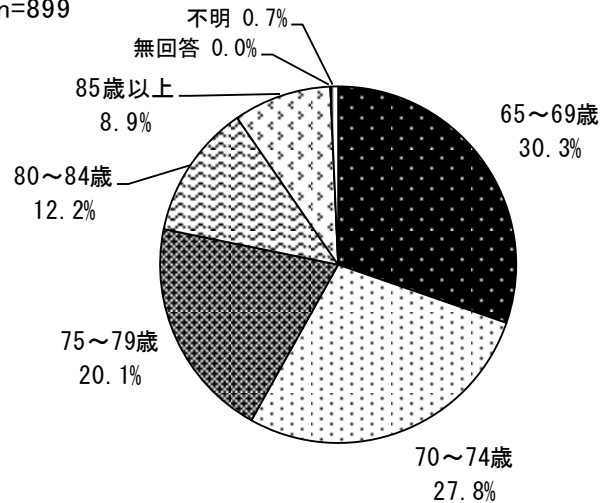
(2) 性別

n=899



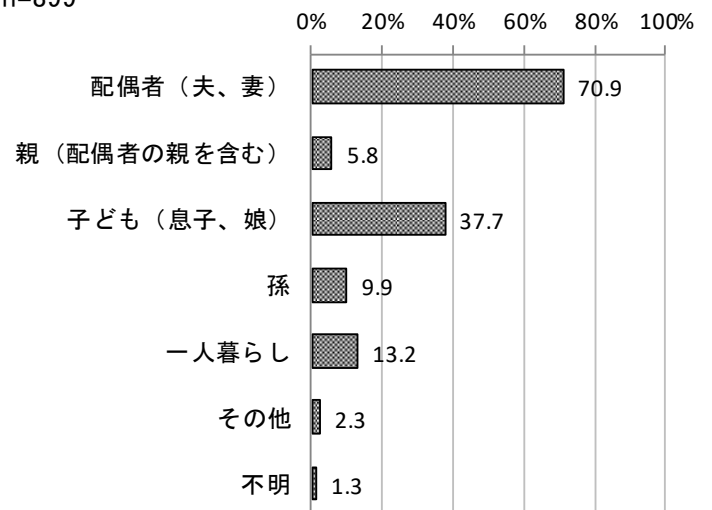
(3) 年齢

n=899



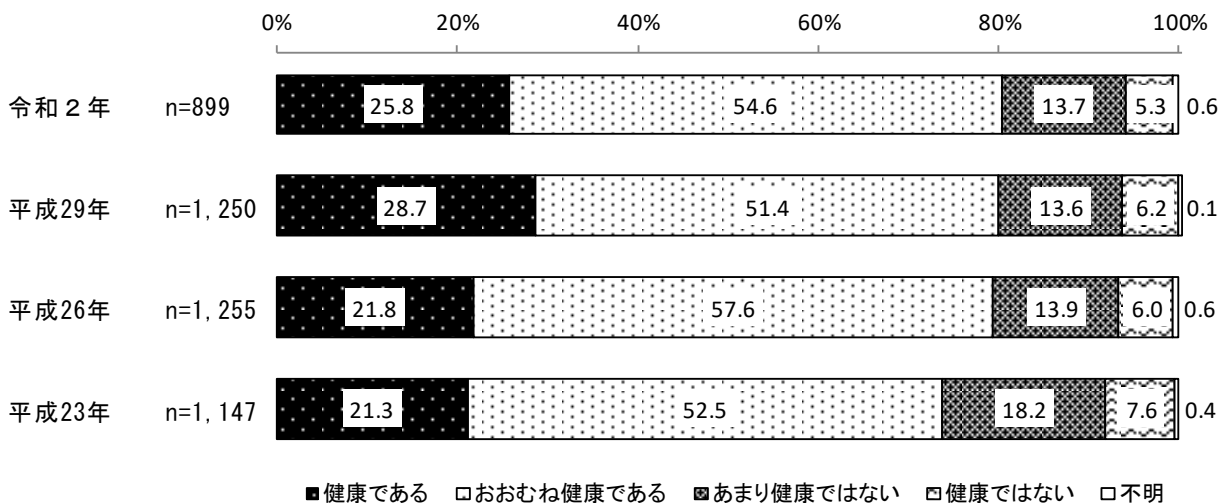
(4) 同居している家族 (当てはまるもの全て)

n=899



※複数回答による集計

(5) 健康状態<経年比較>



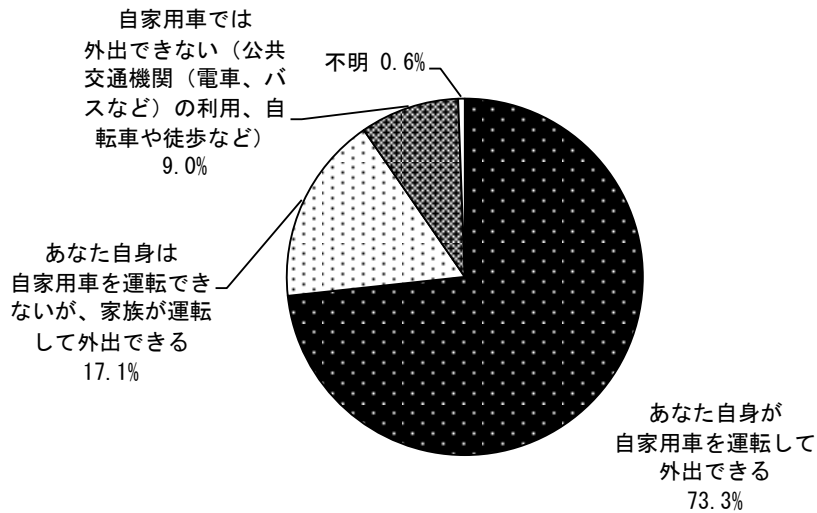
2 日常生活について

(1) 自家用車を使つての外出状況

◎ 「あなた自身が自家用車を運転して外出できる」が7割前半

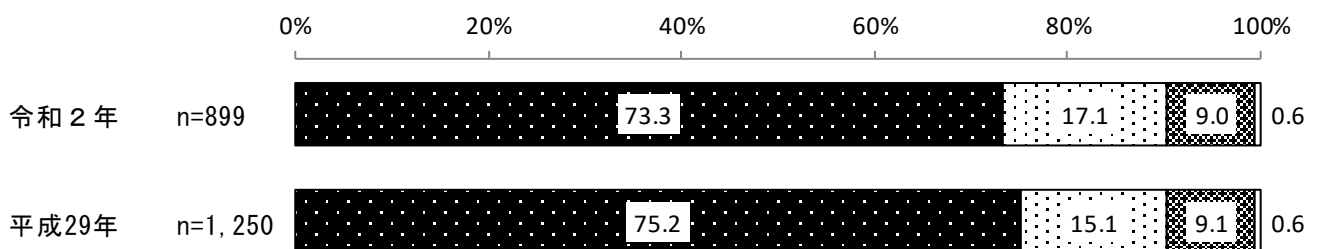
問6 あなたは、自家用車（バイクを含む）を使つて、外出することはできますか。（1つだけに○）

n=899

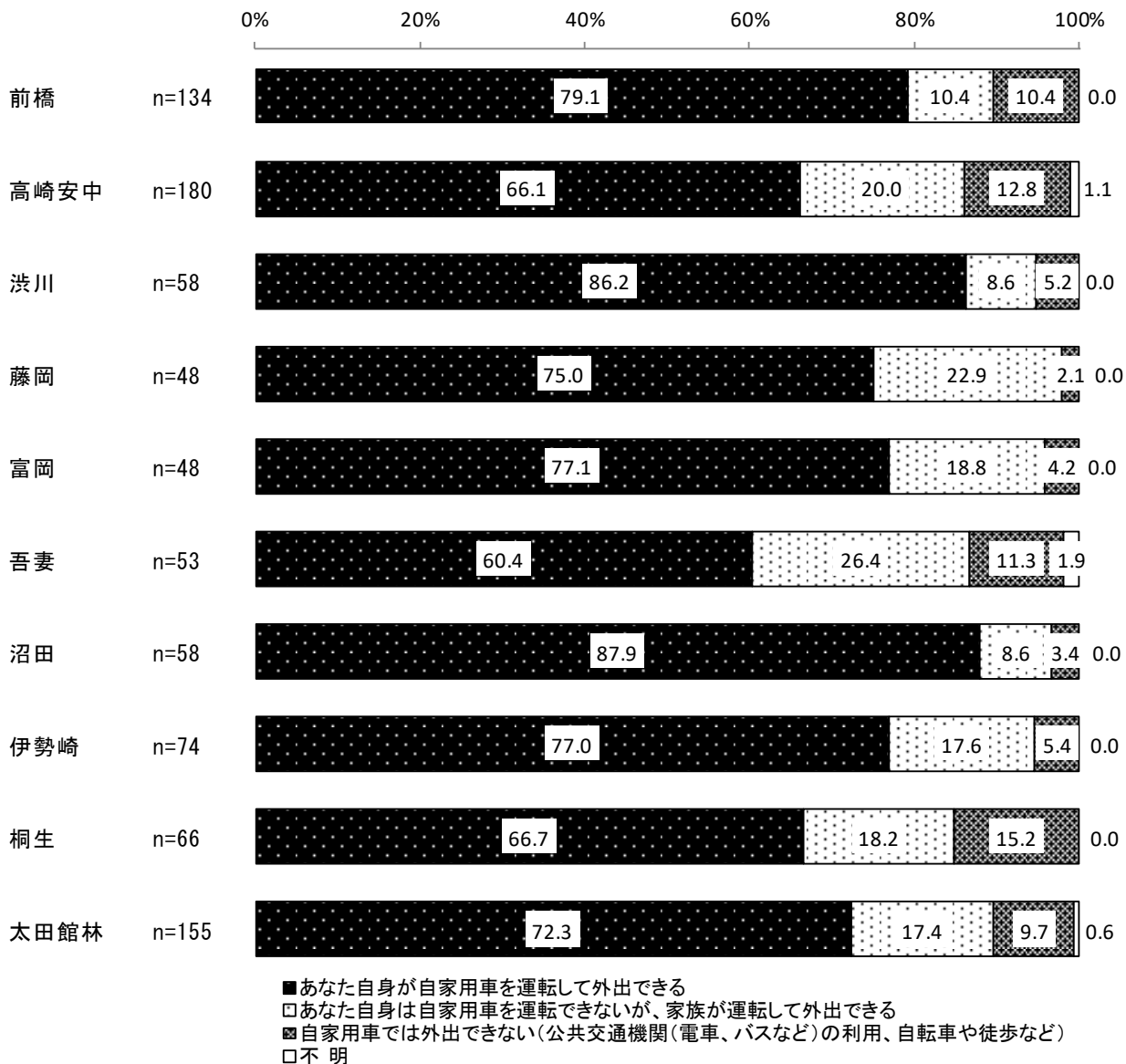


自家用車を使つての外出状況は、「あなた自身が自家用車を運転して外出できる」が73.3%で最も高く、次いで「あなた自身は自家用車を運転できないが、家族が運転して外出できる」（17.1%）、「自家用車では外出できない（公共交通機関（電車、バスなど）の利用、自転車や徒歩など）」（9.0%）となっている。

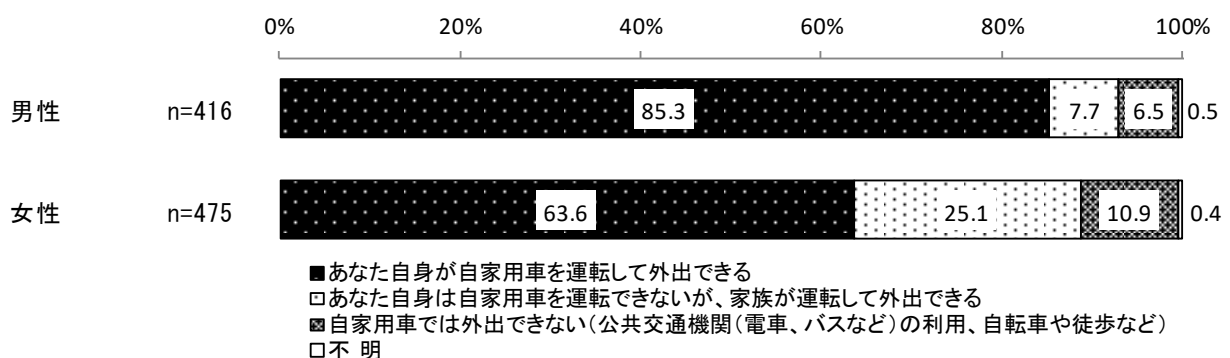
<経年比較>



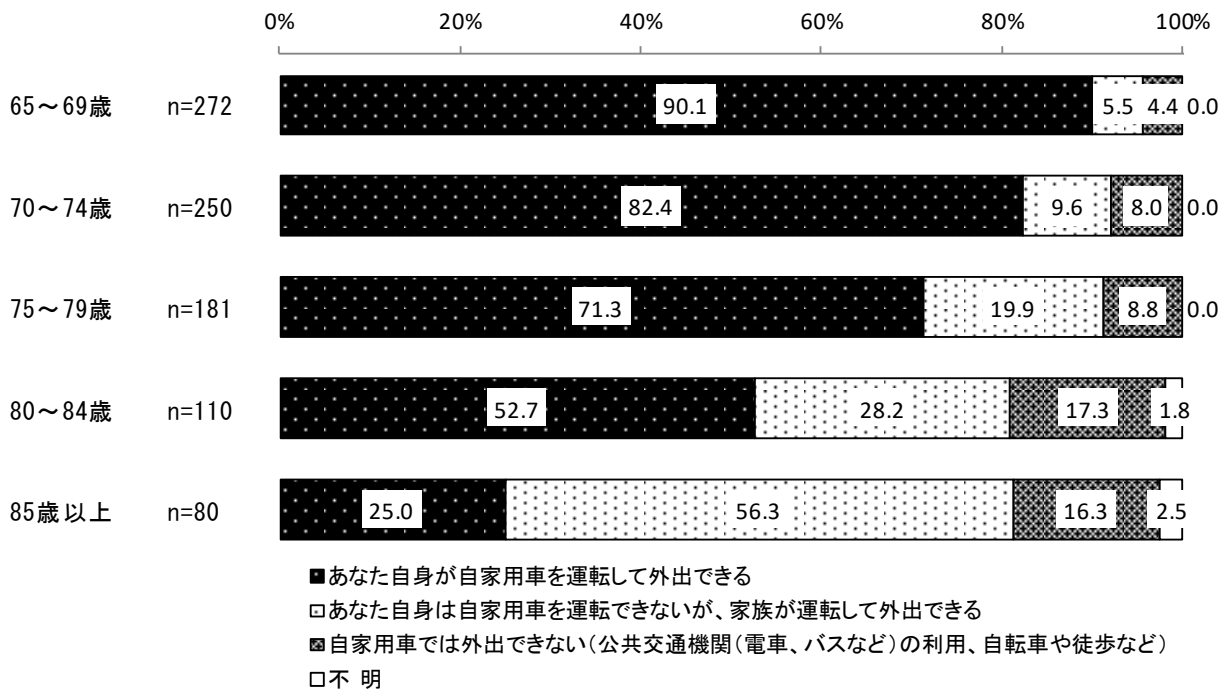
- あなた自身が自家用車を運転して外出できる
- あなた自身は自家用車を運転できないが、家族が運転して外出できる
- ▨自家用車では外出できない（公共交通機関（電車、バスなど）の利用、自転車や徒歩など）
- 不明



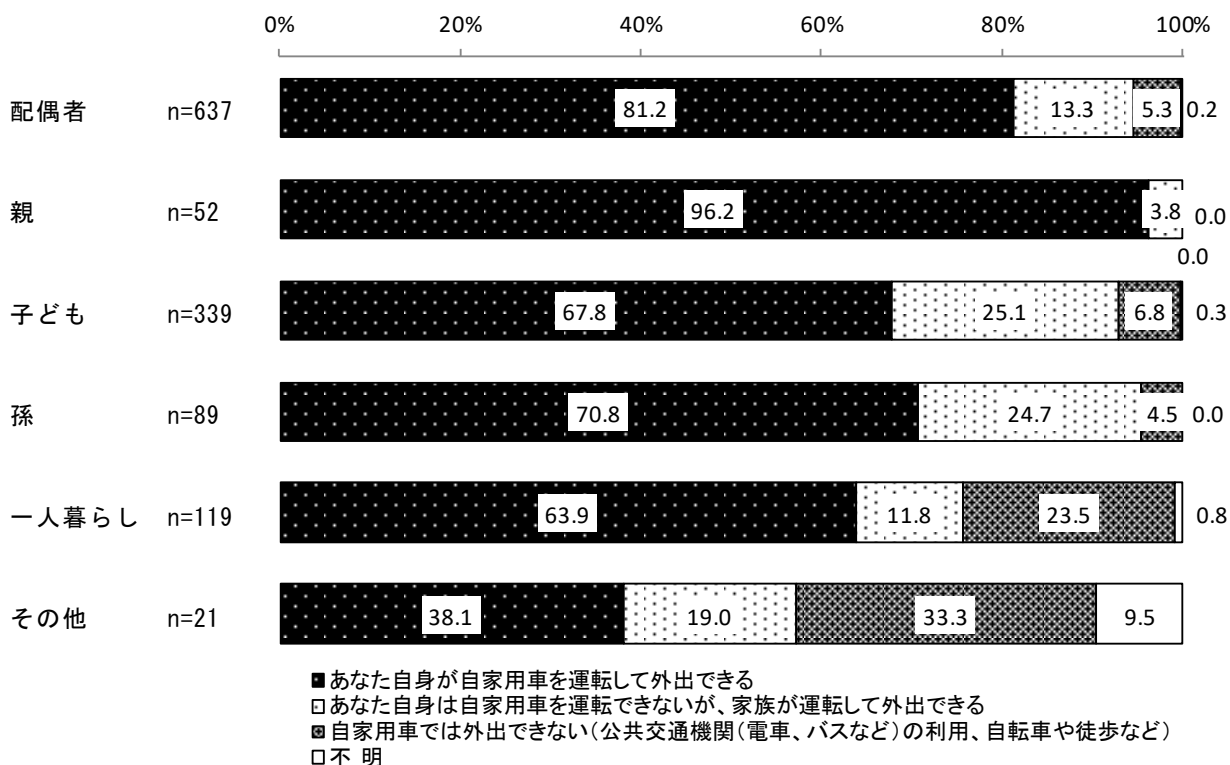
保健福祉圏域別でみると、「あなた自身が自家用車を運転して外出できる」は渋川圏域で86.2%、沼田圏域で87.9%と8割台となっている。



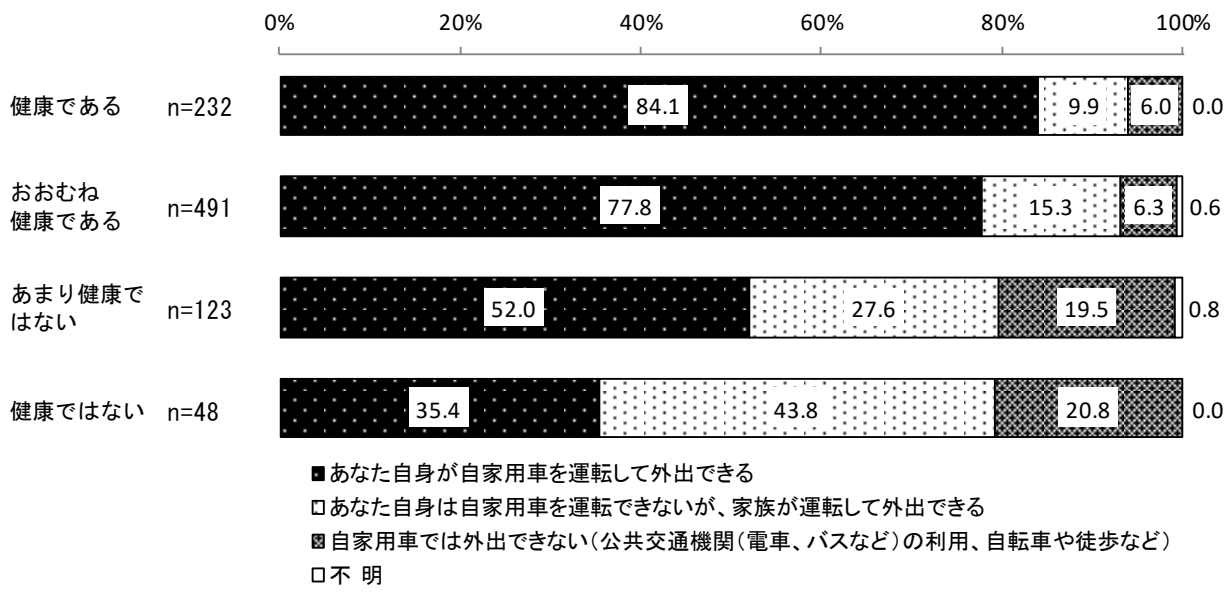
性別でみると、「あなた自身が自家用車を運転して外出できる」は男性(85.3%)が女性(63.6%)を21.7ポイント上回っている。



年齢別でみると、「あなた自身が自家用車を運転して外出できる」は65~69歳で90.1%だが、85歳以上では25.0%と年齢が上がるにつれ低くなっている。「自家用車では外出できない(公共交通機関(電車、バスなど)の利用、自転車や徒歩など)」は80歳以上で1割台となっている。



同居家族別でみると、「あなた自身が自家用車を運転して外出できる」は親と同居している方で96.2%と9割半ばになっている。「自家用車では外出できない(公共交通機関(電車、バスなど)の利用、自転車や徒歩など)」は、一人暮らしの方で2割前半となっている。



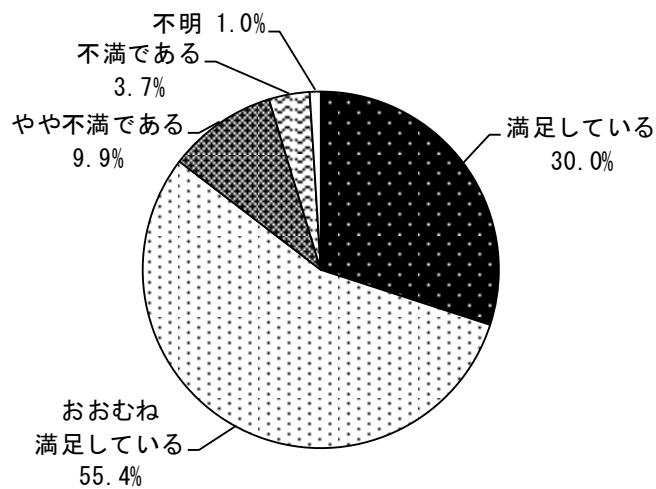
健康状態別で見ると、「あなた自身が自家用車を運転して外出できる」は健康である方で84.1%と高く、健康ではない方で35.4%と低くなっている。「自家用車では外出できない(公共交通機関(電車、バスなど)の利用、自転車や徒歩など)」は、あまり健康ではない、健康ではない方で約2割となっている。

(2) 日常生活の満足度

◎ <満足>が8割半ば

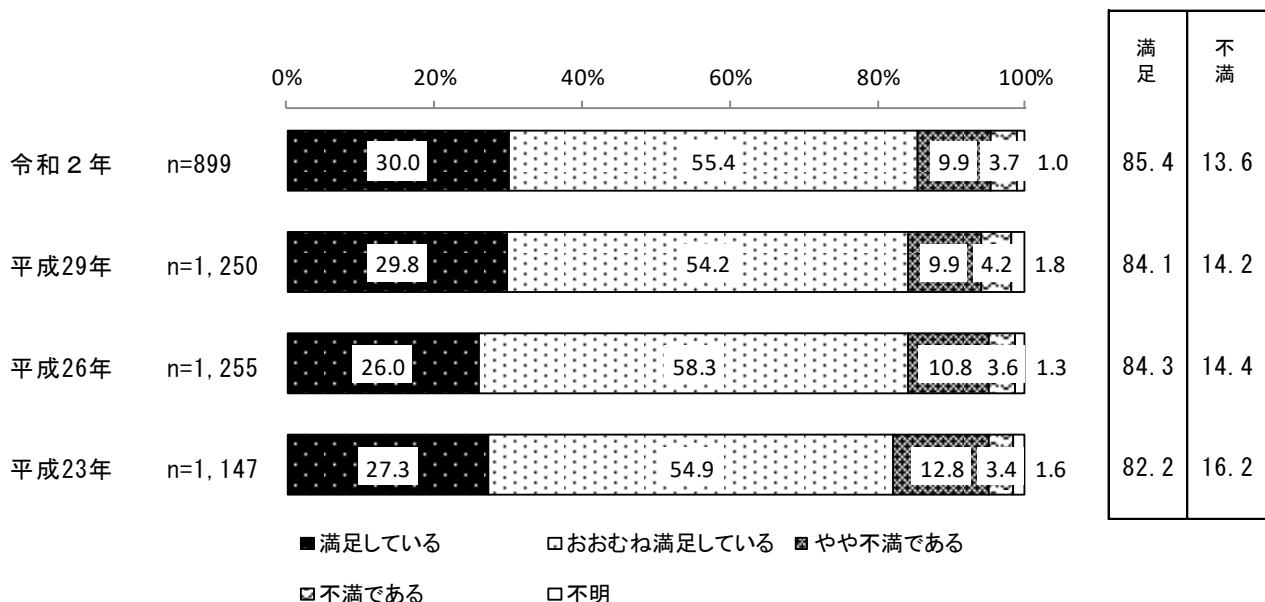
問7 あなたは、自身の日常生活全般について満足していますか。(1つだけに○)

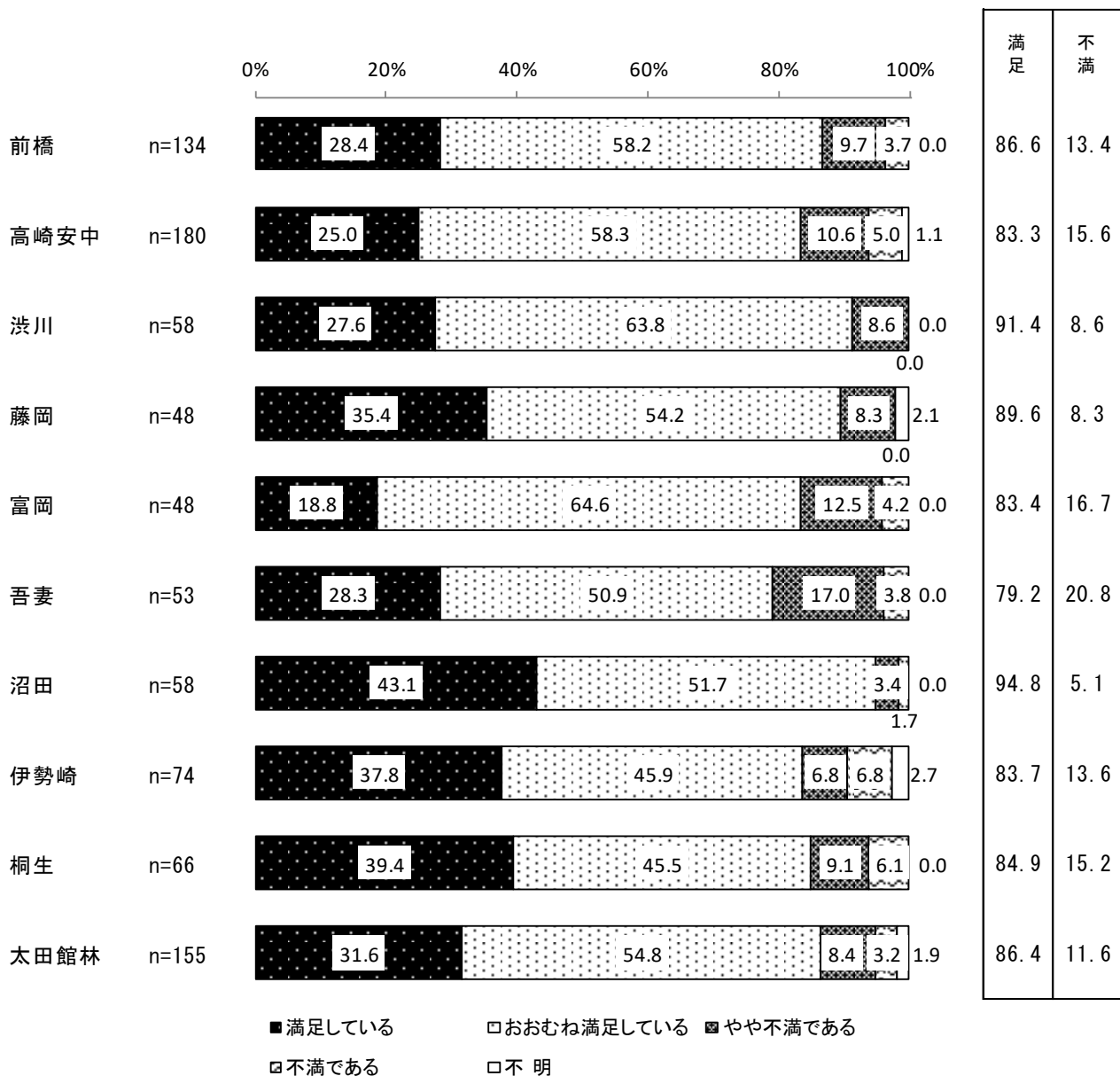
n=899



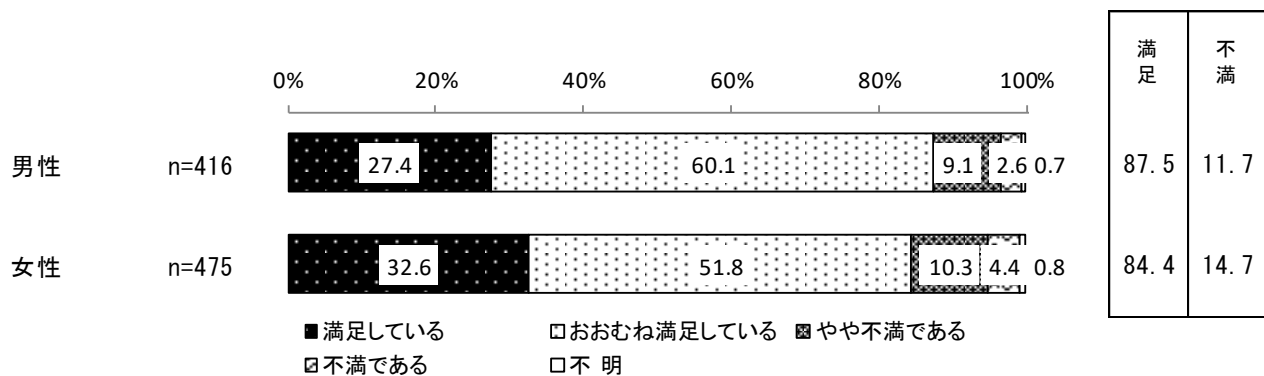
日常生活の満足度は、「おおむね満足している」が55.4%で最も高く、「満足している」(30.0%)と合わせた<満足>は85.4%となっている。一方、「やや不満である」(9.9%)、「不満である」(3.7%)を合わせた<不満>は13.6%となっている。

<経年比較>

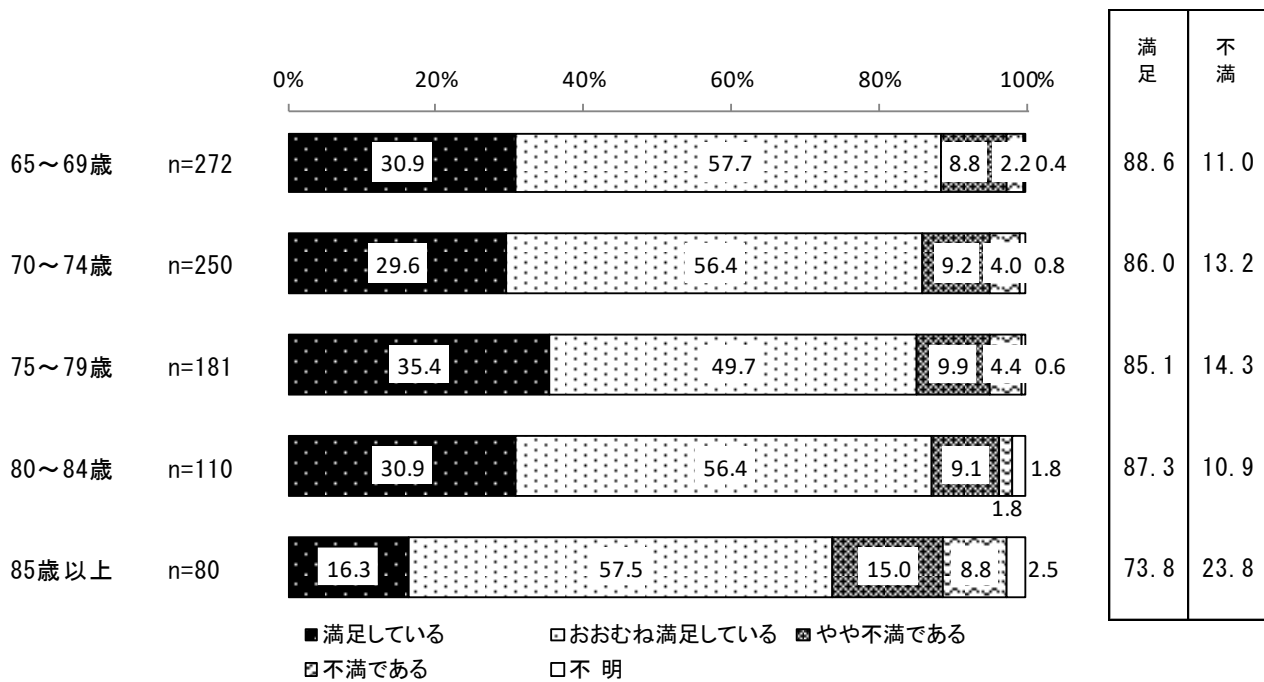




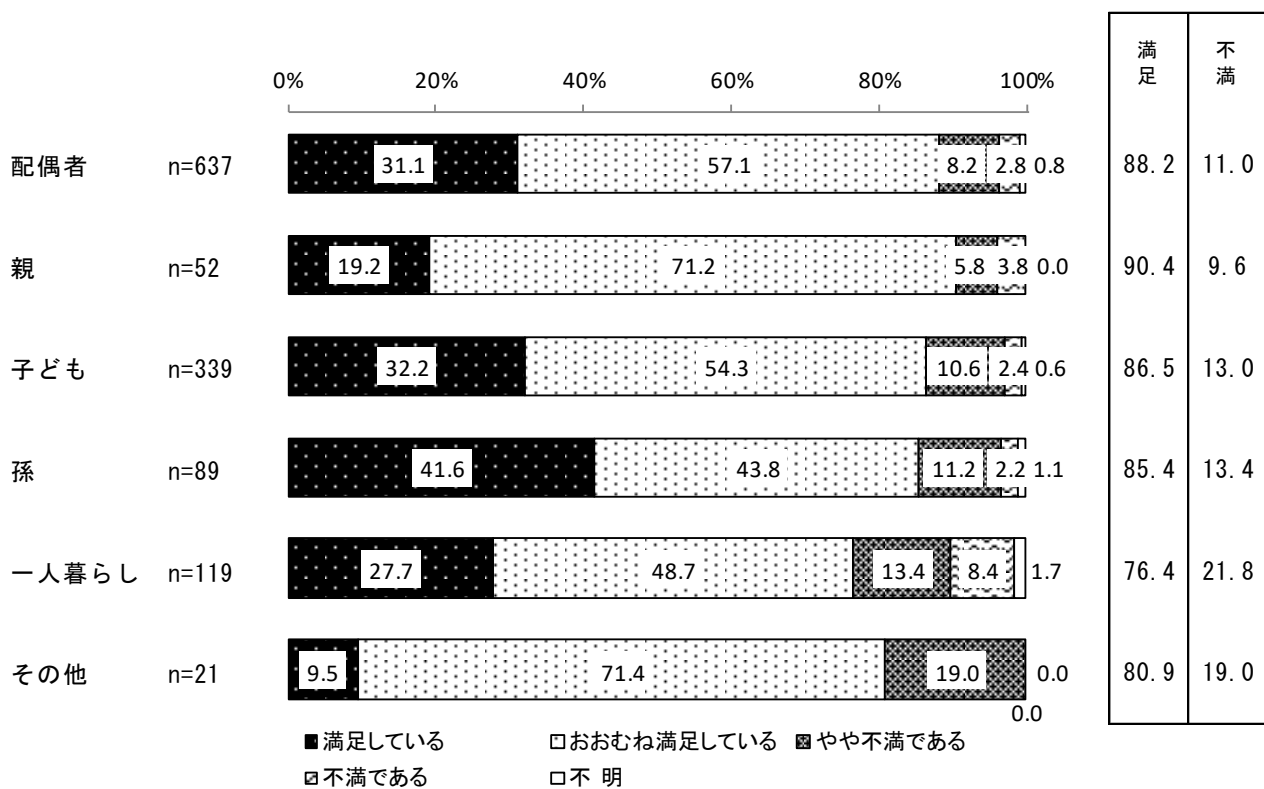
保健福祉圏域別でみると、＜満足＞は渋川圏域が91.4%、沼田圏域が94.8%と9割台となっており、吾妻圏域が79.2%で最も低くなっている。



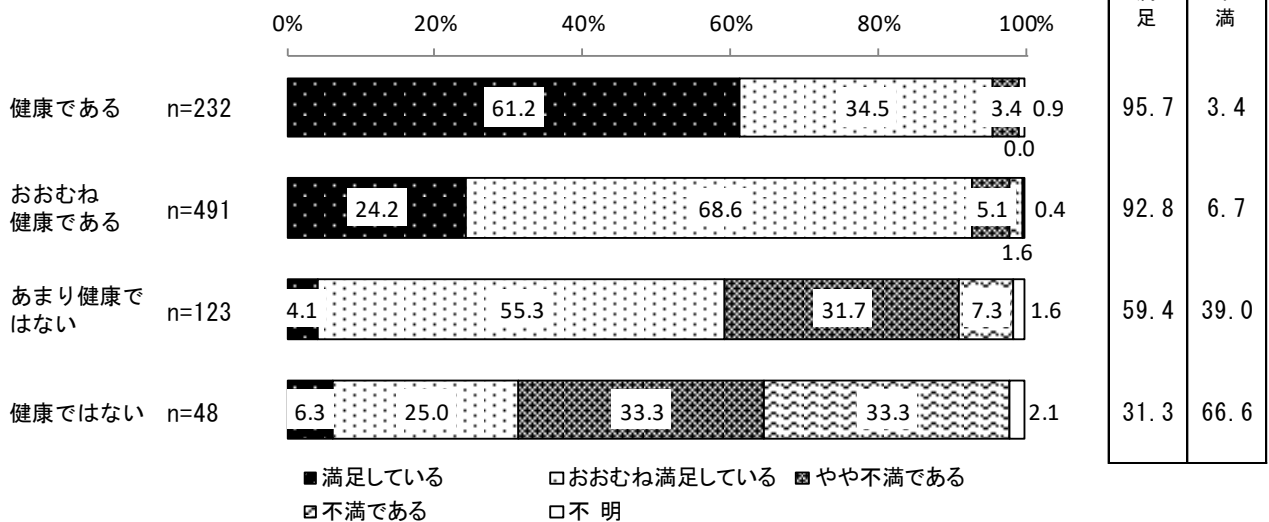
性別でみると、「満足している」は女性（32.6%）が男性（27.4%）を5.2ポイント上回っている。



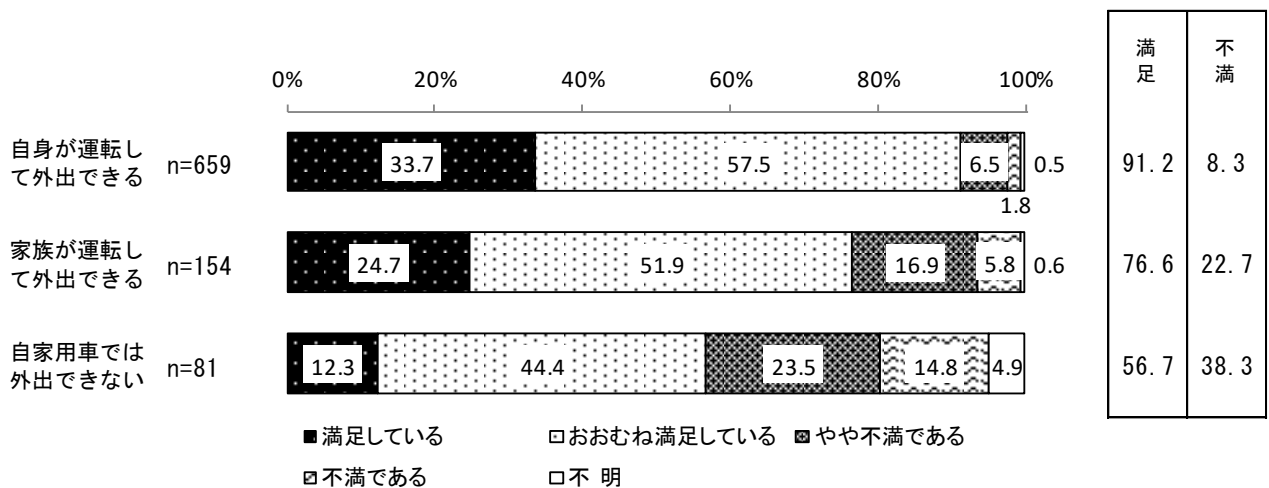
年齢別で見ると、＜満足＞は85歳以上で73.8%と他の年齢より低くなっている。



同居家族別で見ると、＜満足＞は一人暮らしの方で76.4%と、同居者がいる方より低くなっている。



健康状態別で見ると、健康である方は「満足している」が61.2%と半数を超えている。＜満足＞は健康である方で95.7%、おおむね健康である方で92.8%と9割台となっている一方、あまり健康ではない方では59.4%、健康ではない方で31.3%と低くなっている。



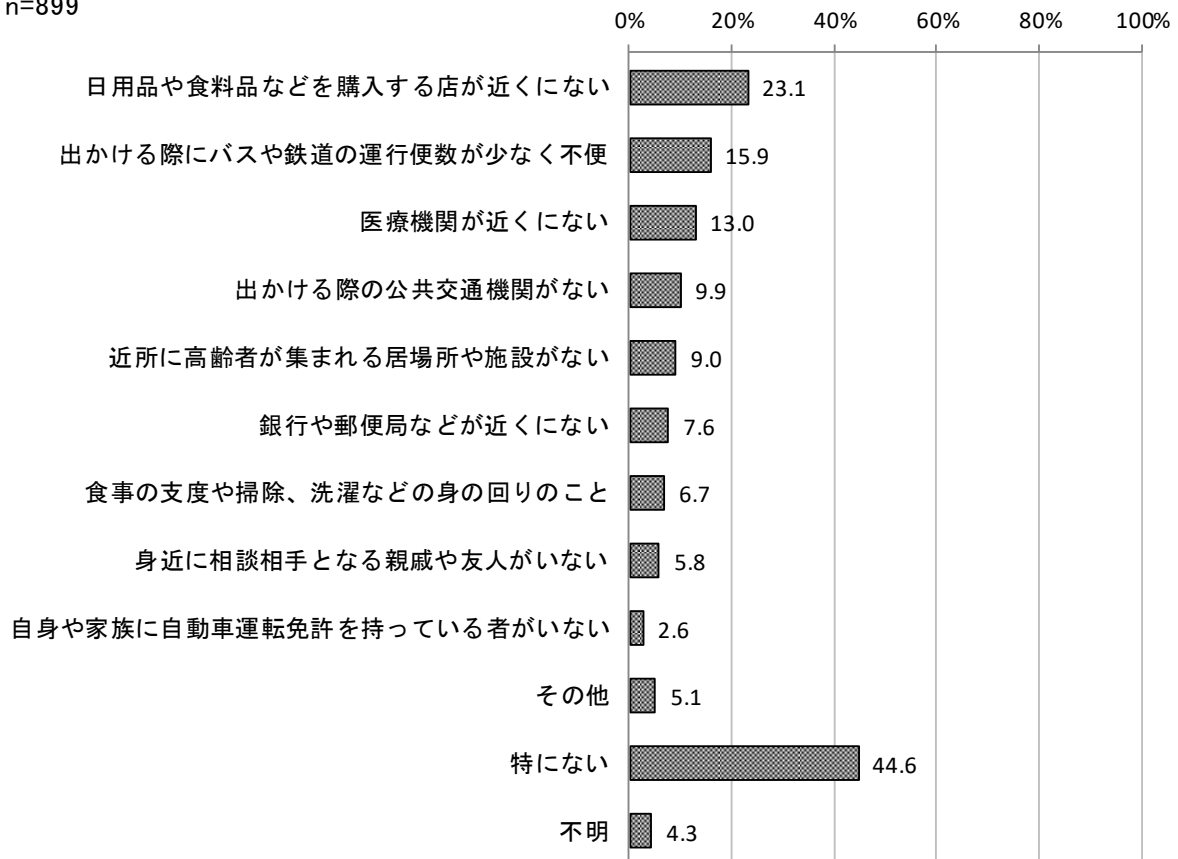
外出手段別で見ると、自身が自家用車を運転して外出できる方は「満足している」が33.7%と高くなっている。＜満足＞は自身が自家用車を運転して外出できる方で91.2%と約9割となっている一方、自家用車で外出できない方では56.7%と低くなっている。

(3) 日常生活の困っていること、不便に感じていること

◎ 「特にない」が4割半ば、不便なことは「日用品や食料品などを購入する店が近くにない」が最も高い

問8 あなたが日常生活を送っている中で、困っていることや不便に感じていることはありますか。
(主なもの3つ以内に○)

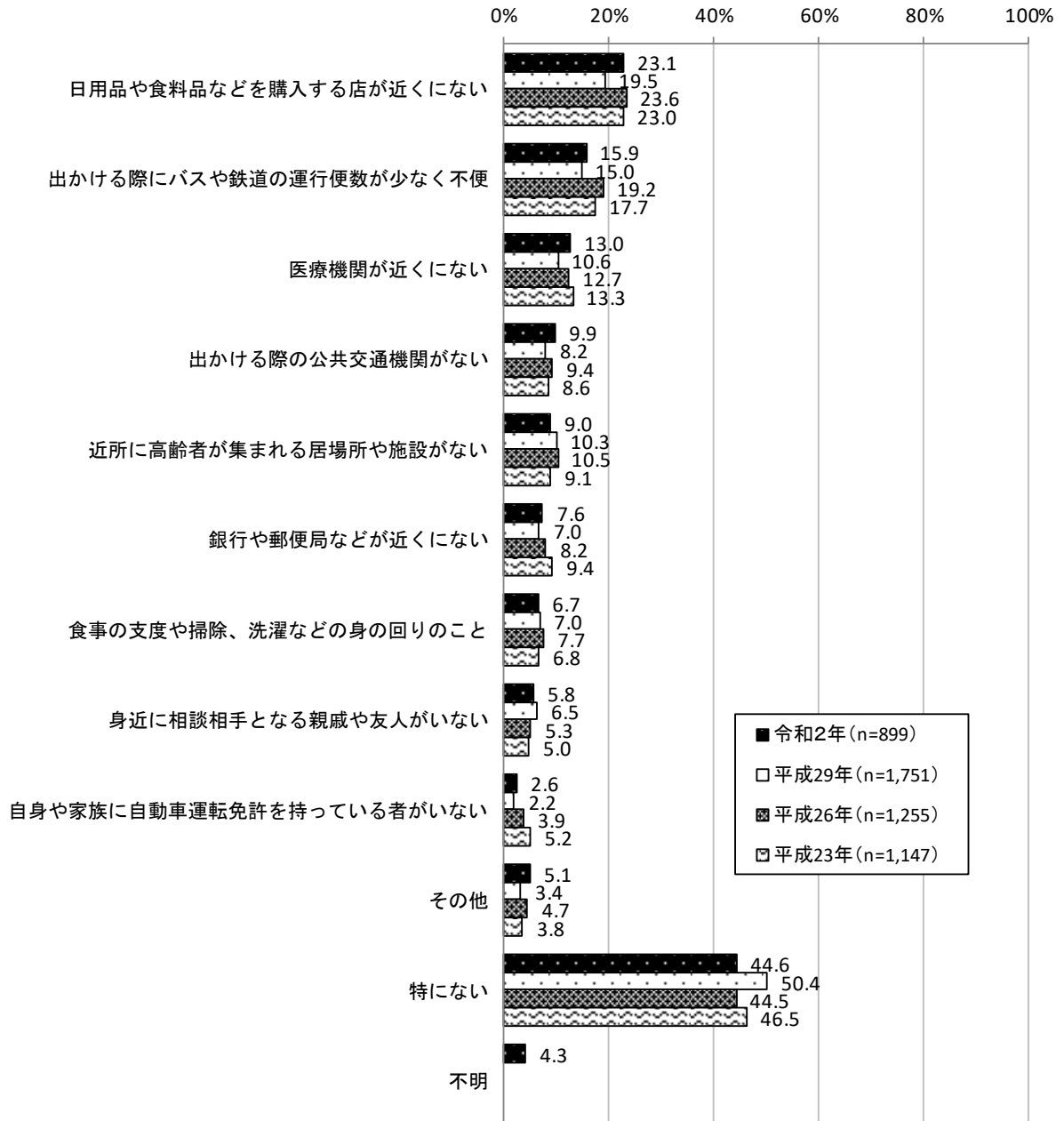
n=899

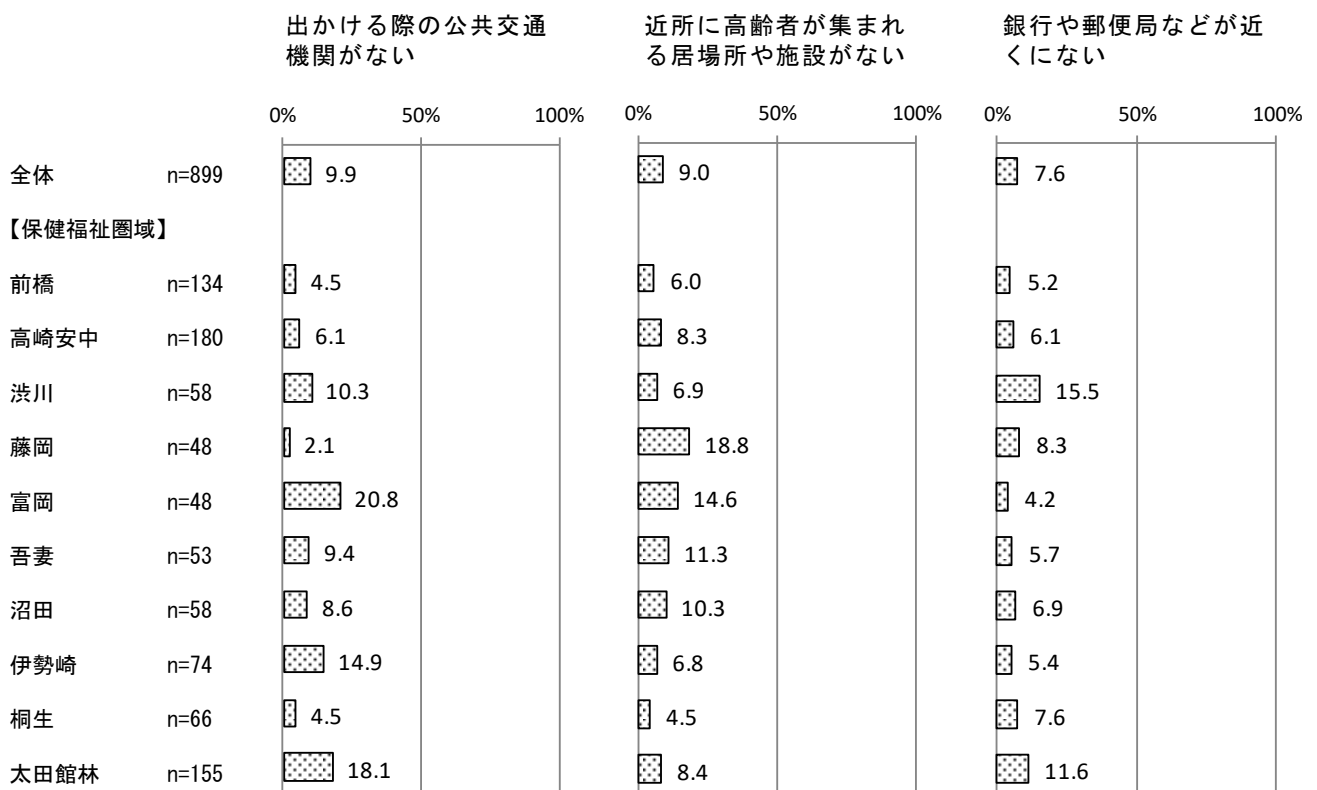
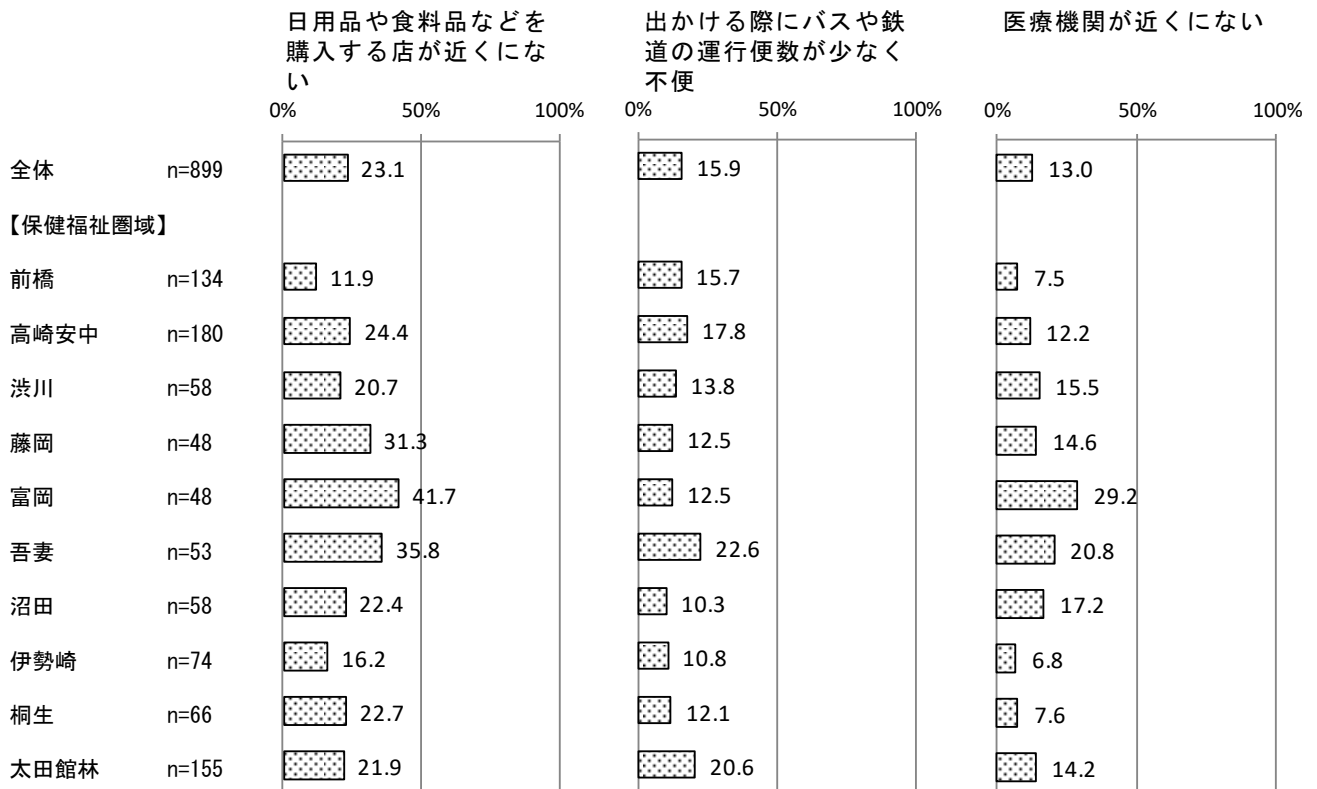


日常生活の困っていること、不便に感じていることは、「日用品や食料品などを購入する店が近くにない」が 23.1%で最も高く、次いで「出かける際にバスや鉄道の運行便数が少なく不便」(15.9%)、「医療機関が近くにない」(13.0%)となっている。

一方、「特にない」は 44.6%となっている。

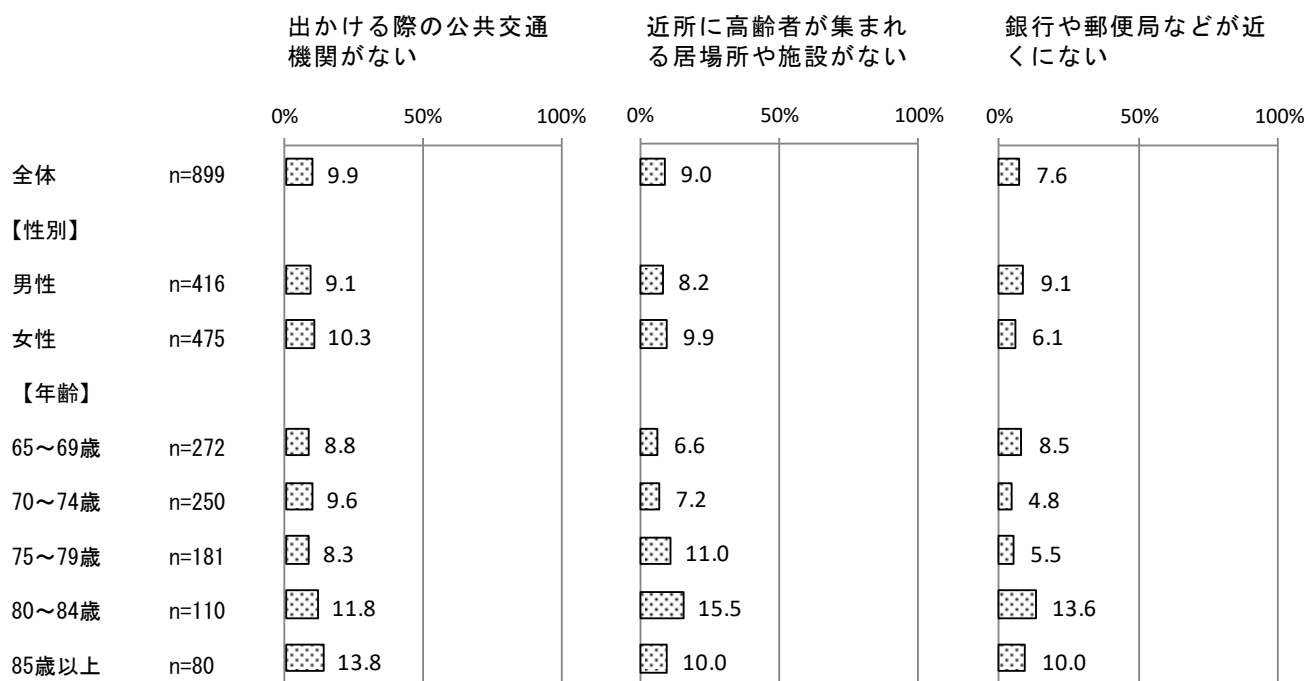
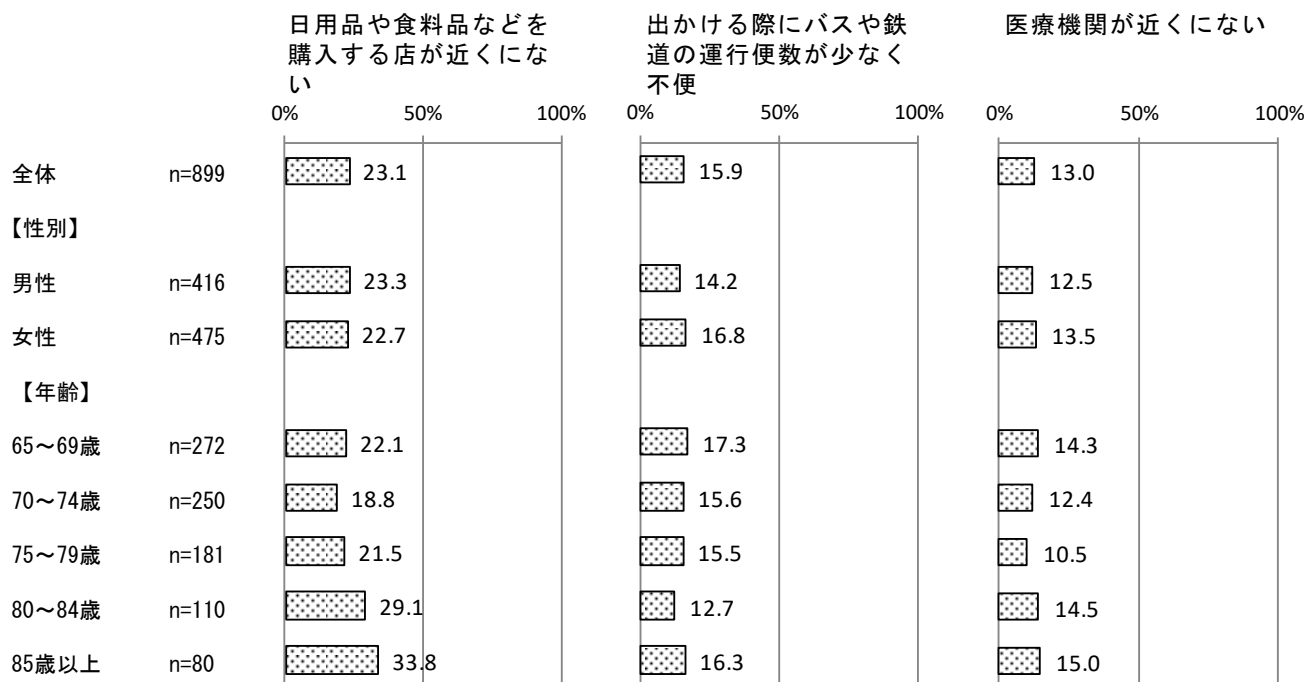
<経年比較>





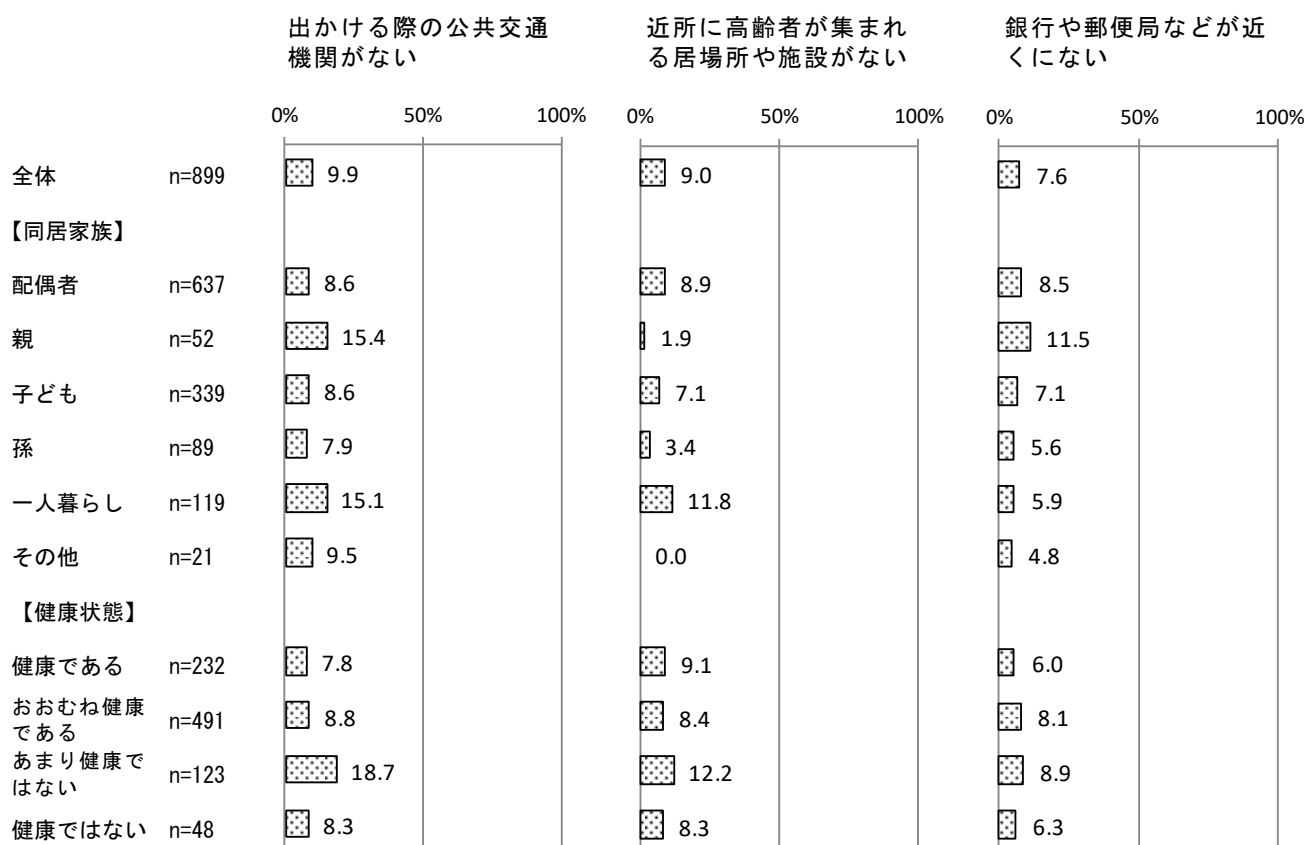
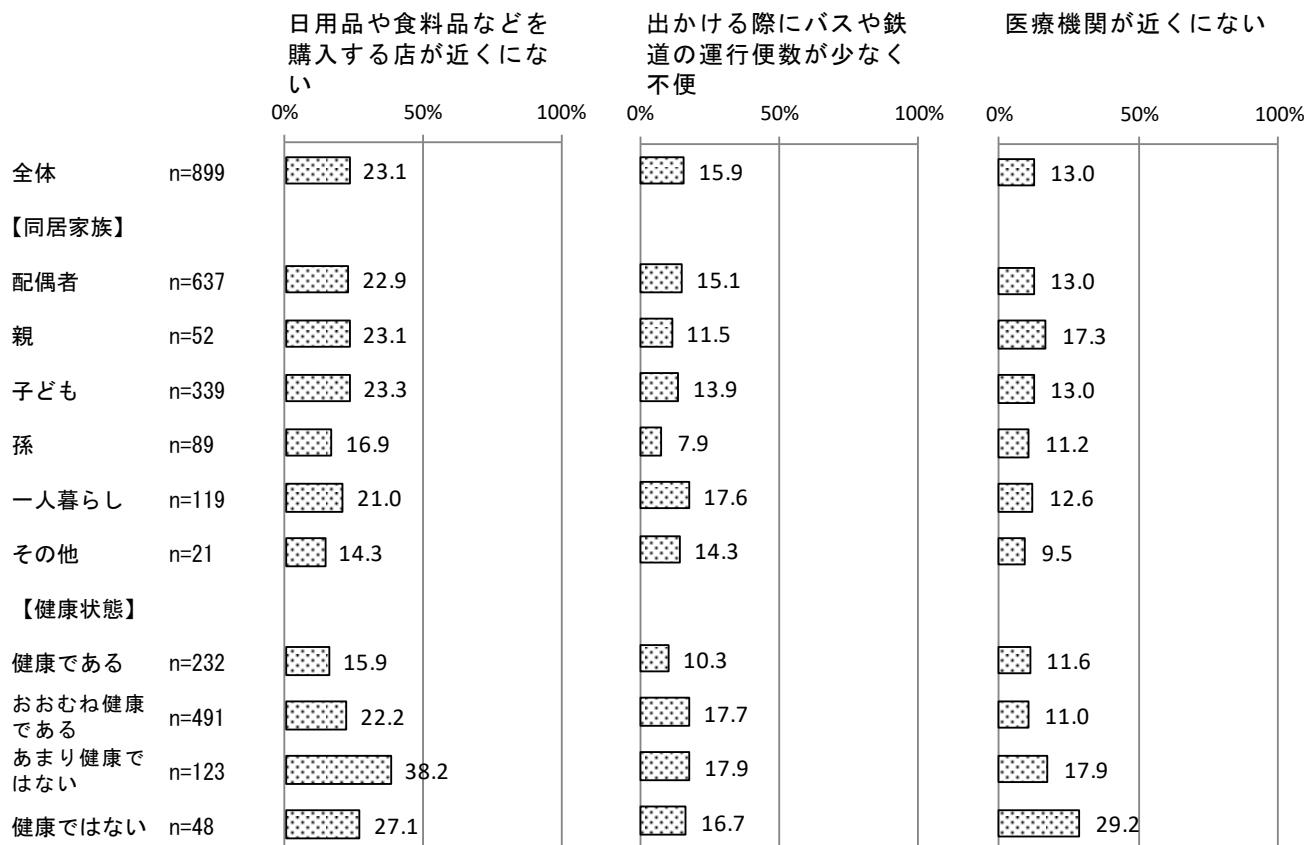
上位6項目について、保健福祉圏域別でみると、「日用品や食料品などを購入する店が近くにない」は、富岡圏域で41.7%、吾妻圏域で35.8%、藤岡圏域で31.3%と高くなっている。

また、富岡圏域では、「医療機関が近くにない」が29.2%、「出かける際の公共交通機関がない」が20.8%と高くなっている。



性別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

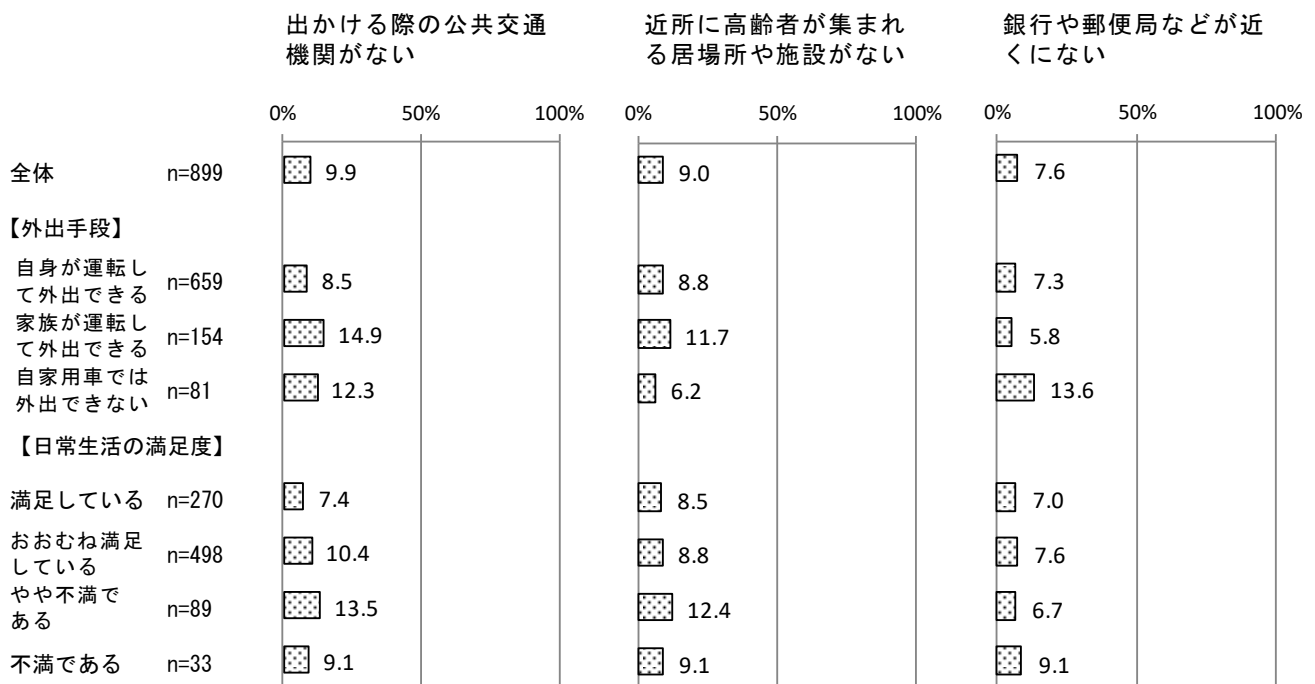
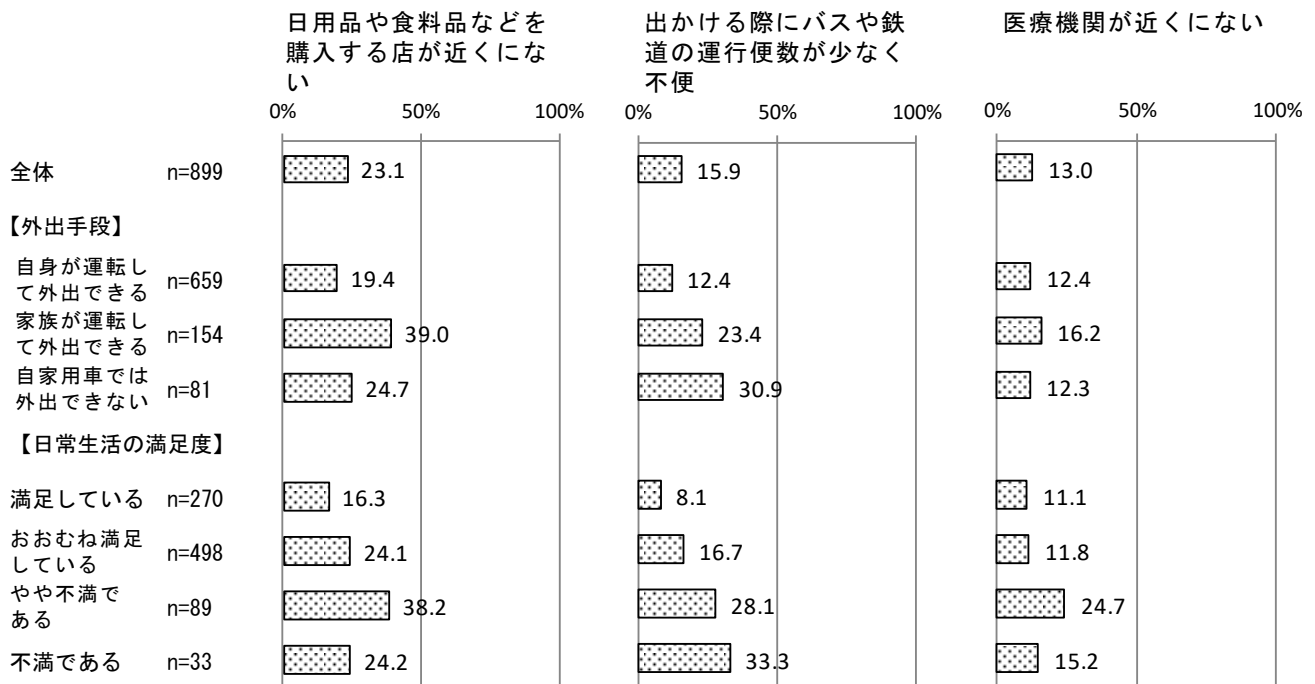
年齢別でみると、「日用品や食料品などを購入する店が近くにない」は80～84歳で29.1%、85歳以上で33.8%と高くなっている。



同居家族別でみると「出かける際の公共交通機関がない」は親と同居している方と一人暮らしの方で1割半ばとなっている。

健康状態別でみると、あまり健康ではない方で「日用品や食料品などを購入する店が近くにない」が38.2%、「出かける際の公共交通機関がない」が18.7%と高くなっている。

また、「医療機関が近くにない」が健康ではない方で29.2%と高くなっている。



外出手段別でみると、「日用品や食料品などを購入する店が近くにない」は家族が自家用車を運転して外出できる方で39.0%と高くなっている。「出かける際の公共交通機関がない」は自家用車では外出できない方で30.9%と高くなっている。

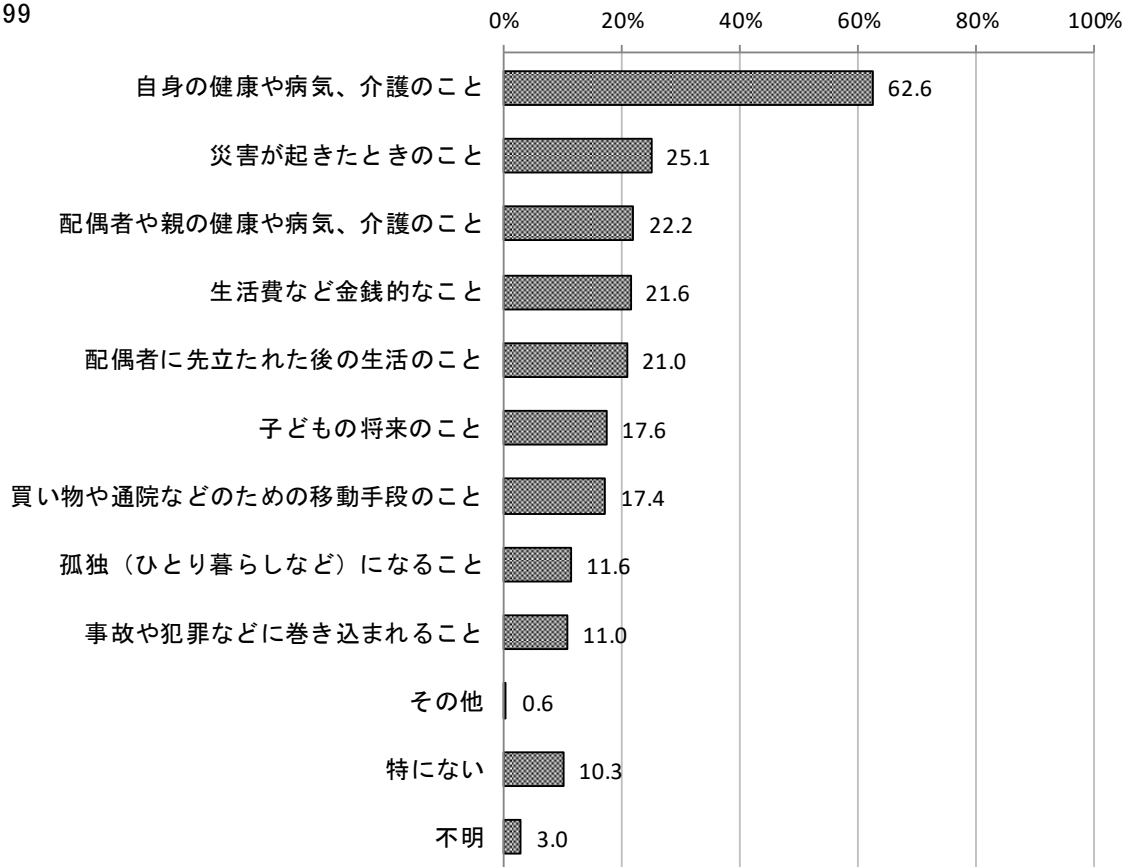
日常生活の満足度別でみると、「出かける際の公共交通機関がない」は満足度が低いほど高くなっている。

(4) 将来の不安や心配事

◎ 「自身の健康や病気、介護のこと」が6割前半

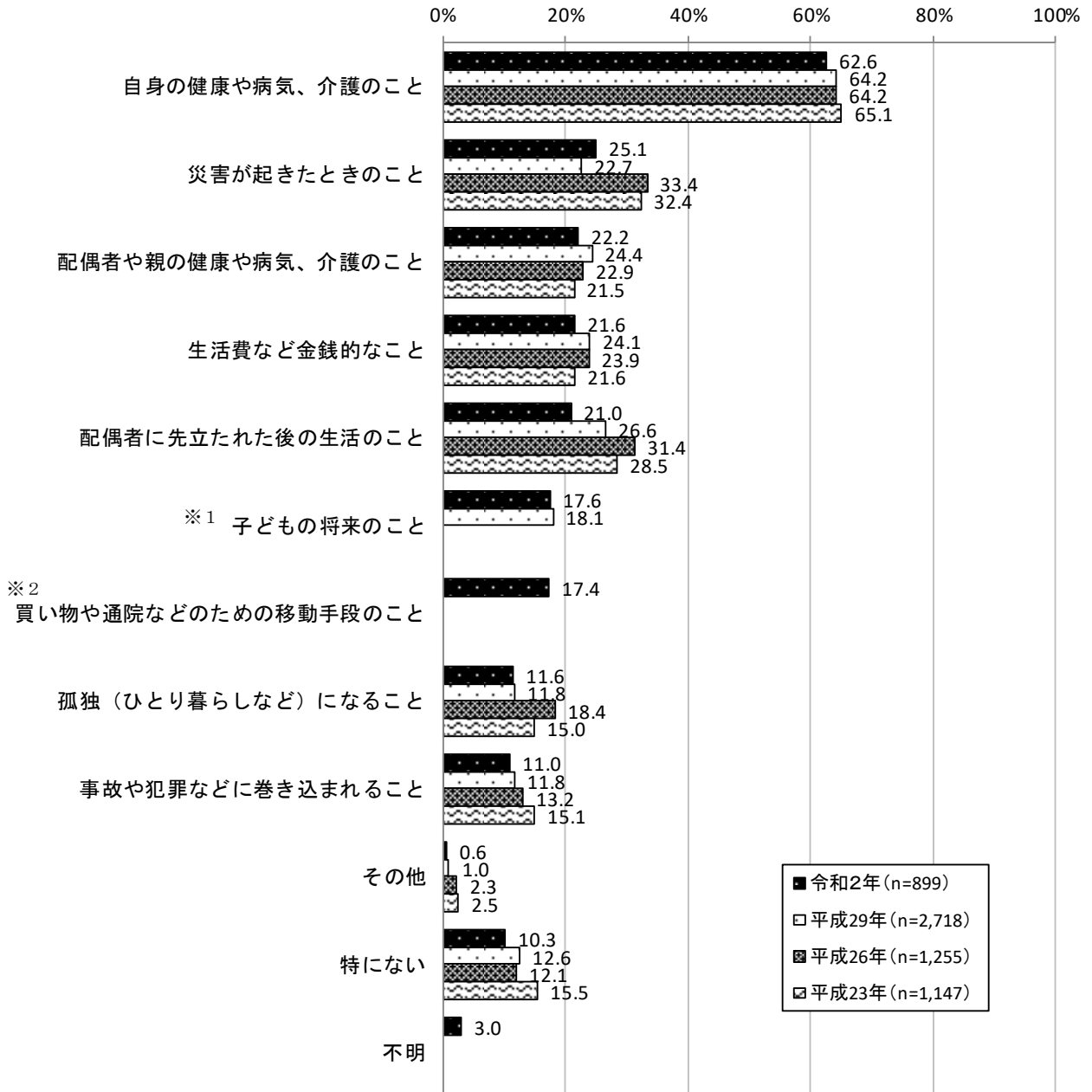
問9 あなた自身や家族の将来を考えたとき、不安や心配事はありますか。(主なもの3つ以内に○)

n=899



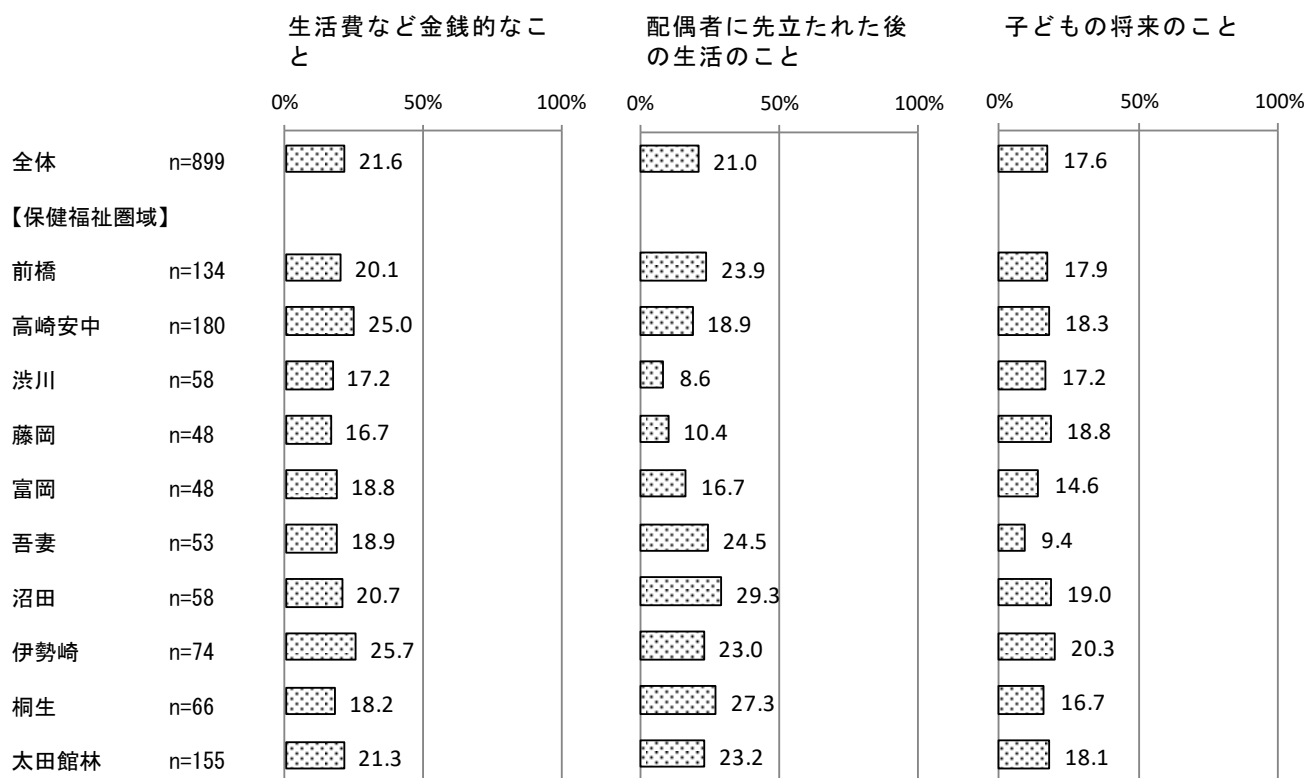
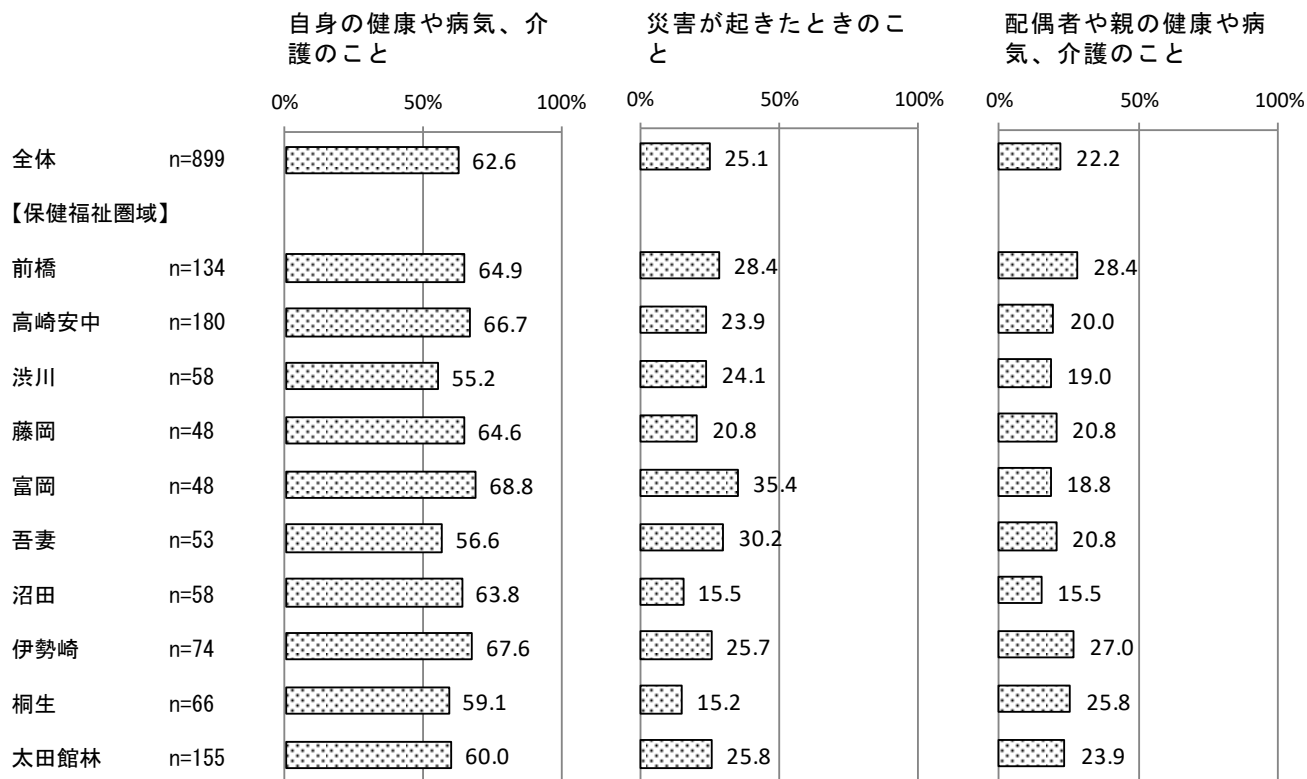
将来の不安や心配事は、「自身の健康や病気、介護のこと」が62.6%で最も高く、次いで「災害が起きたときのこと」(25.1%)、「配偶者や親の健康や病気、介護のこと」(22.2%)となっている。一方、「特にない」は10.3%となっている。

<経年比較>

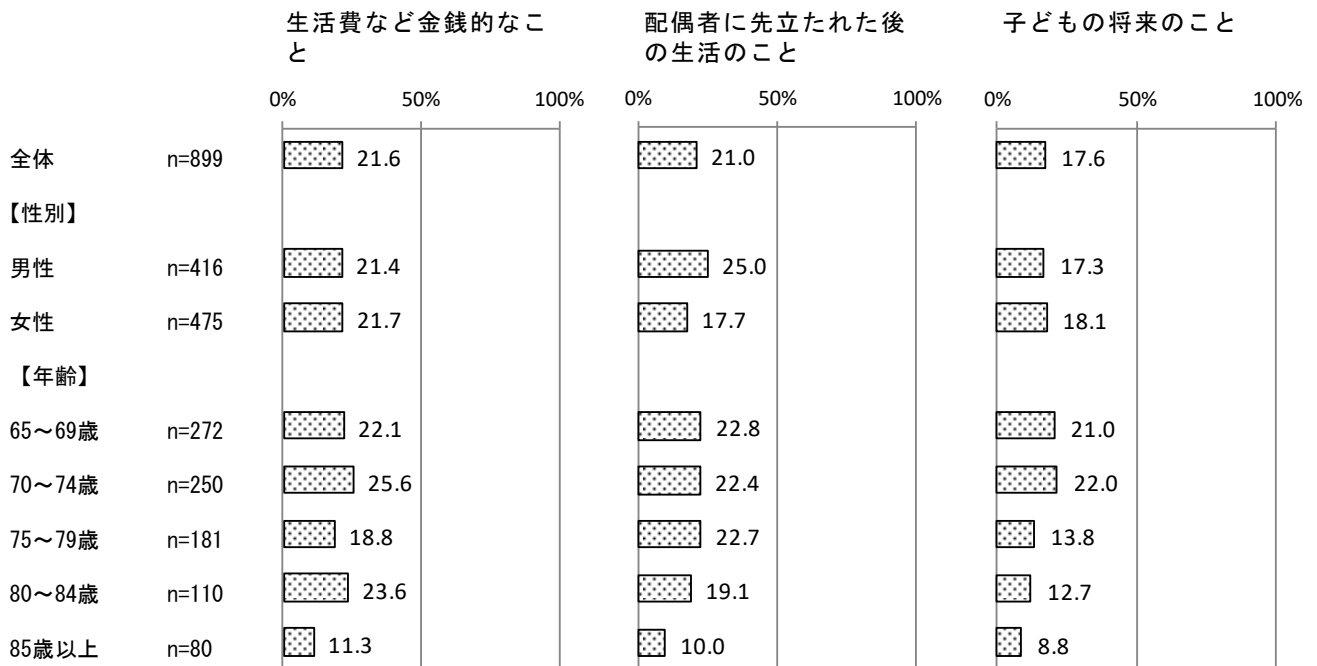
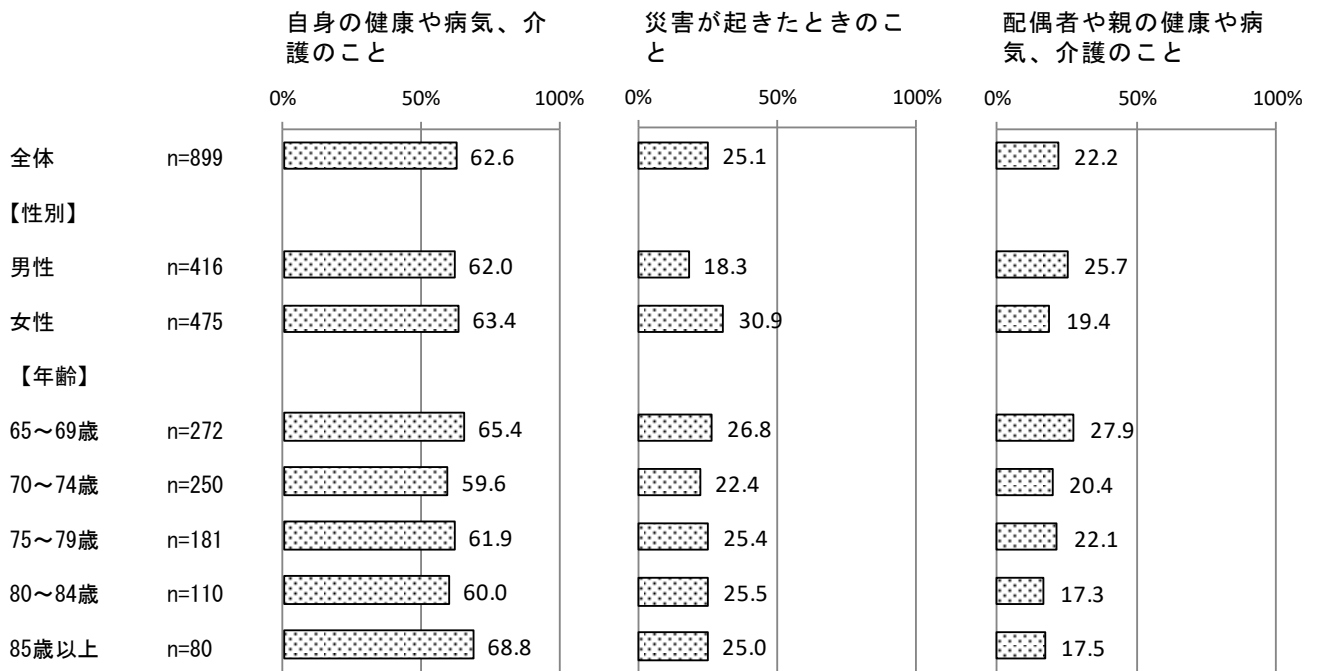


※1 平成29年から追加した選択肢

※2 令和2年から追加した選択肢

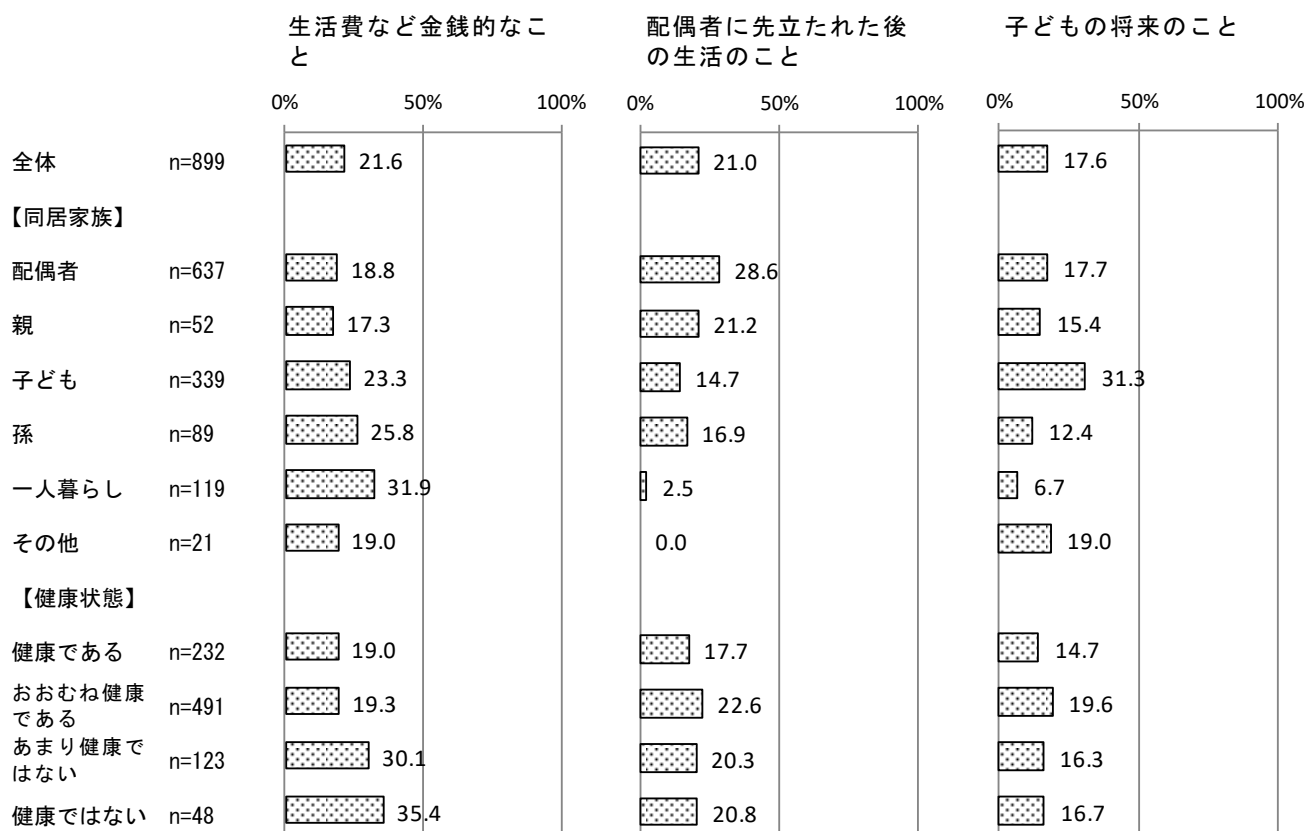
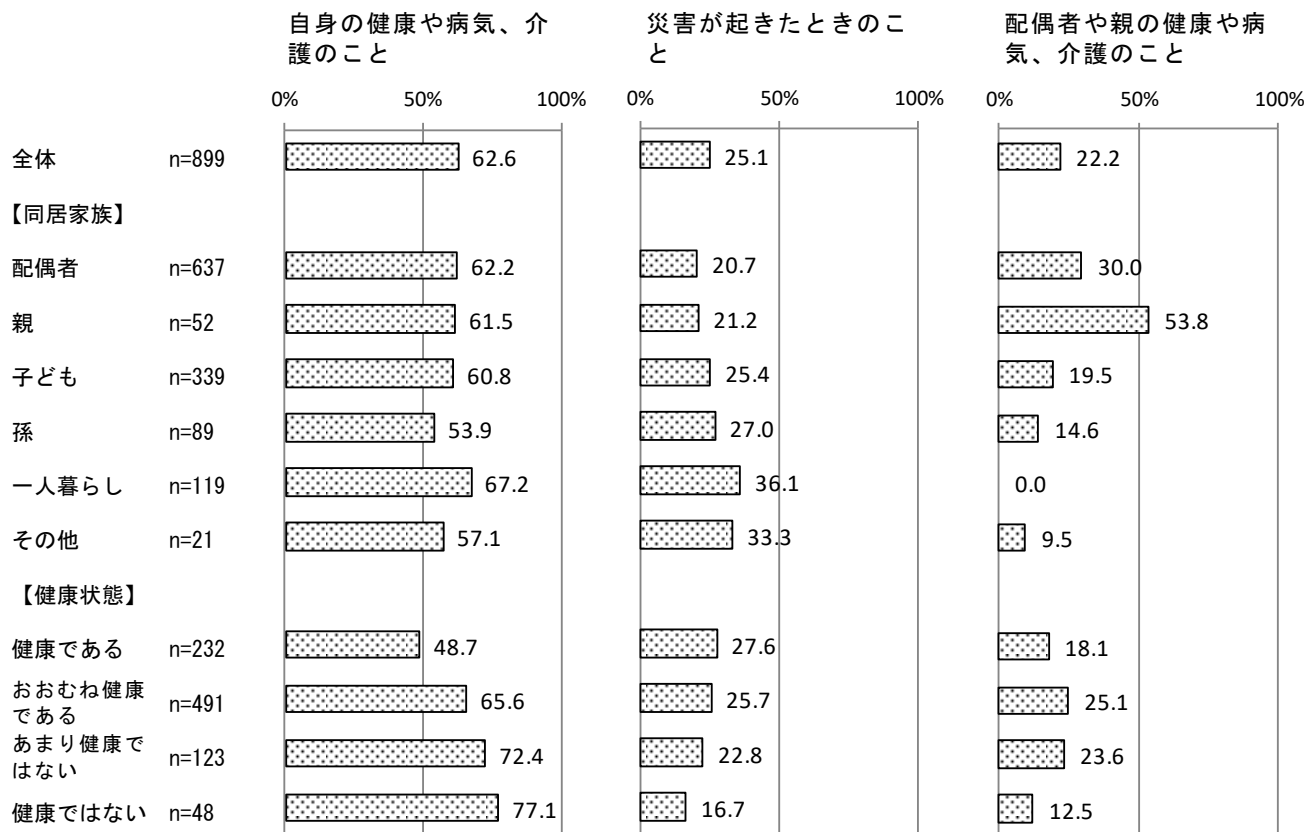


上位6項目について、保健福祉圏域別でみると、「自身の健康や病気、介護のこと」はすべての圏域で半数を超えている。



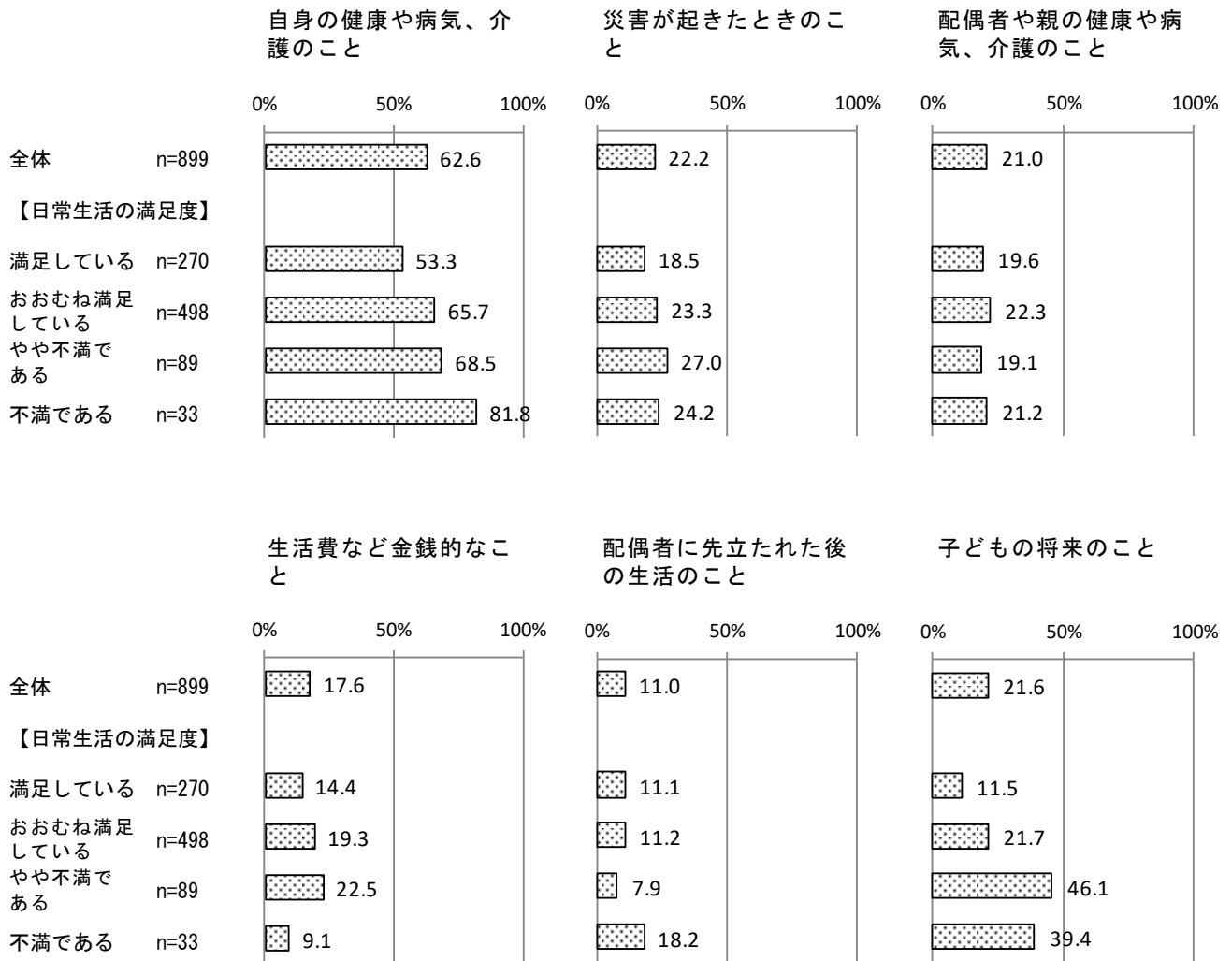
性別で見ると、「災害が起きたときのこと」は女性（30.9%）が男性（18.3%）を12.6ポイント上回っている。「配偶者に先立たれた後の生活のこと」は男性（25.0%）が女性（17.7%）を7.3ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「自身の健康や病気、介護のこと」はすべての年齢で半数を超えている。



同居家族別でみると、「配偶者や親の健康や病気、介護のこと」は親と同居されている方で53.8%と半数を超えている。「災害が起きたときのこと」、「生活費など金銭的なこと」は一人暮らしの方でそれぞれ36.1%、31.9%と高くなっている。

健康状態別でみると、「自身の健康や病気、介護のこと」はあまり健康ではない方が72.4%、健康ではない方が77.1%と7割台になっている。また、「生活費などの金銭的なこと」はあまり健康ではない方が30.1%、健康ではない方が35.4%と高くなっている。



日常生活の満足度別で見ると、「自身の健康や病気、介護のこと」は満足度が低いほど高くなっている。また、「子どもの将来のこと」はやや不満であるで46.1%と高くなっている。

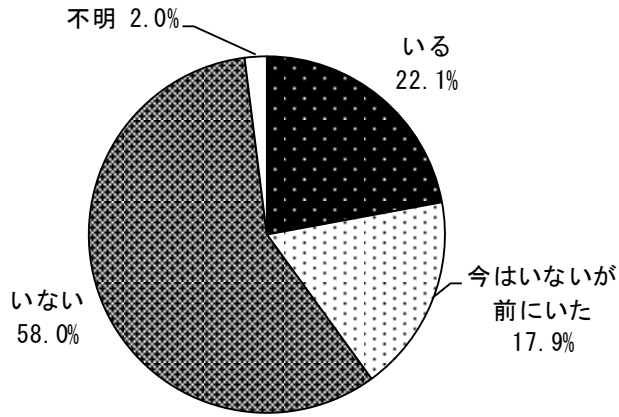
3 介護保険サービスの利用について

(1) 介護保険の利用状況

◎ 介護保険をく利用したことがある>は4割

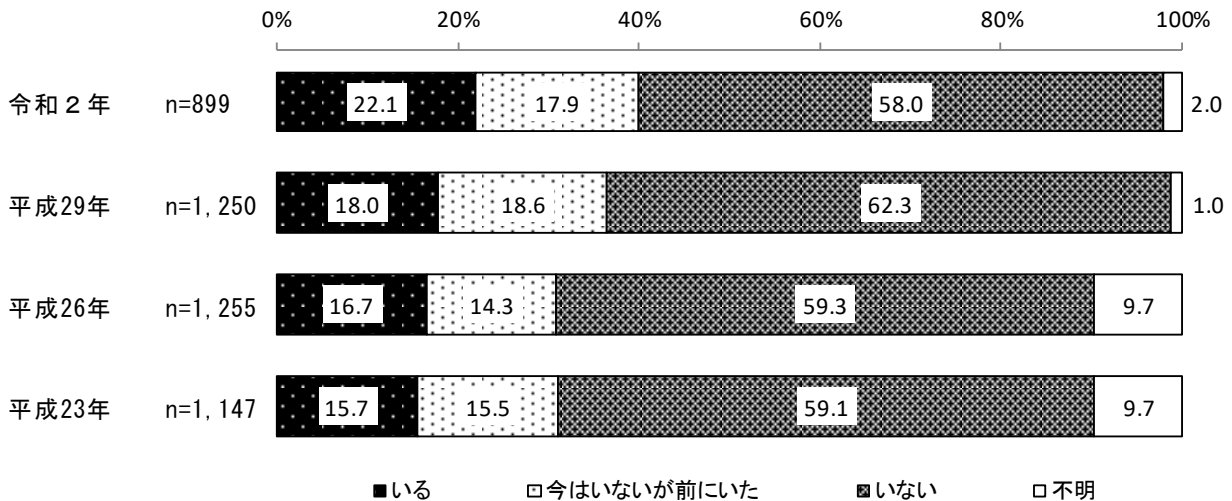
問10 あなたやあなたの「配偶者」、「親等（配偶者の親を含む）」で、介護保険を利用している方（利用していた方）はいますか。（1つだけに○）

n=899

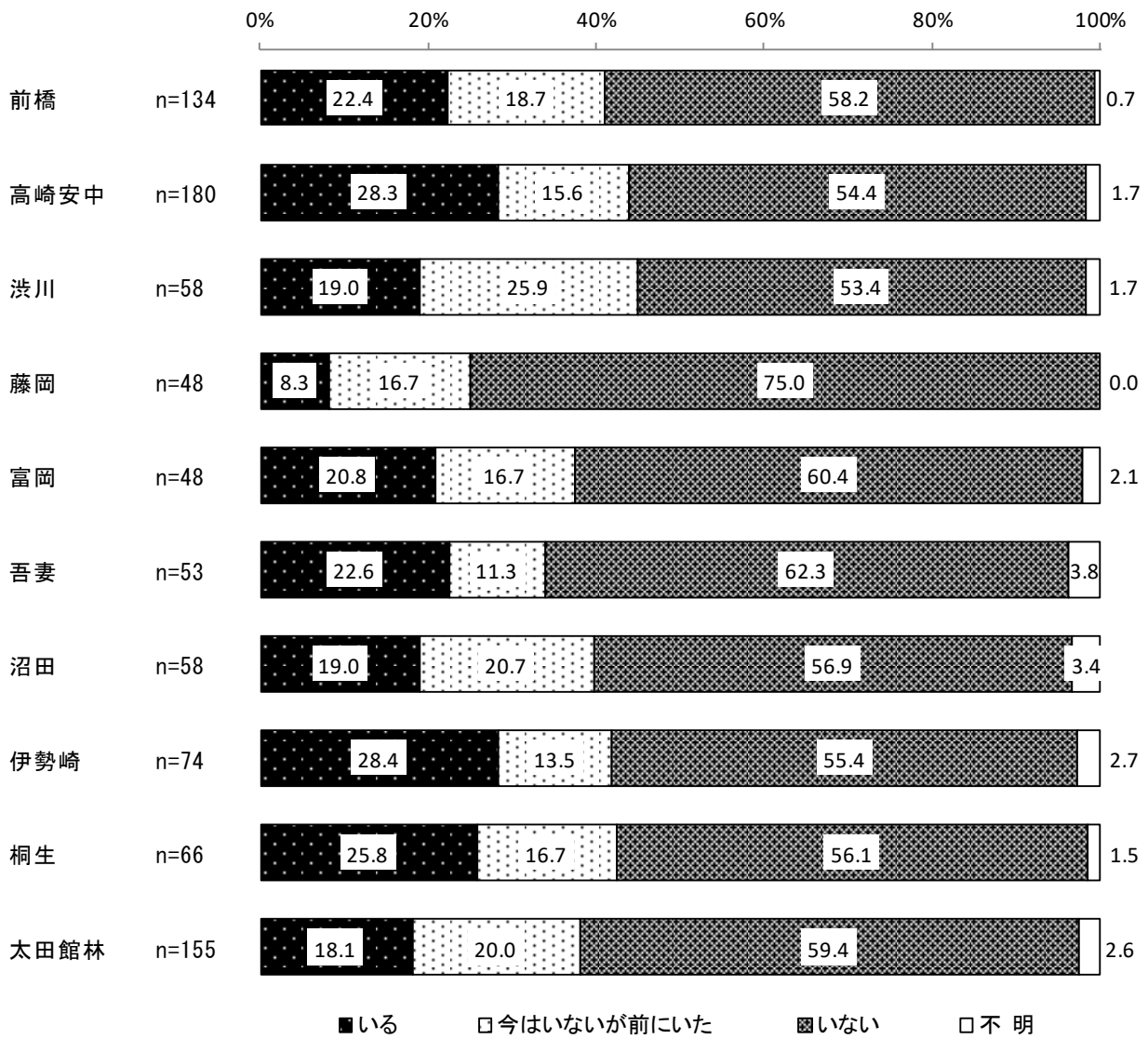


介護保険の利用状況は、利用している方が「いる」は22.1%、「今はいないが前にいた」が17.9%、「いない」が58.0%となっている。「いる」と「今はいないが前にいた」を合わせたく利用したことがある>は40.0%となっている。

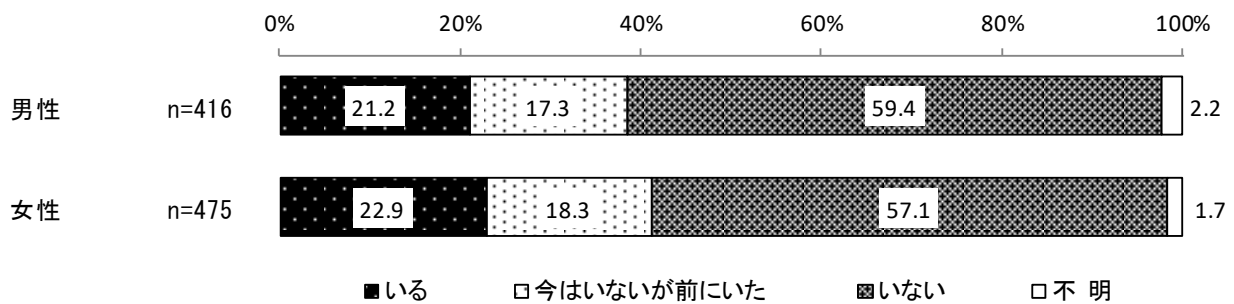
<経年比較>



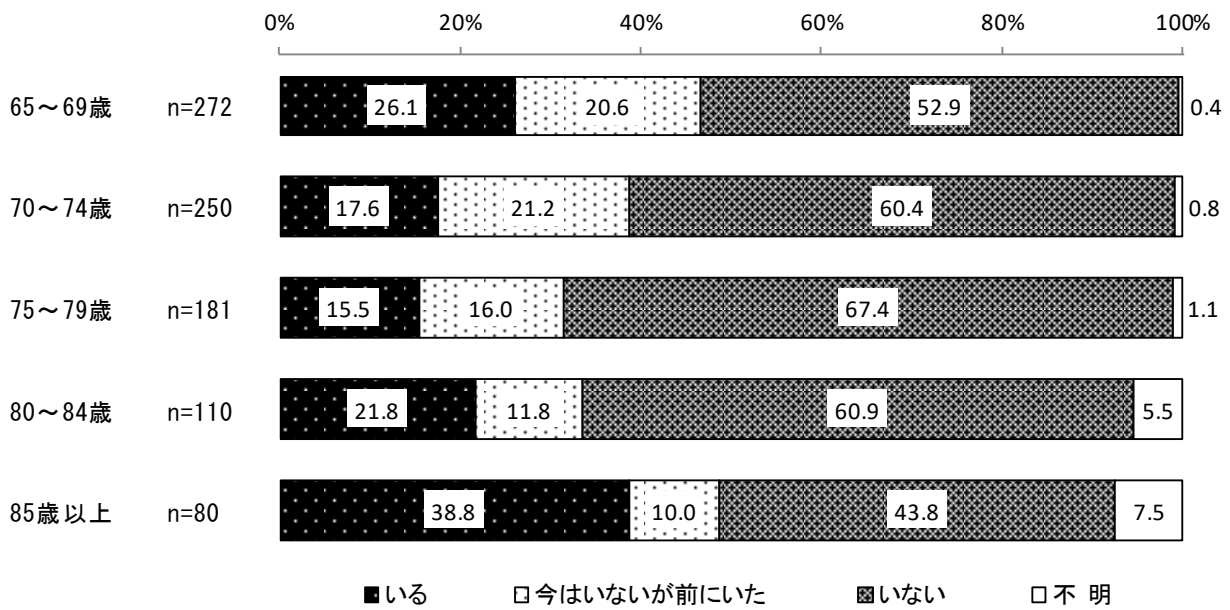
過去の調査結果と比較すると、「いる」は平成23年では15.7%であったのが、令和2年では22.1%とわずかながら増加傾向にある。



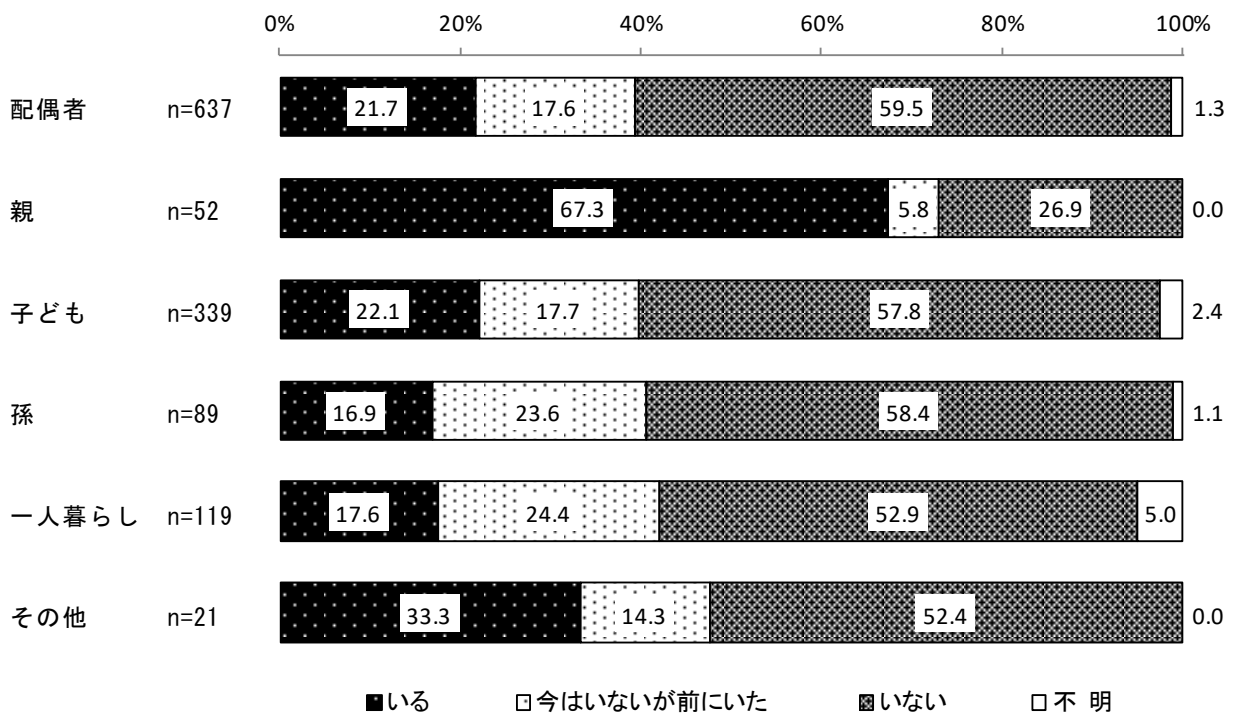
保健福祉圏域別でみると、「いる」は藤岡圏域で8.3%と低くなっている。



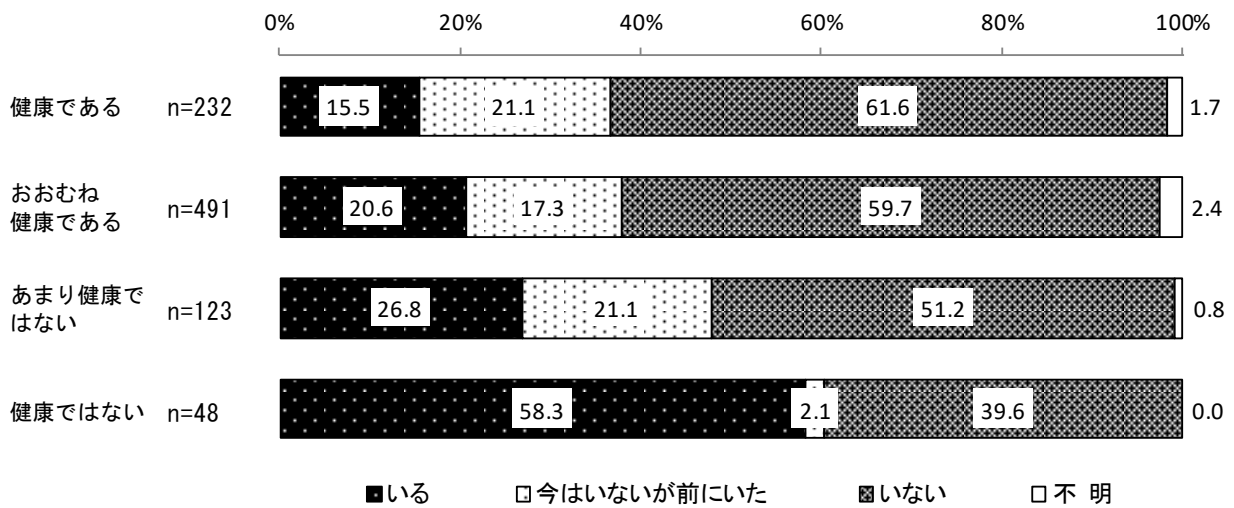
性別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



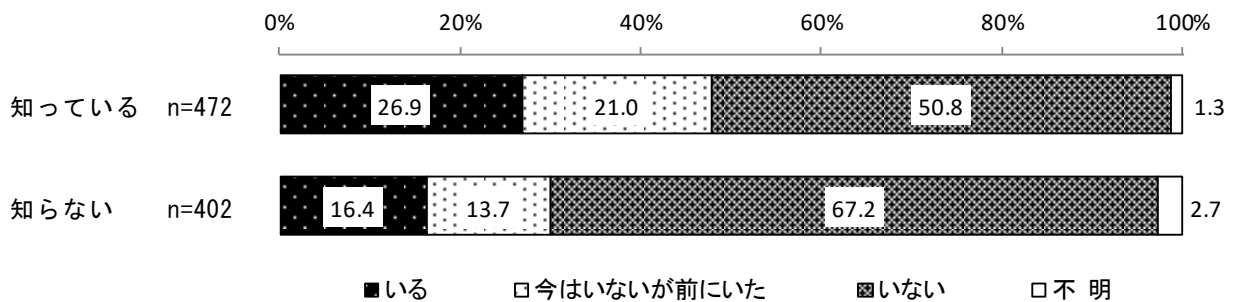
年齢別でみると、「いる」は85歳以上で38.8%と他の年齢に比べて高くなっている。



同居家族別でみると、「いる」は親と同居している方で67.3%と半数を超えている。



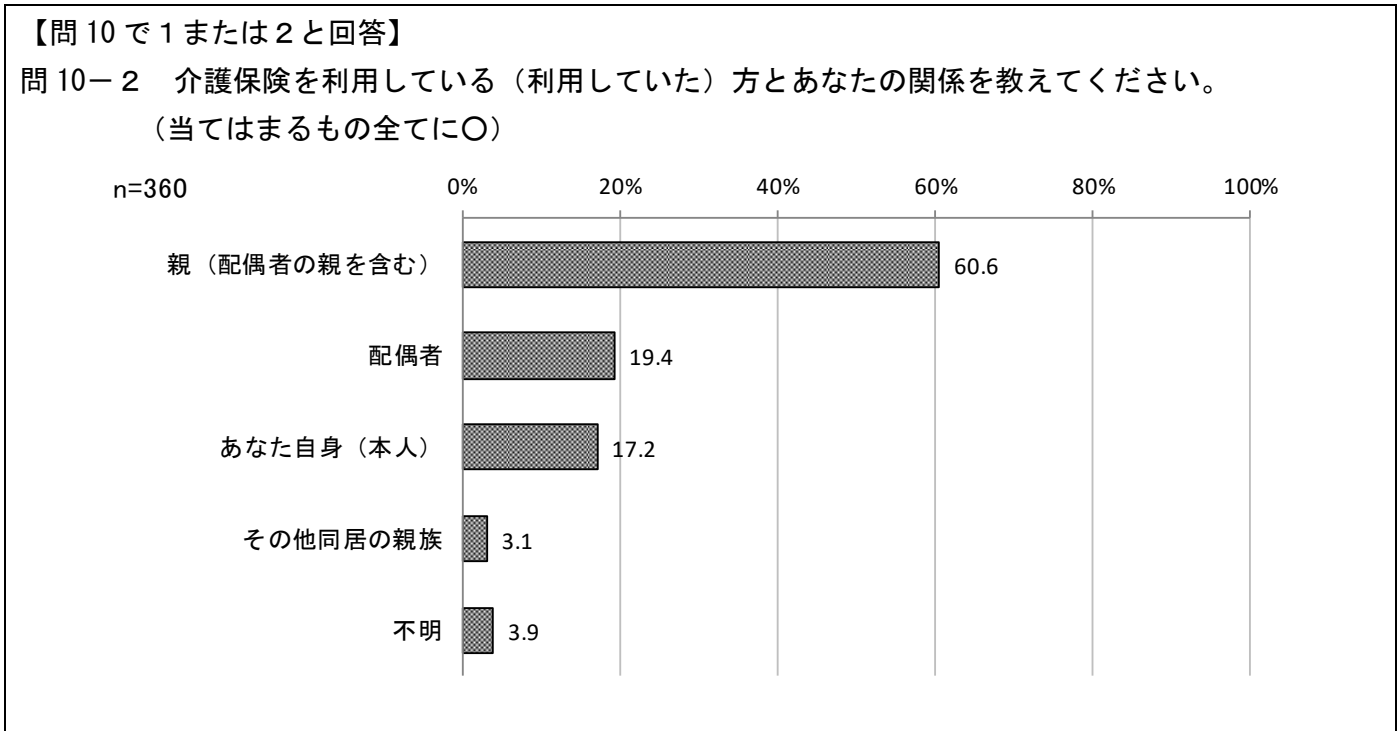
健康状態別でみると、「いる」は健康ではない方で 58.3% と半数を超えている。



地域包括支援センターの認知度別でみると、「いる」は地域包括支援センターを知っている方 (26.9%) が知らない方 (16.4%) を 10.5 ポイント上回っている。また、「今はいないが前にいた」も地域包括支援センターを知っている方 (21.0%) が知らない方 (13.7%) を 7.3 ポイント上回っている。

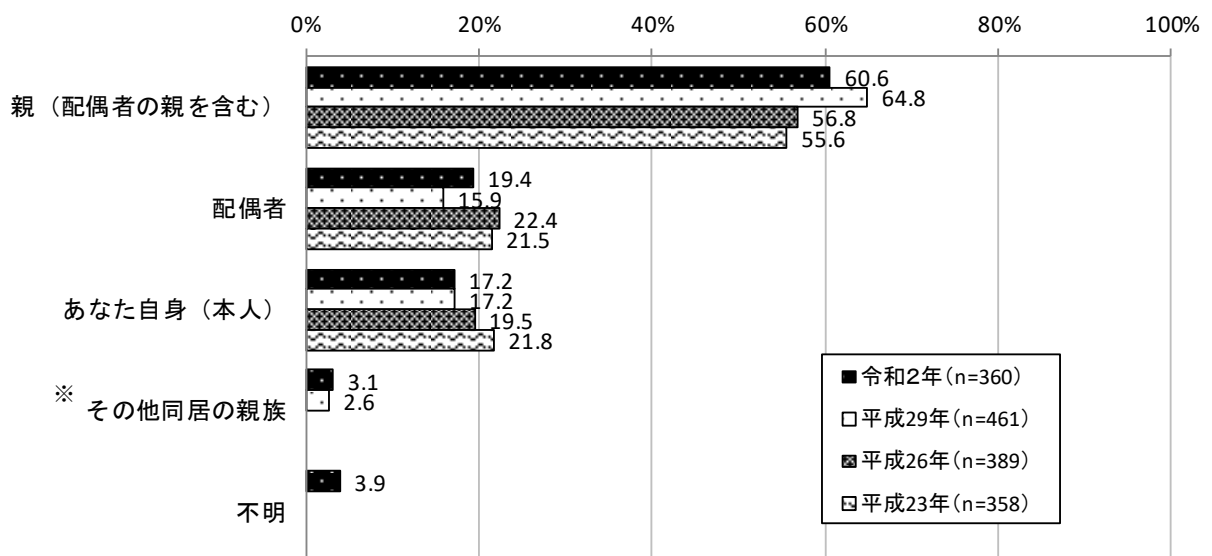
(2) 介護保険利用者との関係性

◎ 介護保険の利用者は「親（配偶者の親を含む）」が約6割



介護保険利用者との関係性は、「親（配偶者の親を含む）」が 60.6%で最も高く、次いで「配偶者」（19.4%）、「あなた自身（本人）」（17.2%）となっている。

<経年比較>



※平成29年に追加した選択肢

(3) 利用しているサービス

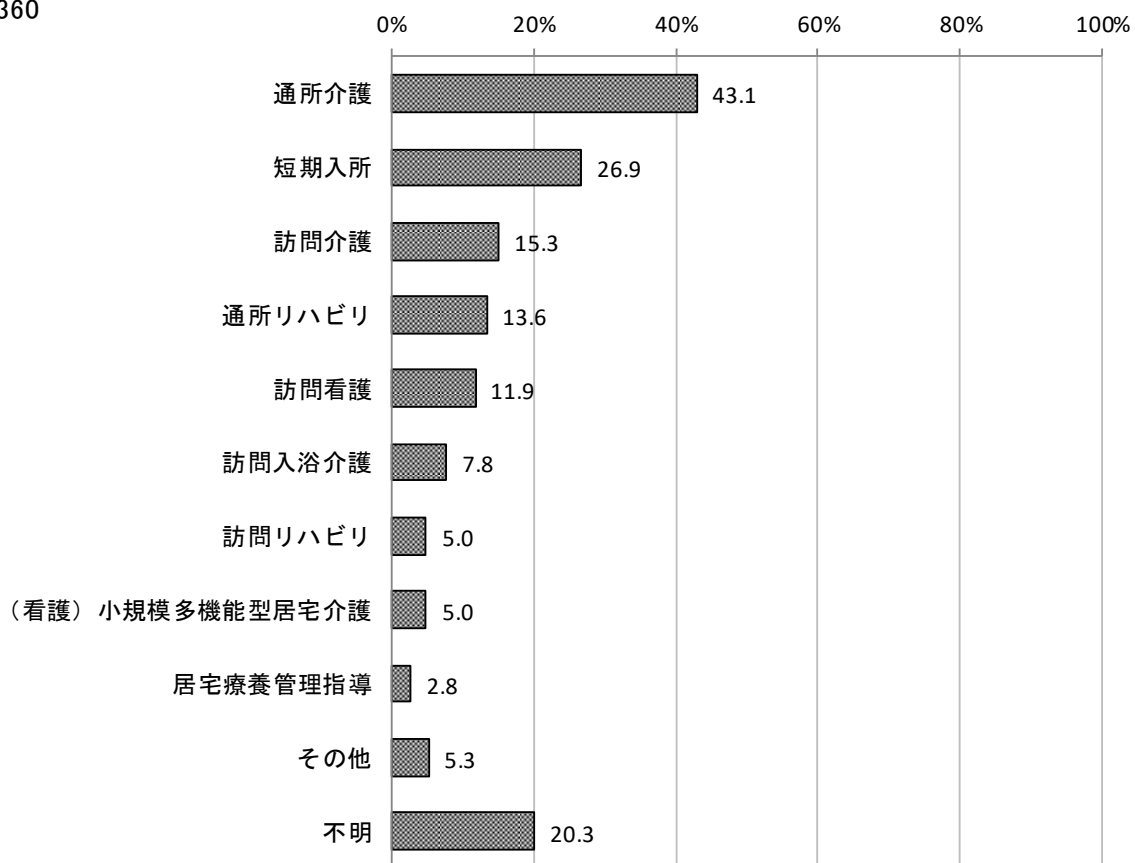
◎ 居宅でのサービスは「通所介護」、施設でのサービスは「特別養護老人ホーム」が最も高い

【問10で1または2と回答】

問10-3 利用している（利用していた）サービスはどれですか。（当てはまるもの全てに○）

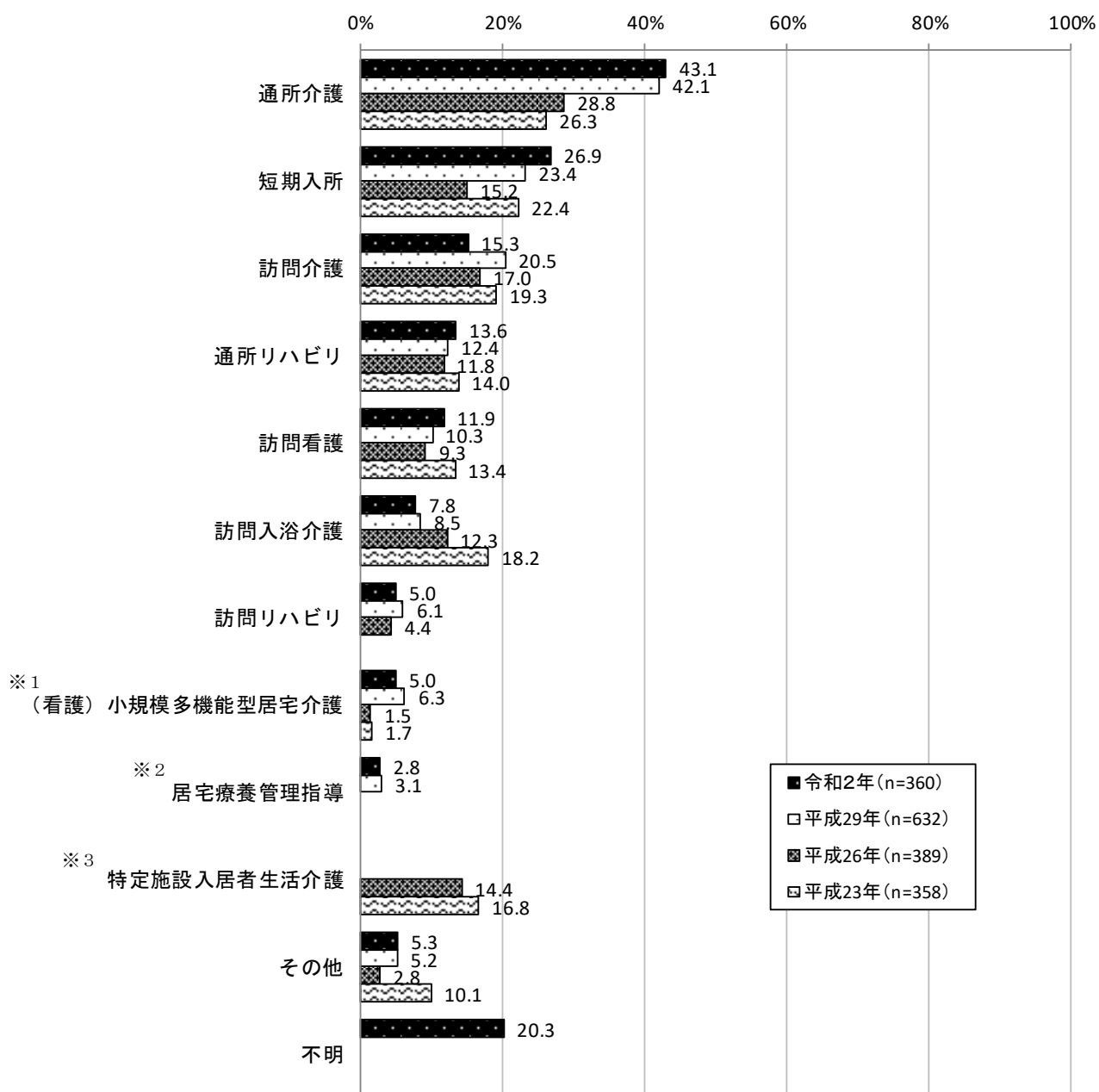
※居宅でのサービスを利用している（利用していた）場合

n=360



利用している（利用していた）居宅でのサービスは、「通所介護」が43.1%で最も高く、次いで「短期入所」（26.9%）、「訪問介護」（15.3%）となっている。

<経年比較>

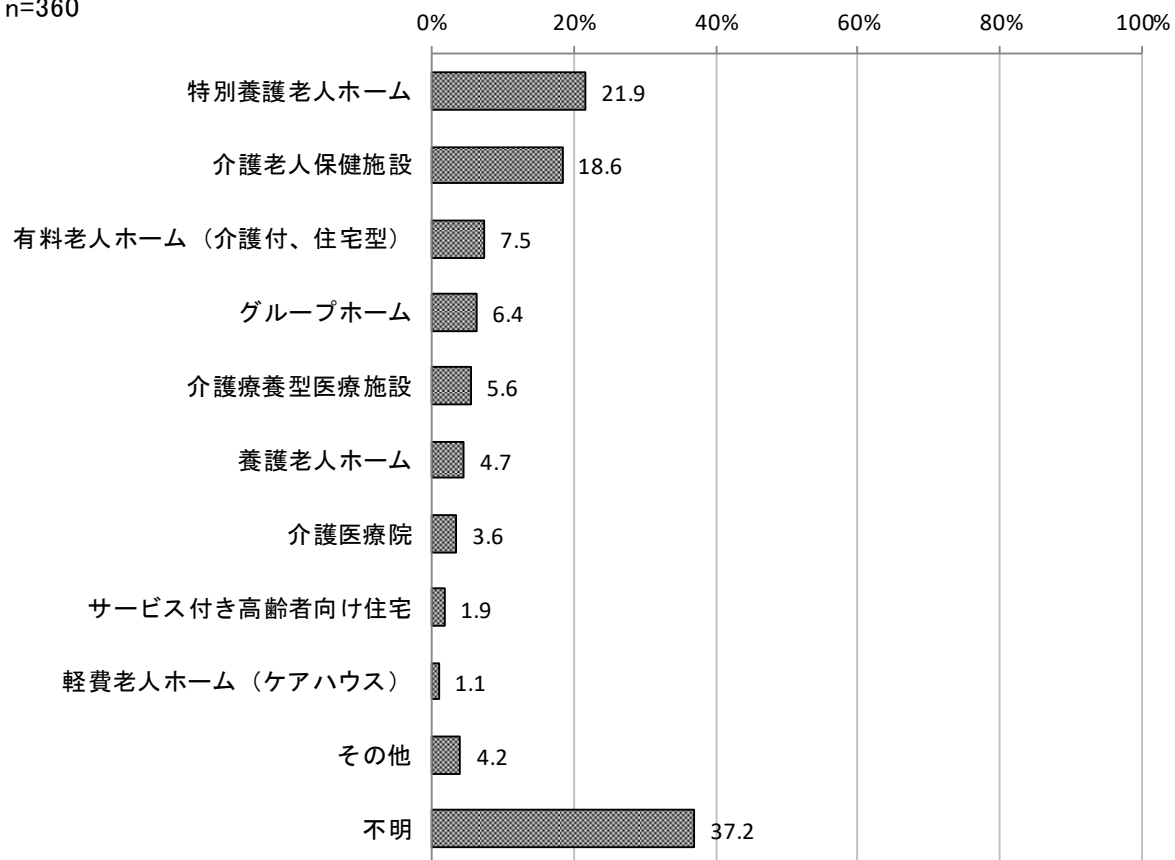


※1 平成26年、平成23年では「小規模多機能型」と表示
 ※2 平成29年から追加した選択肢
 ※3 平成29年から削除した選択肢

【問 10 で 1 または 2 と回答】

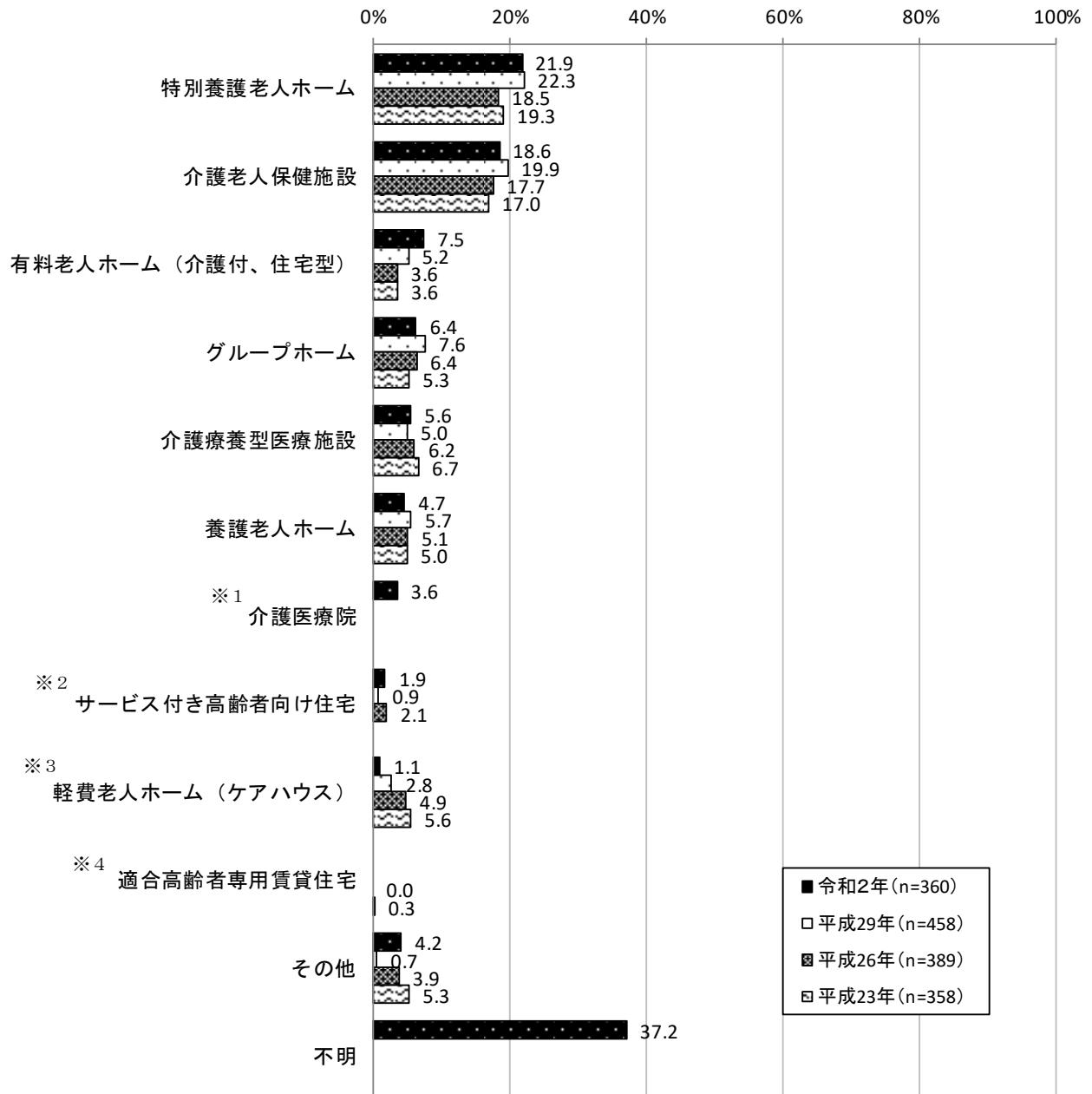
問 10-3 利用している（利用していた）サービスはどれですか。（当てはまるもの全てに○）
※施設でのサービスを利用している（利用していた）場合

n=360



利用している（利用していた）施設でのサービスは、「特別養護老人ホーム」が 21.9%で最も高く、次いで「介護老人保健施設」（18.6%）、「有料老人ホーム（介護付、住宅型）」（7.5%）となっている。

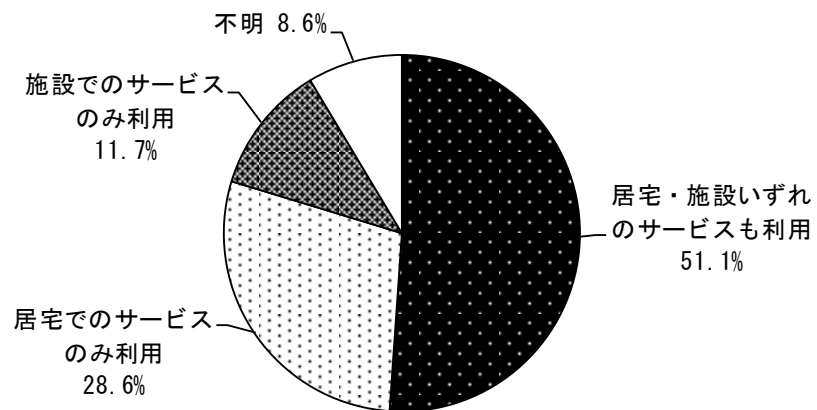
<経年比較>



- ※1 令和2年から追加した選択肢
- ※2 平成26年から追加した選択肢
- ※3 平成23年、平成26年では「ケアハウス」と表示
- ※4 平成29年に削除した選択肢

(参考) 居宅、施設でのサービスの利用状況

n=360



利用しているサービスの回答から、居宅、施設でのサービスの利用状況を見ると、「居宅・施設いずれのサービスも利用」している人が51.1%となっている。

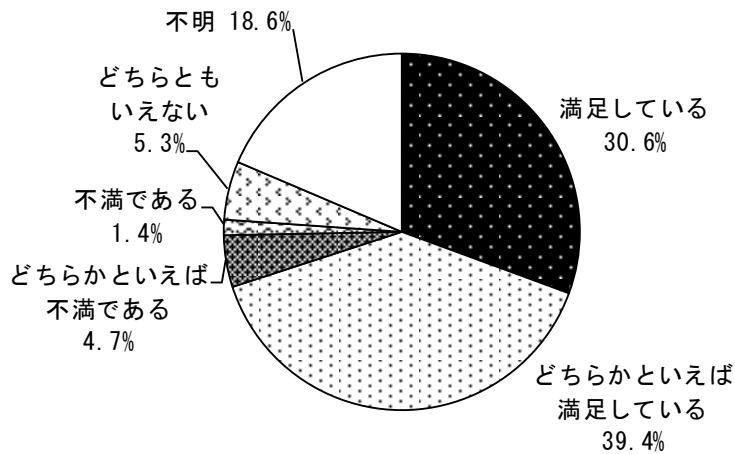
(4) 利用サービスの満足度

◎ <満足>が7割

【問10で1または2と回答】

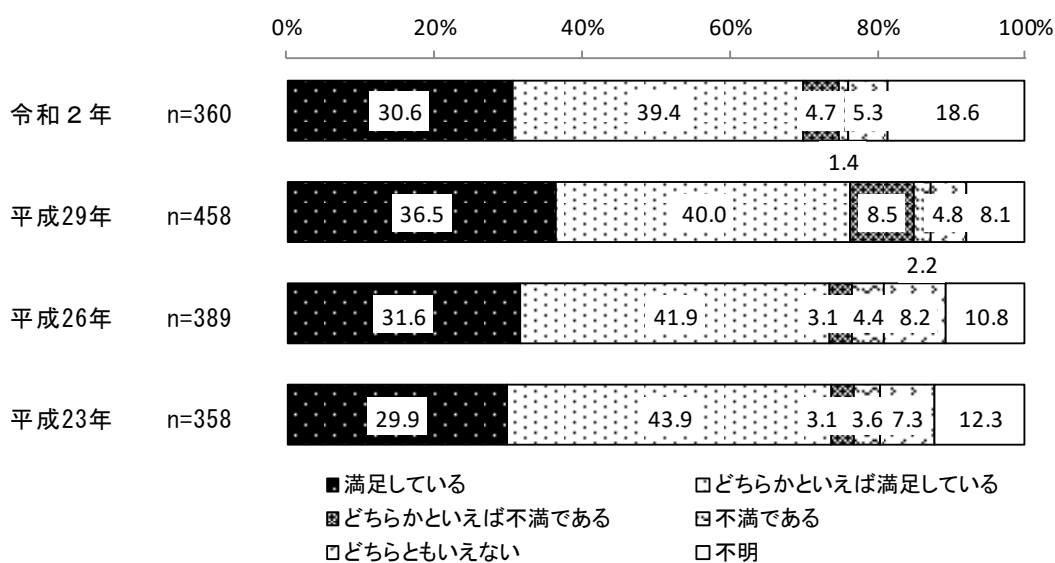
問10-4 利用している（利用していた）サービスに対して満足していますか。（1つだけに○）

n=360



利用サービスの満足度は、「どちらかといえば満足している」が39.4%で最も高く、「満足している」（30.6%）と合わせた<満足>は70.0%となっている。一方、「どちらかといえば不満である」（4.7%）、「不満である」（1.4%）を合わせた<不満>は6.1%となっている。

<経年比較>



満足	不満
70.0	6.1
76.4	10.7
73.5	7.5
73.7	6.7

過去の調査結果と比較すると、<満足>は平成29年から6.4ポイント減少している。

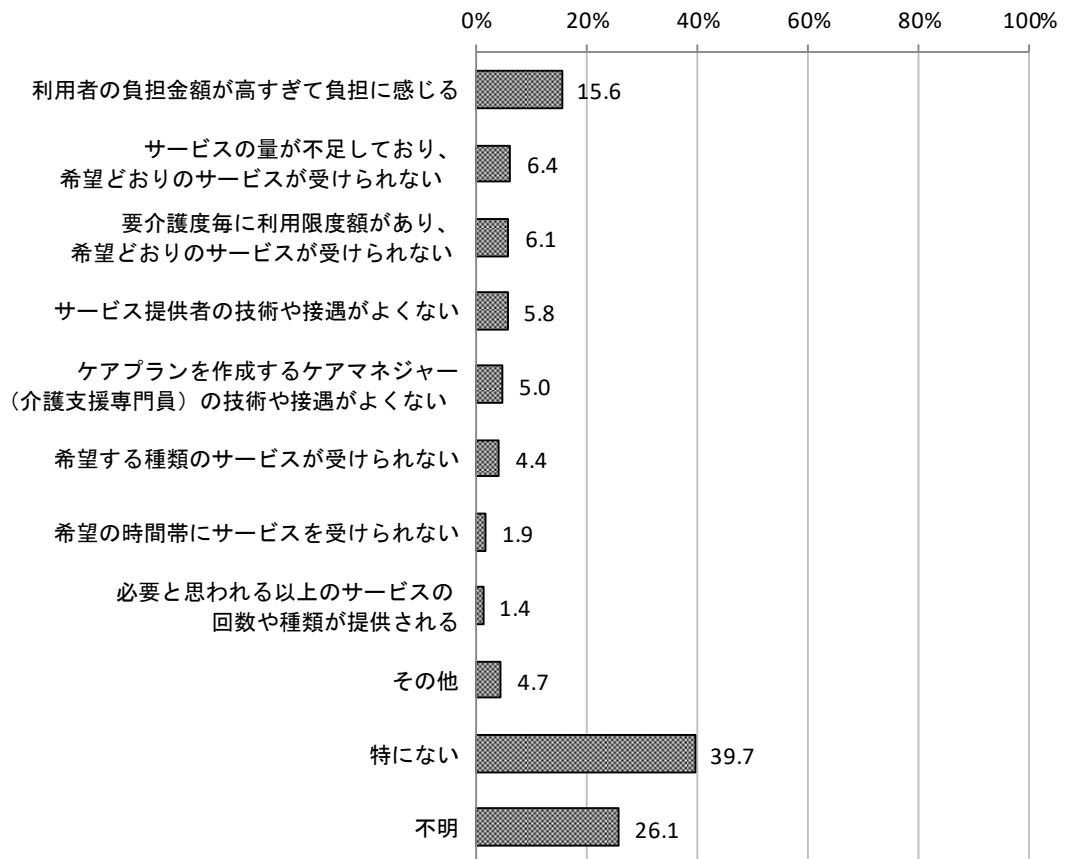
(5) 利用サービスにおいて不満に感じること

◎ 「特にない」が約4割、不満なことは「利用者の負担金額が高すぎて負担に感じる」が最も高い

【問10で1または2と回答】

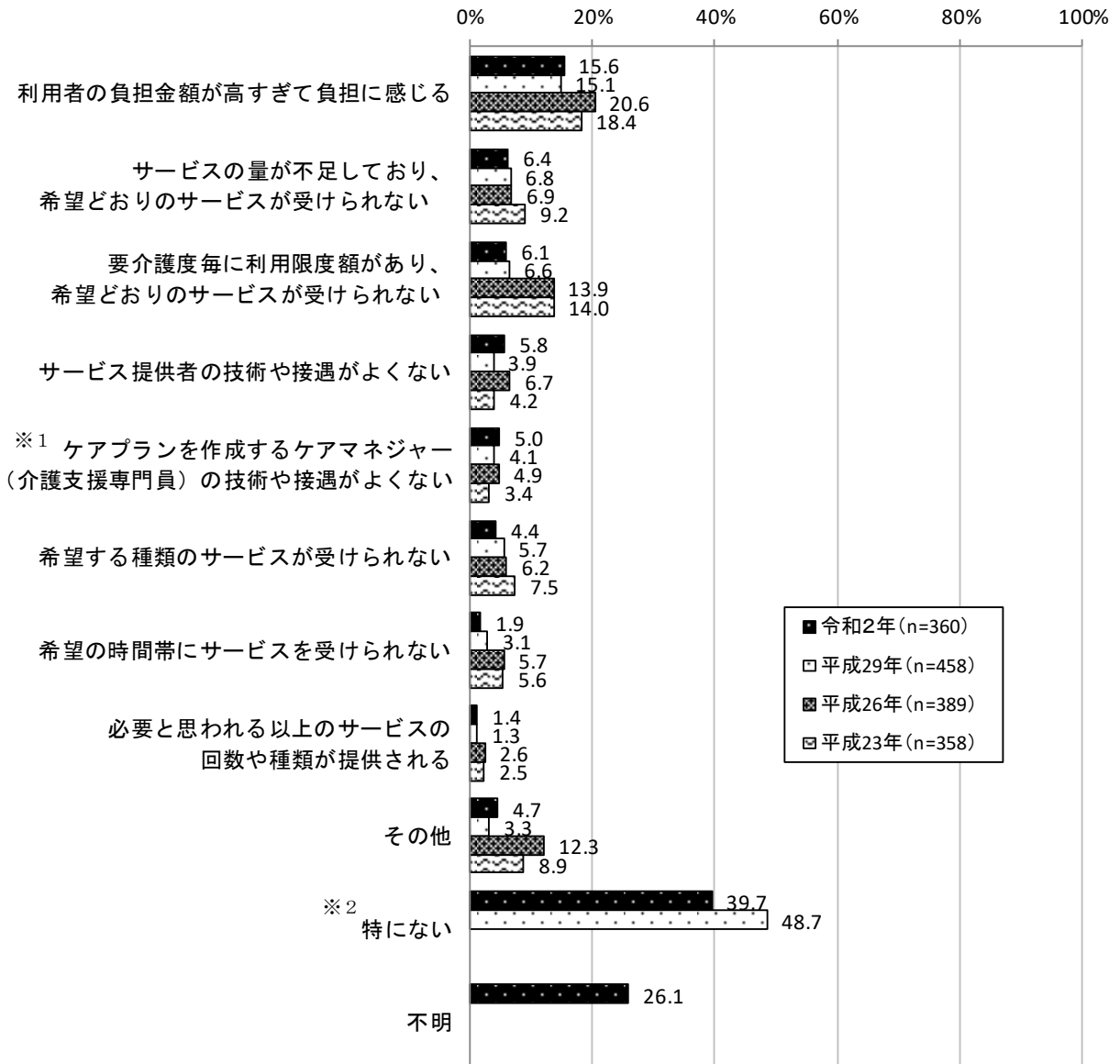
問10-5 サービスを利用して、あなたが不満に感じる（感じた）ことはありますか。
（当てはまるもの全てに○）

n=360



利用サービスにおいて不満に感じることは、「利用者の負担金額が高すぎて負担に感じる」が15.6%で最も高く、次いで「サービスの量が不足しており、希望どおりのサービスが受けられない」(6.4%)、「要介護度毎に利用限度額があり、希望どおりのサービスが受けられない」(6.1%)となっている。一方、「特にない」は39.7%となっている。

<経年比較>



※1 平成29年までは「ケアマネジャーの技術や処遇がよくない」と表示

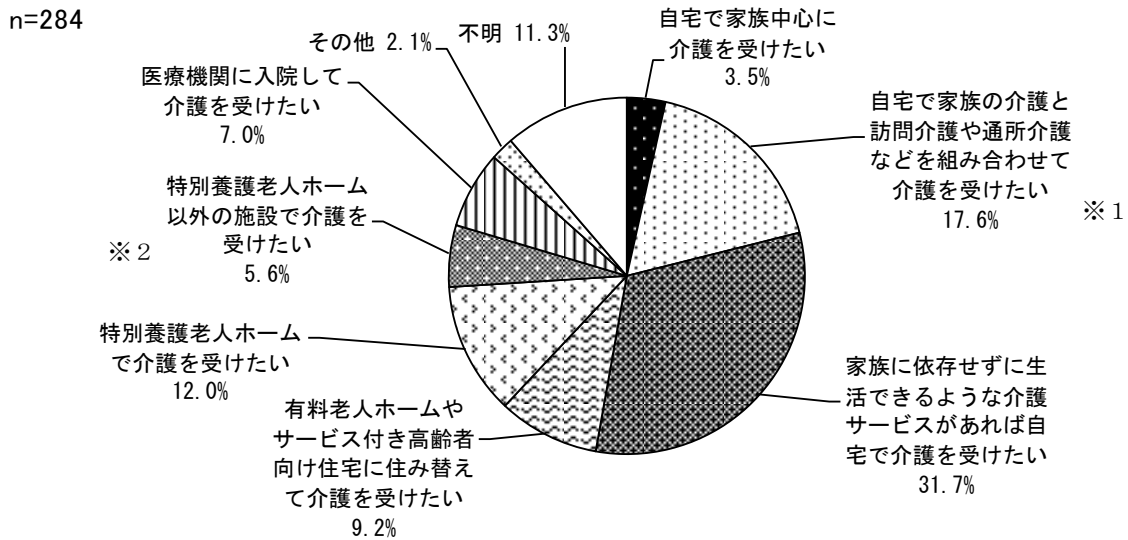
※2 平成29年から追加した選択肢

(6) 介護が必要となった場合の希望

◎ 「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が約3割

【問10-2で「1 あなた自身(本人)」以外を回答した方】

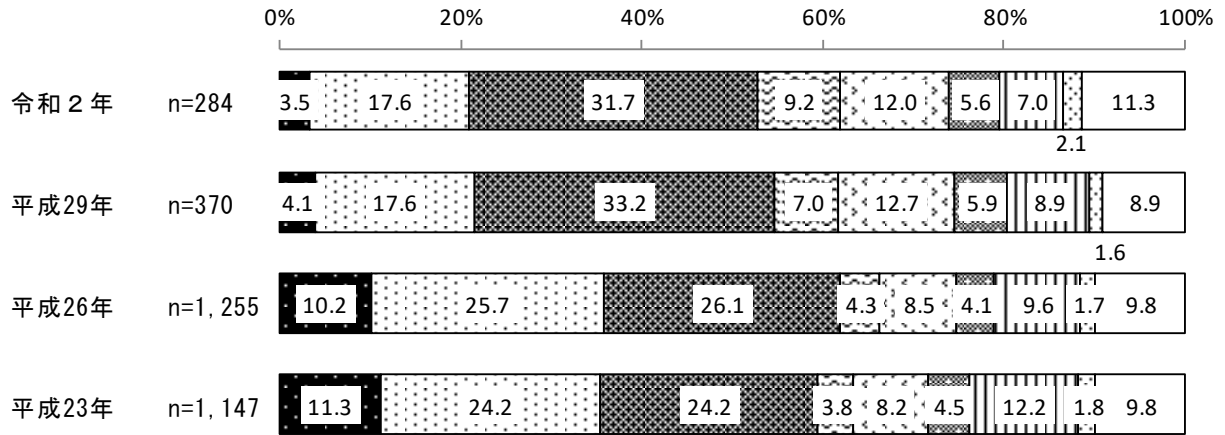
問10-6 あなたが介護が必要となった場合、どのような介護を受けることを望みますか。
(あなたの考えに最も近いもの1つに○)



※1 自宅で家族の介護と訪問介護(ホームヘルプサービス)や通所介護(デイサービス)などを組み合わせて介護を受けたい
 ※2 特別養護老人ホーム以外の施設(介護老人保健施設やグループホームなど)で介護を受けたい

介護が必要となった場合の希望は、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が31.7%で最も高く、次いで「自宅で家族の介護と訪問介護(ホームヘルプサービス)や通所介護(デイサービス)などを組み合わせて介護を受けたい」(17.6%)、「特別養護老人ホームで介護を受けたい」(12.0%)となっている。

<経年比較>



- 自宅で家族中心に介護を受けたい
- 自宅で家族の介護と訪問介護や通所介護などを組み合わせて介護を受けたい ※1
- 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい
- 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい
- 特別養護老人ホームで介護を受けたい
- 特別養護老人ホーム以外の施設で介護を受けたい
- 医療機関に入院して介護を受けたい
- その他
- 不明

※1 平成23年では「自宅で家族の介護と訪問介護やデイサービスなどを組み合わせて介護を受けたい」と表示
 ※2 平成23年、平成26年はすべての対象者に伺った。

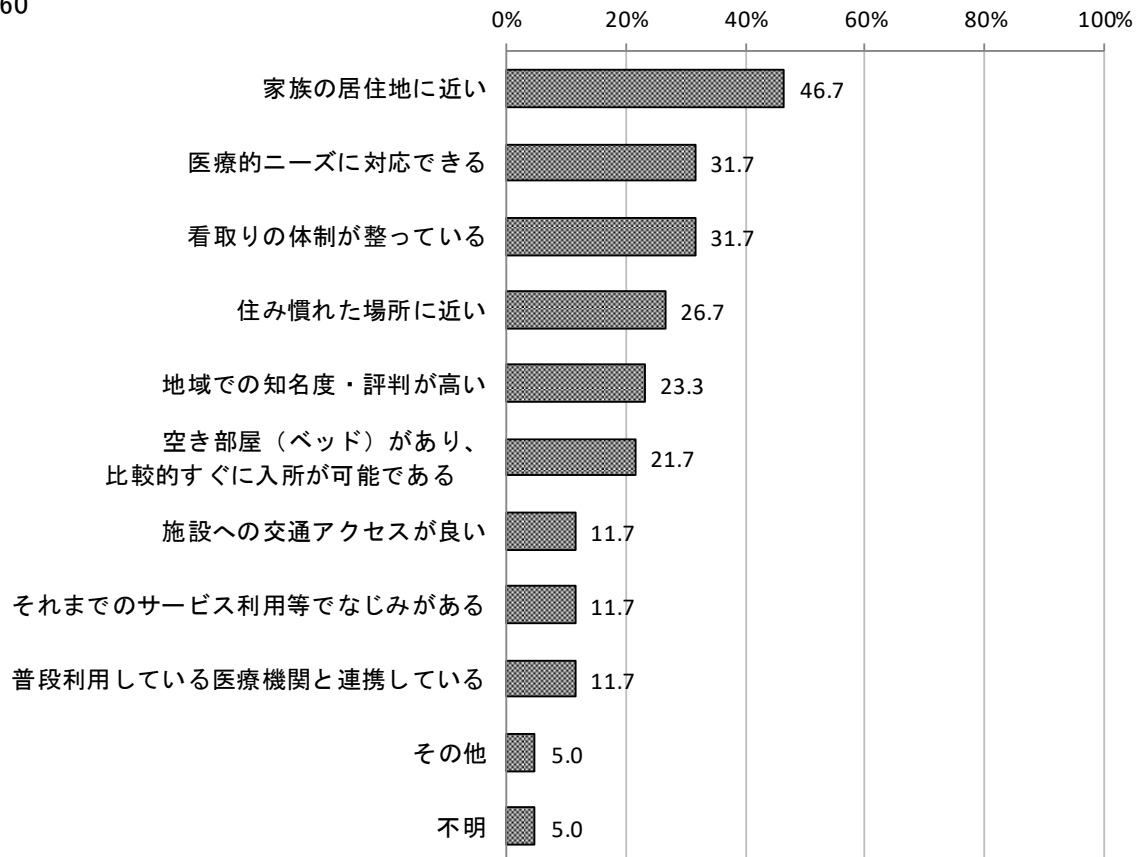
(7) 施設を選ぶ際の条件

◎ 「家族の居住地に近い」が4割半ば

【問10-6で4または5と回答】

問10-7 施設を選ぶ際に何を考慮するか選んでください。(主なもの3つ以内に○)

n=60



施設を選ぶ際の条件は、「家族の居住地に近い」が46.7%で最も高く、次いで「医療的ニーズに対応できる」(31.7%)、「看取りの体制が整っている」(31.7%)となっている。

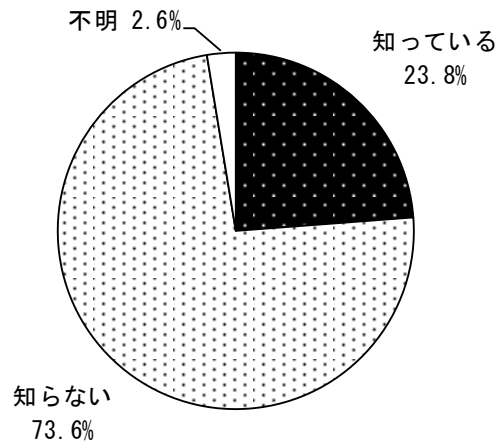
4 介護予防について

(1) 「フレイル」の認知度

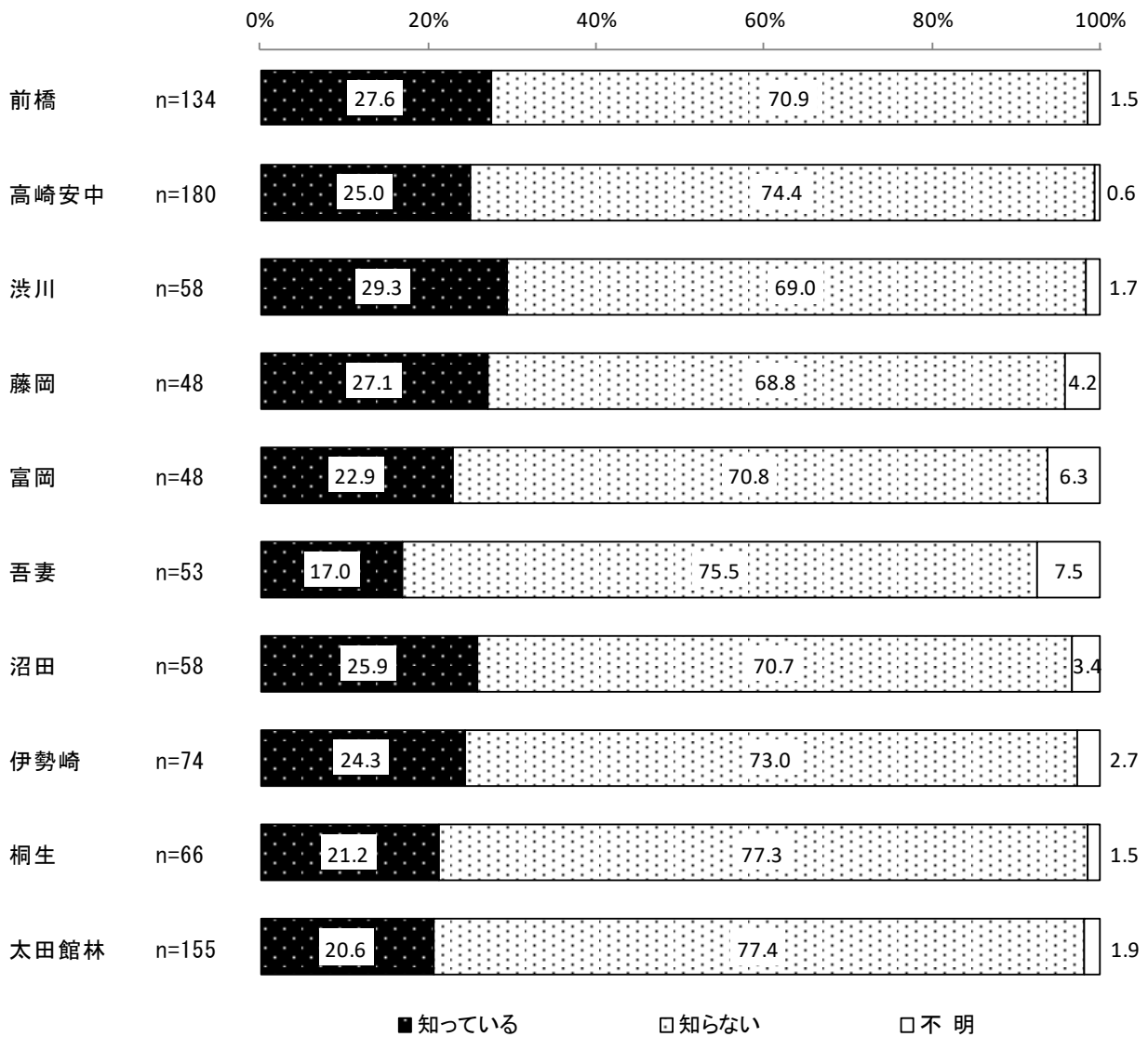
◎ 「知っている」は2割前半

問 11 高齢になって筋力や活力が衰えた状態（虚弱）をあらわす「フレイル」という言葉を知っていますか。（1つだけに○）

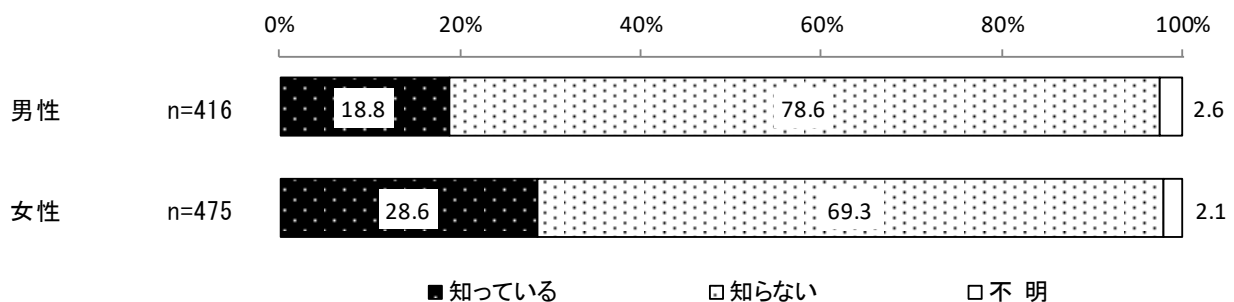
n=899



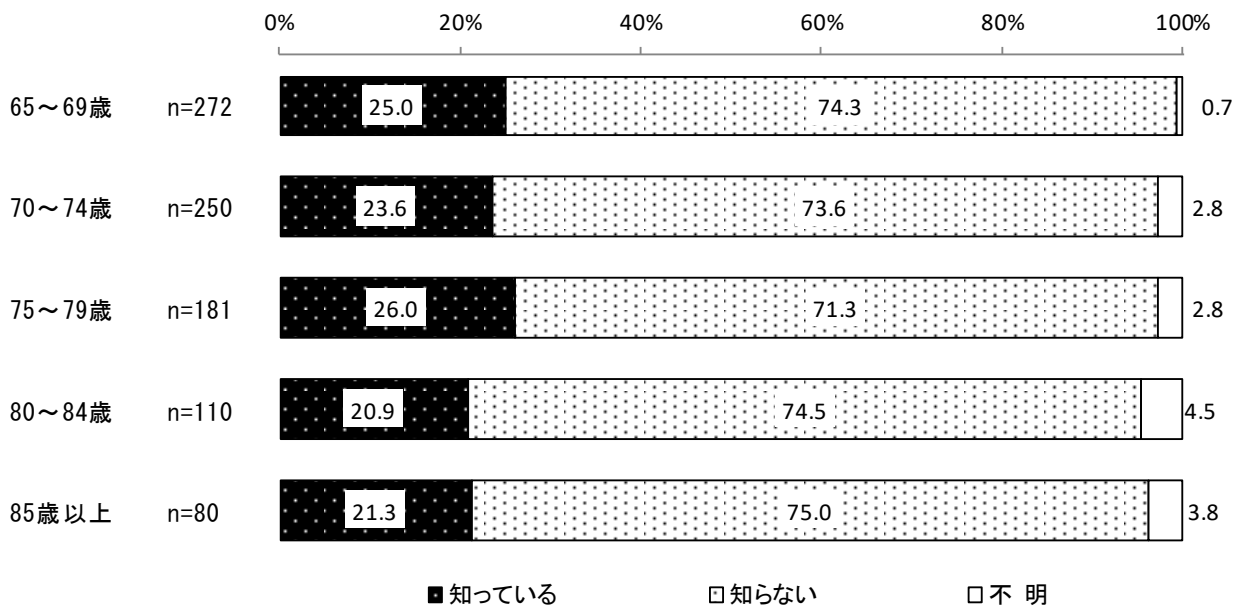
「フレイル」の認知度は、「知っている」が23.8%「知らない」が73.6%となっている。



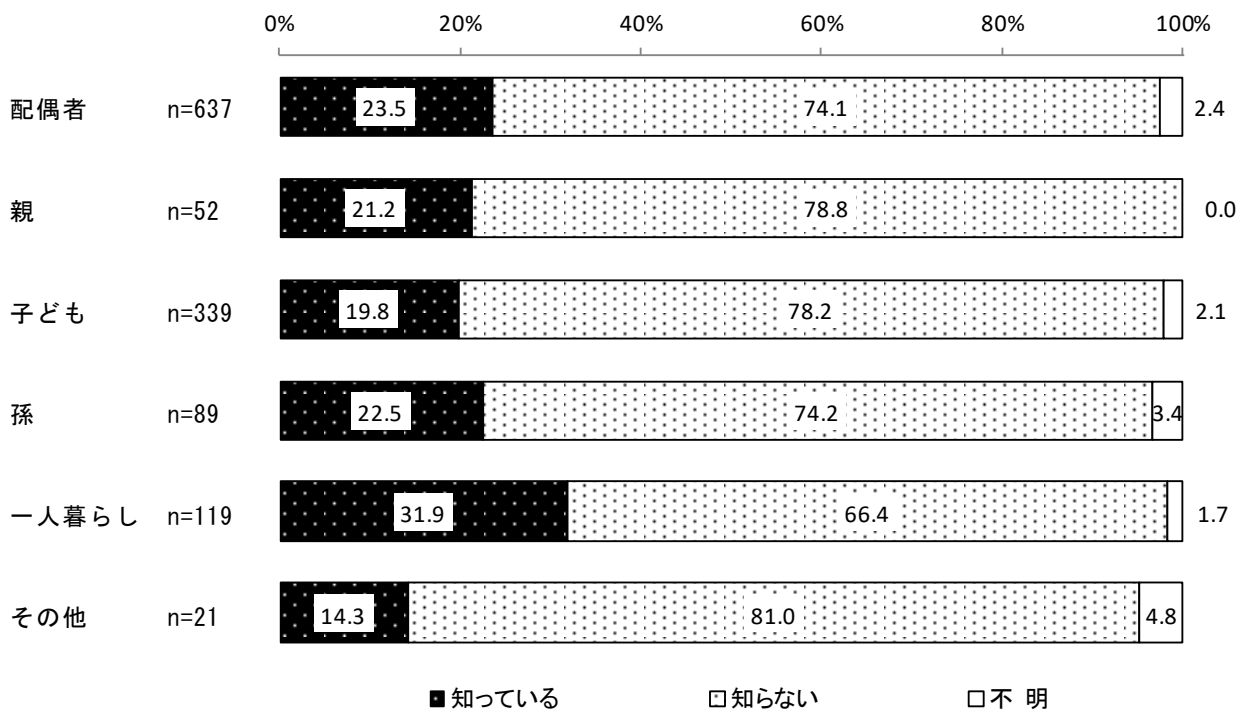
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は吾妻圏域が 17.0%、その他の圏域では 2 割台となっている。



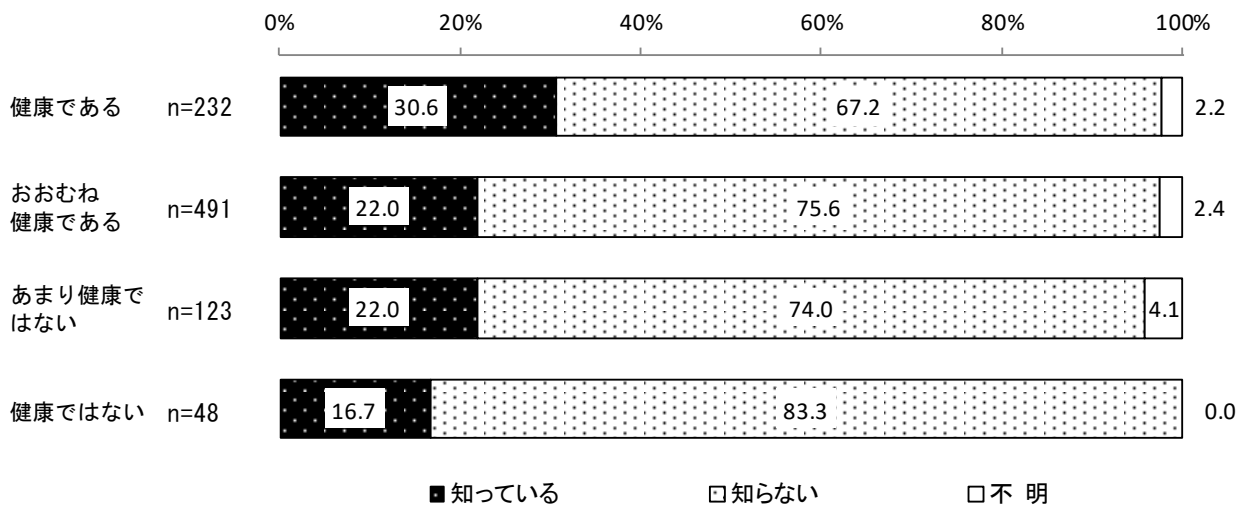
性別でみると、「知っている」は女性 (28.6%) が男性 (18.8%) を 9.8 ポイント上回っている。



年齢別で見ると、「知っている」はすべての年齢で2割台となっている。



同居家族別で見ると、「知っている」は一人暮らしの方で31.9%と高くなっている。



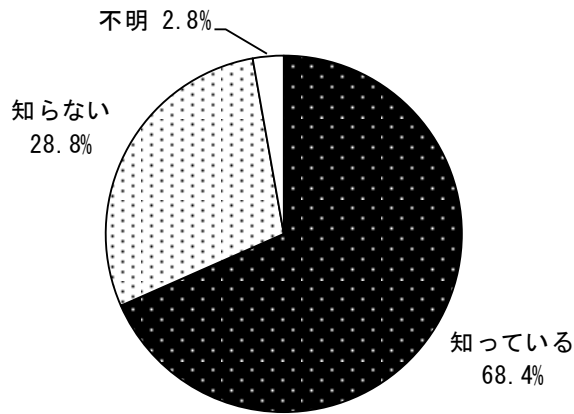
健康状態別でみると、「知っている」は健康である方で 30.6%と高くなっている。

(2) 介護予防方法の認知度

◎ 「知っている」が6割後半

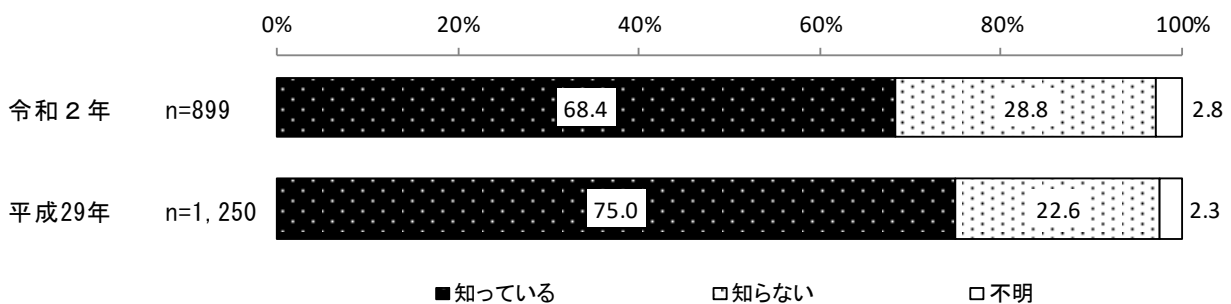
問 12 週1回以上、1時間ほどのゆっくりとした体操により足の筋肉などを鍛えると、介護予防に大きな効果があることを知っていますか。(1つだけに○)

n=899

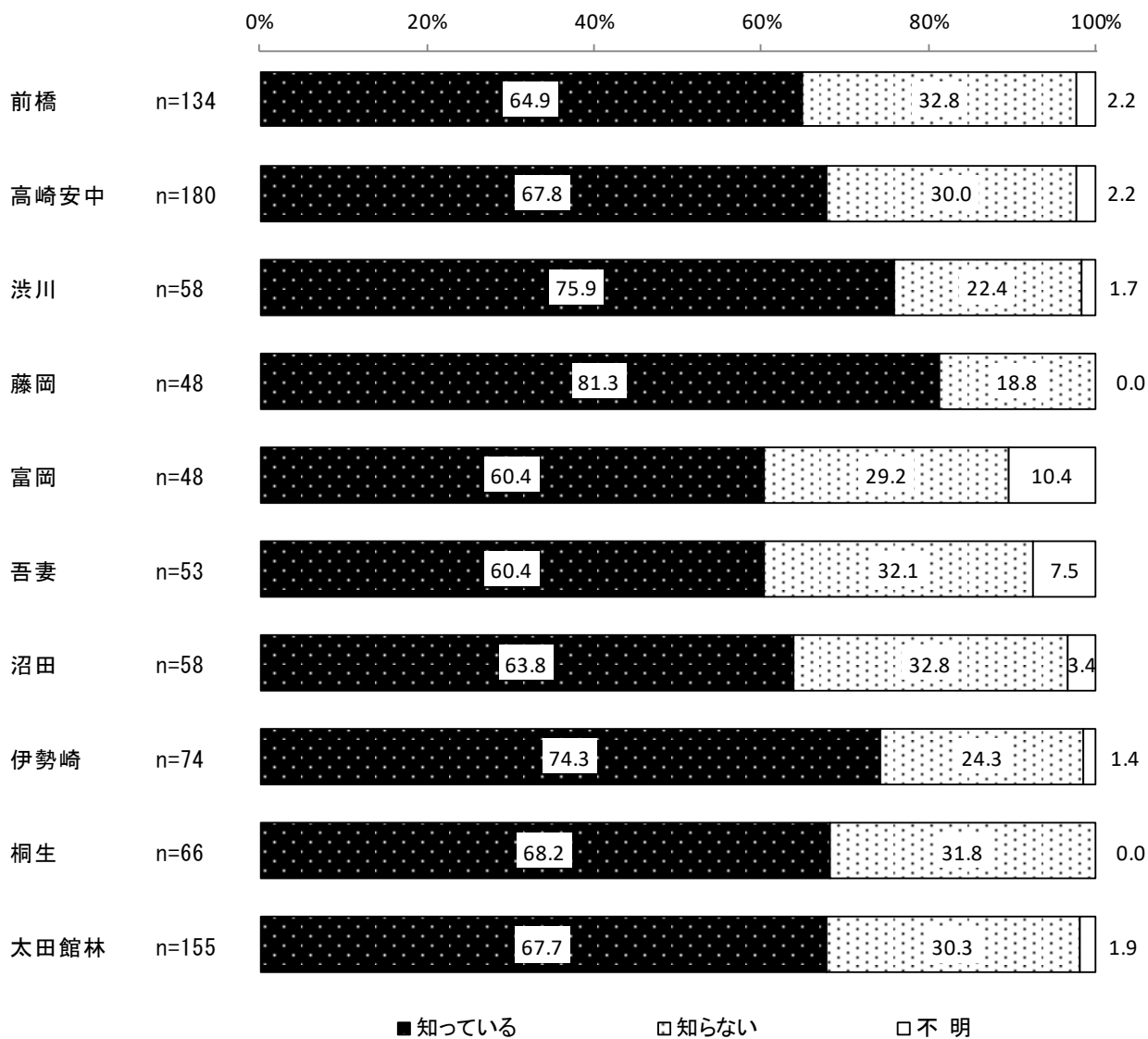


週1回以上、1時間ほどのゆっくりとした体操により足の筋肉などを鍛えると、介護予防に大きな効果があることの認知度は、「知っている」が68.4%「知らない」が28.8%となっている。

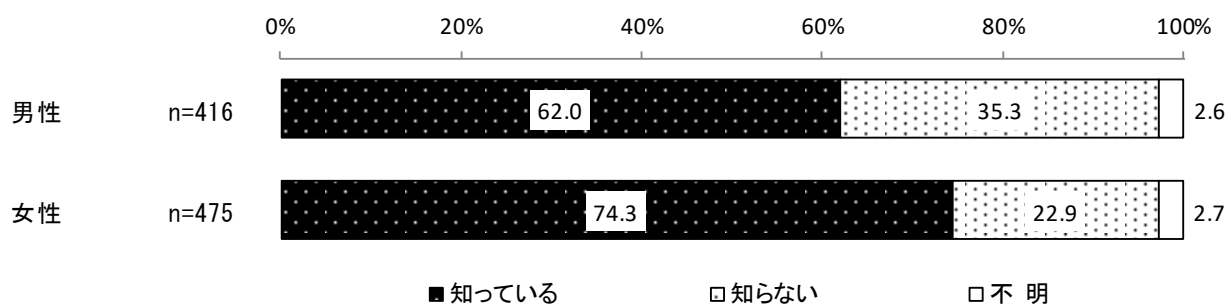
<経年比較>



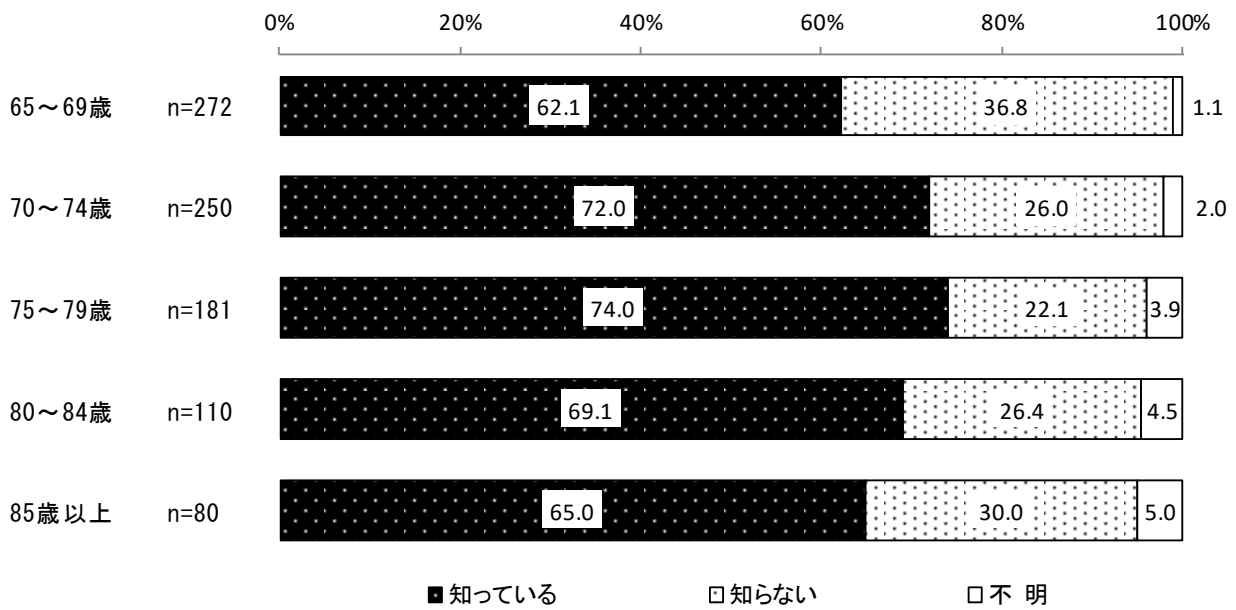
平成29年の調査結果と比較すると、「知っている」は6.6ポイント減少している。



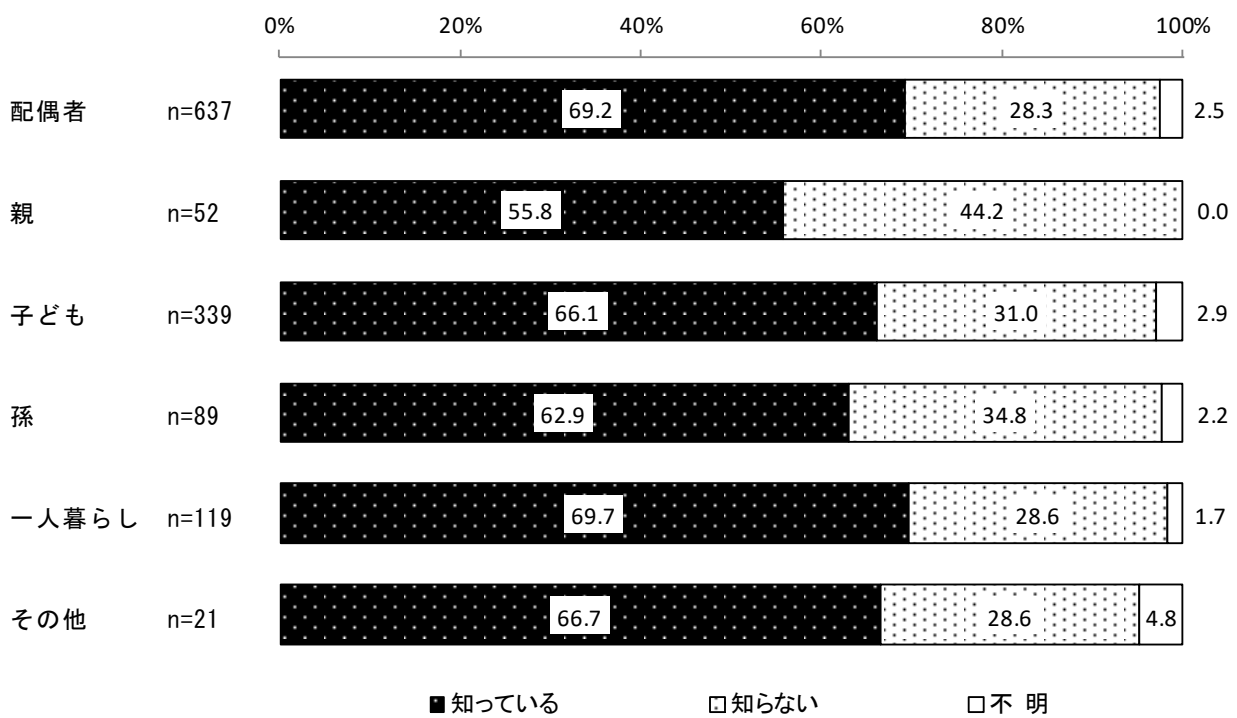
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は藤岡圏域で 81.3%、渋川圏域で 75.9%、伊勢崎圏域で 74.3%となっている。



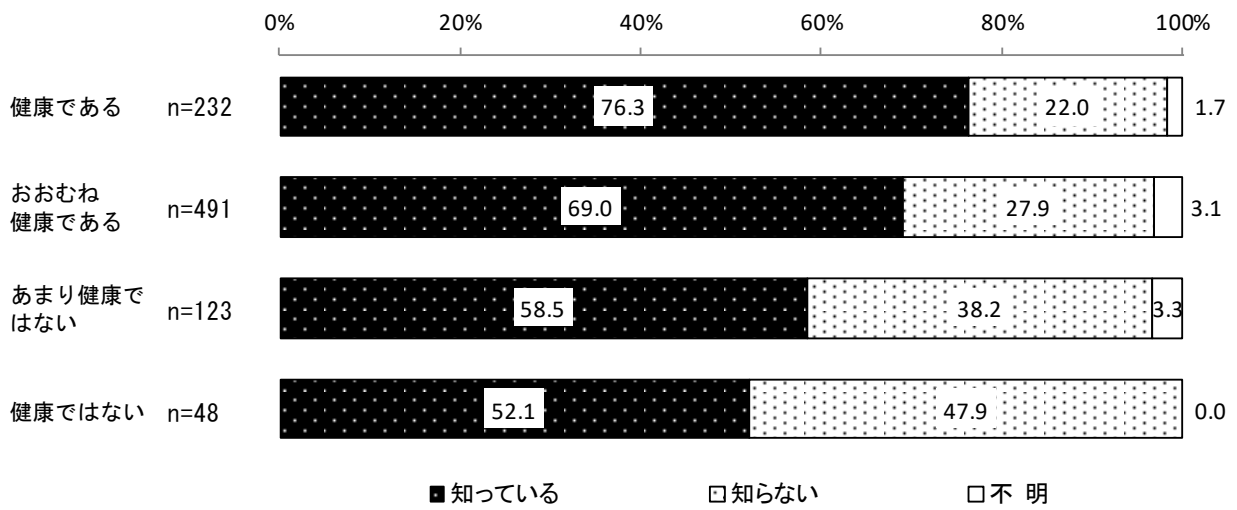
性別でみると、「知っている」は女性（74.3%）が男性（62.0%）を 12.3 ポイント上回っている。



年齢別でみると、「知っている」は70~74歳で72.0%、75~79歳で74.0%と7割台となっている。



同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



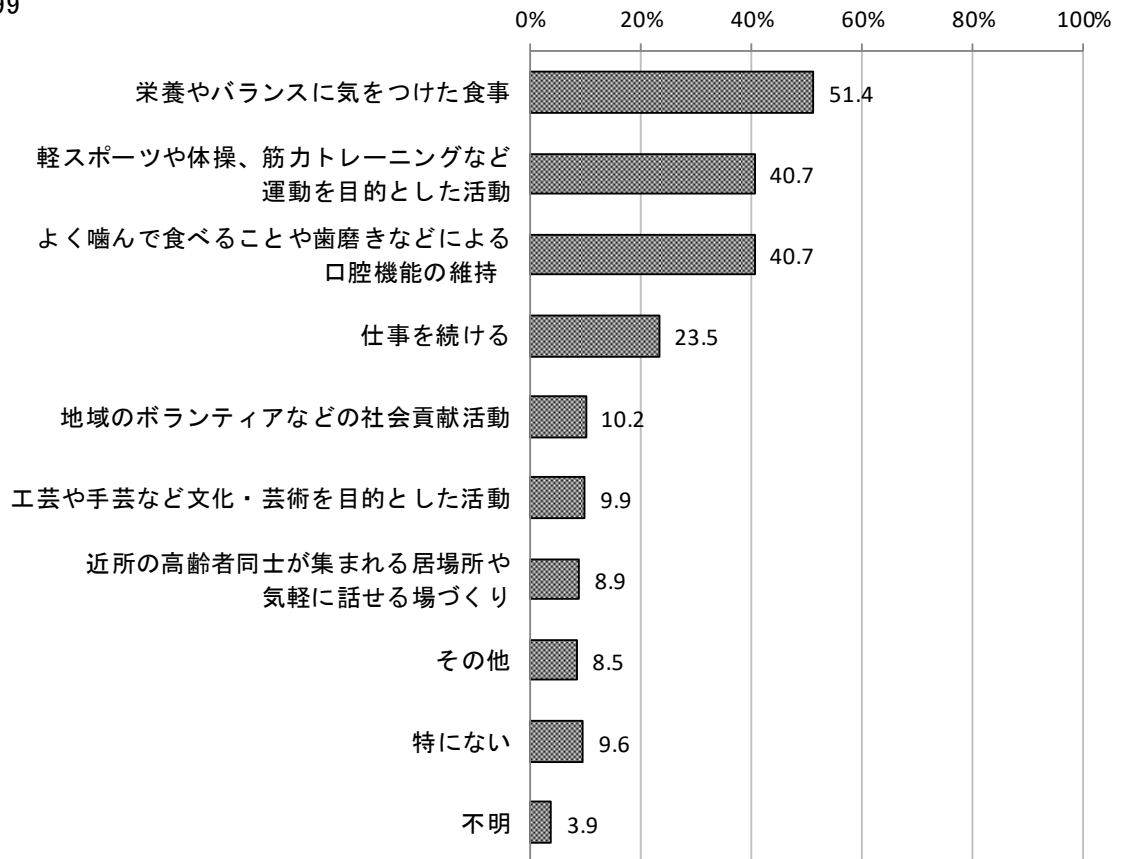
健康状態別で見ると、「知っている」は健康である方で76.3%と7割台となっている。

(3) 介護予防の取り組み

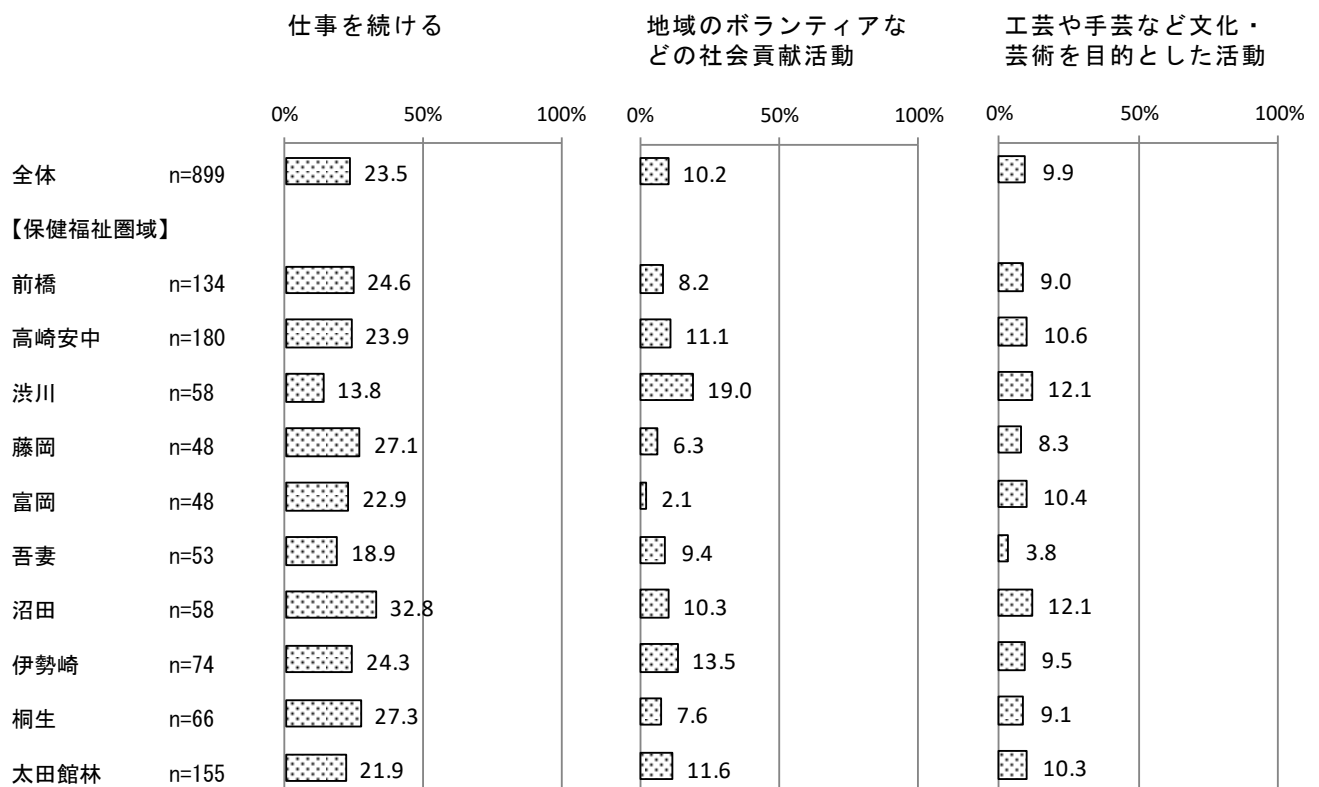
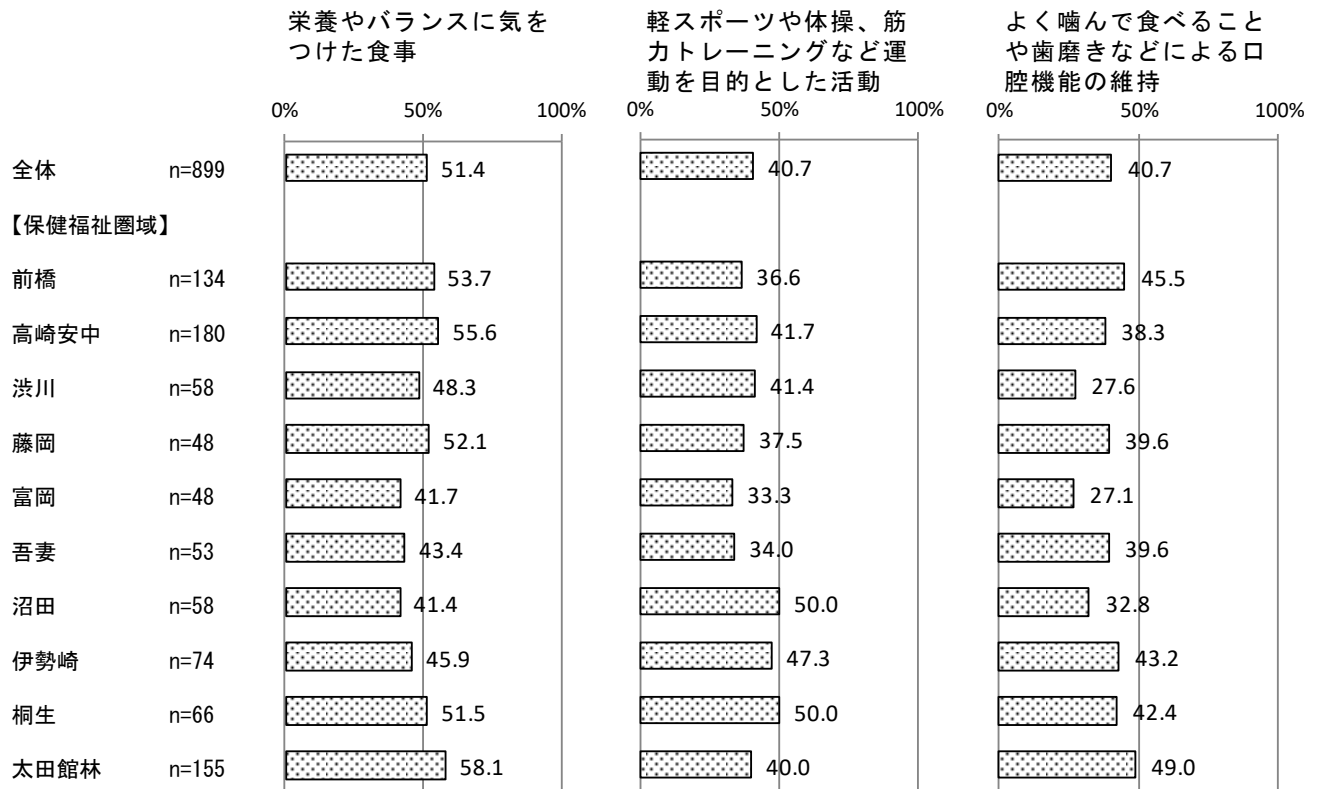
◎ 「栄養やバランスに気をつけた食事」が約5割

問 13 あなたが、今後介護を必要とする状態にならないために（状態が悪くならないために）取り組んでいることはありますか。（3つ以内に○）

n=899

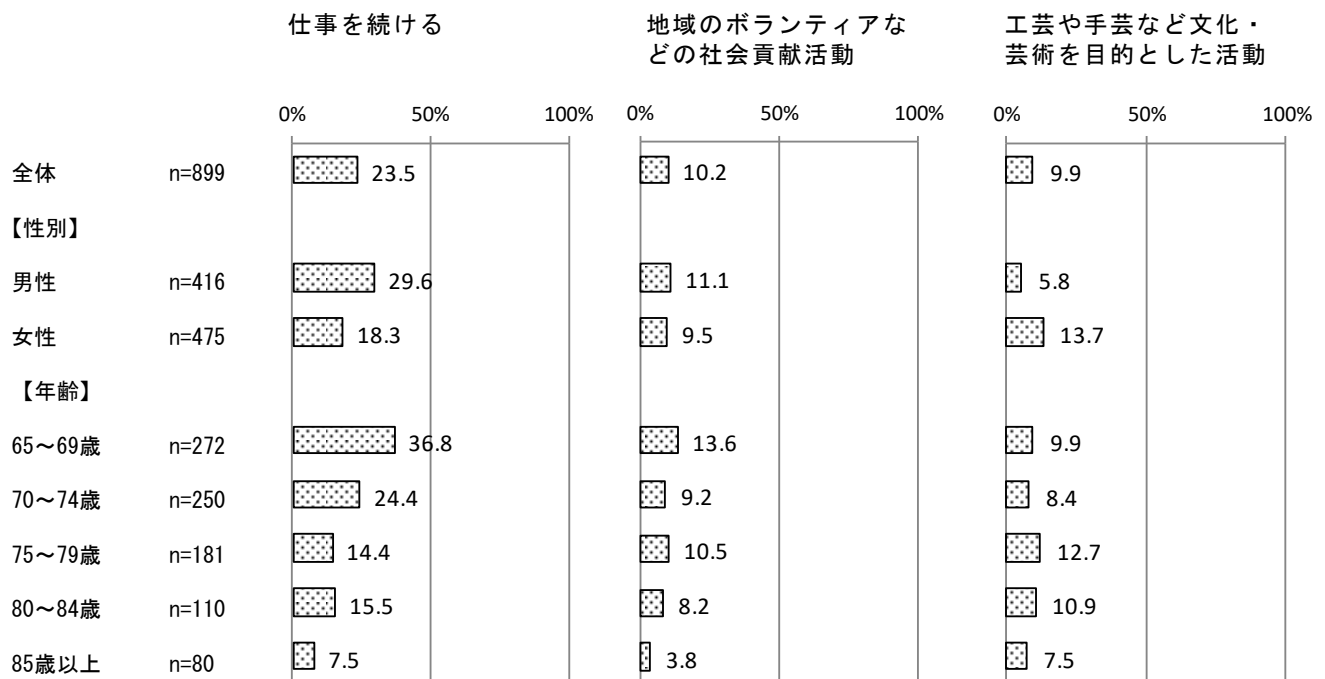
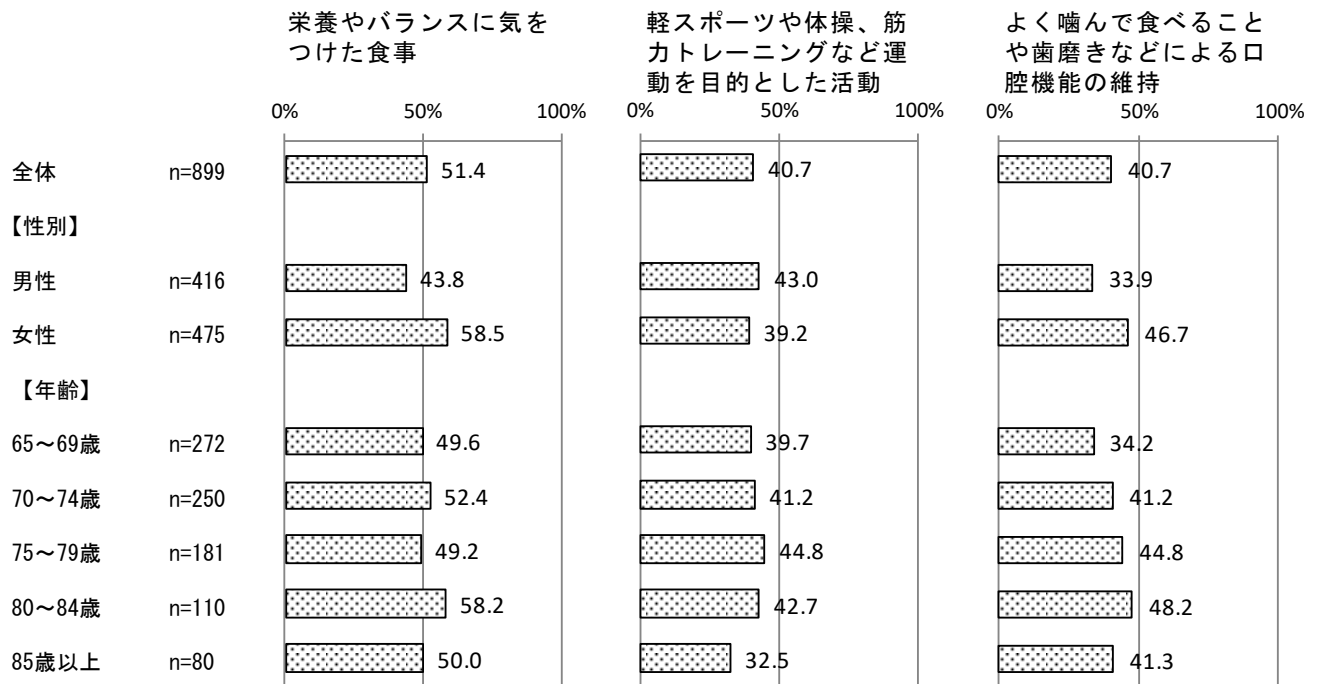


介護予防の取り組みは、「栄養やバランスに気をつけた食事」が51.4%で最も高く、次いで「軽スポーツや体操、筋力トレーニングなど運動を目的とした活動」(40.7%)、「よく噛んで食べることや歯磨きなどによる口腔機能の維持」(40.7%)が同率となっている。



上位6項目について、保健福祉圏域別でみると、「軽スポーツや体操、筋力トレーニングなど運動を目的とした活動」は沼田圏域、桐生圏域で50.0%、伊勢崎圏域で47.3%となっている。

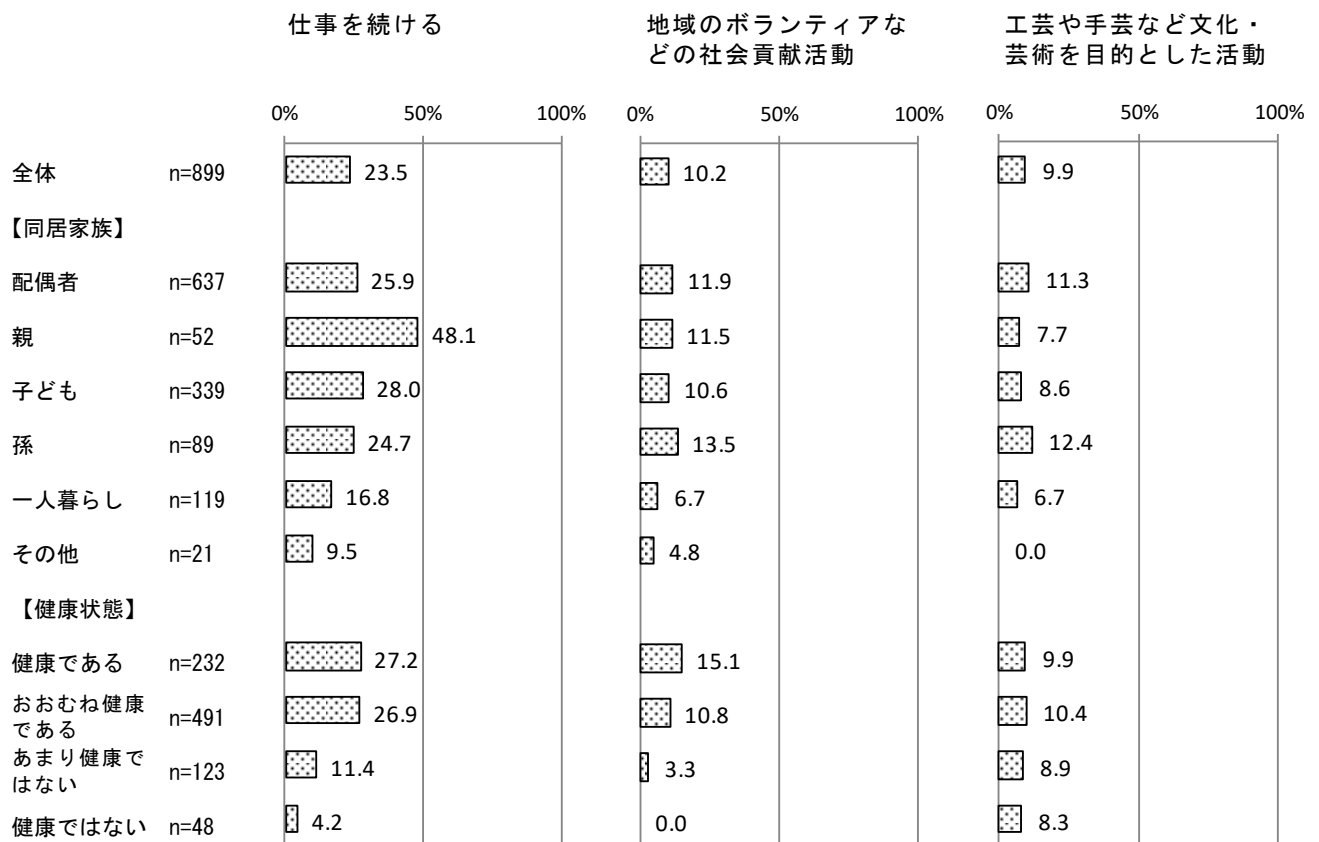
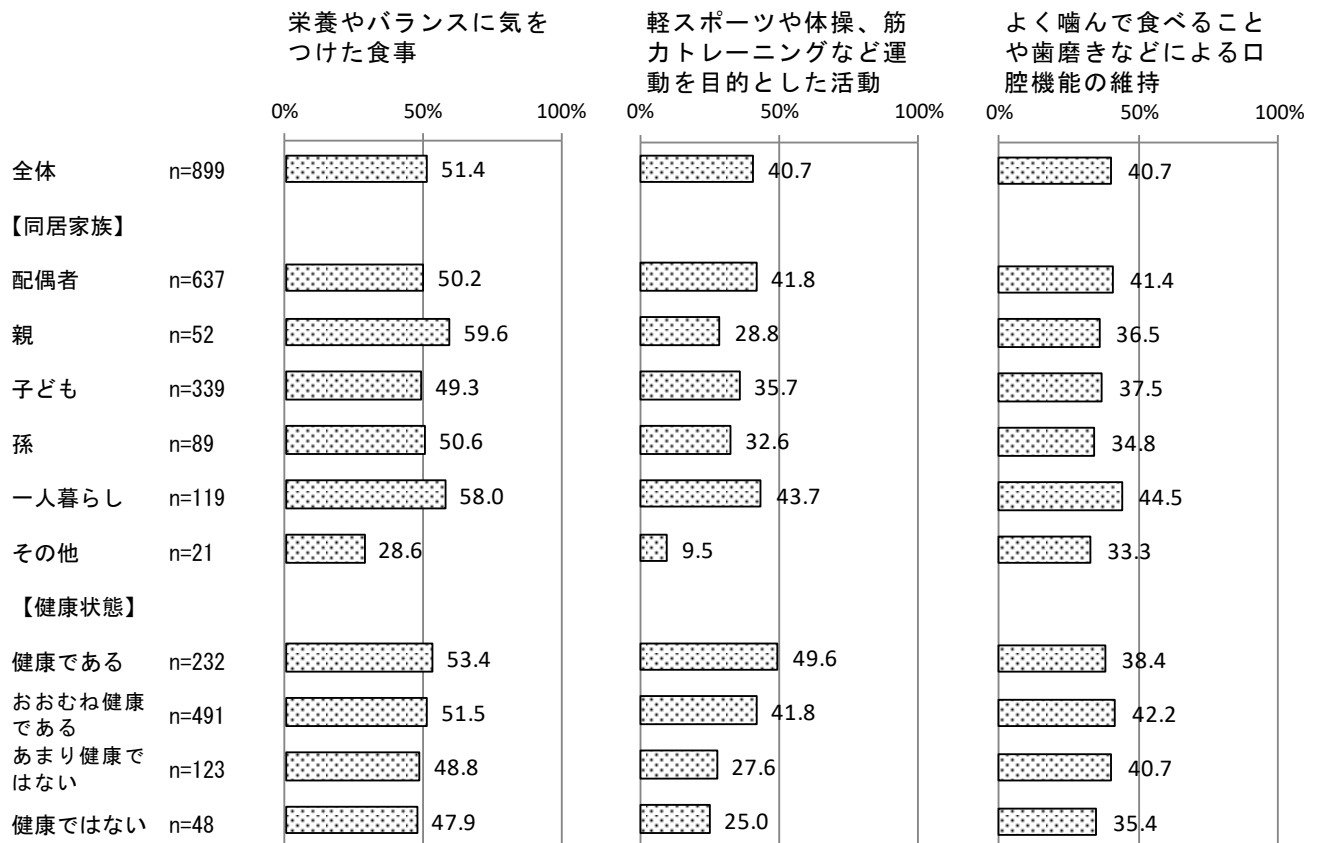
「仕事を続ける」は沼田圏域で32.8%、「地域のボランティアなどの社会貢献活動」は渋川圏域で19.0%となっている。



性別で見ると、「栄養やバランスに気をつけた食事」、「よく噛んで食べることや歯磨きなどによる口腔機能の維持」、「工芸や手芸など文化・芸術を目的とした活動」では女性が男性を、それぞれ 14.7 ポイント、12.8 ポイント、7.9 ポイント上回っている。

「仕事を続ける」は男性 (29.6%) が女性 (18.3%) を 11.3 ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「仕事を続ける」は 65~69 歳で 36.8% と高く、おおむね年齢が上がるにつれ低くなっている。



同居家族別でみると、「仕事を続ける」は親と同居している方で48.1%と高くなっている。

健康状態別でみると、「軽スポーツや体操、筋力トレーニングなど運動を目的とした活動」、「仕事を続ける」、「地域のボランティアや社会貢献活動」は健康である、おおむね健康である方で高くなっている。

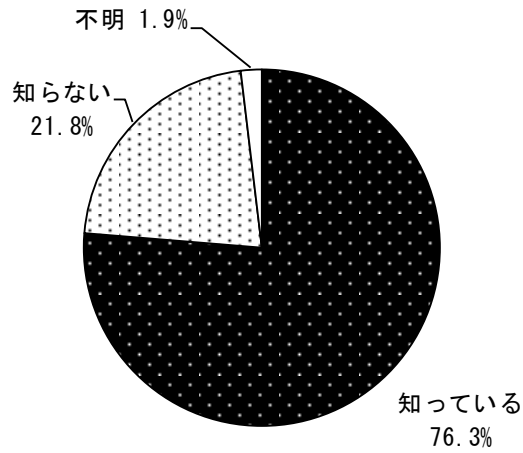
5 介護保険料について

(1) 介護保険料について

◎ 「知っている」が7割半ば

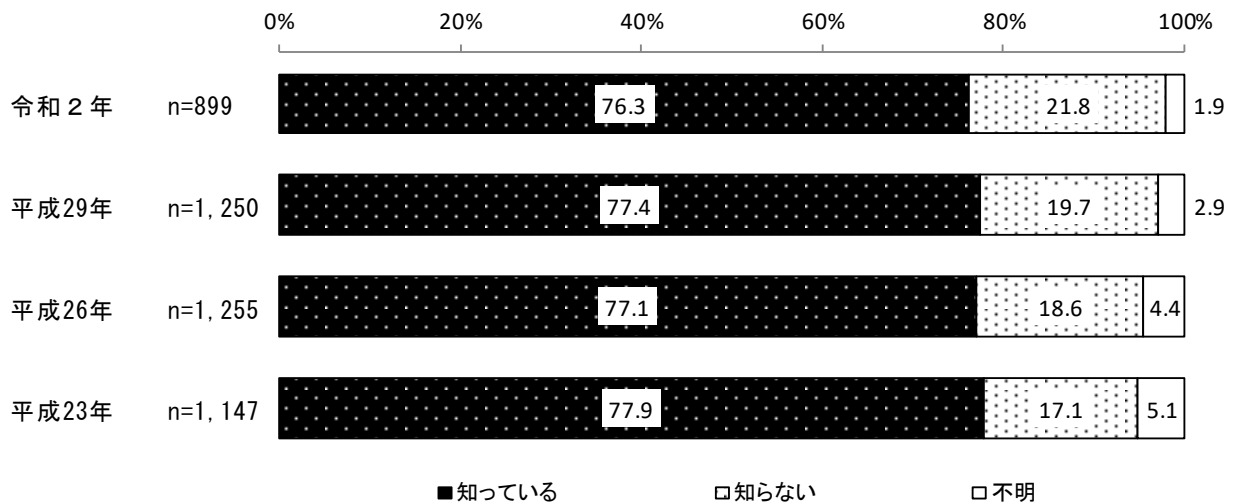
問 14 あなたが市町村に納めている介護保険料が概ねいくらか知っていますか。(1つだけに○)

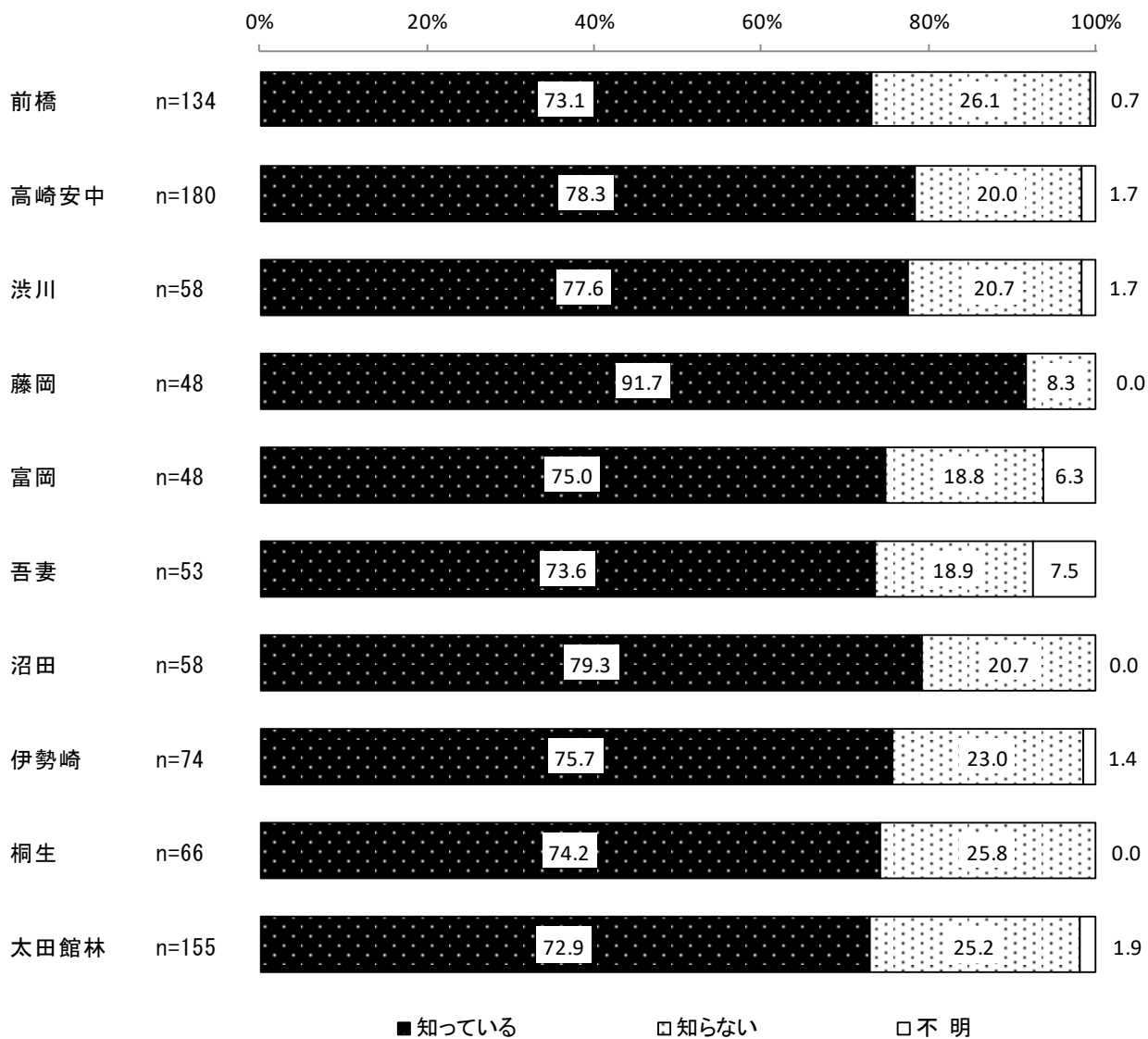
n=899



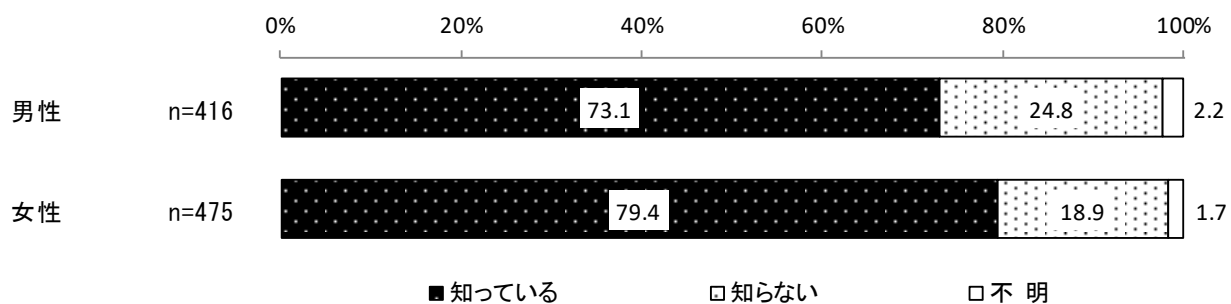
介護保険料について、ご自身が市町村に納めている介護保険料の金額を「知っている」が76.3%、「知らない」が21.8%となっている。

<経年比較>

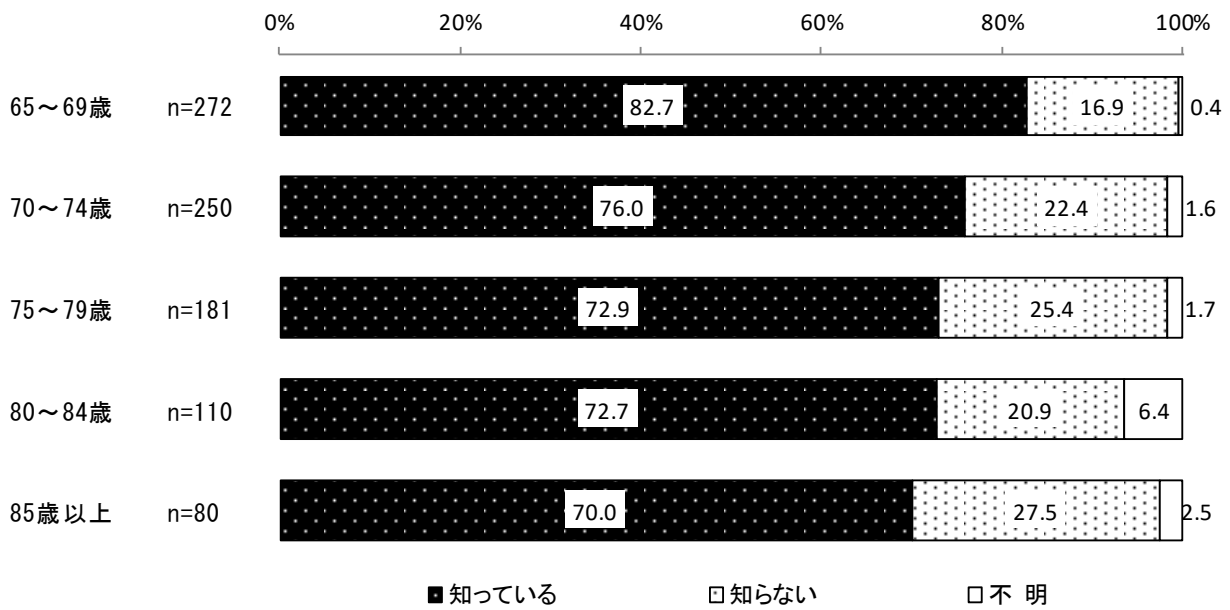




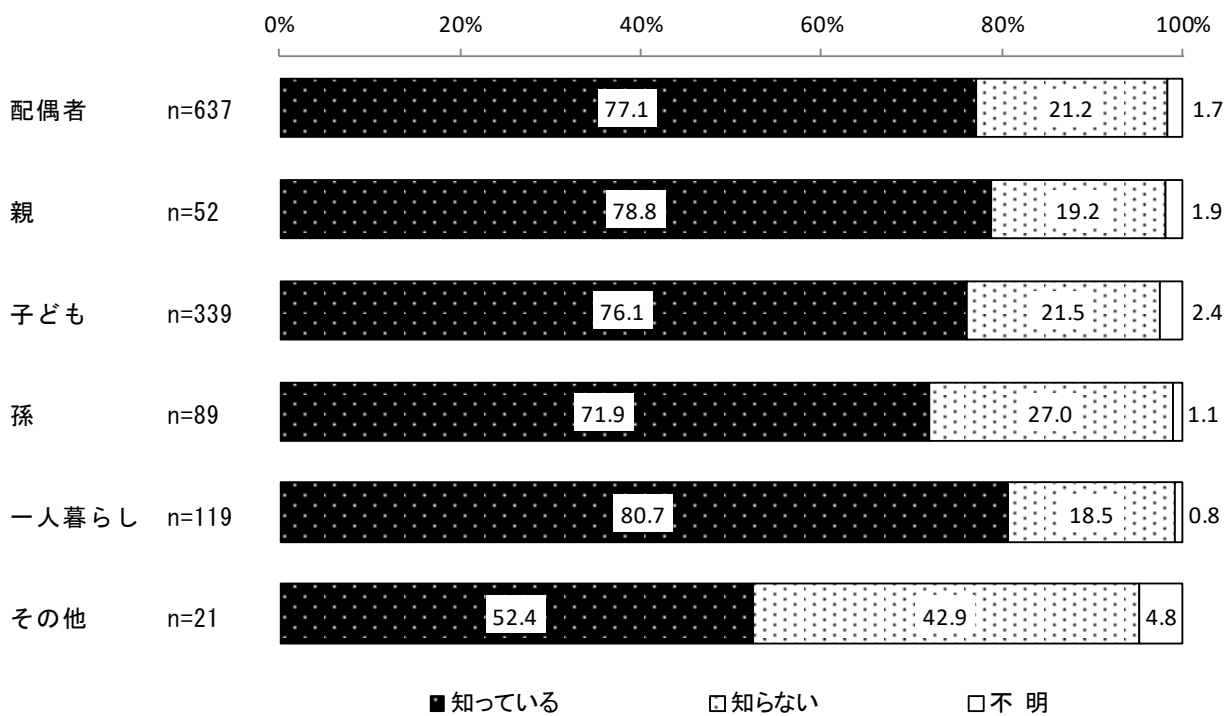
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は藤岡圏域で91.7%となっている。



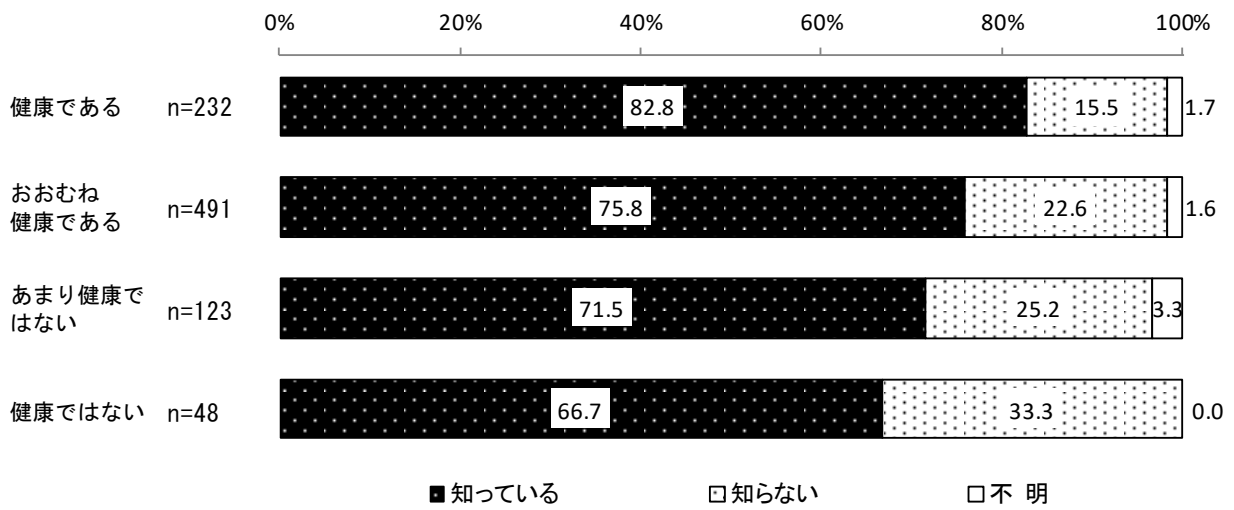
性別でみると、「知っている」は女性（79.4%）が男性（73.1%）を6.3ポイント上回っている。



年齢別で見ると、「知っている」は65~69歳で82.7%となっており、年齢が上がるにつれ低くなっている。



同居家族別で見ると、「知っている」は一人暮らしの方で80.7%となっている。



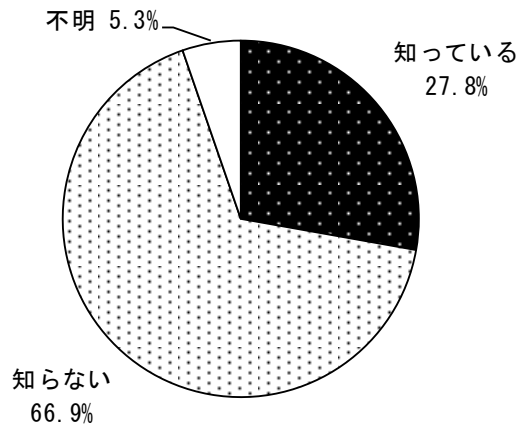
健康状態別で見ると、「知っている」は健康である方で 82.8% となっている。

(2) 介護サービスの利用料

◎ 「知っている」は2割後半

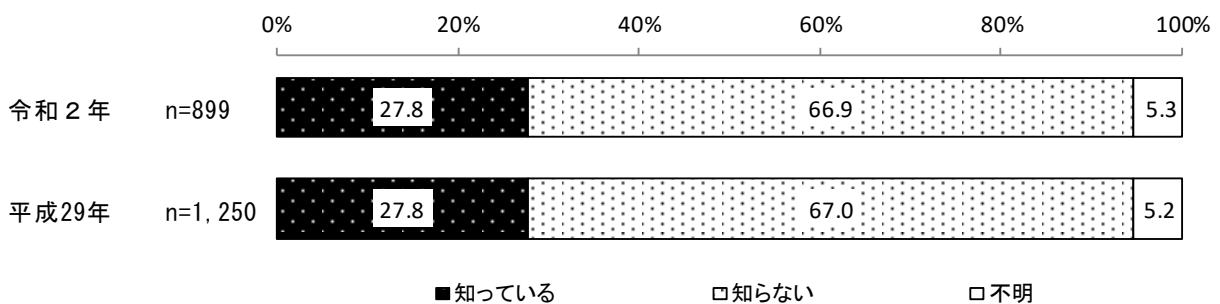
問 15 介護保険サービスを利用している（利用する）場合、月々の利用料（自己負担額）を知っていますか。（1つだけに○）

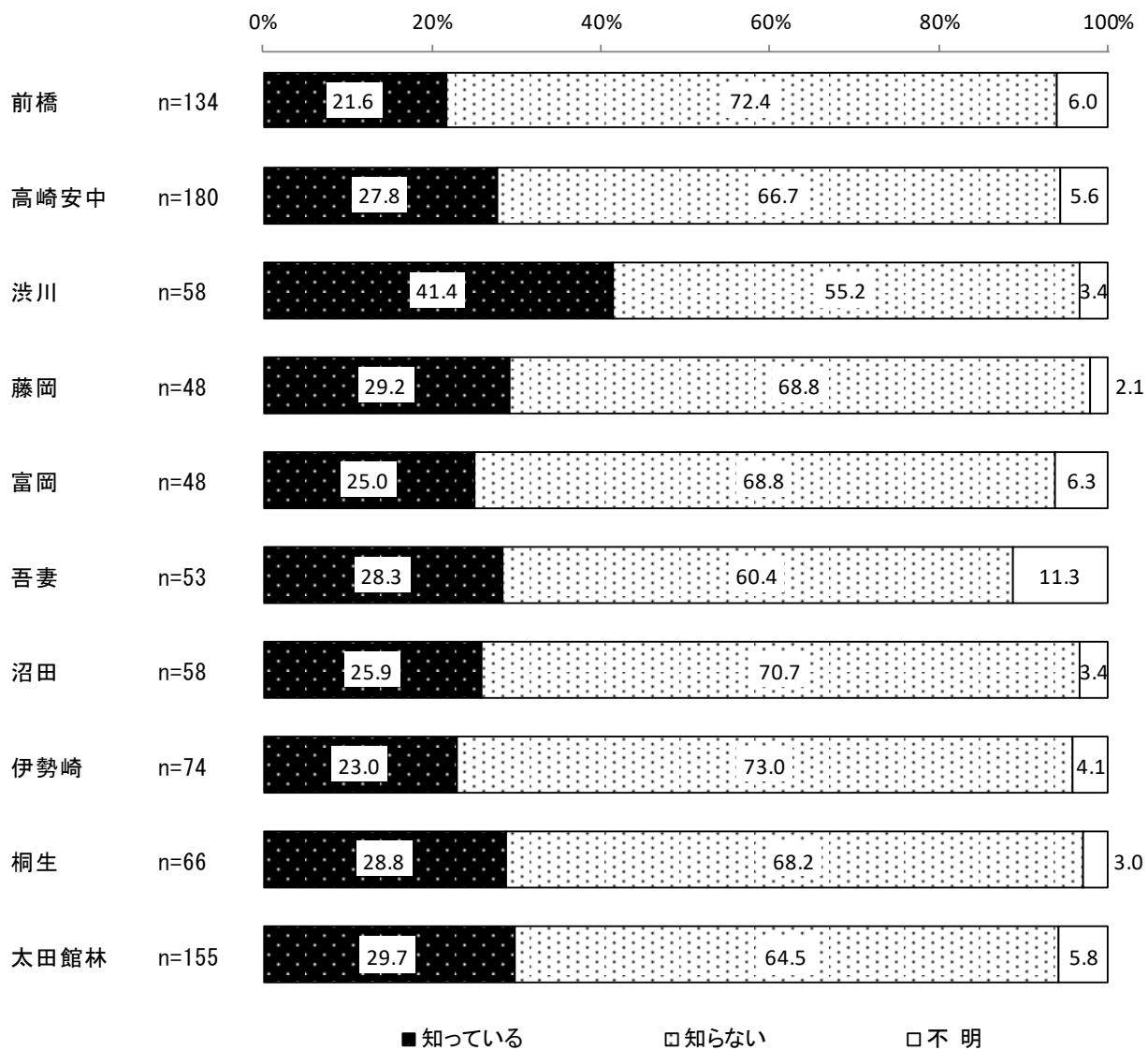
n=899



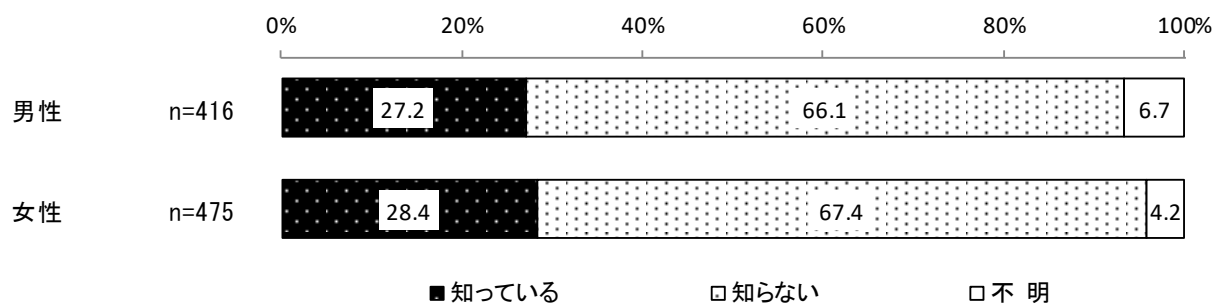
介護サービスの利用料について、ご自身が介護サービスを利用している場合の月々の利用料を「知っている」が27.8%、「知らない」が66.9%となっている。

<経年比較>

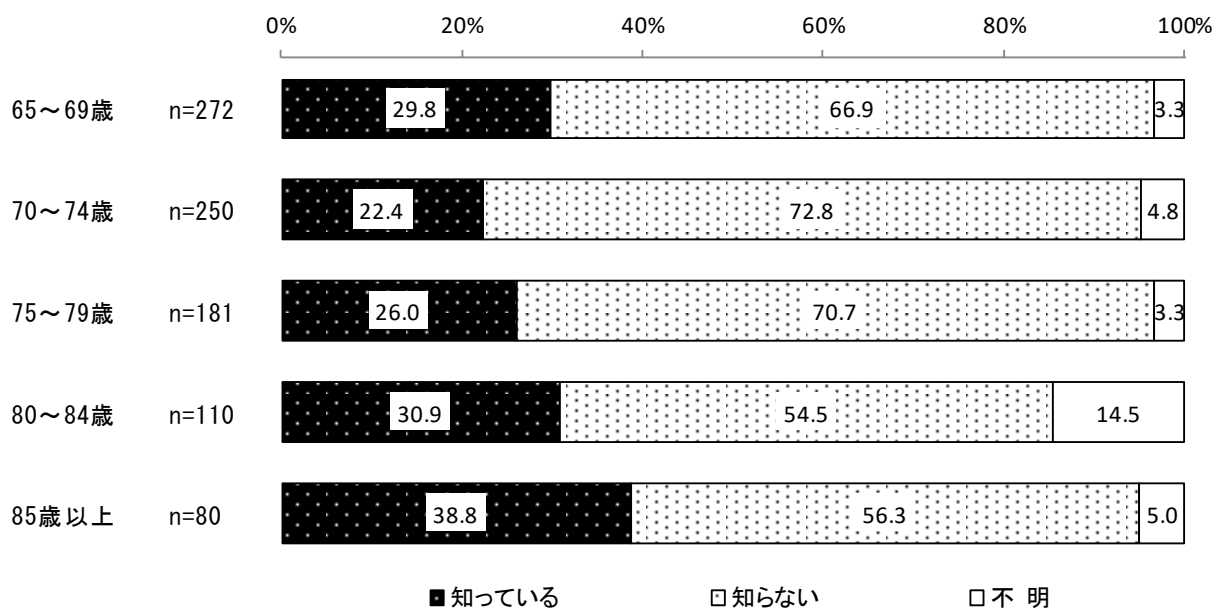




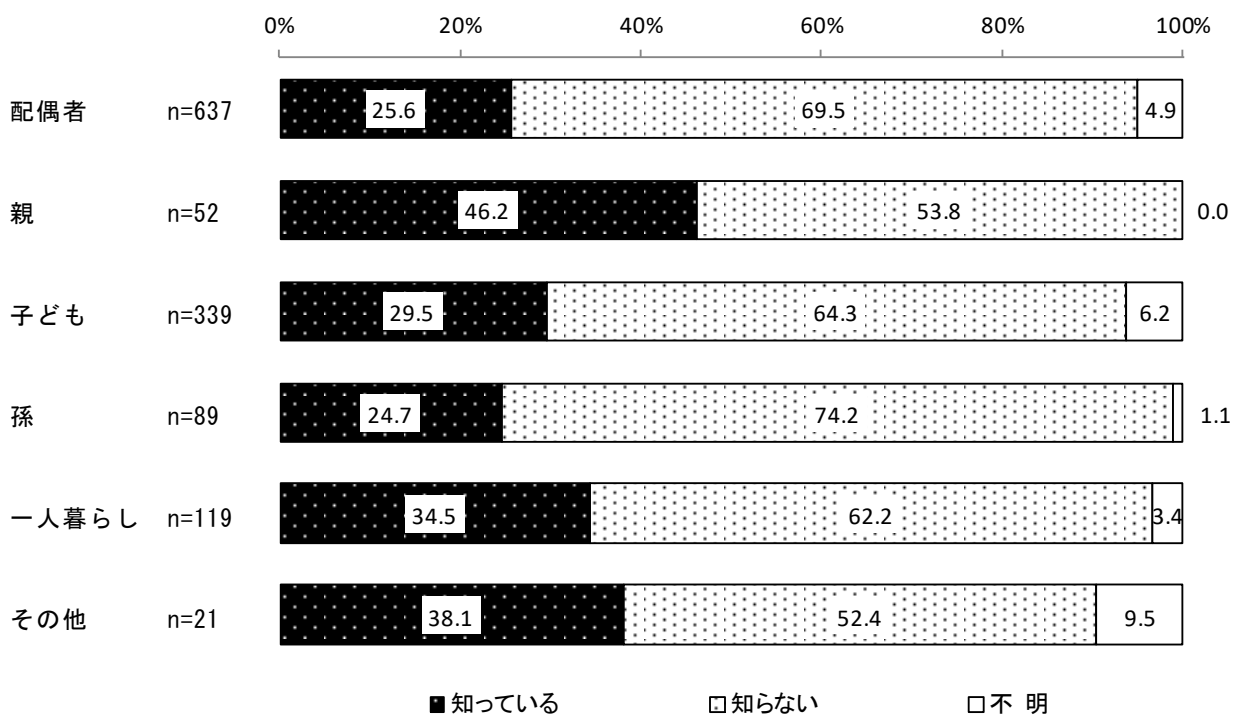
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は渋川圏域で41.4%となっている。



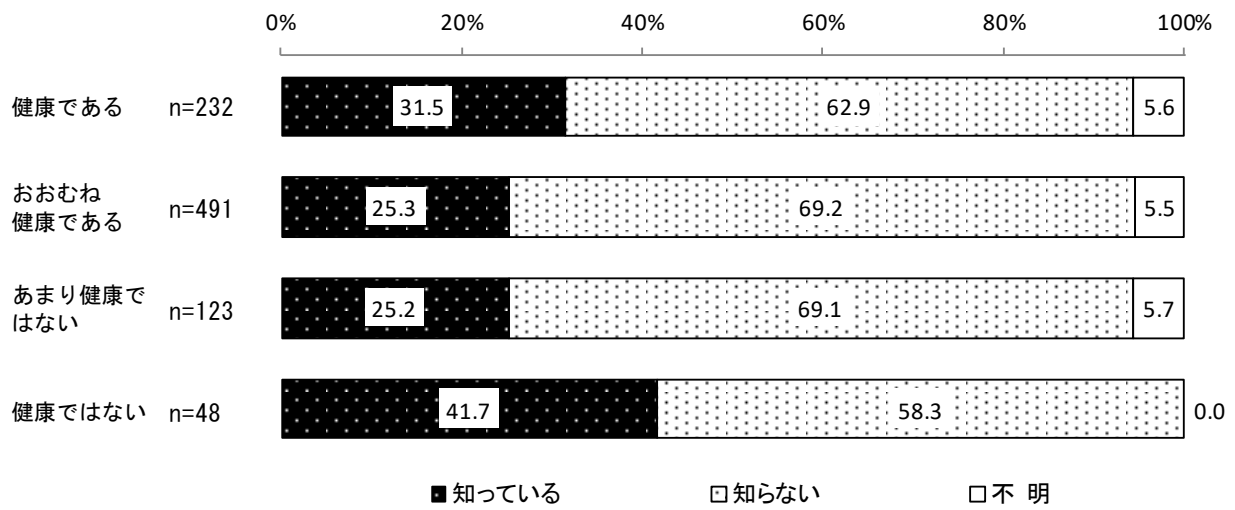
性別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



年齢別で見ると、「知っている」は85歳以上で38.8%となっている。



同居家族別で見ると、「知っている」は親と同居している方で46.2%となっている。



健康状態別で見ると、「知っている」は健康ではない方で41.7%となっている。

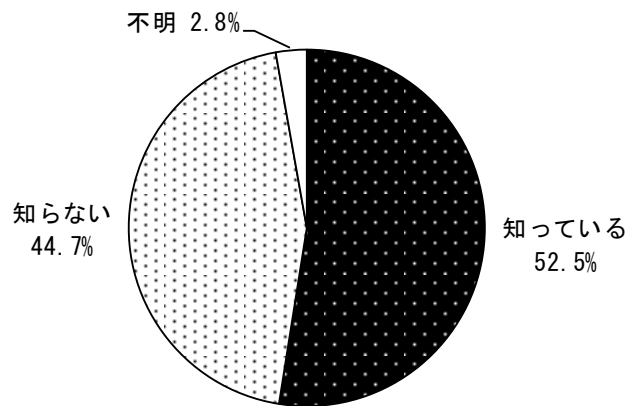
6 地域包括支援センターについて

(1) 「地域包括支援センター」の認知度

◎ 「知っている」は5割前半

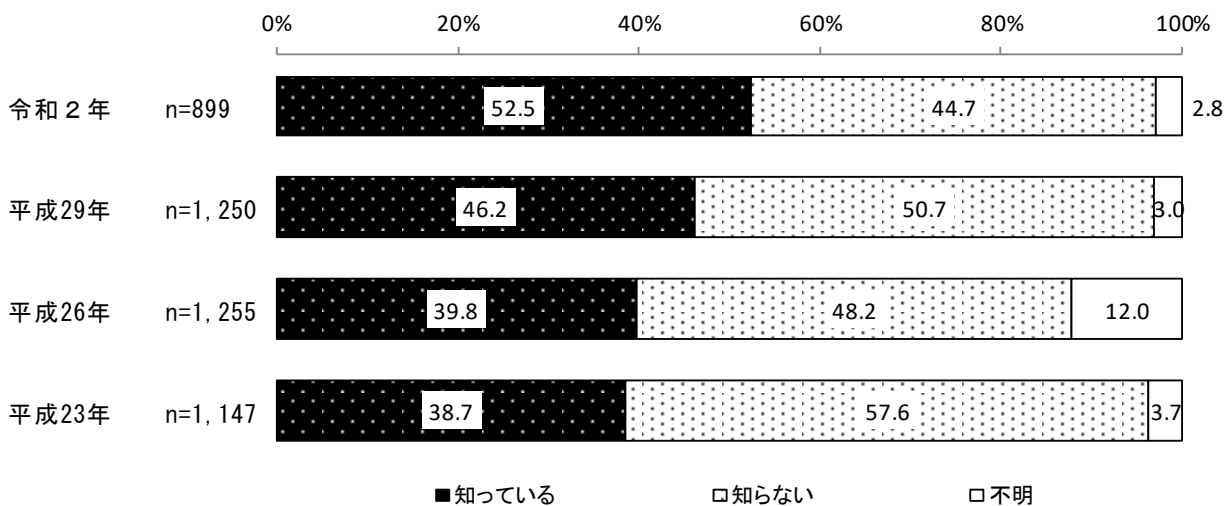
問 16 あなたは「地域包括支援センター」を知っていますか。(1つだけに○)

n=899

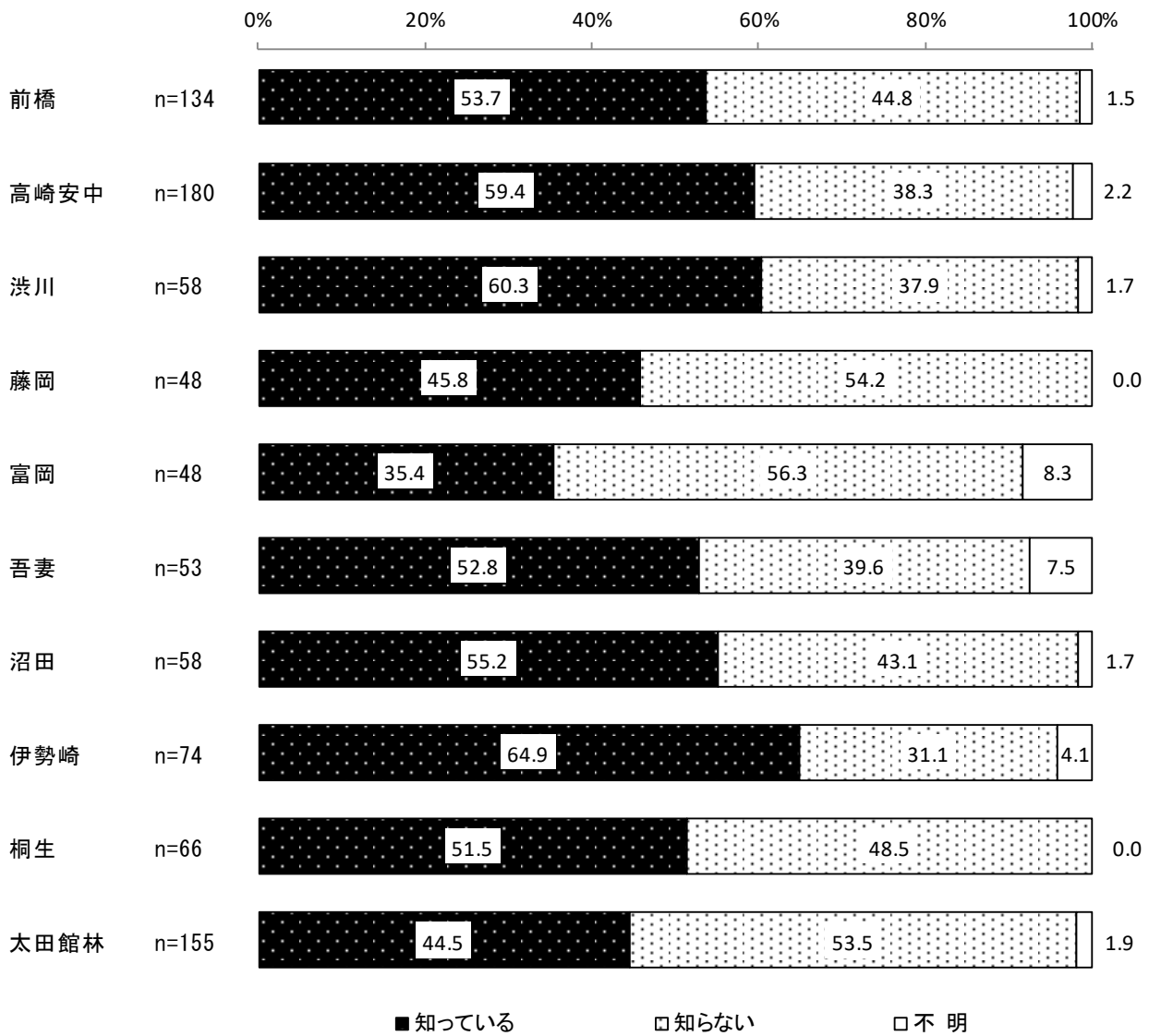


「地域包括支援センター」の認知度は、「知っている」が52.5%、「知らない」が44.7%となっている。

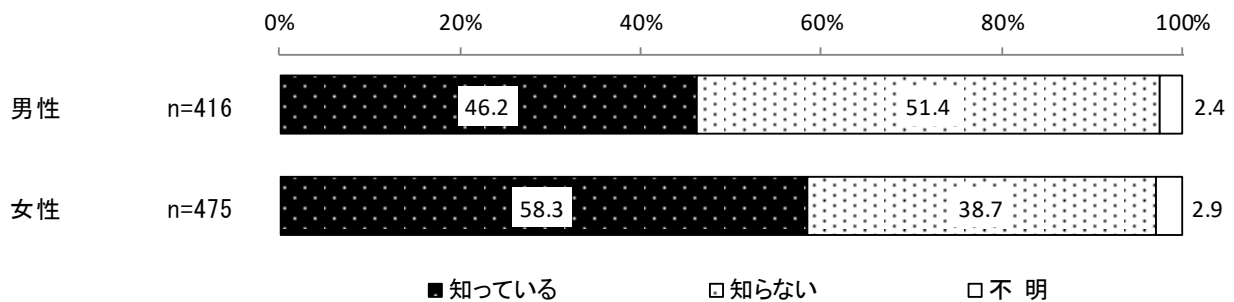
<経年比較>



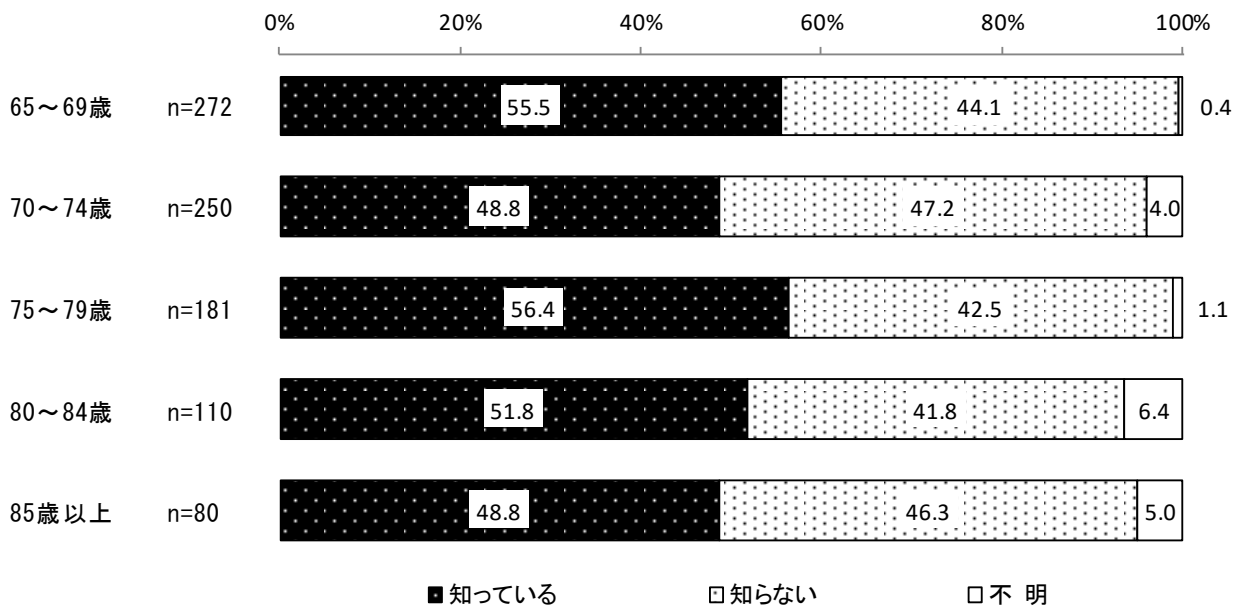
過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成29年から6.3ポイント増加している。



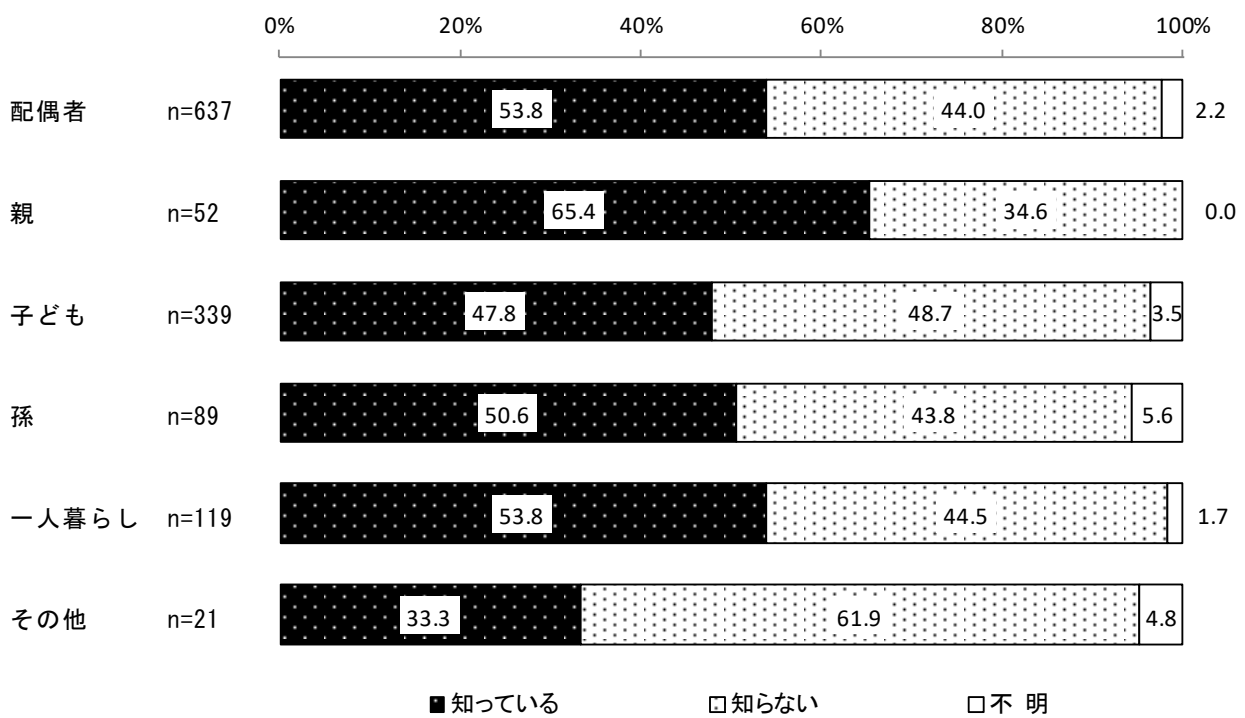
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は伊勢崎圏域で 64.9%、渋川圏域で 60.3%、高崎安中圏域で 59.4%となっている。



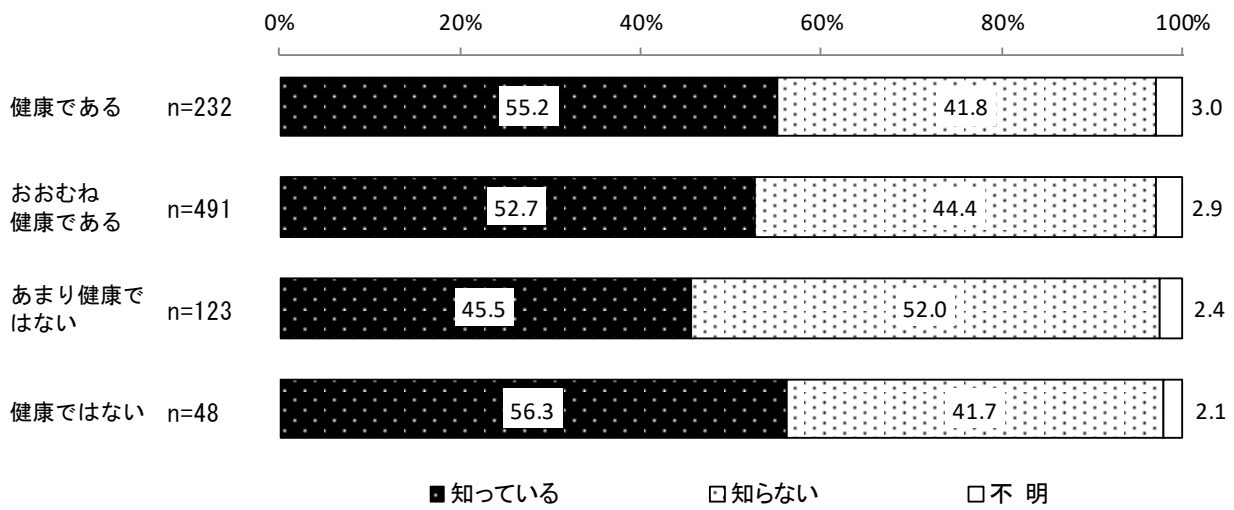
性別でみると、「知っている」は女性（58.3%）が男性（46.2%）を 12.1 ポイント上回っている。



年齢別で見ると、「知っている」はすべての年齢で5割前後となっている。



同居家族別で見ると、「知っている」は親と同居している方で65.4%となっている。



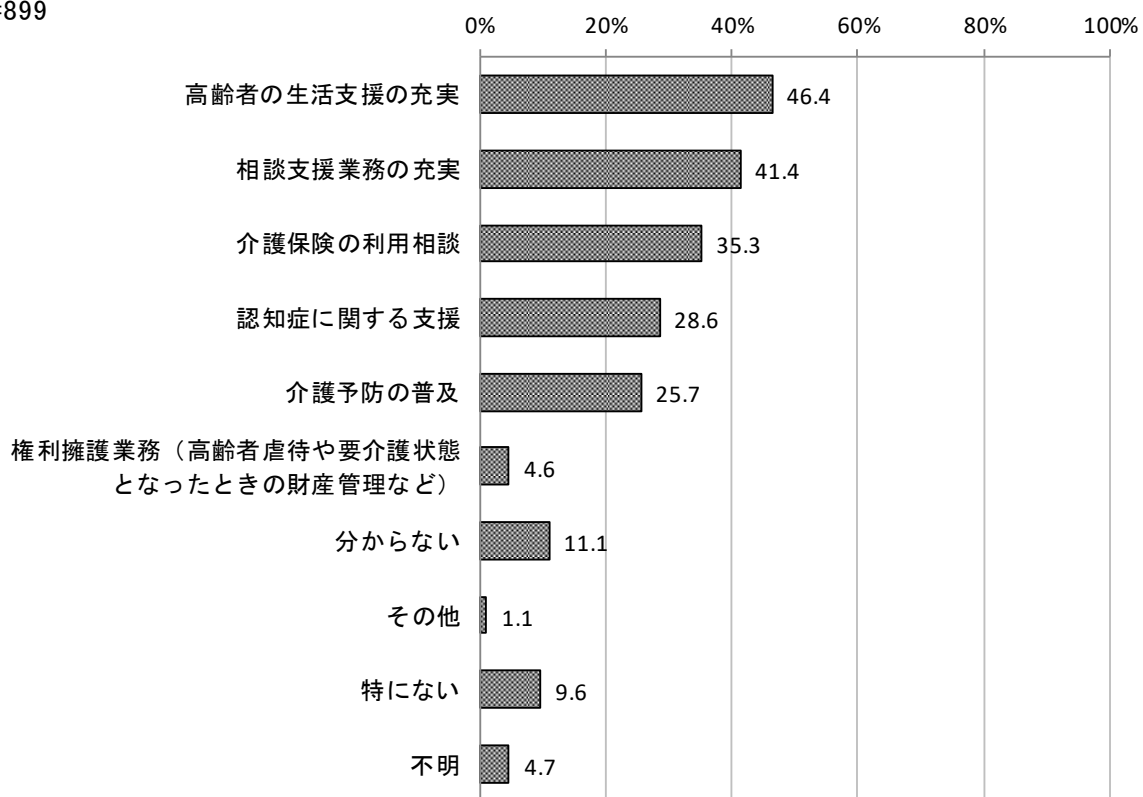
健康状態別で見ると、「知っている」はあまり健康ではない方で45.5%、その他では5割台となっている。

(2) 地域包括支援センターに期待すること

◎ 「高齢者の生活支援の充実」が4割半ば

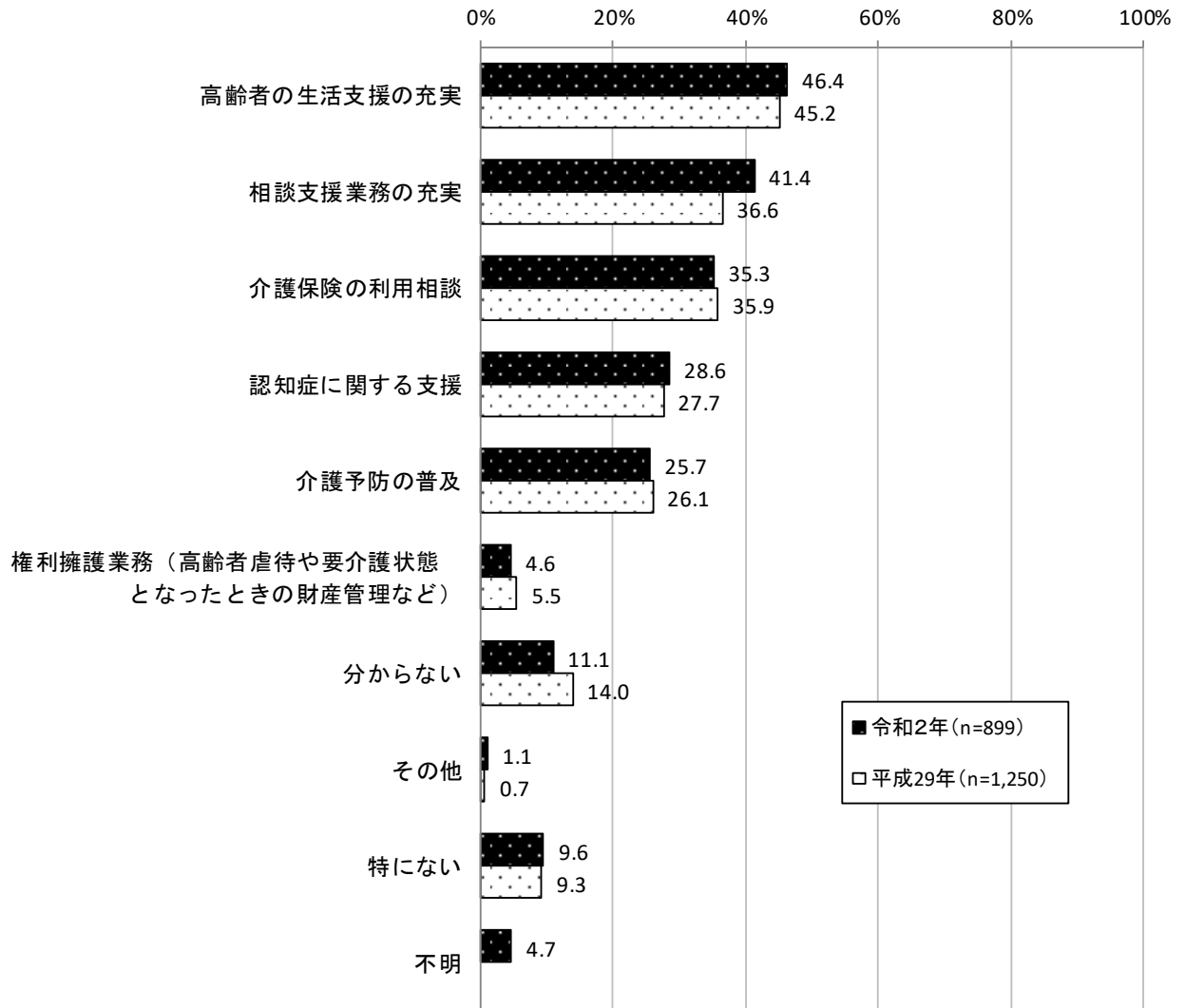
問 17 地域包括支援センターにどのようなことを期待しますか。(主なもの3つ以内に○)

n=899



地域包括支援センターに期待することは、「高齢者の生活支援の充実」が46.4%で最も高く、次いで「相談支援業務の充実」(41.4%)、「介護保険の利用相談」(35.3%)となっている。

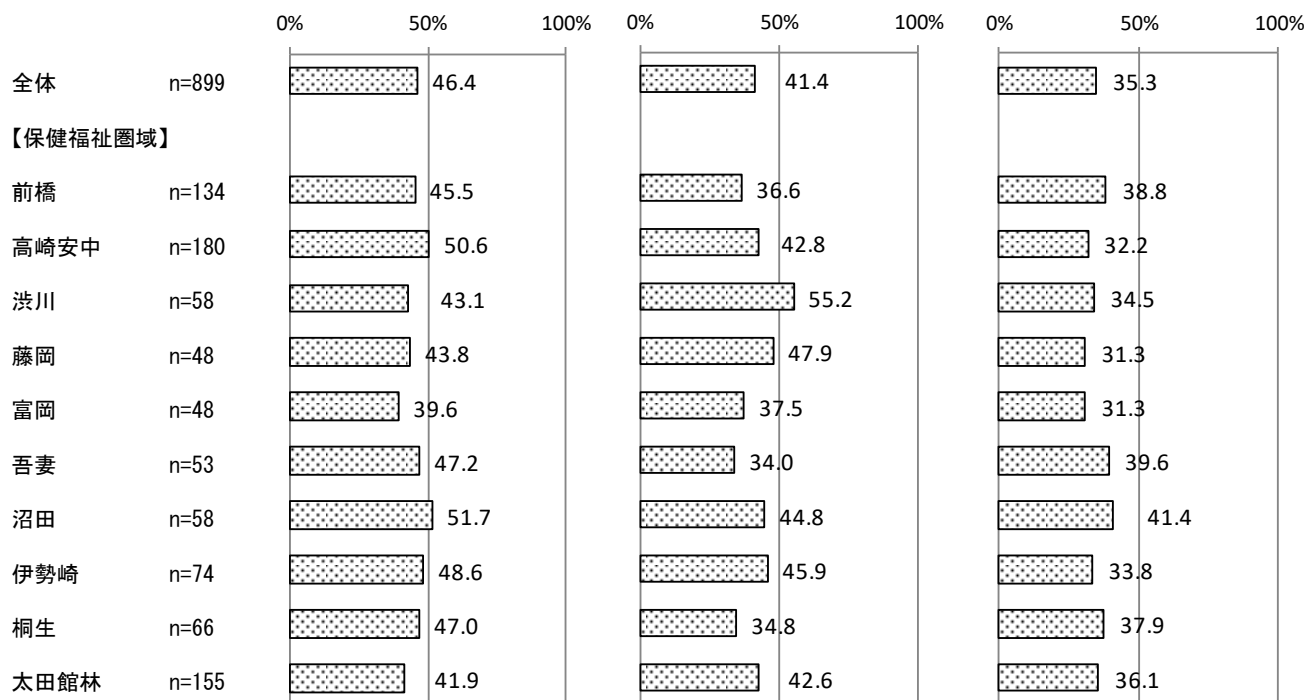
<経年比較>



高齢者の生活支援の充実

相談支援業務の充実

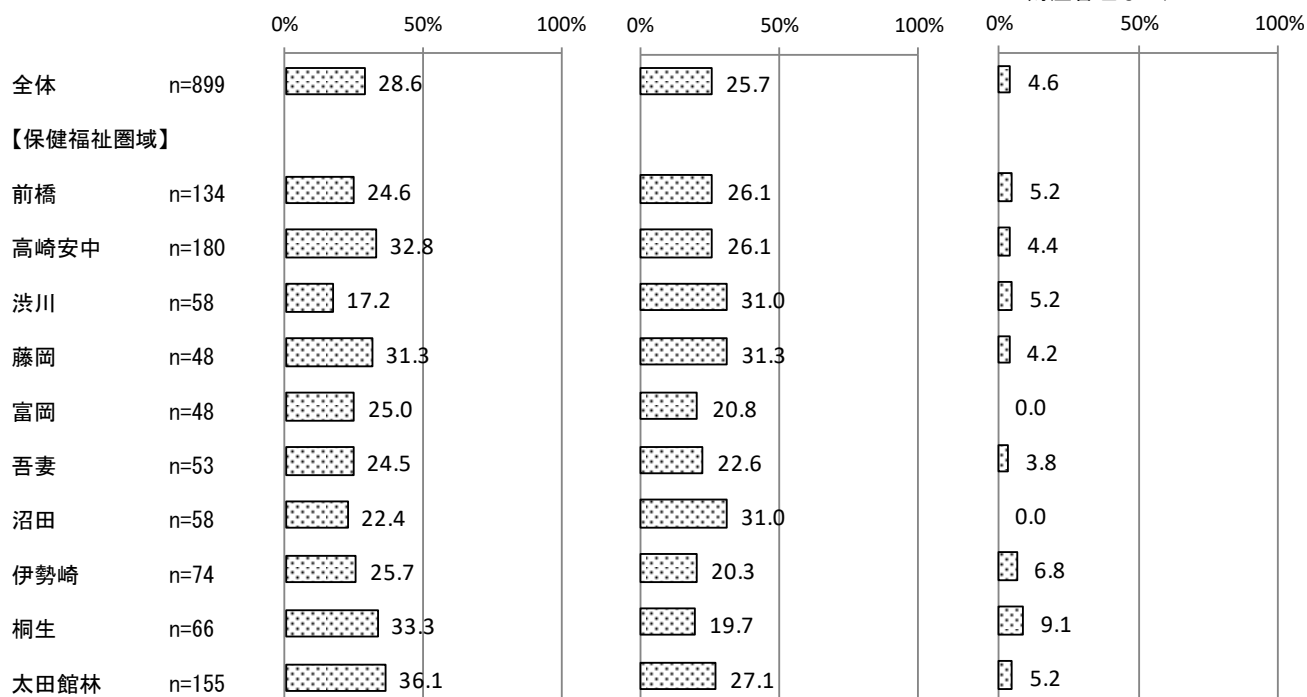
介護保険の利用相談



認知症に関する支援

介護予防の普及

権利擁護業務（高齢者虐待や要介護状態となったときの財産管理など）

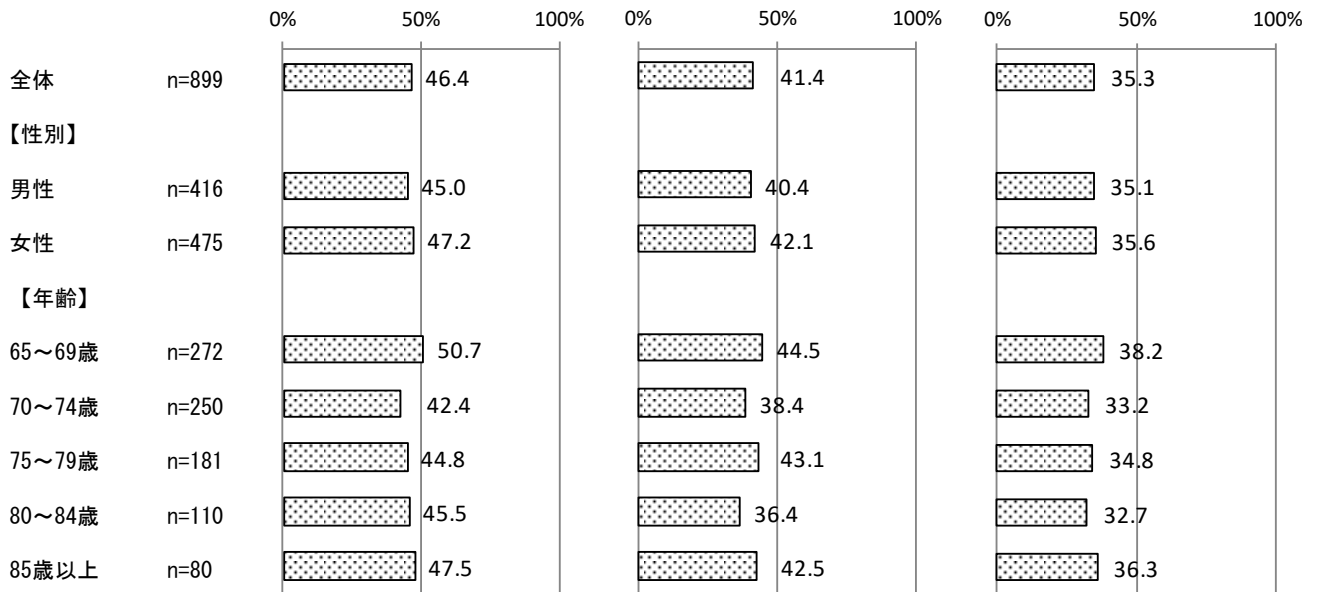


保健福祉圏域別でみると、「相談支援業務の充実」は渋川圏域で55.2%と半数を超えている。

高齢者の生活支援の充実

相談支援業務の充実

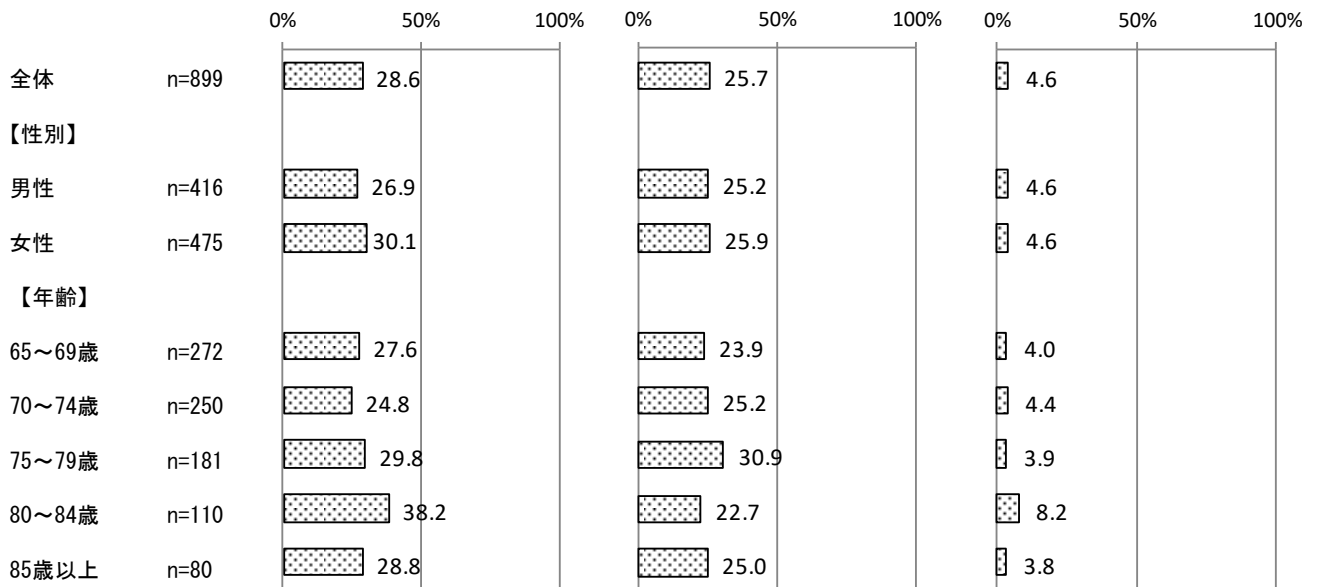
介護保険の利用相談



認知症に関する支援

介護予防の普及

権利擁護業務（高齢者虐待や要介護状態となったときの財産管理など）



性別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

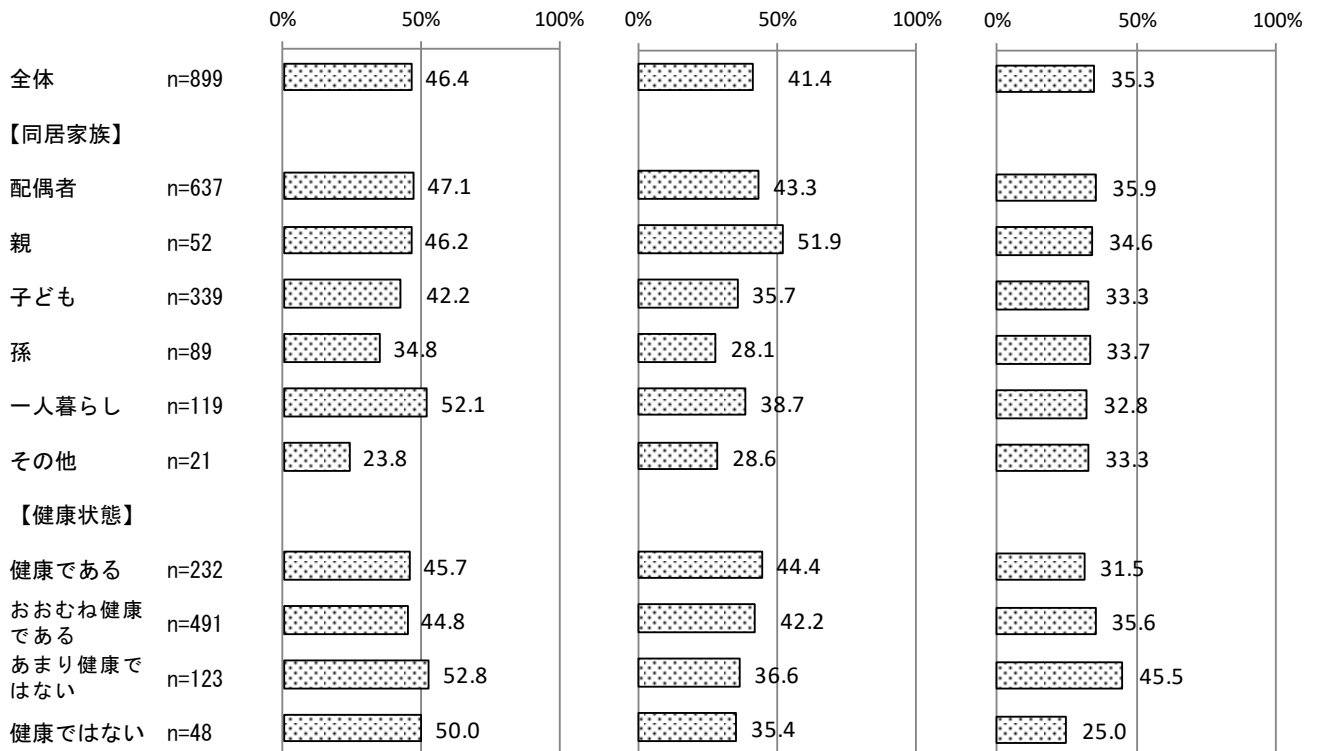
年齢別でみると、「高齢者の生活支援の充実」は65～69歳で50.7%となっている。

「認知症に関する支援」は80～84歳で38.2%とその他の年齢に比べて高くなっている。

高齢者の生活支援の充実

相談支援業務の充実

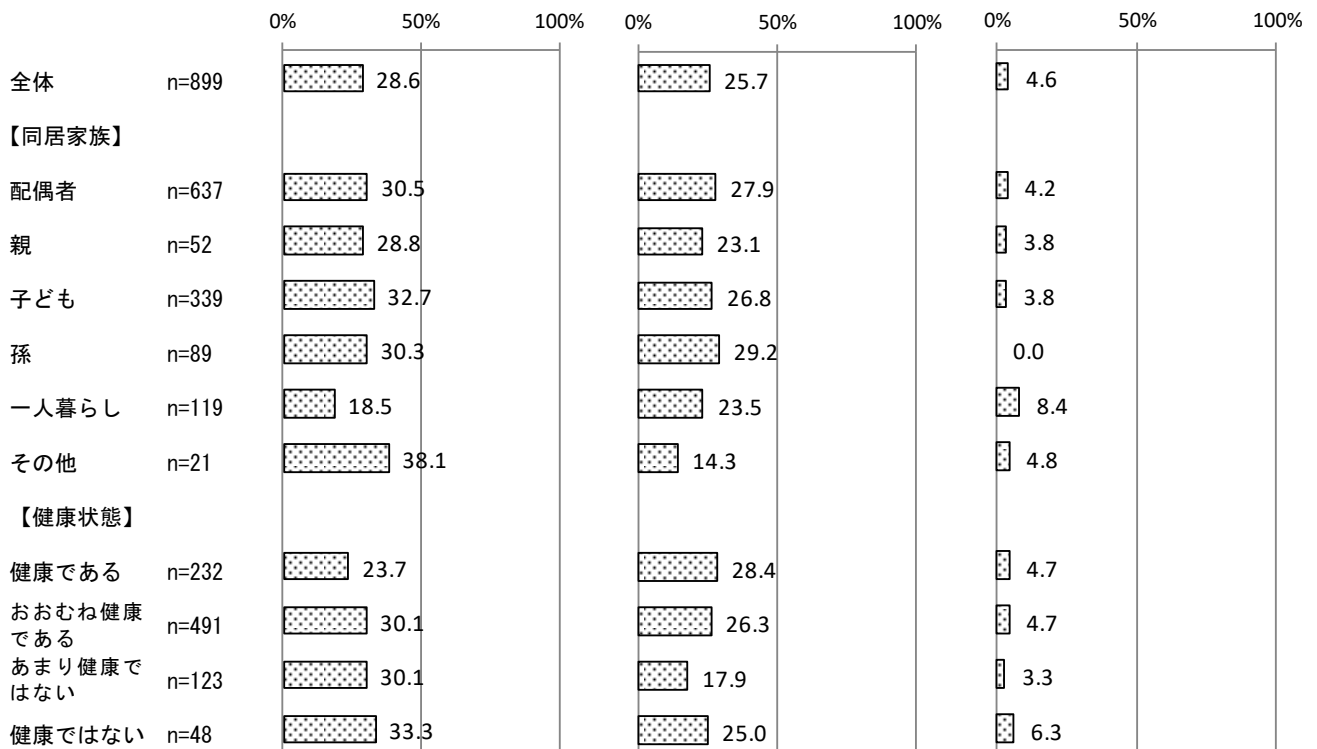
介護保険の利用相談



認知症に関する支援

介護予防の普及

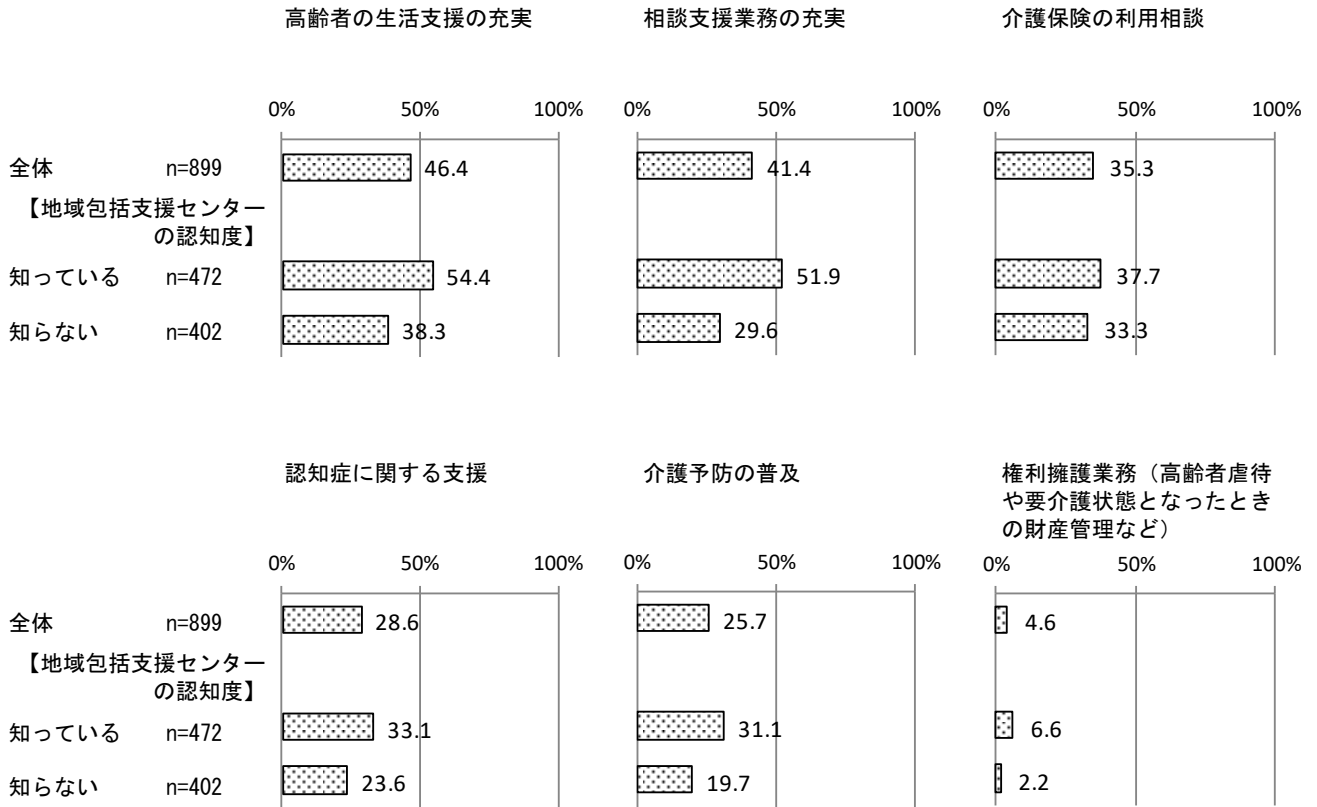
権利擁護業務（高齢者虐待や要介護状態となったときの財産管理など）



同居家族別でみると、「高齢者の生活支援の充実」は一人暮らしの方で 52.1%と半数を超えている。「相談支援業務の充実」は親と同居している方で 51.9%と半数を超えている。

健康状態別でみると、「高齢者の生活支援の充実」はあまり健康ではない、健康ではない方で 5割台となっている。

「介護保険の利用相談」はあまり健康ではない方で 45.5%と高くなっている。



地域包括支援センターの認知度別で見ると、地域包括支援センターを知っている方で「高齢者の生活支援の充実」が54.4%、「相談支援業務の充実」51.9%と半数を超えている。

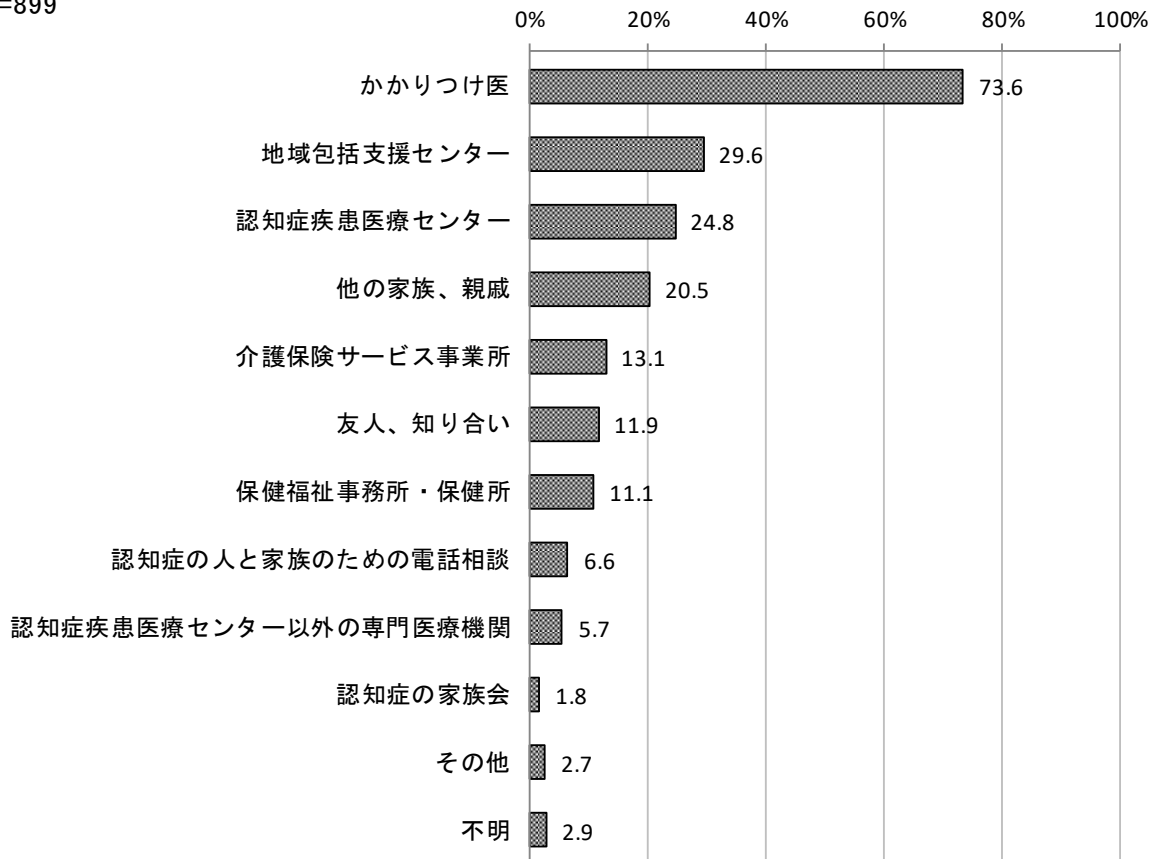
7 認知症について

(1) 認知症についての相談場所

◎ 「かかりつけ医」が7割前半

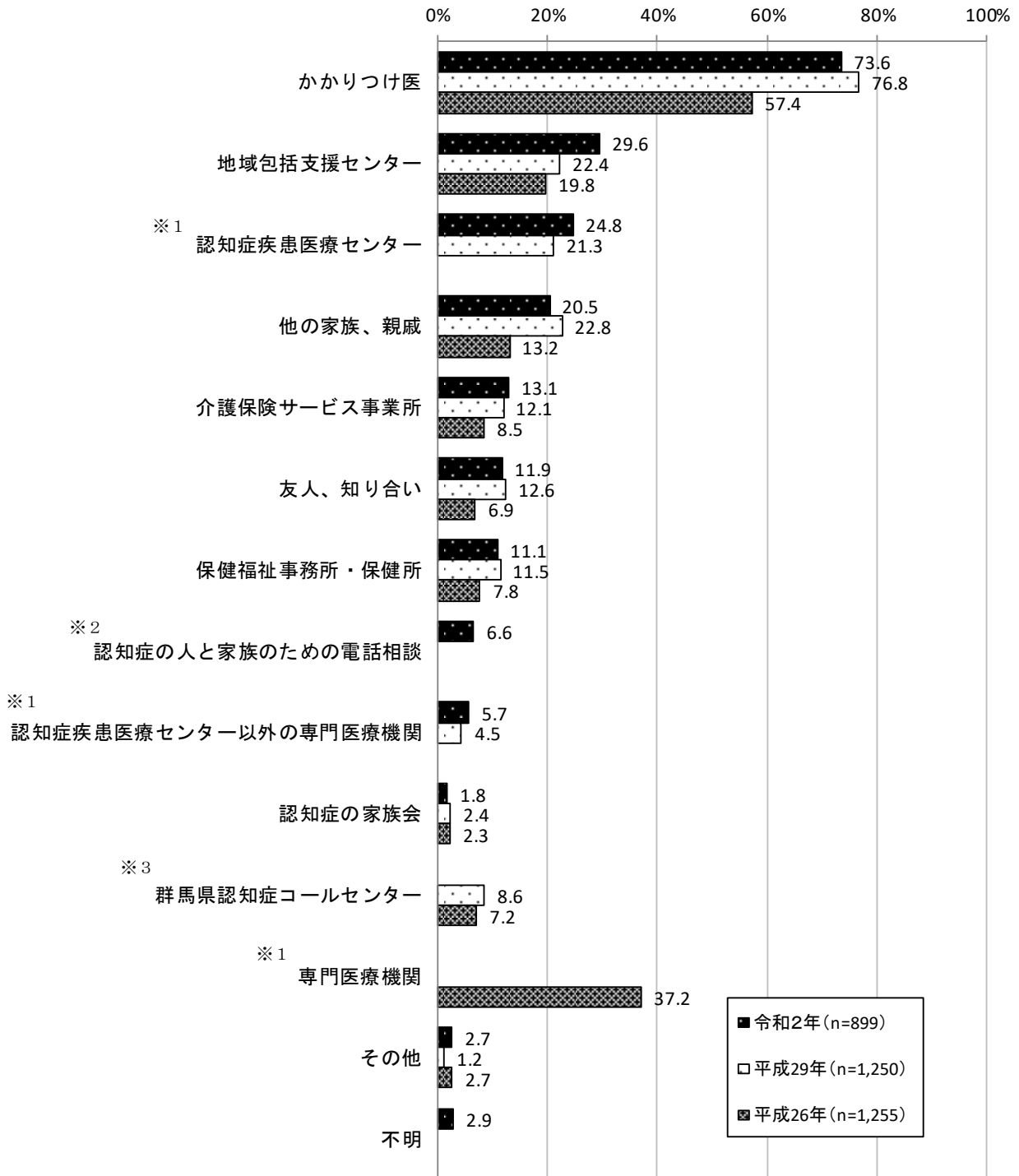
問 18 あなた自身や家族が認知症の心配があるとき、どこに相談をしますか。(主なもの3つ以内に○)

n=899

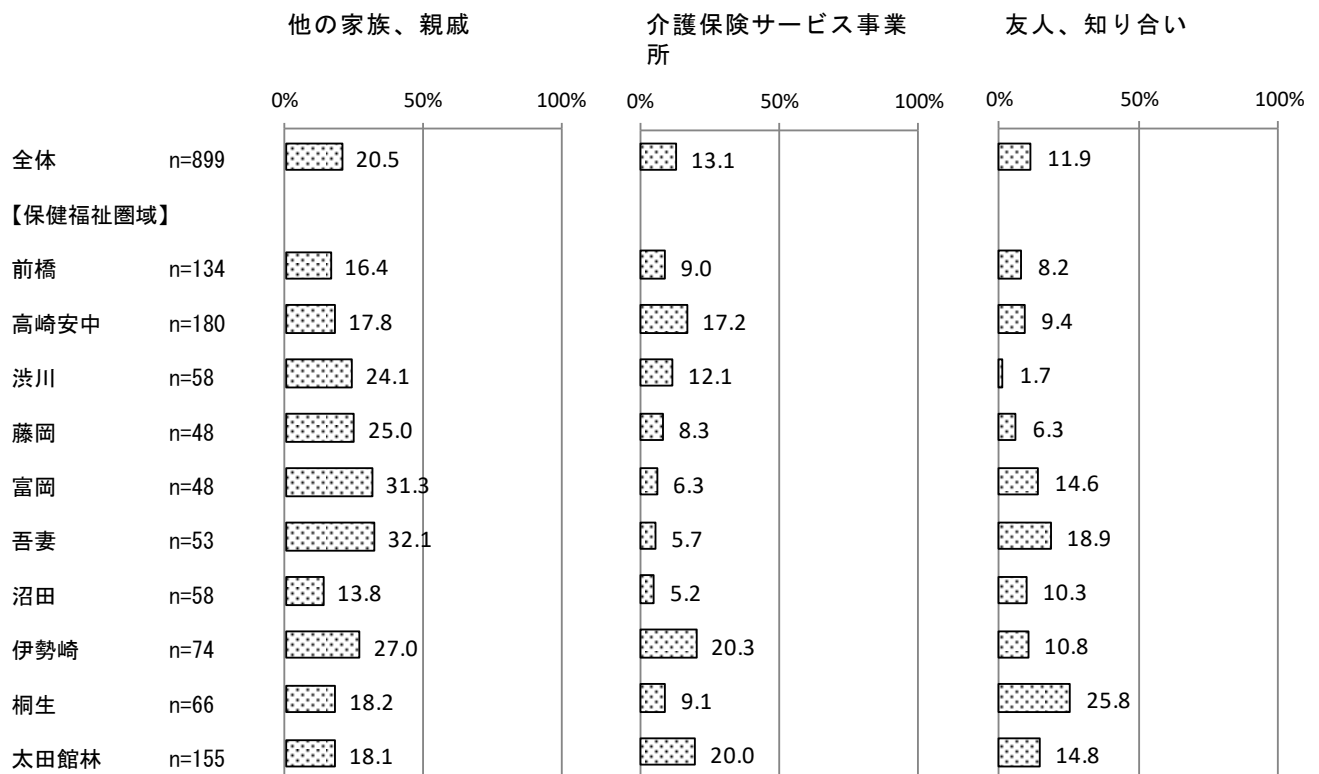
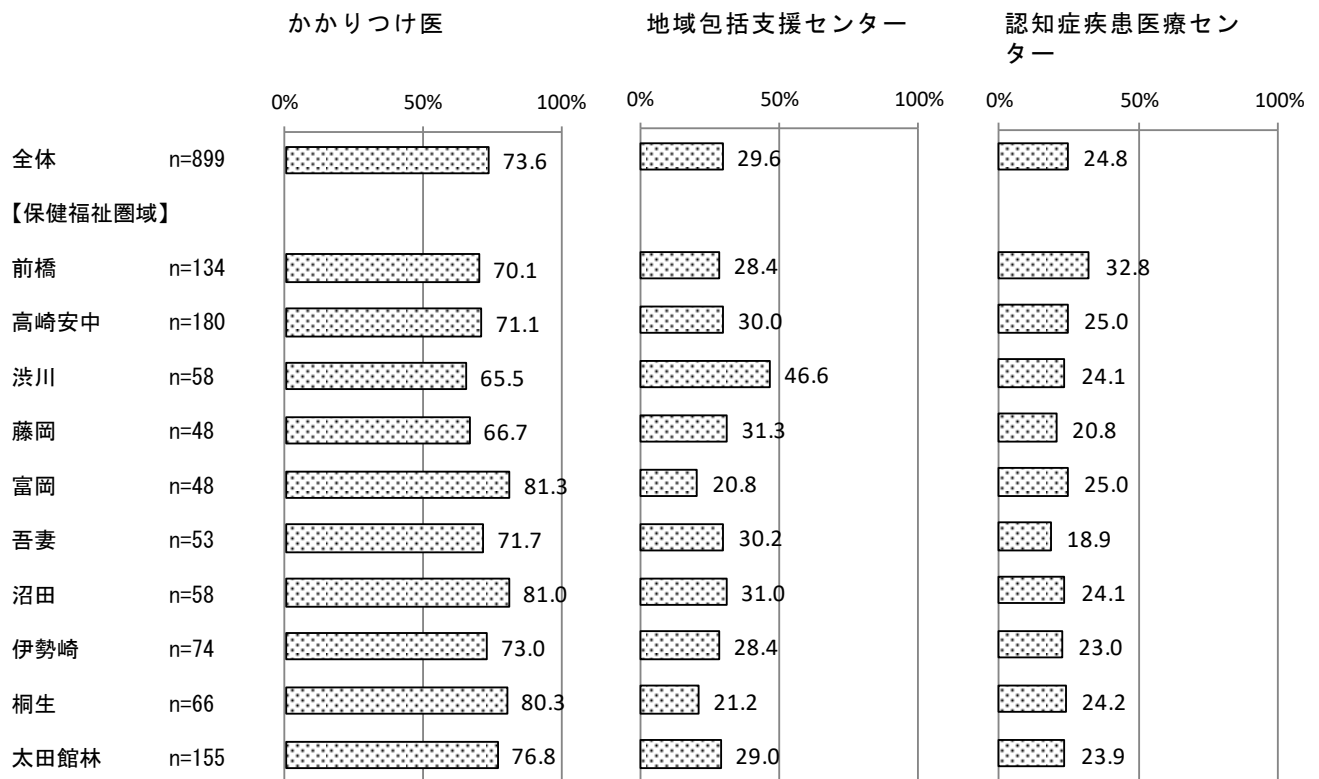


認知症についての相談場所は、「かかりつけ医」が73.6%で最も高く、次いで「地域包括支援センター」(29.6%)、「認知症疾患医療センター」(24.8%)となっている。

<経年比較>

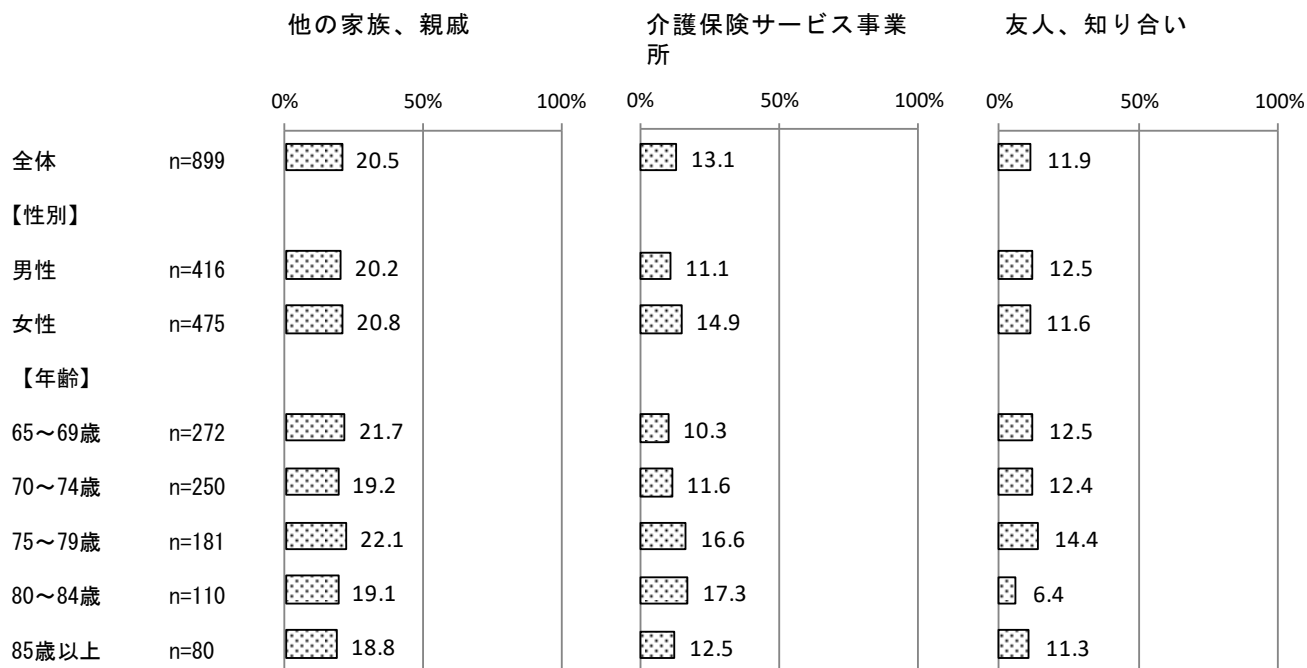
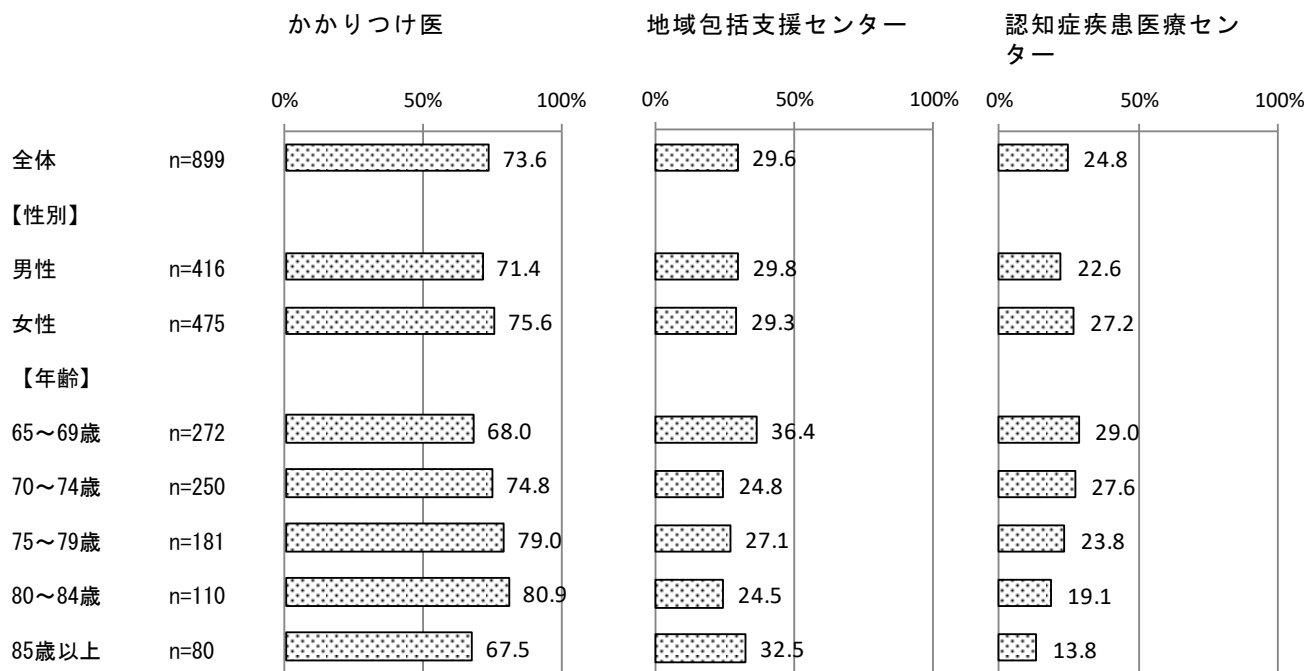


- ※1 平成 29 年に「専門医療機関」を、「認知症疾患医療センター」と「認知症疾患医療センター以外の専門医療機関」に変更
- ※2 令和 2 年から追加した選択肢
- ※3 令和 2 年に削除した選択肢。平成 29 年は「群馬県認知症コールセンター」、平成 26 年は「認知症コールセンター」と表示



上位6項目について、保健福祉圏域別でみると、「かかりつけ医」は富岡圏域が81.3%、沼田圏域が81.0%、桐生圏域が80.3%と約8割となっている。

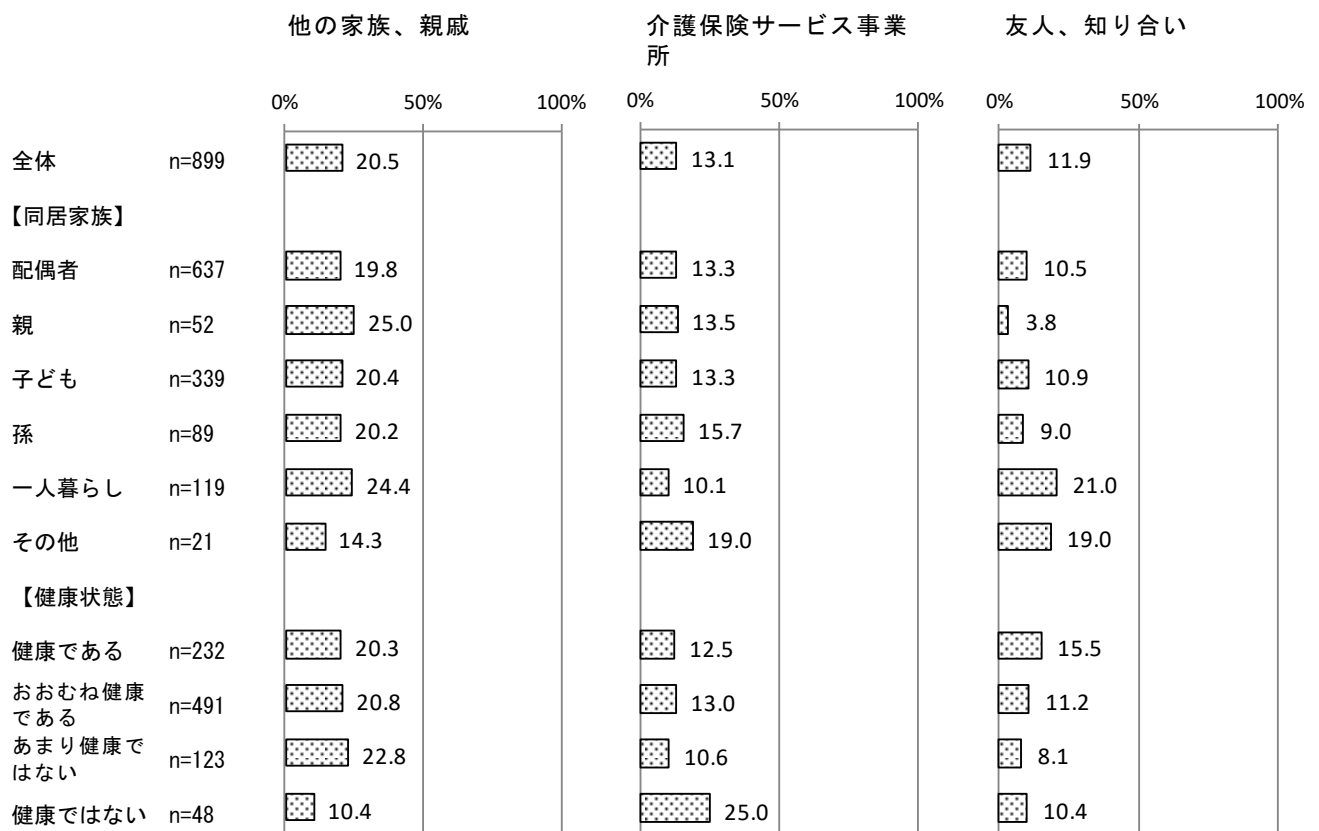
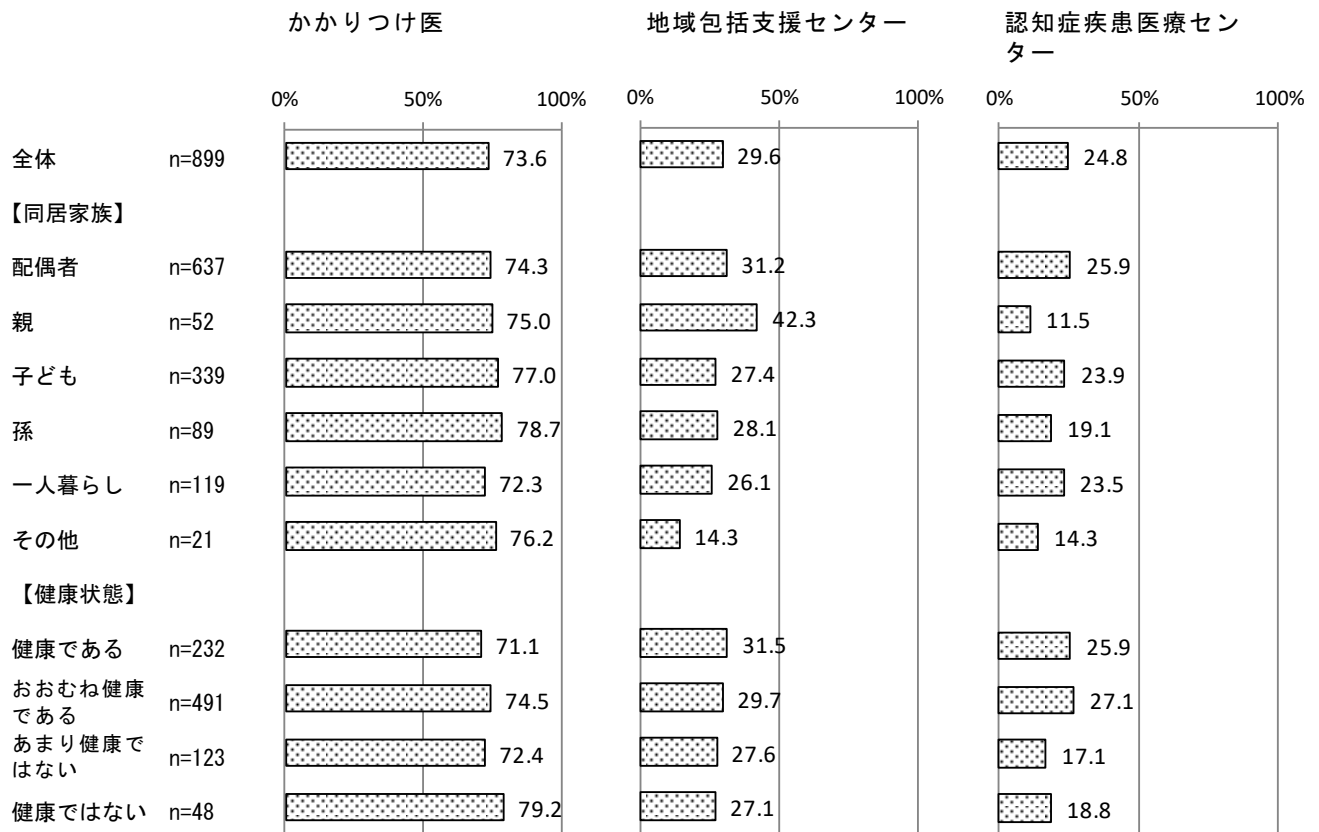
「地域包括支援センター」は渋川圏域で46.6%と高くなっている。



性別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

年齢別でみると、「かかりつけ医」は65～84歳では年齢が上がるにつれ高くなっているが、85歳以上は67.5%と低くなっている。

「認知症疾患医療センター」は年齢が上がるにつれ低くなっている。



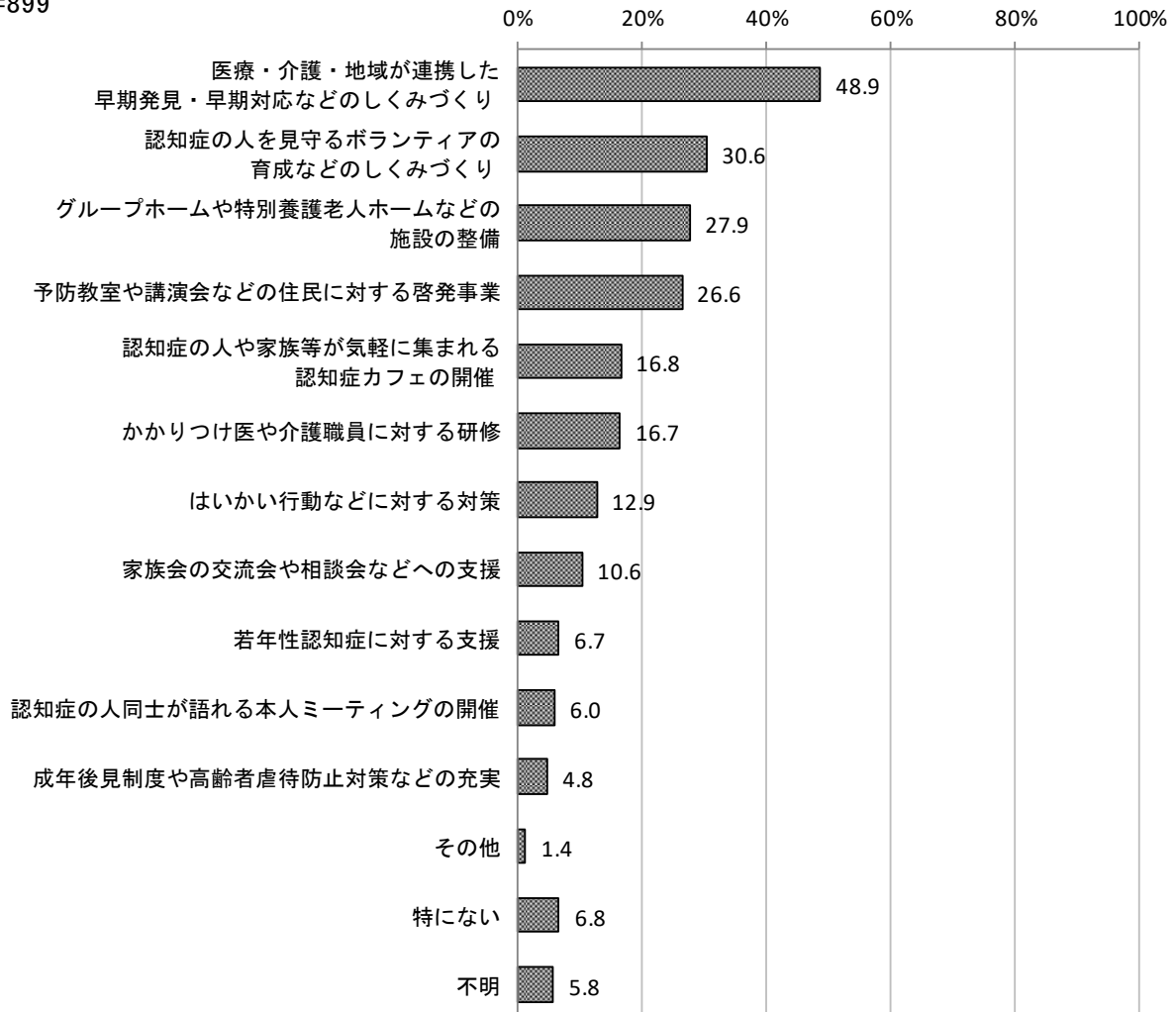
同居家族別でみると、「地域包括支援センター」は親と同居している方が42.3%と高くなっている。健康状態別でみると、「介護保険サービス事業所」は健康ではない方で25.0%と高くなっている。

(2) 認知症施策において重要なこと

◎ 「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期対応などのしくみづくり」が4割後半

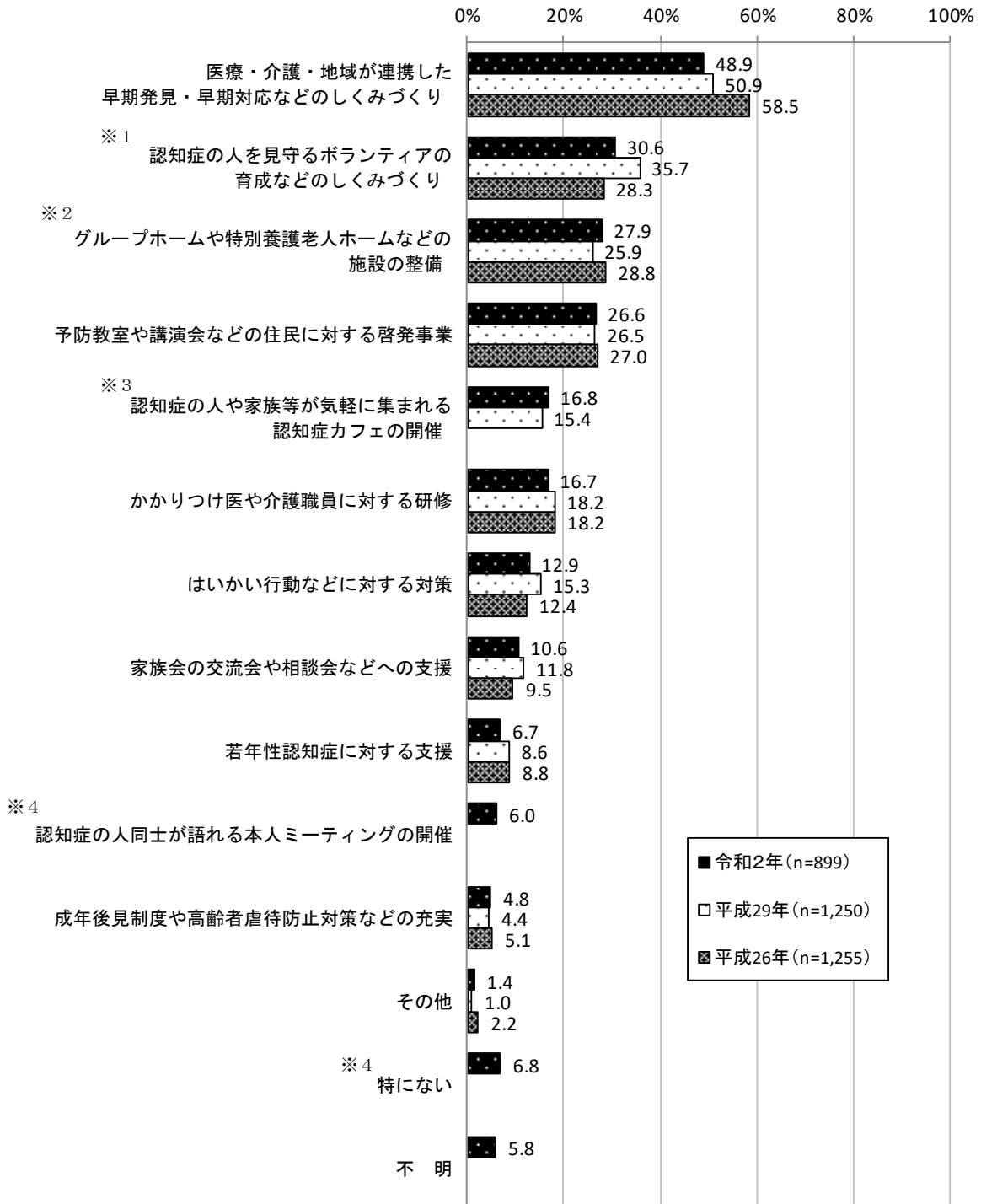
問 19 今後、県や市町村が認知症施策を進めていく上で、どのようなことに重点を置いた方がよいと考えますか。(主なもの3つ以内に○)

n=899

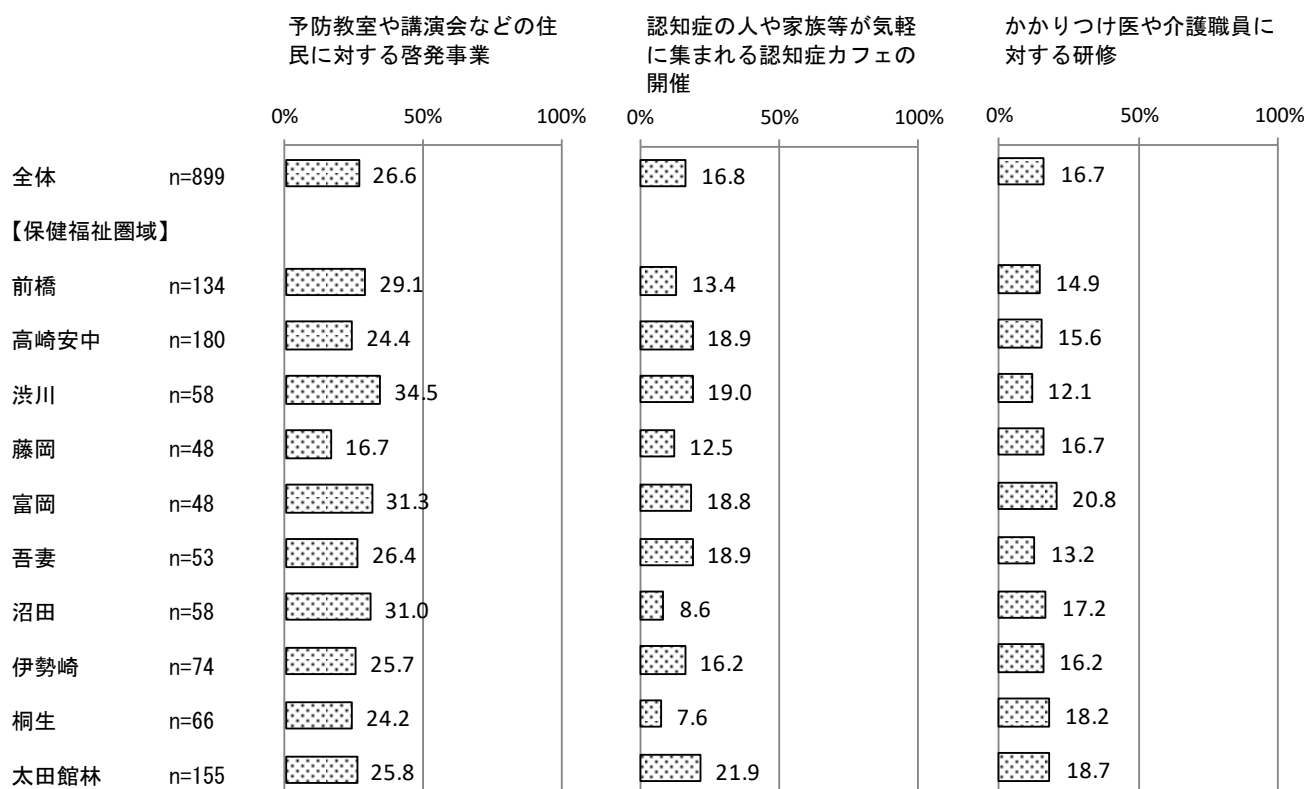
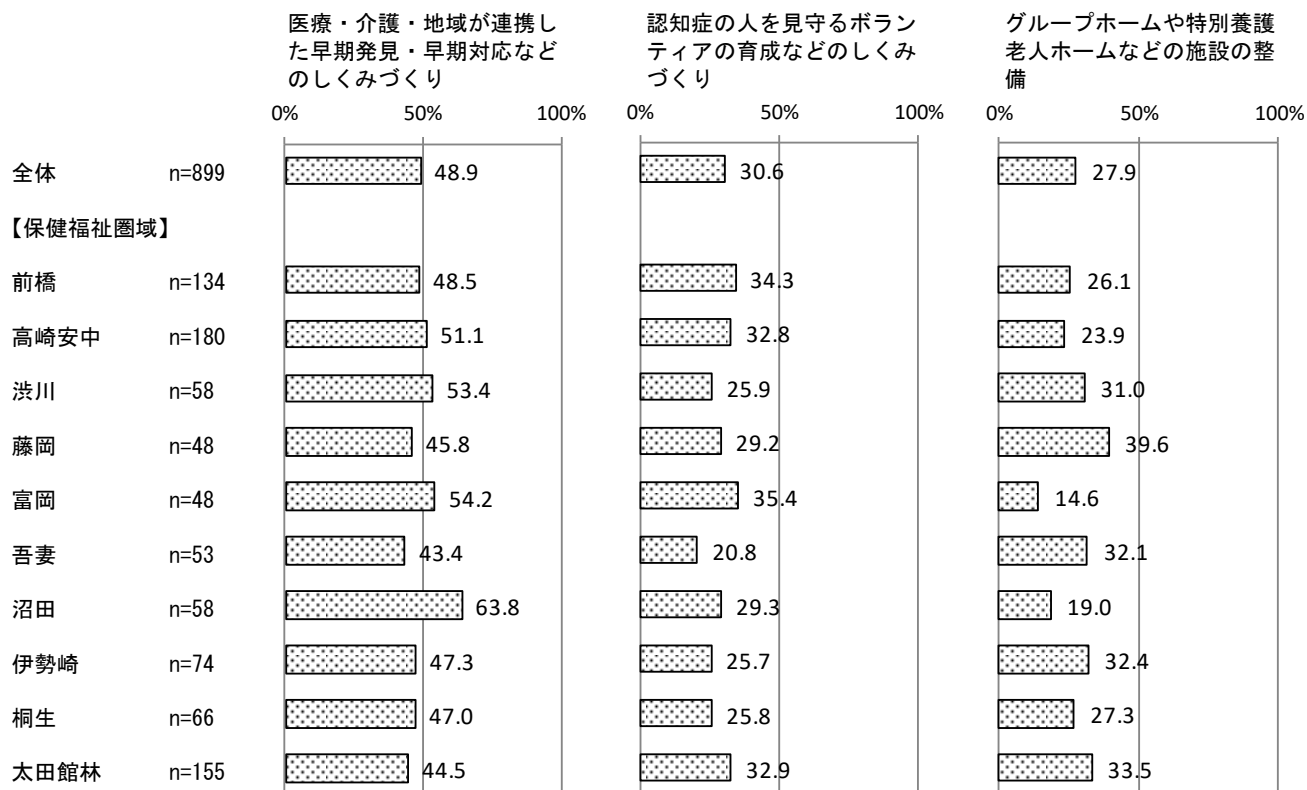


認知症施策において重要だと考えることは、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期対応などのしくみづくり」が 48.9%で最も高く、次いで「認知症の人を見守るボランティアの育成などのしくみづくり」(30.6%)、「グループホームや特別養護老人ホームなどの施設の整備」(27.9%)となっている。

<経年比較>

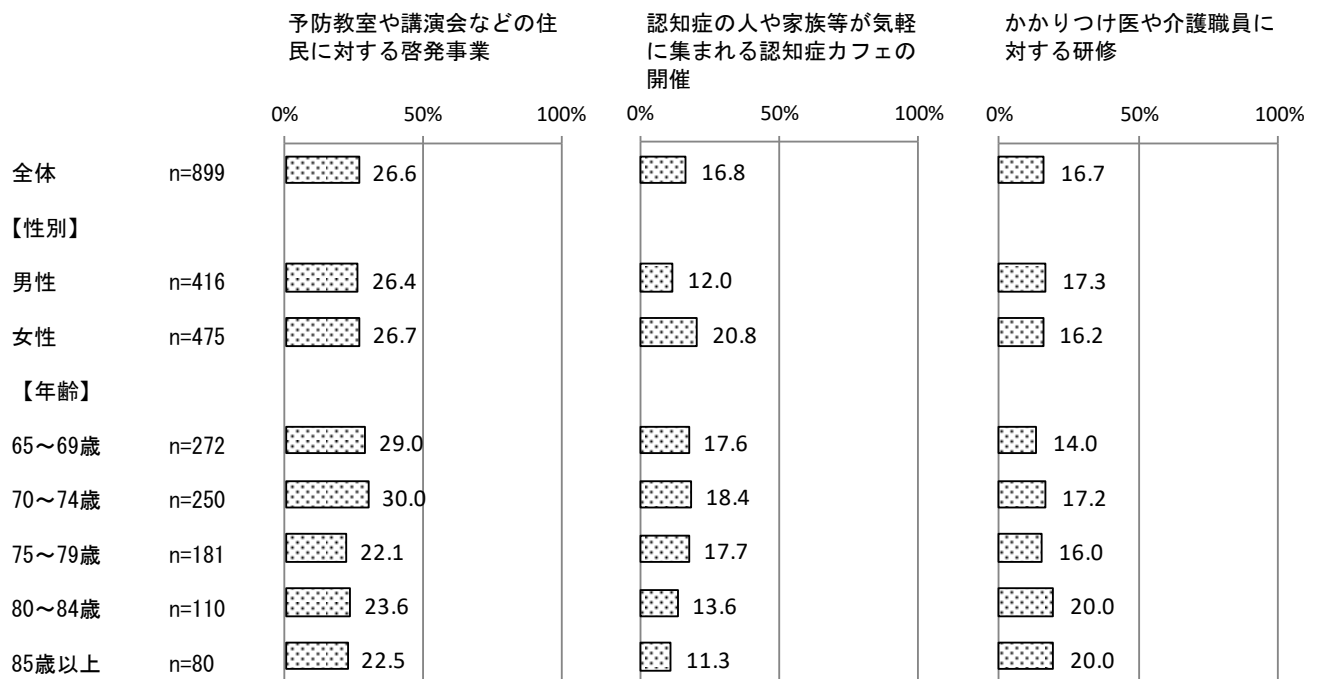
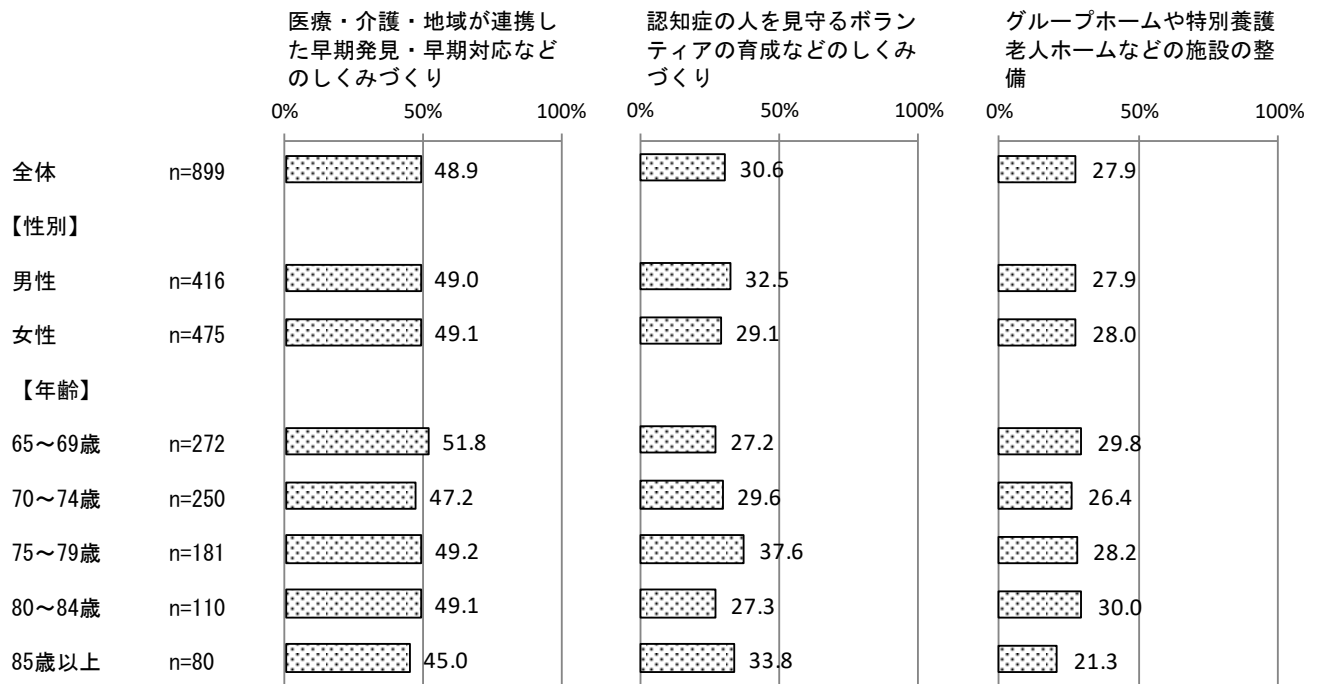


- ※1 平成26年では「認知症を見守るボランティアの育成などのしくみづくり」と表示
- ※2 平成26年では「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設の整備」と表示
- ※3 平成29年から追加した選択肢。平成29年では「介護者同士が気軽に集まれる認知症カフェ・介護者カフェの開催」と表示
- ※4 令和2年に追加した選択肢



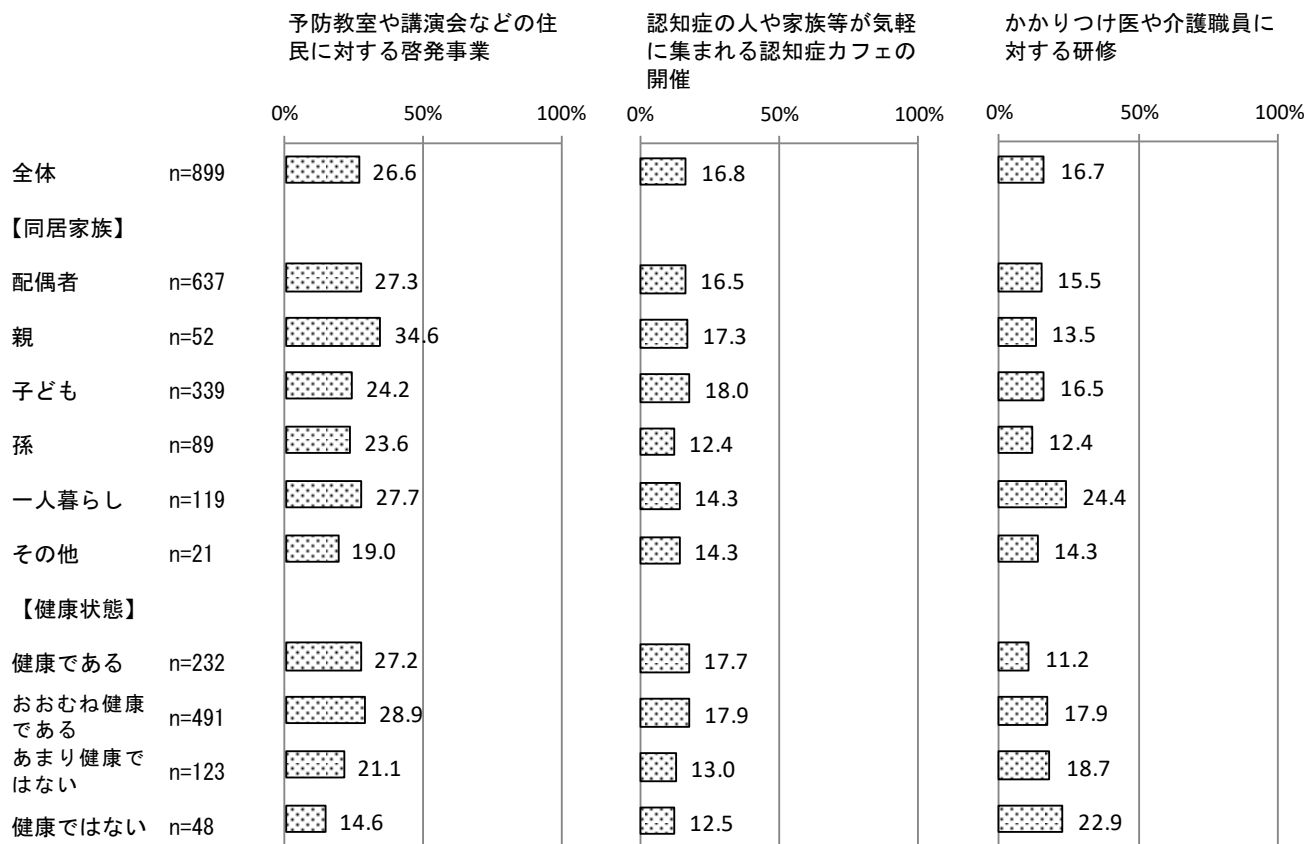
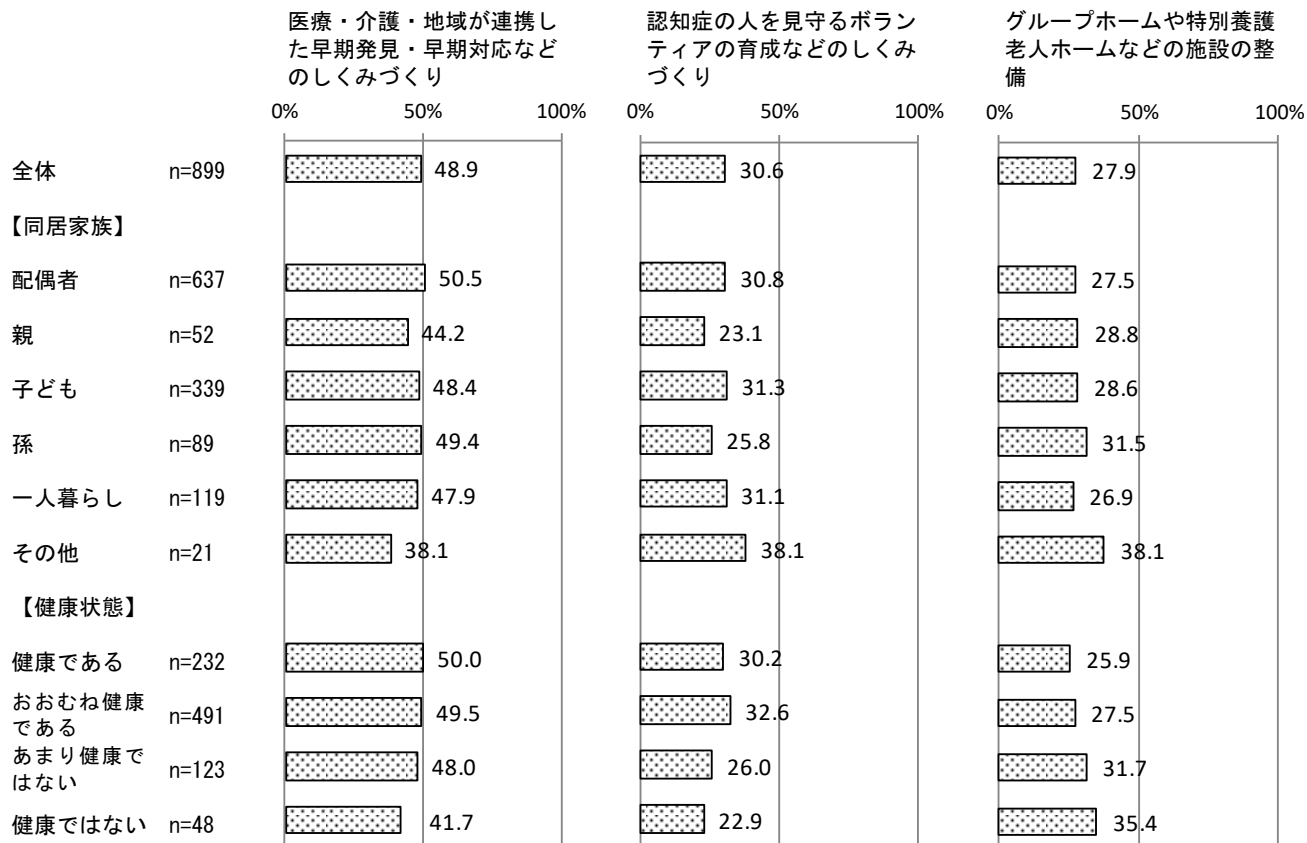
上位6項目について、保健福祉圏域別でみると、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期対応などのしくみづくり」は沼田圏域で63.8%となっている。

「グループホームや特別養護老人ホームなどの施設の整備」は藤岡圏域で39.6%となっている。



性別でみると、「認知症の人や家族等が気軽に集まれる認知症カフェの開催」は女性（20.8%）が男性（12.0%）を8.8ポイント上回っている。

年齢別でみると、「認知症の人を見守るボランティアの育成などのしくみづくり」は75～79歳で37.6%となっている。



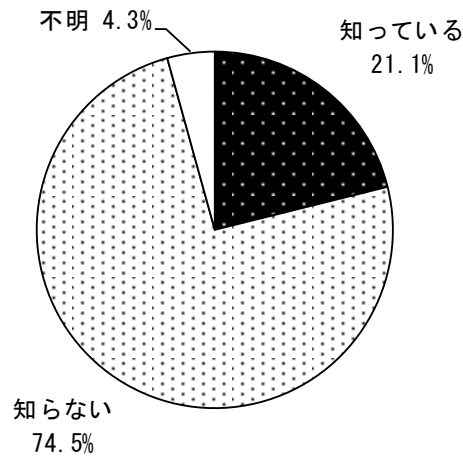
同居家族別、健康状態別では、特徴的な差異は見られなかった。

(3) 「認知症疾患医療センター」の認知度

◎ 「知っている」は約2割

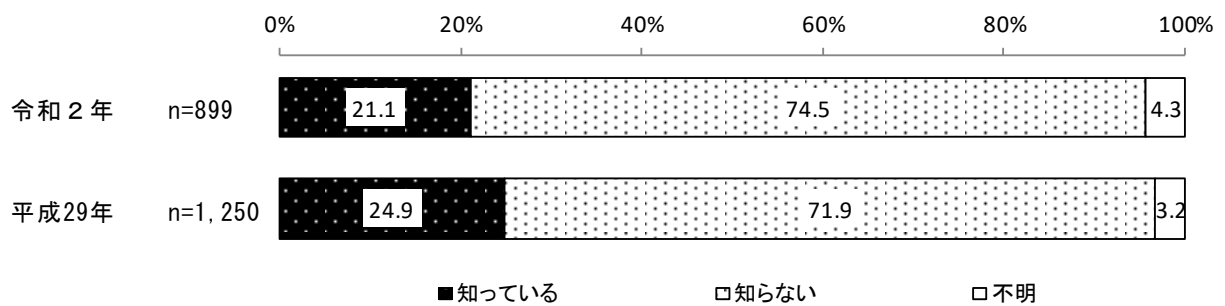
問 20 住まいの近くにある、認知症に関する相談や鑑別診断を行う「認知症疾患医療センター」を知っていますか。(1つだけに○)

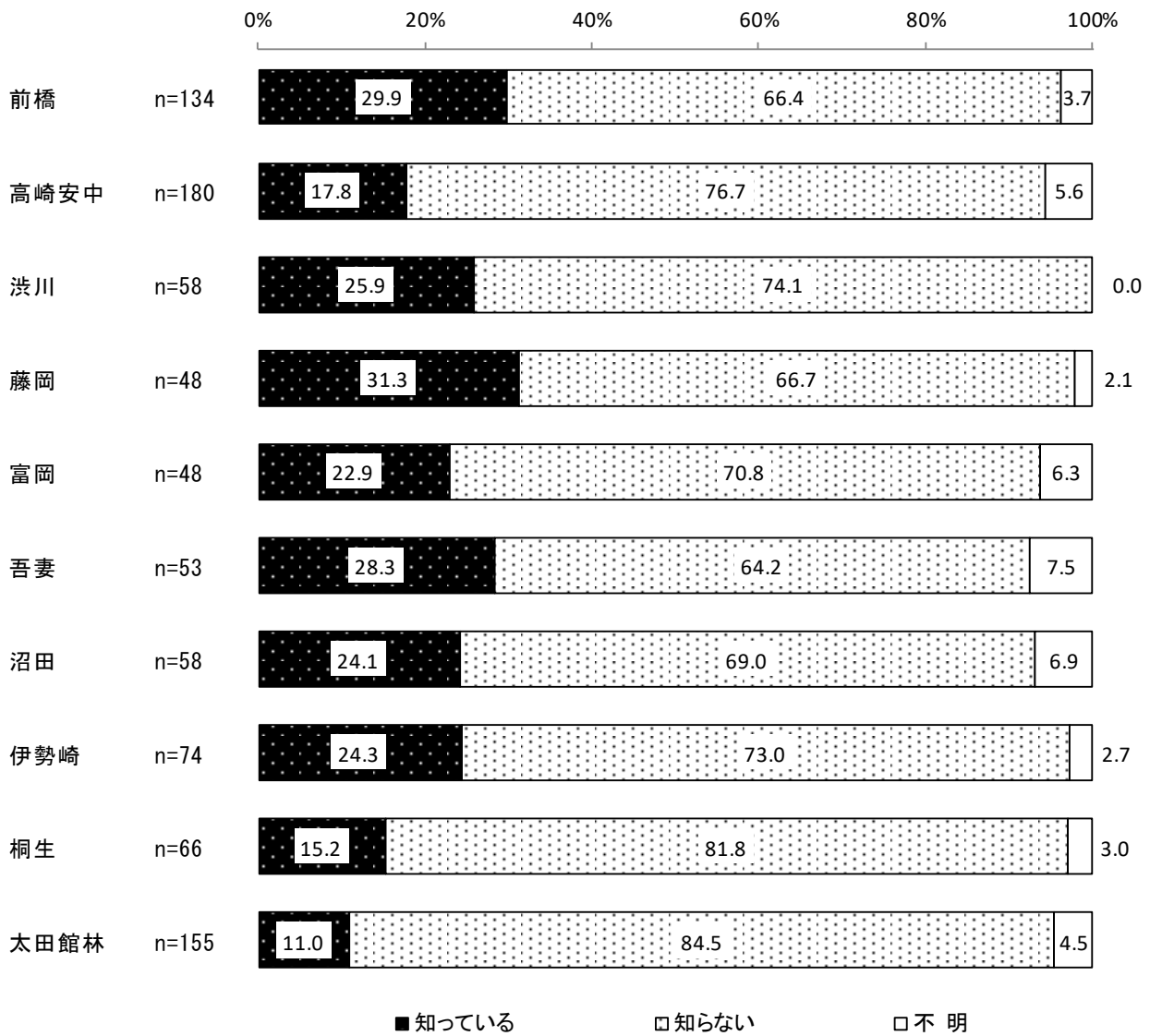
n=899



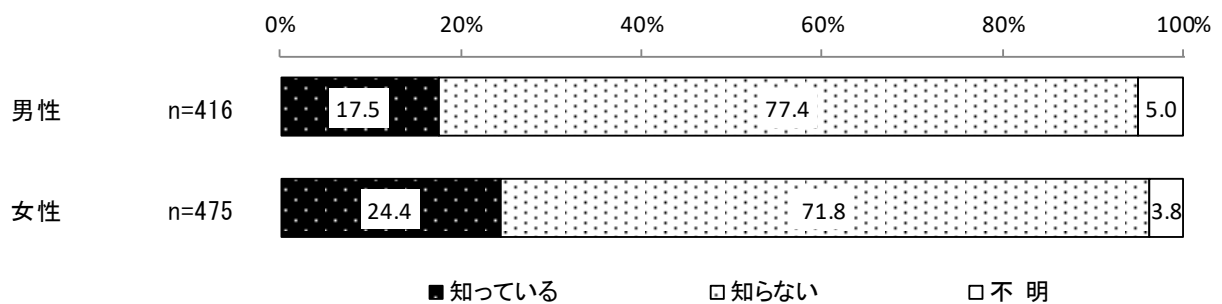
「認知症疾患医療センター」の認知度は、「知っている」が21.1%、「知らない」が74.5%となっている。

<経年比較>

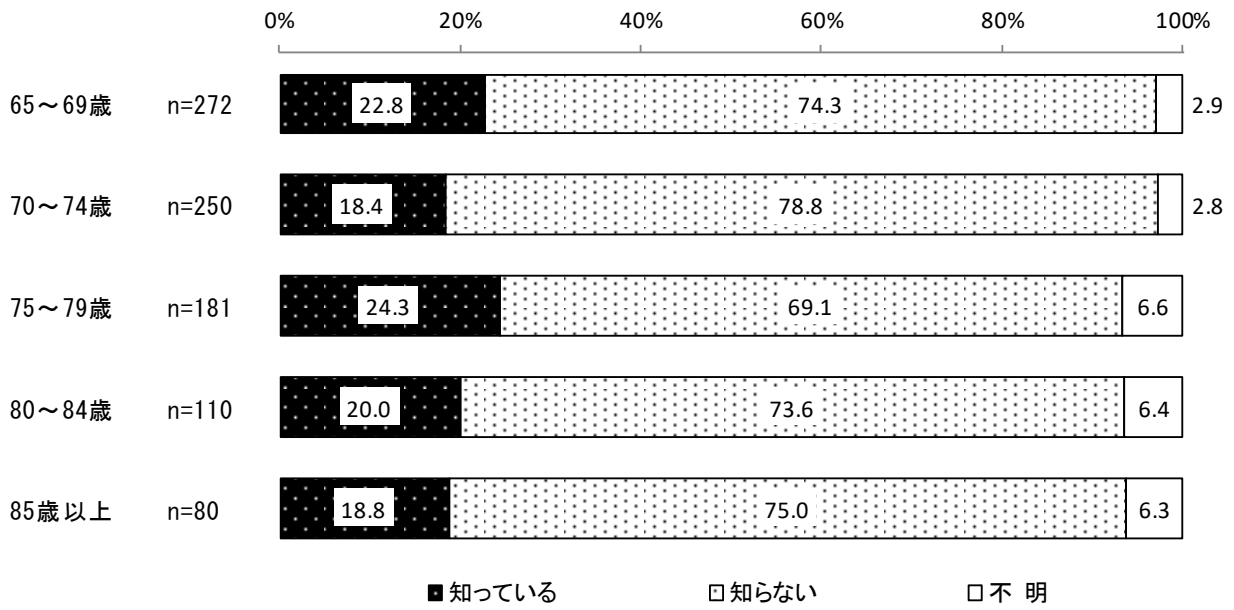




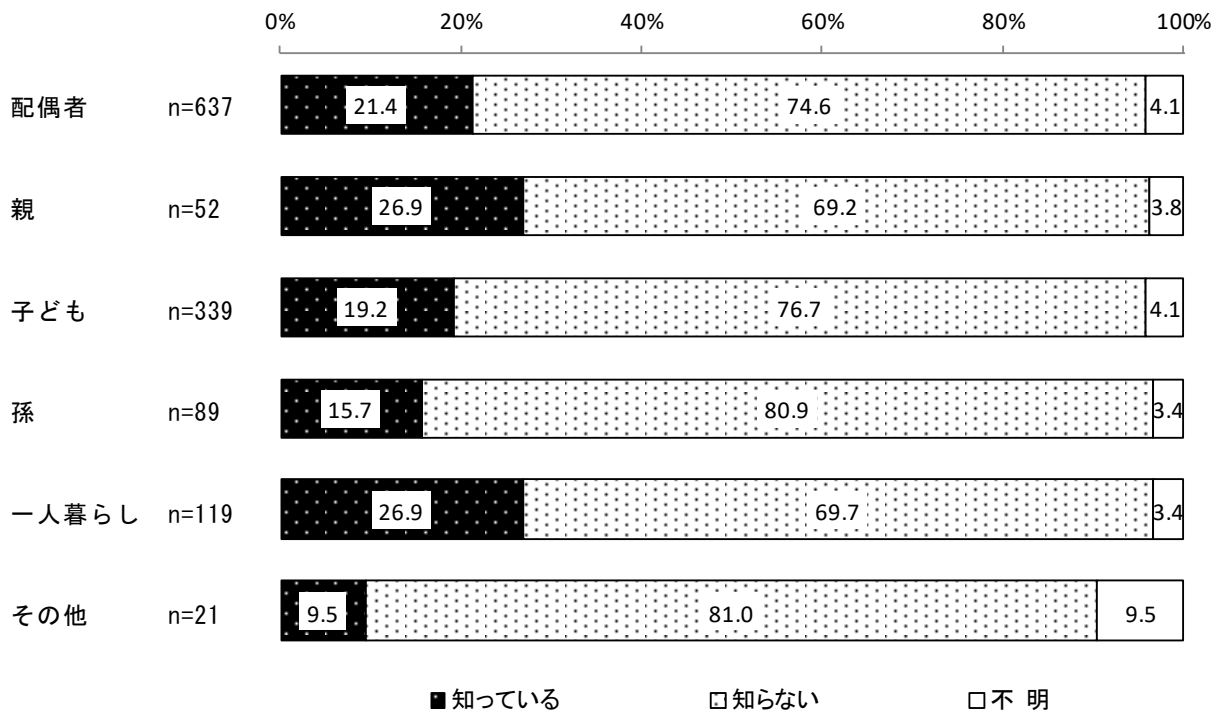
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は太田館林圏域で 11.0%、桐生圏域で 15.2%、高崎安中圏域で 17.8%と低くなっている。



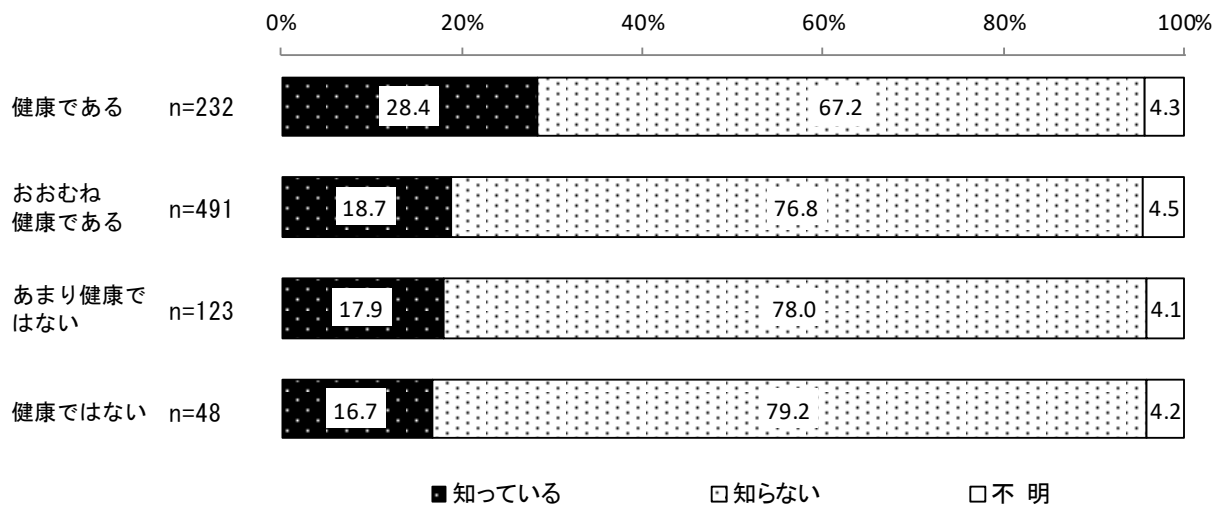
性別でみると、「知っている」は女性（24.4%）が男性（17.5%）を 6.9 ポイント上回っている。



年齢別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



同居家族別でみると、「知っている」は孫と同居している方で15.7%と低くなっている。



健康状態別で見ると、「知っている」は健康である方で 28.4%と高くなっている。

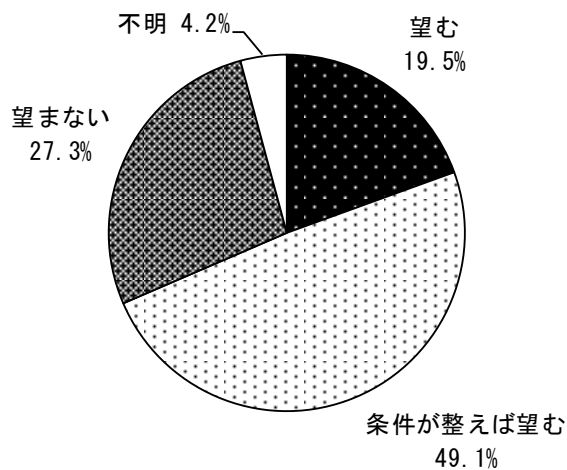
8 在宅医療・介護について

(1) 在宅療養の希望について

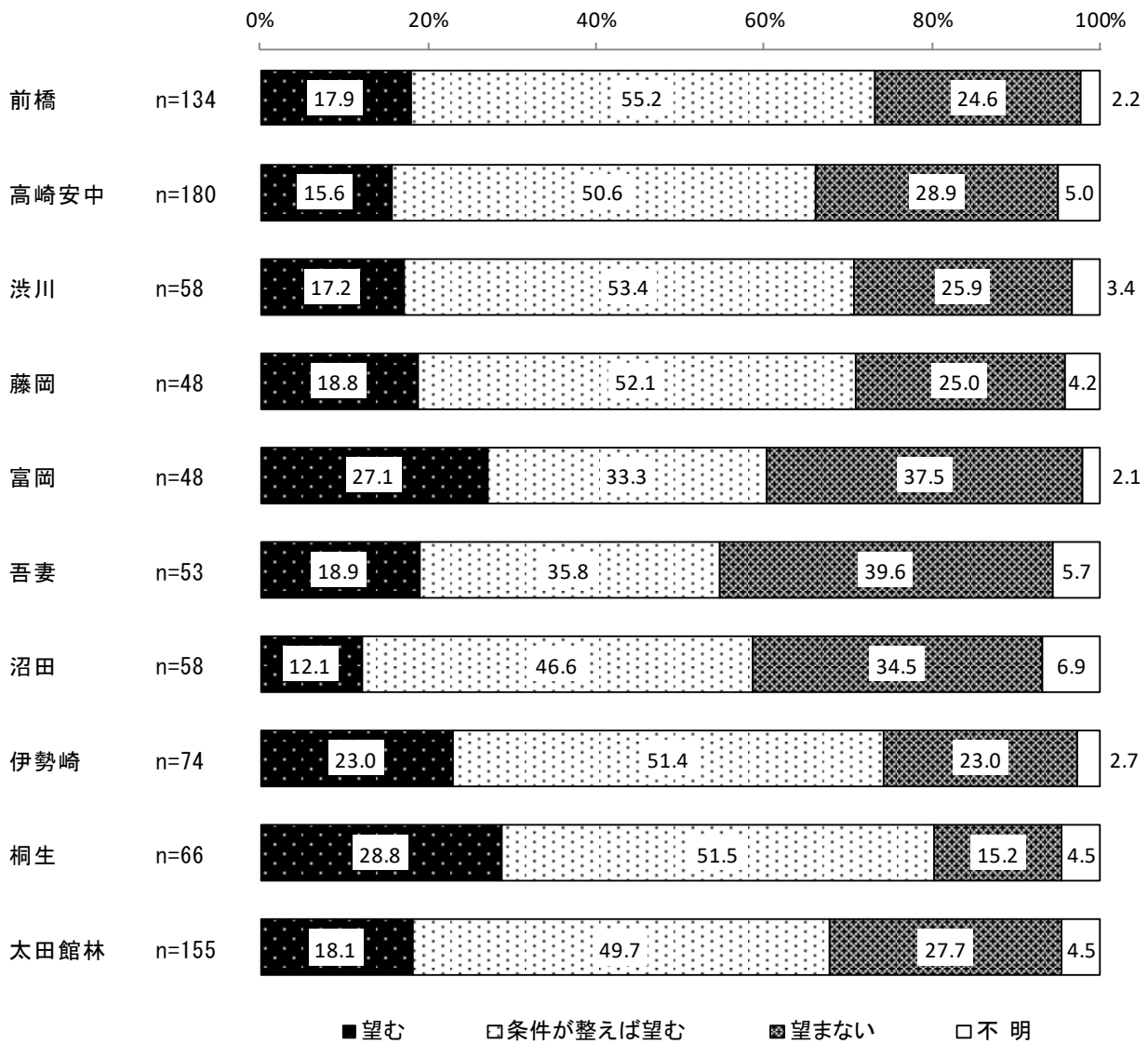
◎ 「条件が整えば望む」が約5割

問 21 もし、あなたやあなたの家族が治療や療養を必要とする場合、自宅での療養を望みますか。
(1つだけに○)

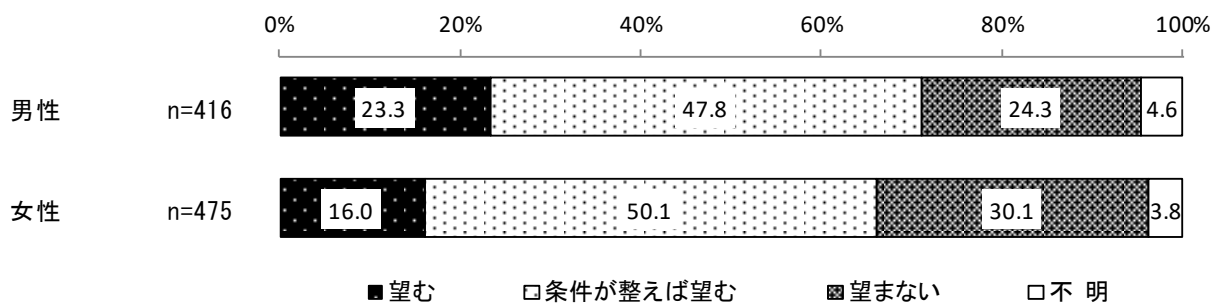
n=899



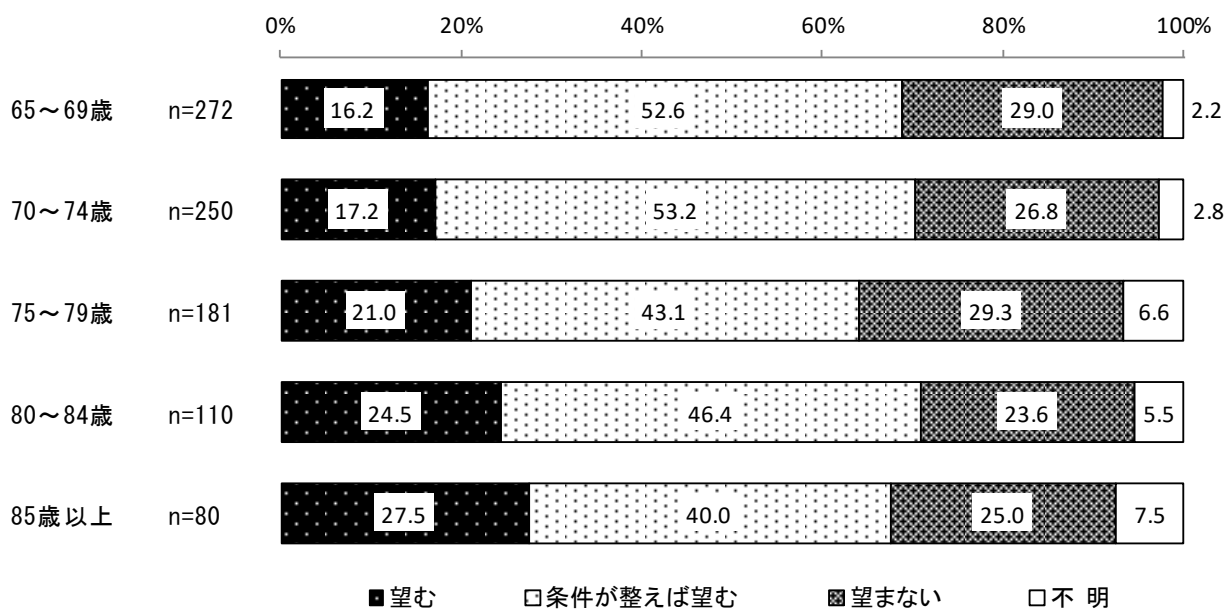
自宅療養の希望については、「望む」が19.5%、「条件が整えば望む」が49.1%、「望まない」が27.3%となっている。



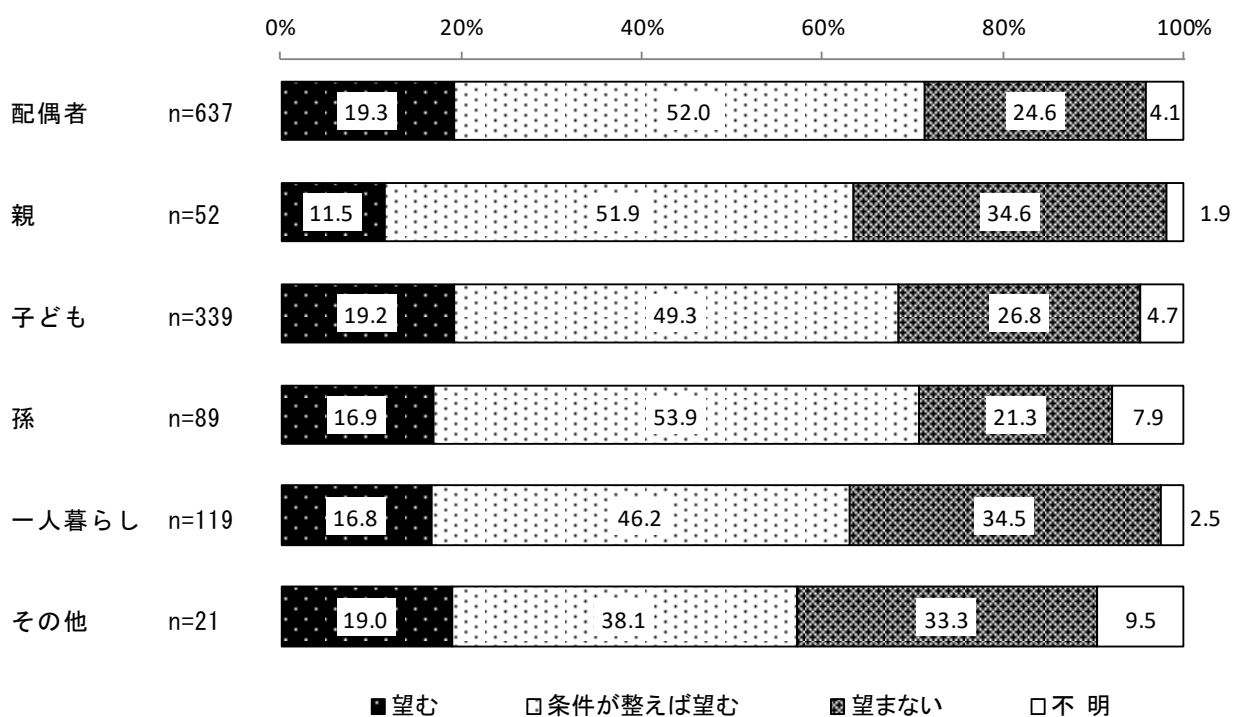
保健福祉圏域別でみると、「望む」は桐生圏域で28.8%、富岡圏域で27.1%と高くなっている。「望まない」は吾妻圏域が39.6%、富岡圏域が37.5%で最も高くなっている。



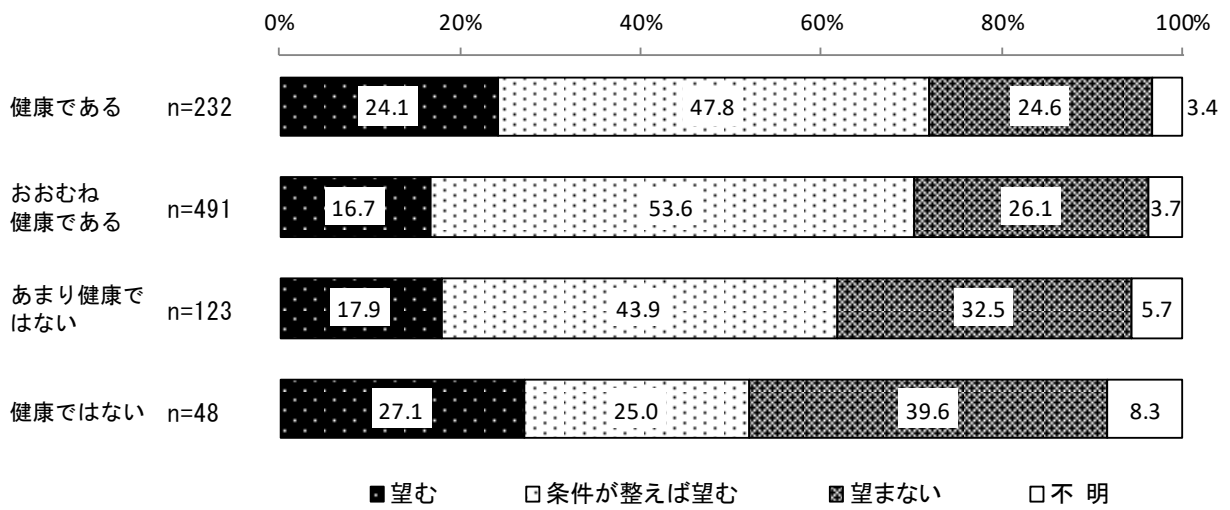
性別でみると、「望む」は男性（23.3%）が女性（16.0%）を7.3ポイント上回っている。



年齢別でみると、「望む」は年齢が上がるにつれ高くなっている。



同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



健康状態別で見ると、「望まない」は健康ではない方で 39.6%と最も高くなっている。

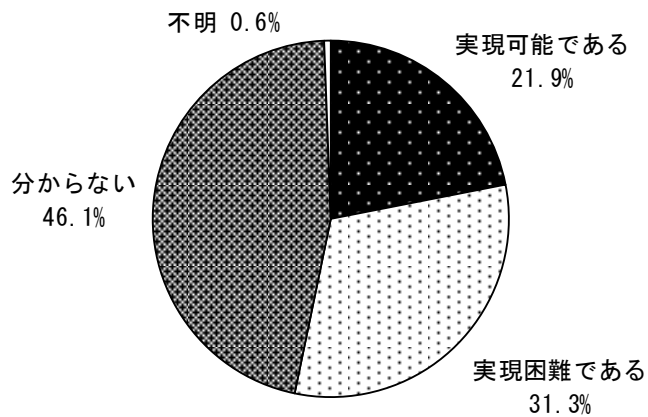
(2) 自宅療養の実現性

◎ 「実現可能である」は約2割、「分からない」が4割半ば

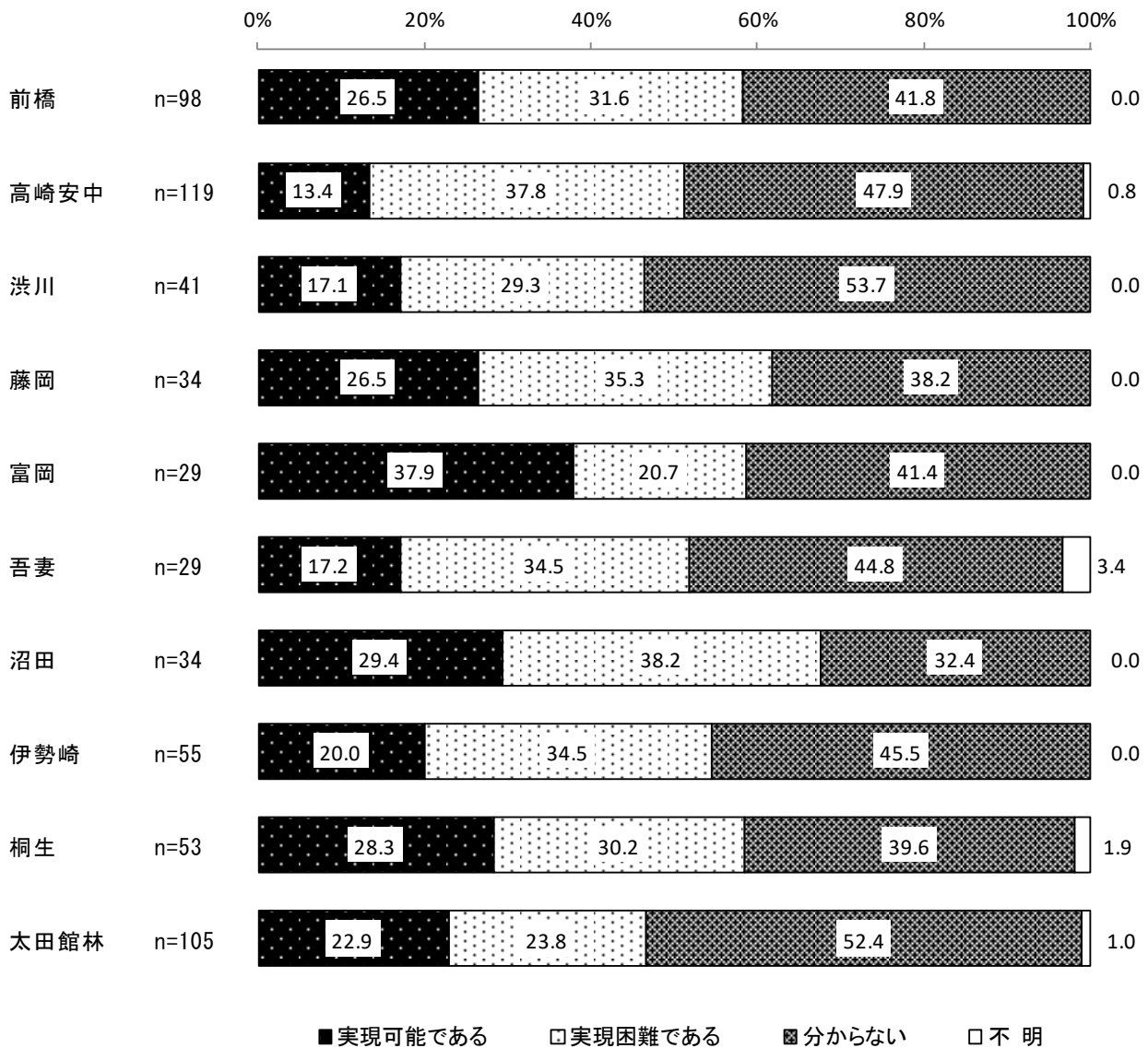
【問21で1または2と回答】

問21-2 自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つだけに○)

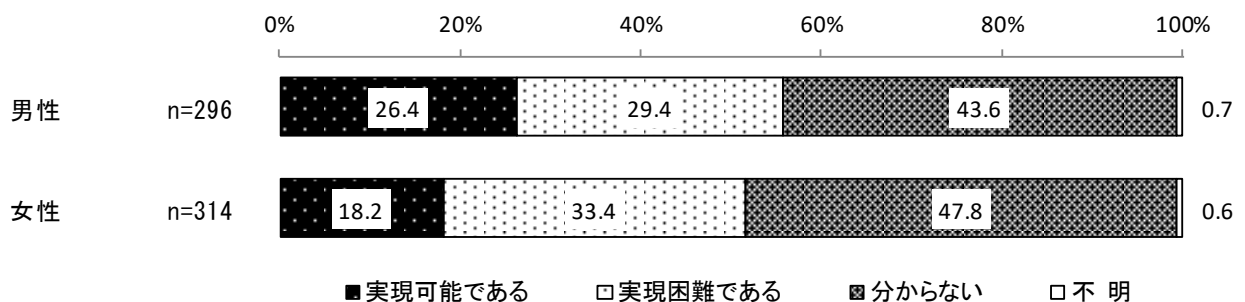
n=616



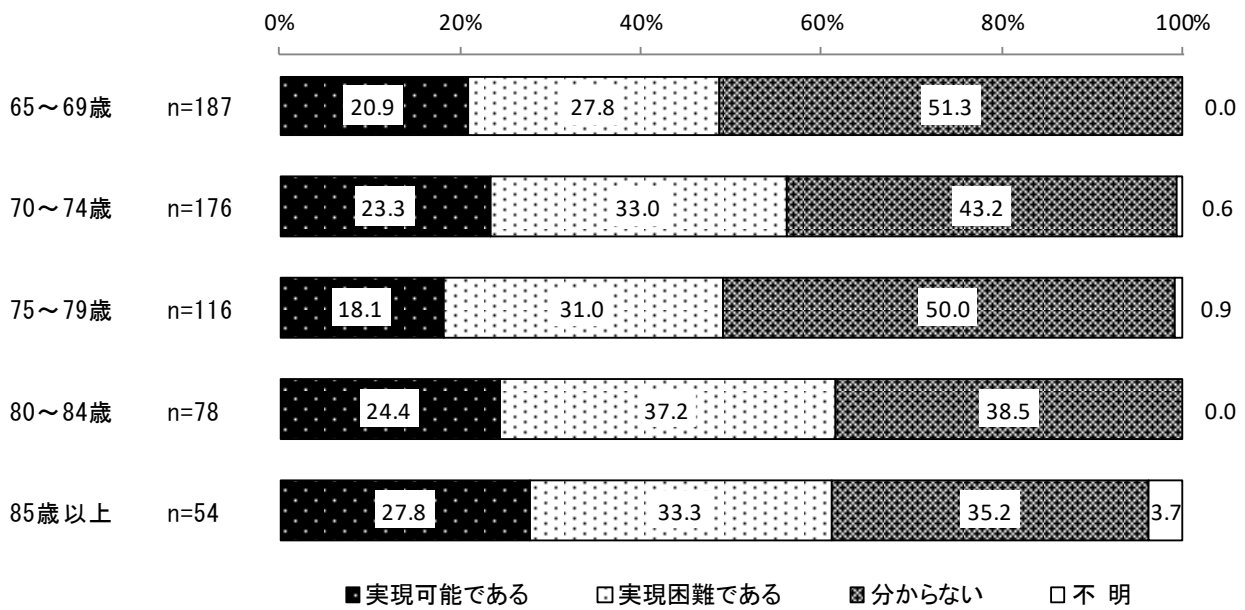
自宅療養の実現性は、「実現可能である」が21.9%、「実現困難である」が31.3%、「分からない」が46.1%となっている。



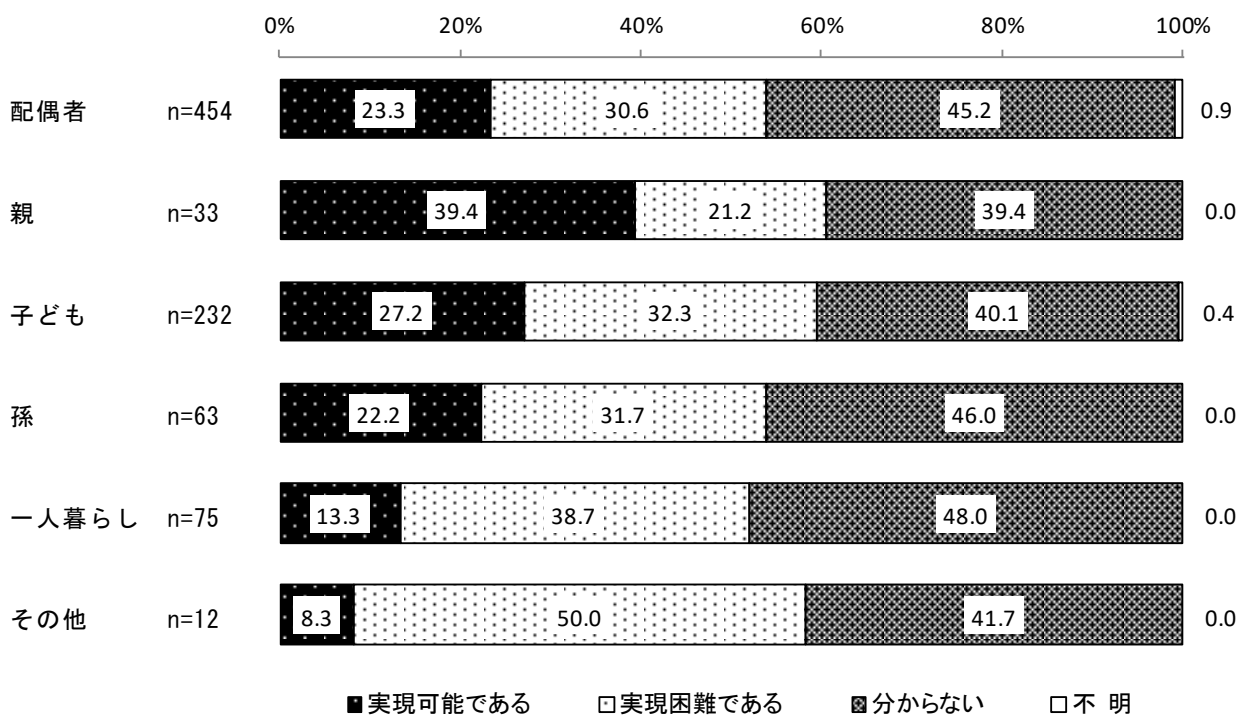
保健福祉圏域別でみると、「実現可能である」は高崎安中圏域で13.4%と低くなっている。



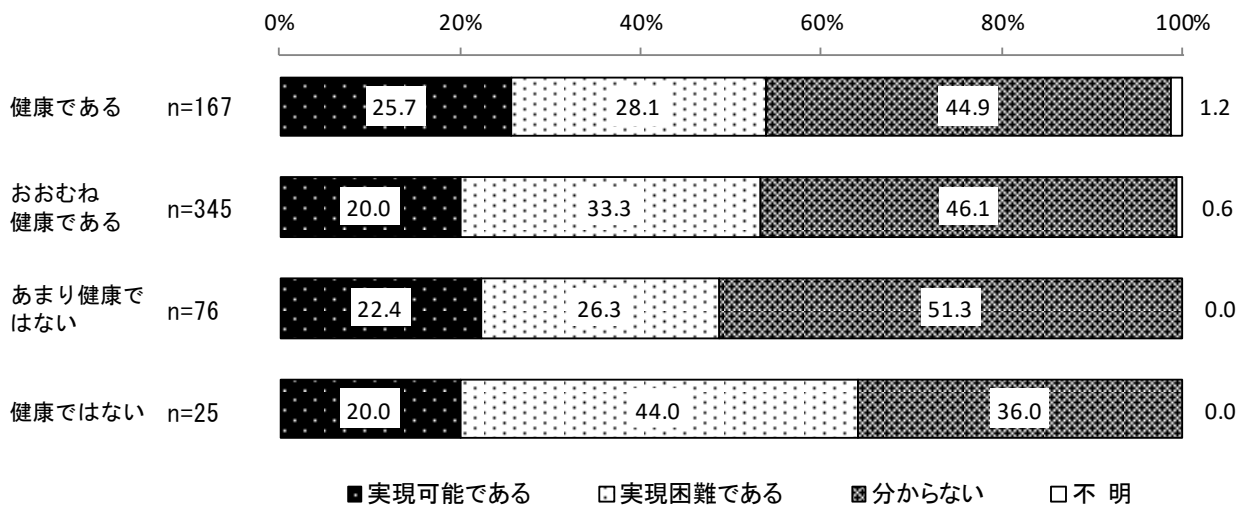
性別でみると、「実現可能である」は男性(26.4%)が女性(18.2%)を8.2ポイント上回っている。



年齢別でみると、「実現可能である」は85歳以上で27.8%となっている。



同居家族別でみると、「実現可能である」は親と同居している方で39.4%と高く、一人暮らしの方で13.3%と低くなっている。



健康状態別では、特徴的な差異は見られなかった。

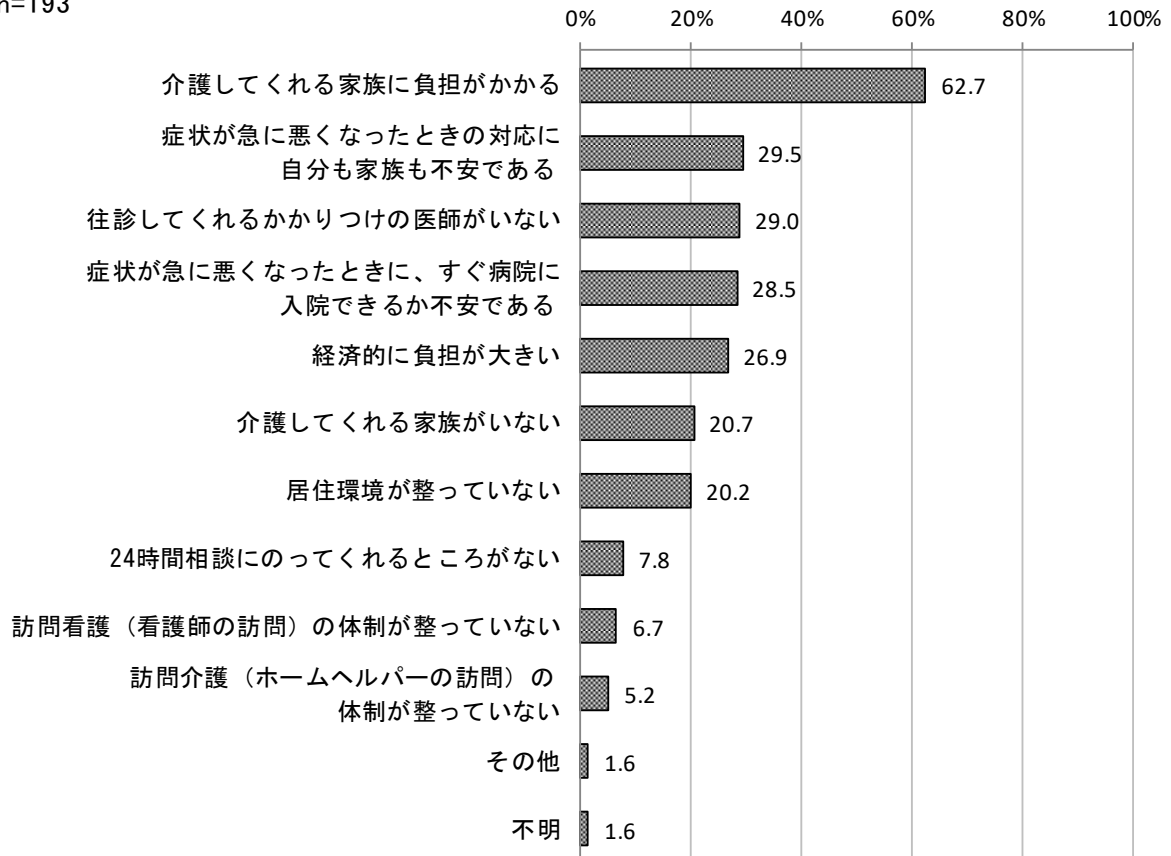
(3) 自宅療養が実現困難な理由

◎ 「介護してくれる家族に負担がかかる」が6割前半

【問 21-2 で 2 と回答】

問 21-3 自宅療養が実現困難であるとする理由は何ですか。(主なものを3つ以内に○)

n=193



自宅療養が実現困難な理由は、「介護してくれる家族に負担がかかる」が 62.7% で最も高く、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」(29.5%)、「往診してくれるかかりつけの医師がない」(29.0%) となっている。

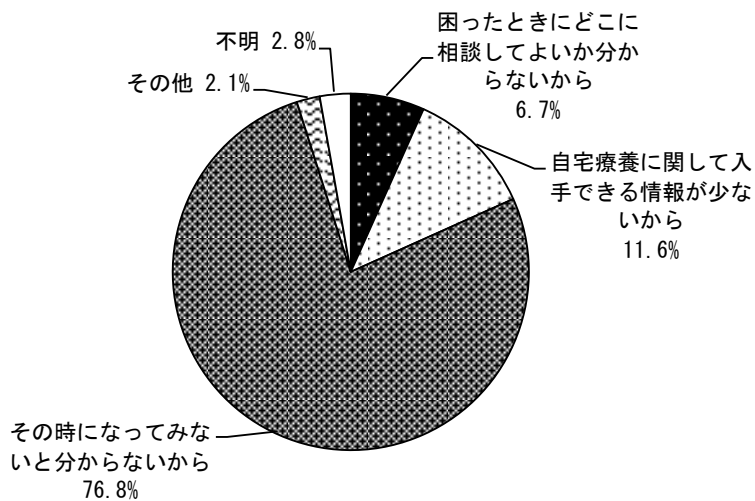
(4) 自宅療養が実現可能か分からない理由

◎ 「その時になってみないと分からないから」が7割半ば

【問 21-2 で 3 と回答】

問 21-4 自宅療養が実現可能か分からないと考える理由は何ですか。(1つだけに○)

n=284



自宅療養が実現可能か分からない理由は、「その時になってみないと分からないから」が76.8%で最も高く、次いで「自宅療養に関して入手できる情報が少ないから」(11.6%)、「困ったときにどこに相談してよいか分からないから」(6.7%)となっている。

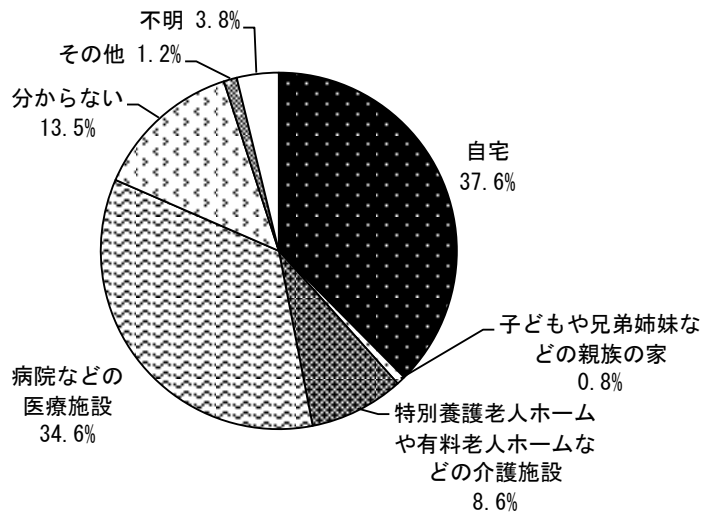
9 人生最終段階の医療・ケアについて

(1) 最期を過ごしたい場所について

◎ 「自宅」が3割後半

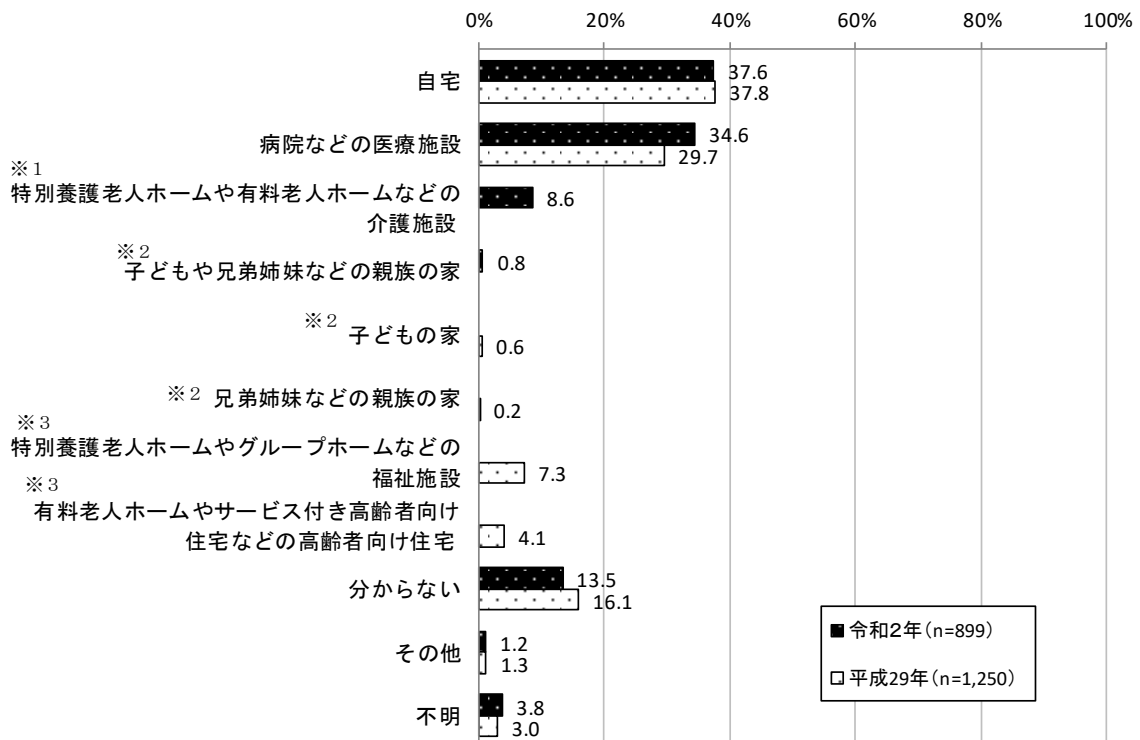
問 22 もし、あなたが治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を過ごしたいですか。
(1つだけに○)

n=899



最期を過ごしたい場所は、「自宅」が 37.6%で最も高く、次いで「病院などの医療施設」(34.6%)、「特別養護老人ホームや有料老人ホームなどの介護施設」(8.6%)となっている。
一方、「分からない」は 13.5%となっている。

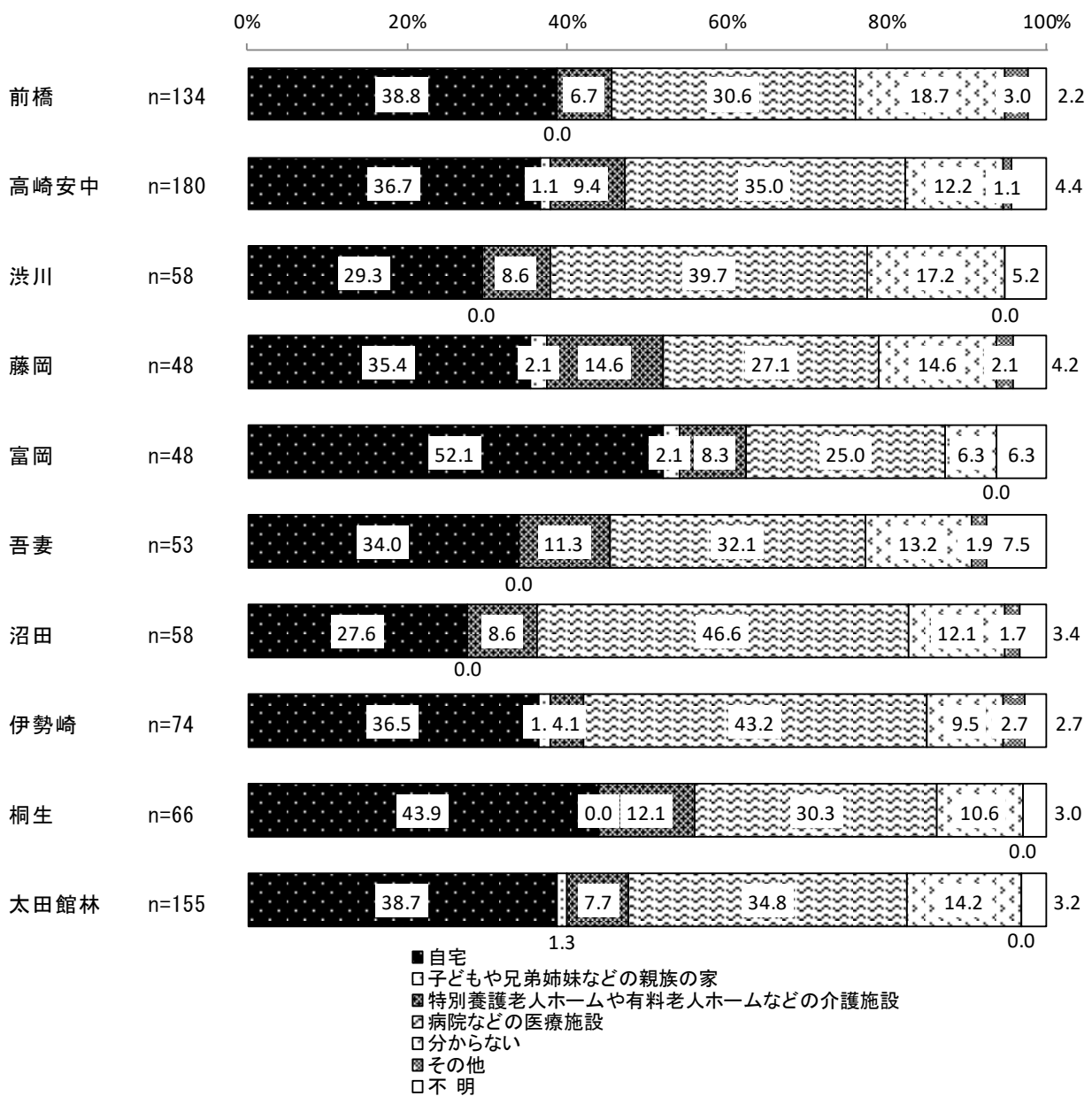
<経年比較>



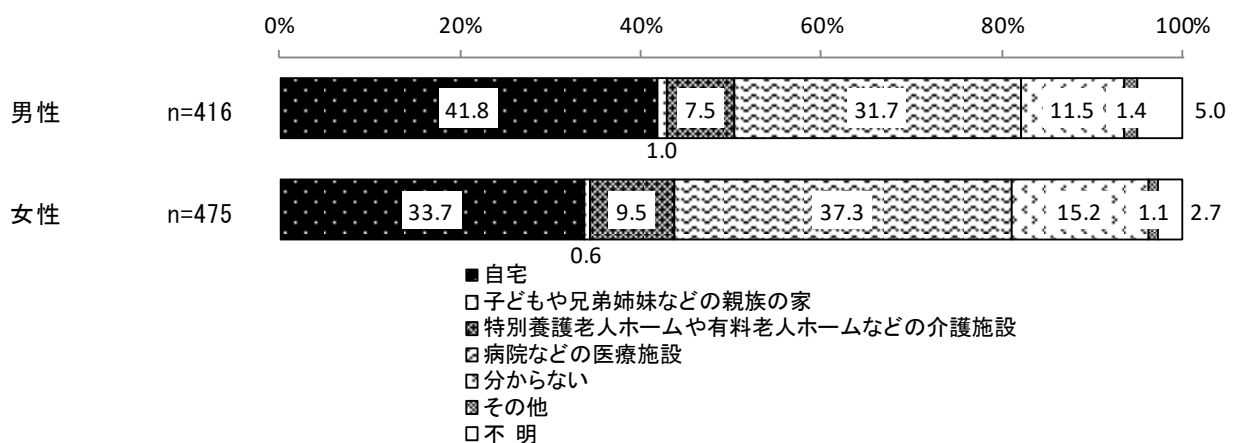
※1 令和2年に追加した選択肢

※2 令和2年に「子どもの家」と「兄弟姉妹などの親族の家」を「子どもや兄弟姉妹などの親族の家」に変更

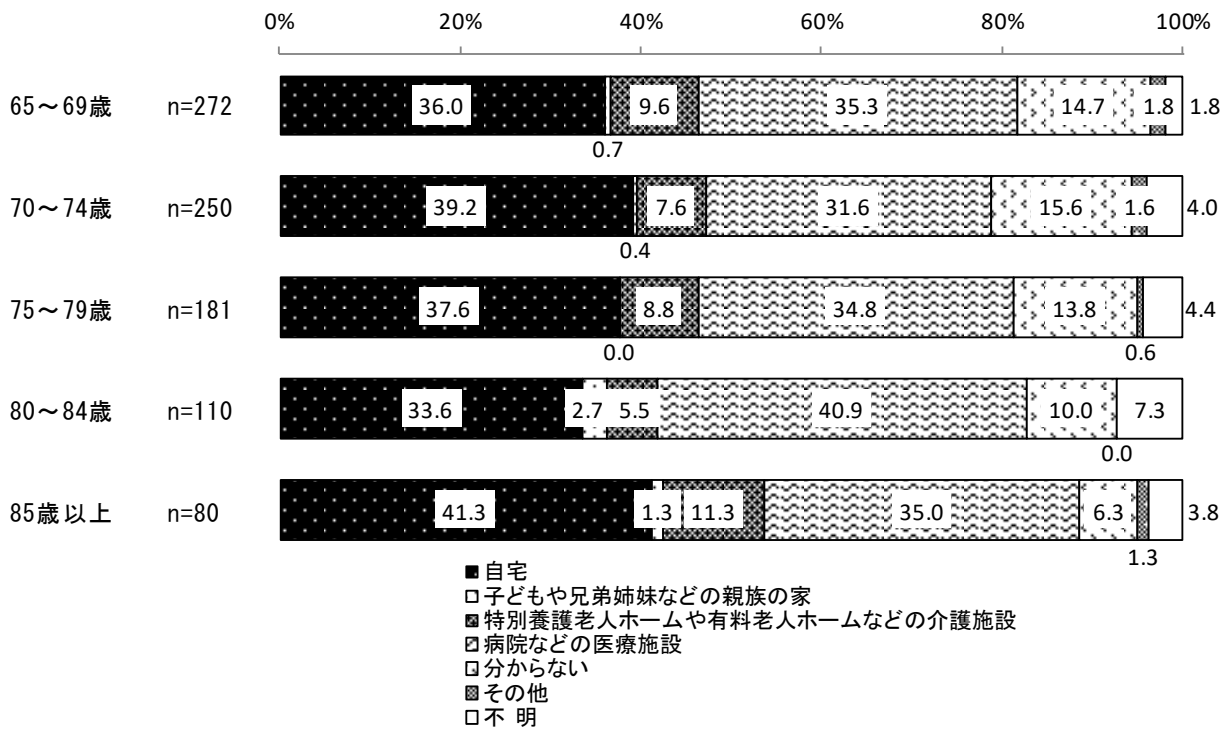
※3 令和2年では削除した選択肢



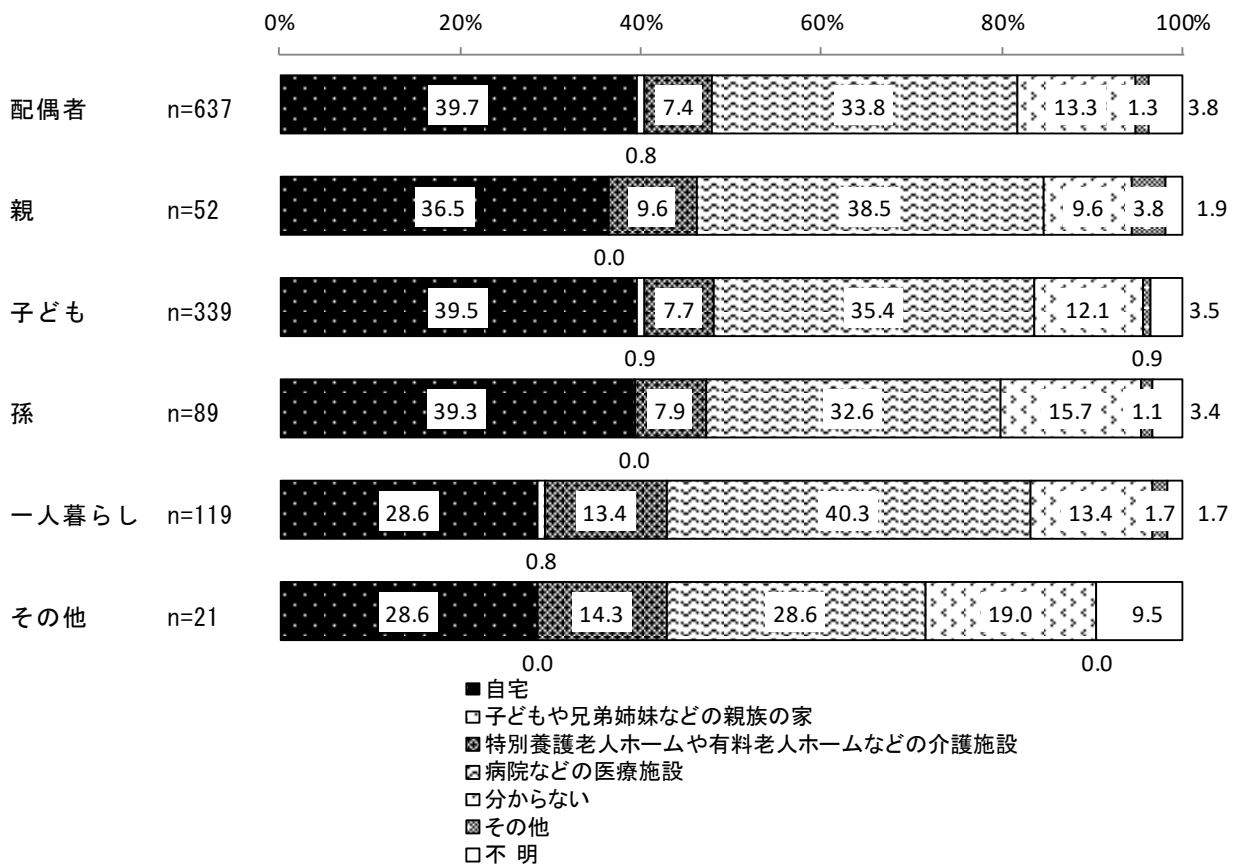
保健福祉圏域別でみると、「自宅」は富岡圏域で52.1%と半数を超えている。「病院などの医療施設」は沼田圏域で46.6%、伊勢崎圏域で43.2%、渋川圏域で39.7%と最も高くなっている。



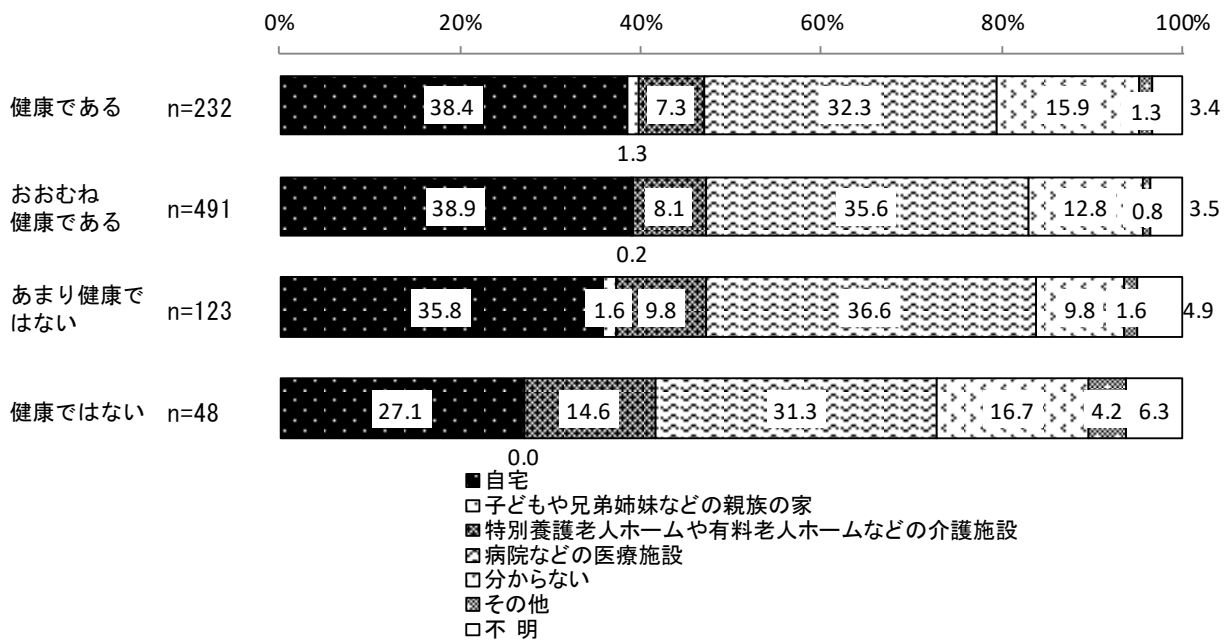
性別でみると、男性では「自宅」が41.8%で、女性では「病院などの医療施設」が37.3%で最も高くなっている。



年齢別で見ると、「病院などの医療施設」は80~84歳で40.9%と最も高くなっている。



同居家族別で見ると、「病院などの医療施設」は親と同居している方で38.5%、一人暮らしの方で40.3%と最も高くなっている。



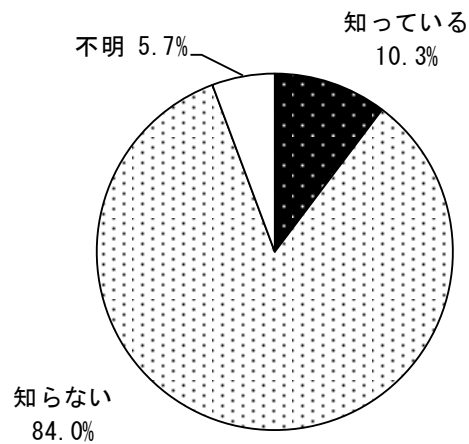
健康状態別で見ると、「病院などの医療施設」はあまり健康ではない方で36.6%と最も高くなっている。

(2) 「アドバンス・ケア・プランニング」の認知度

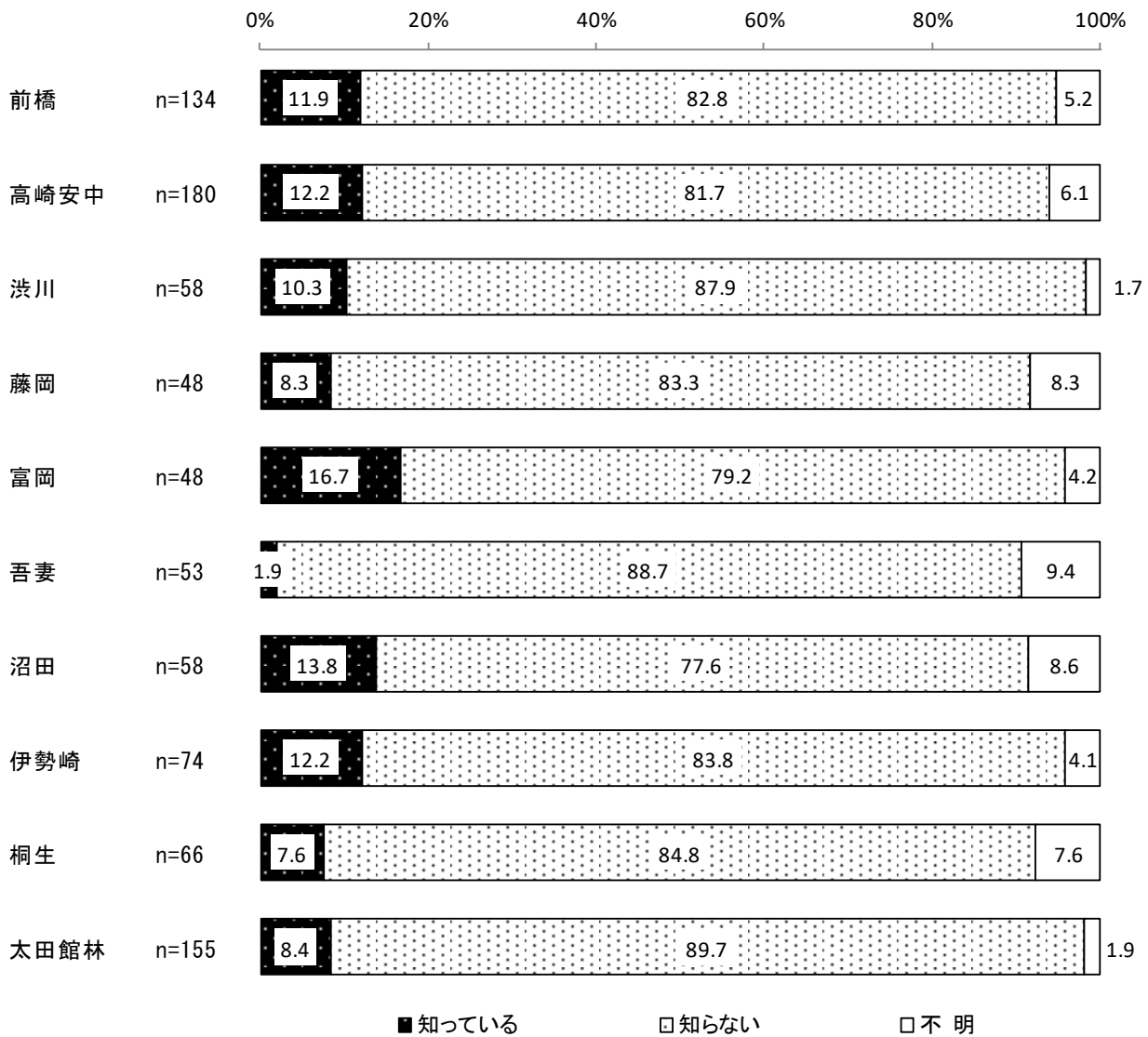
◎ 「知っている」は約1割

問 23 あなたは「アドバンス・ケア・プランニング」という言葉を知っていますか。(1つだけに○)

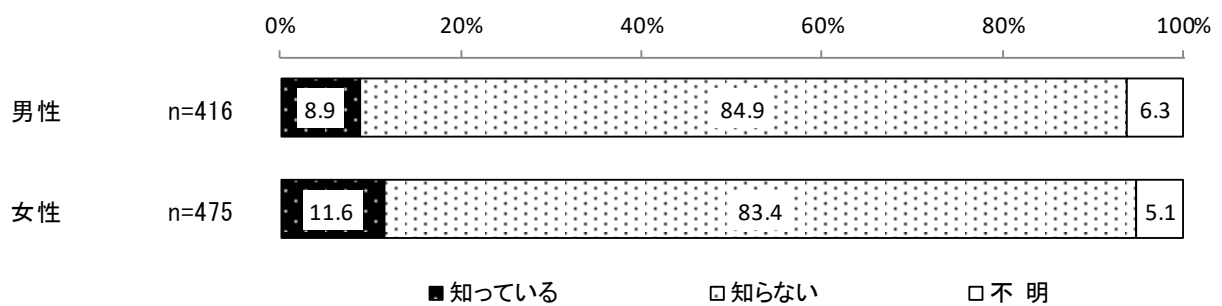
n=899



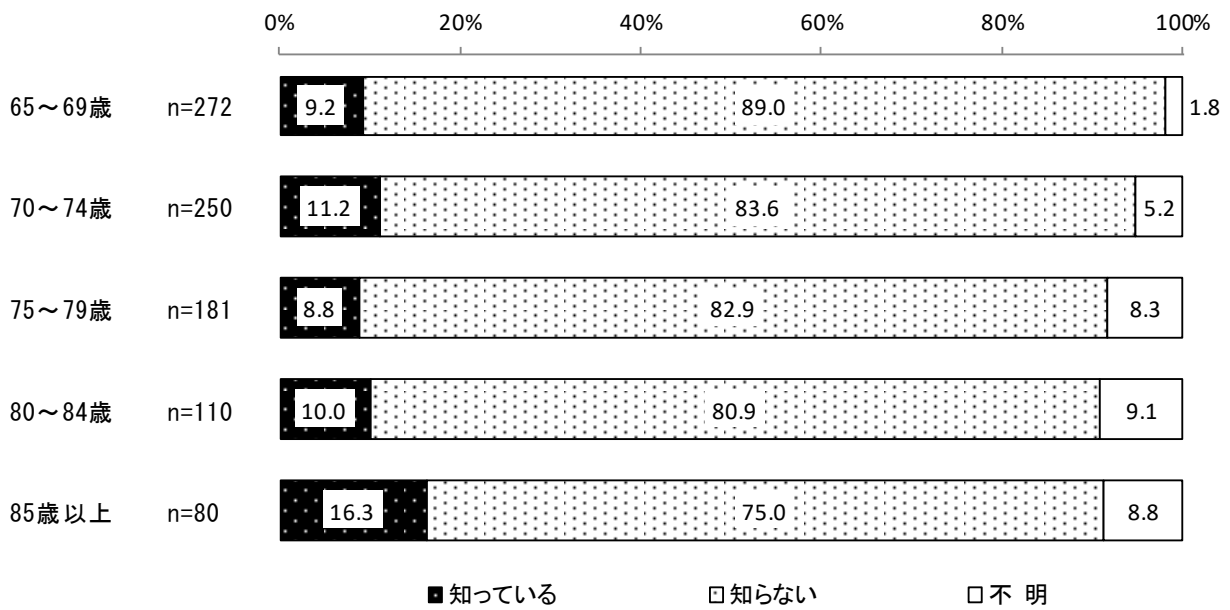
「アドバンス・ケア・プランニング」の認知度は、「知っている」が10.3%、「知らない」が84.0%となっている。



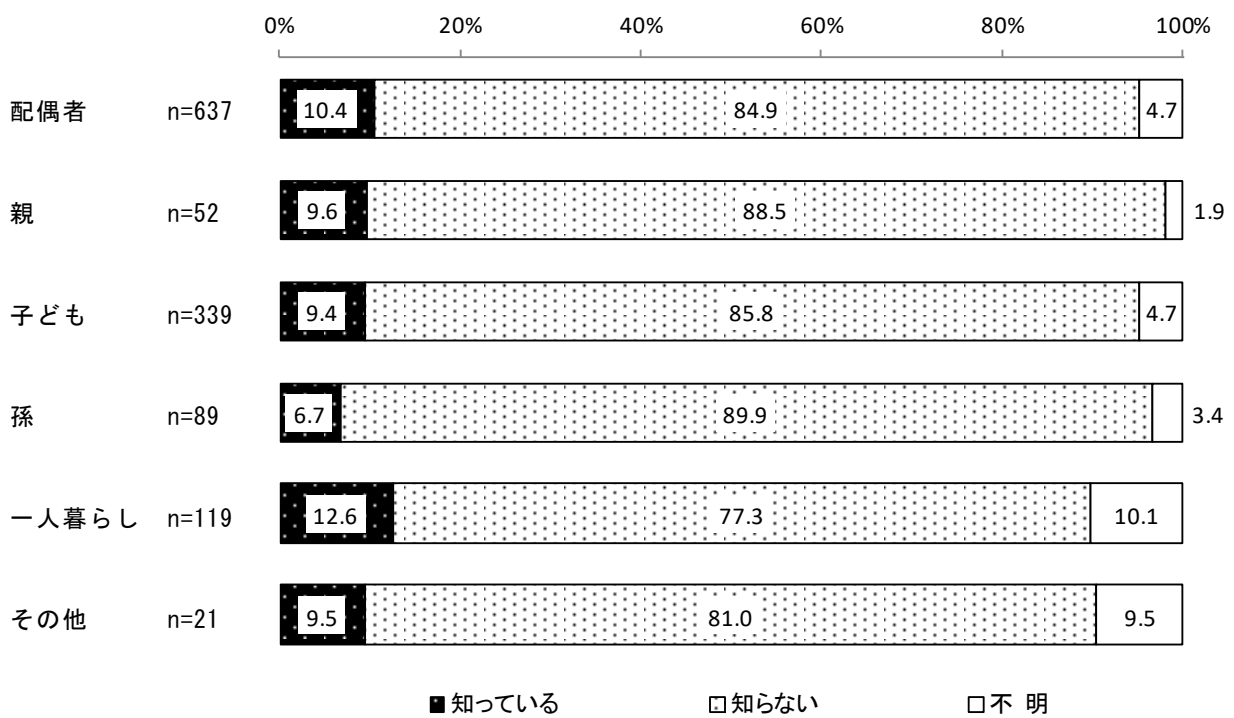
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は吾妻圏域で1.9%と低くなっている。



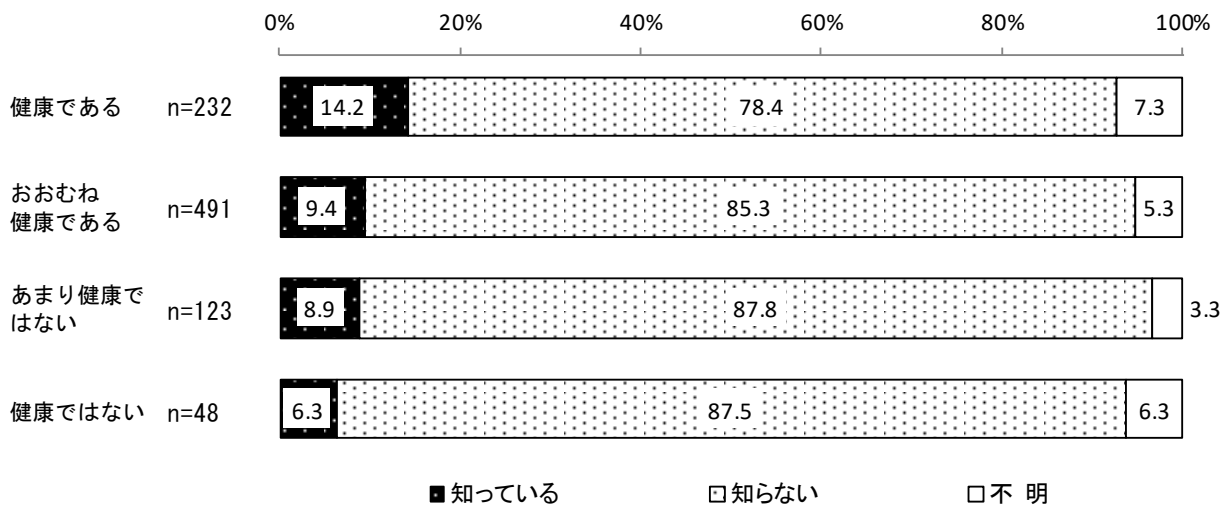
性別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



年齢別で見ると、「知っている」は85歳以上で16.3%となっている。



同居家族別で見ると、特徴的な差異は見られなかった。



健康状態別で見ると、「知っている」は健康状態が良好であるにつれ高くなっている。

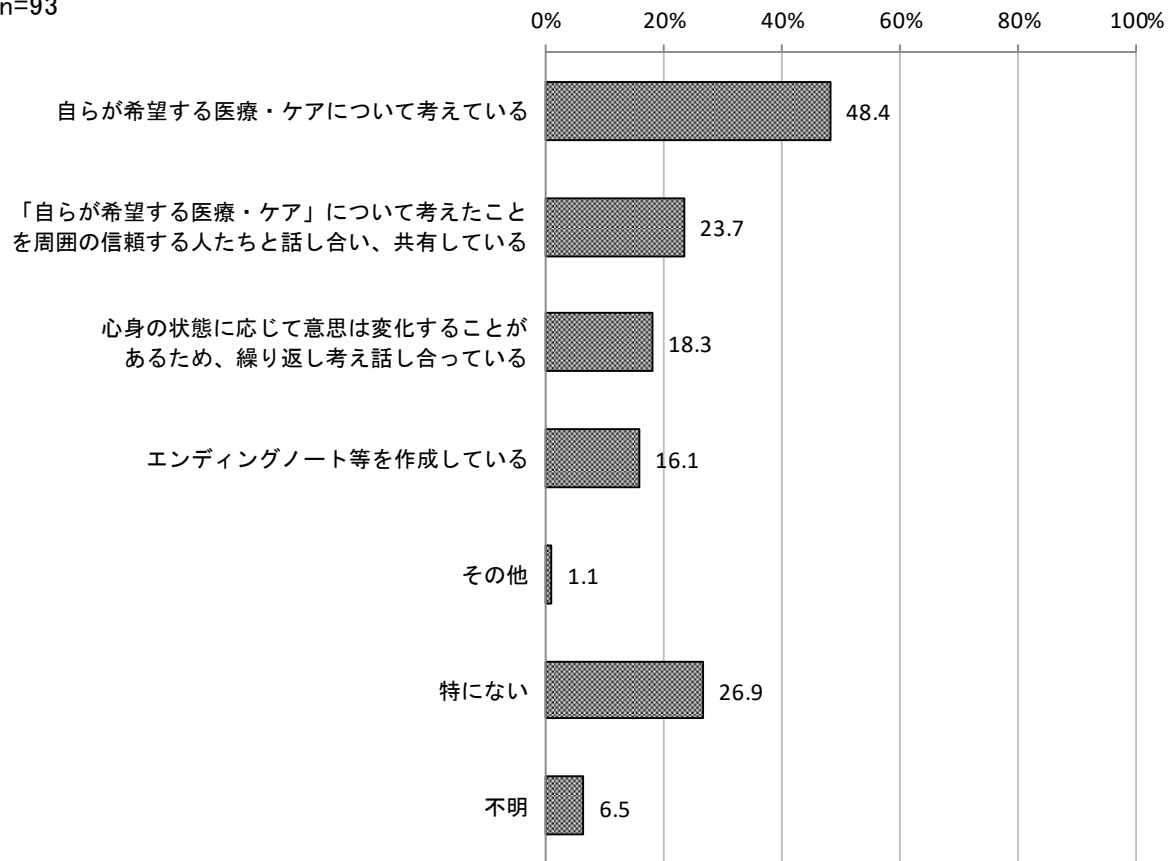
(3) 「アドバンス・ケア・プランニング」の取り組み

◎ 「自らが希望する医療・ケアについて考えている」が4割後半

【問 23 で 1 と回答】

問 23-2 アドバンス・ケア・プランニングについて、あなたが取り組んでいることはありますか。
(あてはまるもの全てに○)

n=93



アドバンス・ケア・プランニングの取り組みについては、「自らが希望する医療・ケアについて考えている」が48.4%で最も高く、次いで「「自らが希望する医療・ケア」について考えたことを周囲の信頼する人たちと話し合い、共有している」(23.7%)、「心身の状態に応じて意思は変化することがあるため、繰り返し考え話し合っている」(18.3%)となっている。

一方、「特にない」は26.9%となっている。

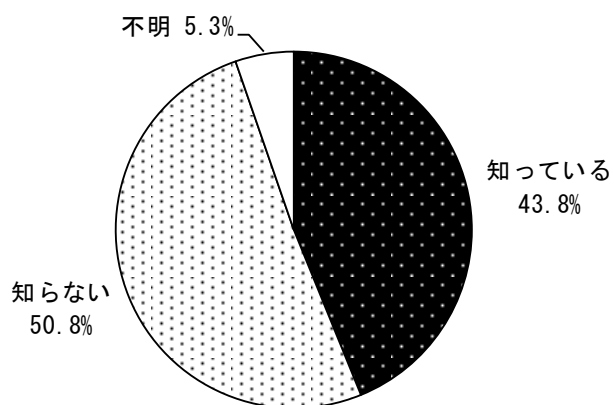
10 薬局について

(1) 「かかりつけ薬剤師」の認知度

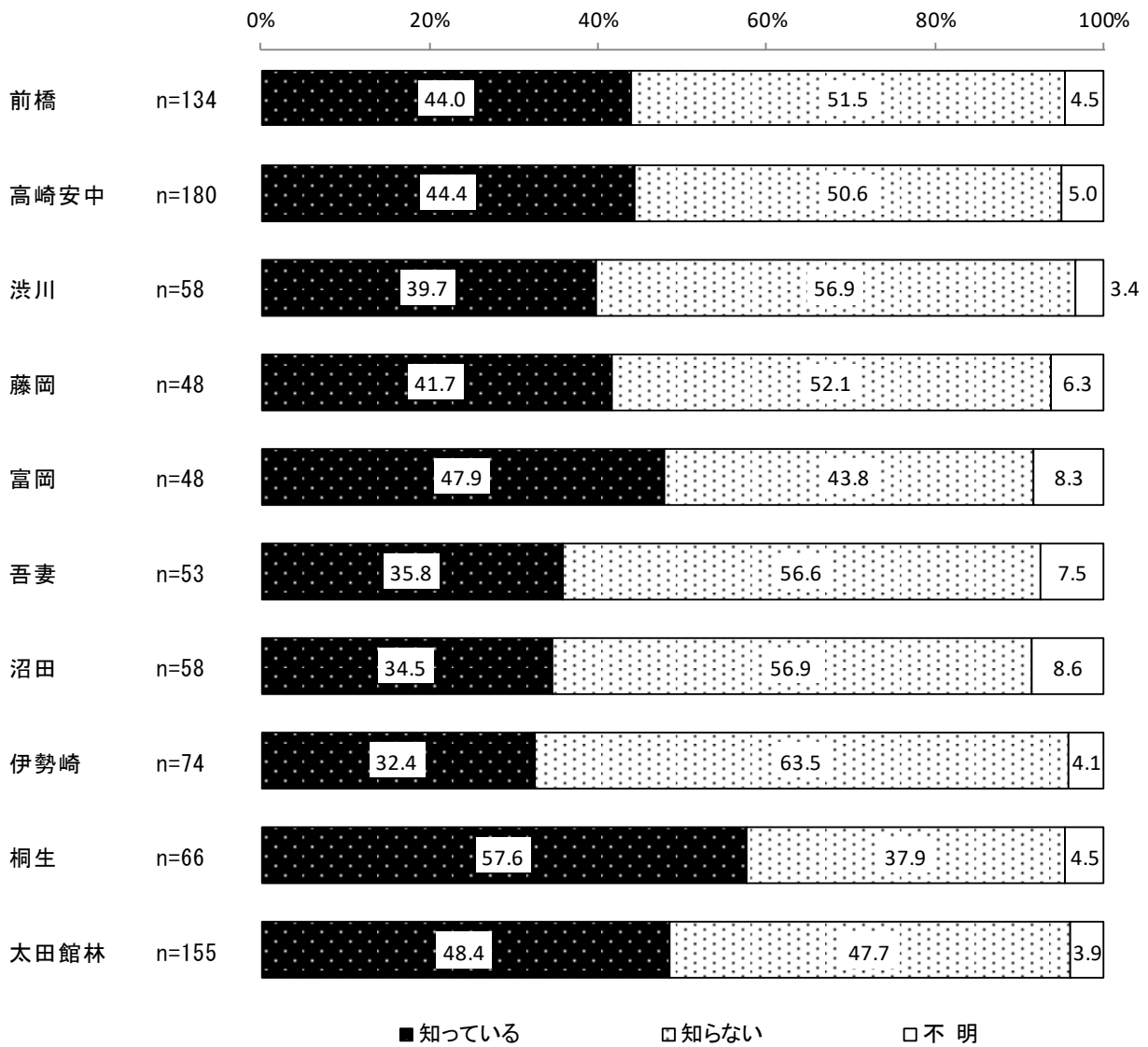
◎ 「知っている」が4割前半

問 24 あなたは「かかりつけ薬剤師」を知っていますか。(1つだけに○)

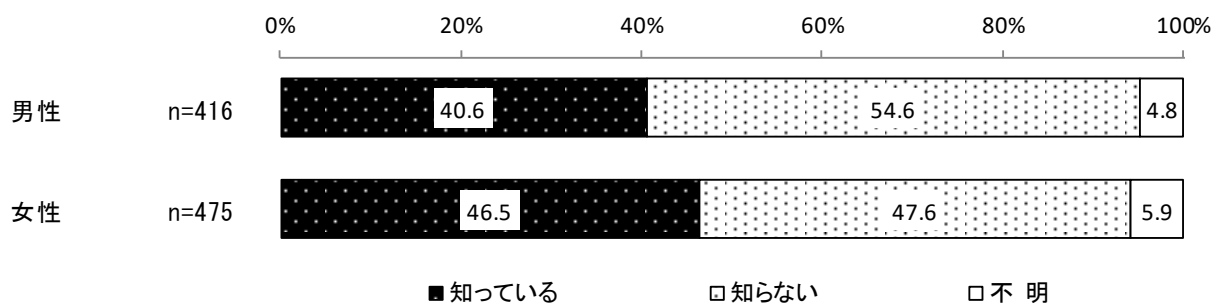
n=899



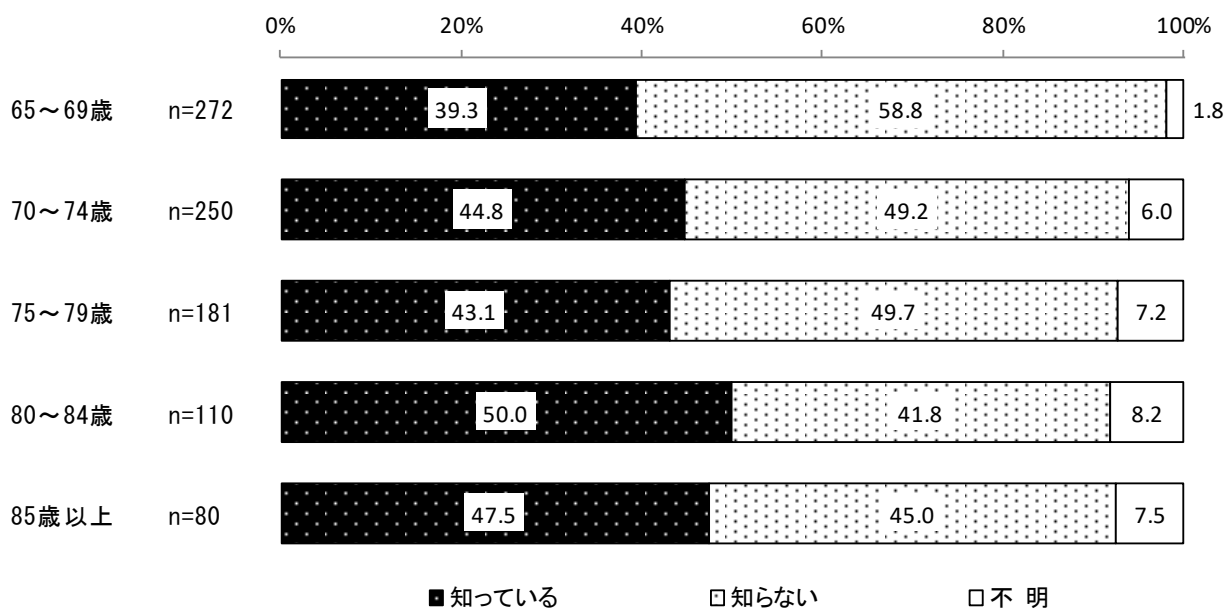
「かかりつけ薬剤師」の認知度は、「知っている」が43.8%、「知らない」が50.8%となっている。



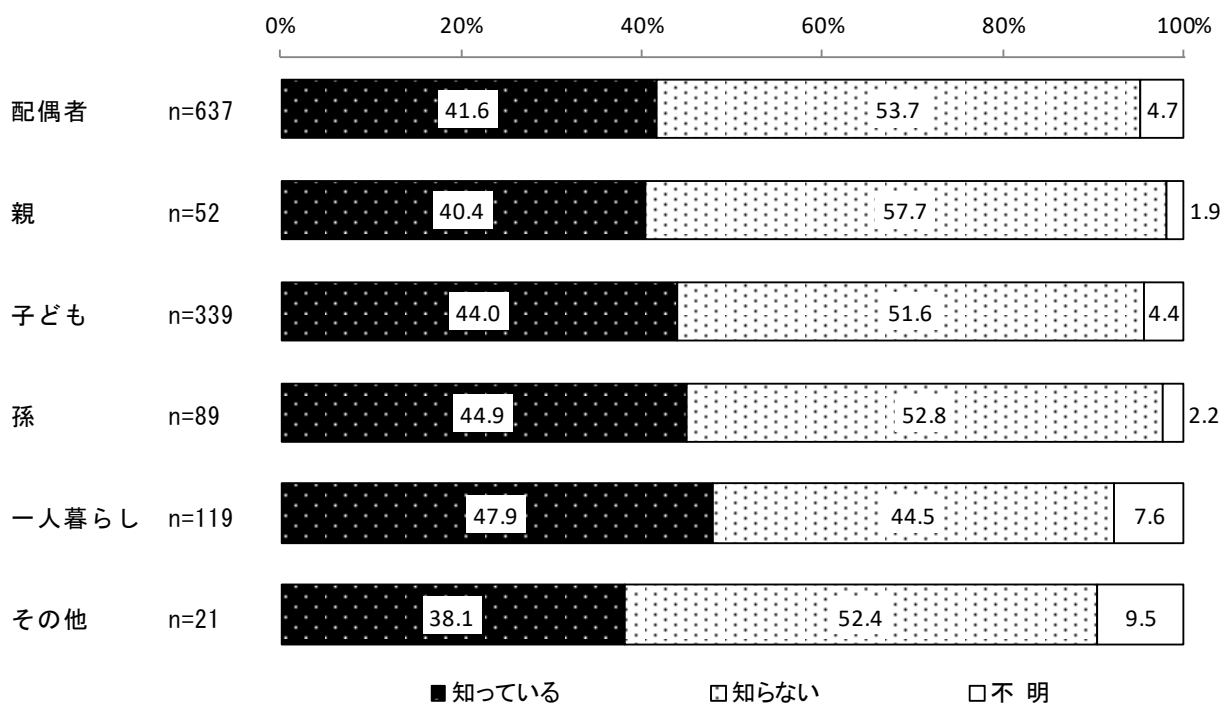
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は桐生圏域で57.6%と半数を超えている。



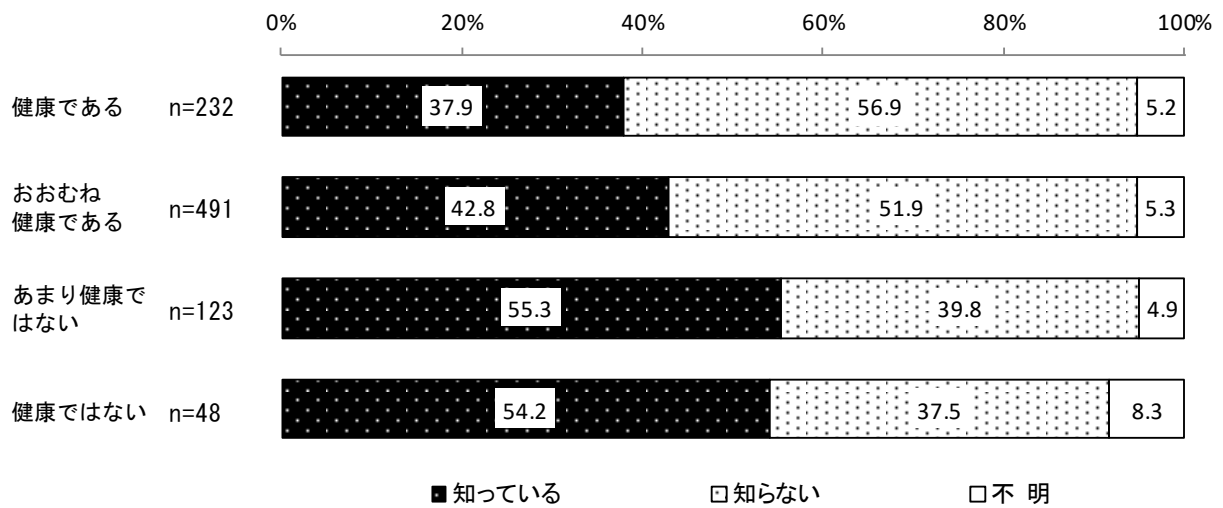
性別でみると、「知っている」は女性（46.5%）が男性（40.6%）を5.9ポイント上回っている。



年齢別でみると、「知っている」は80～84歳で50.0%となっている。



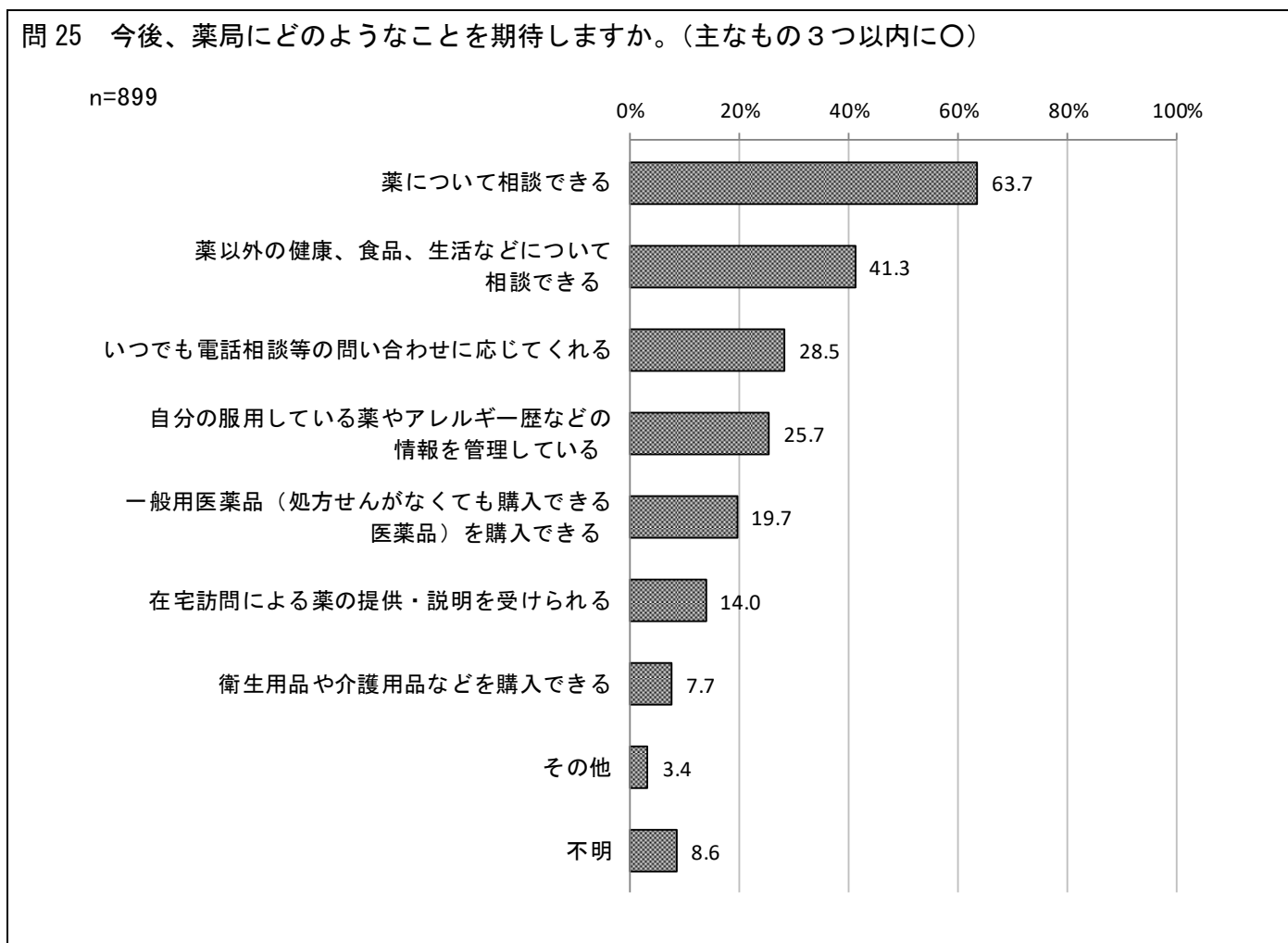
同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



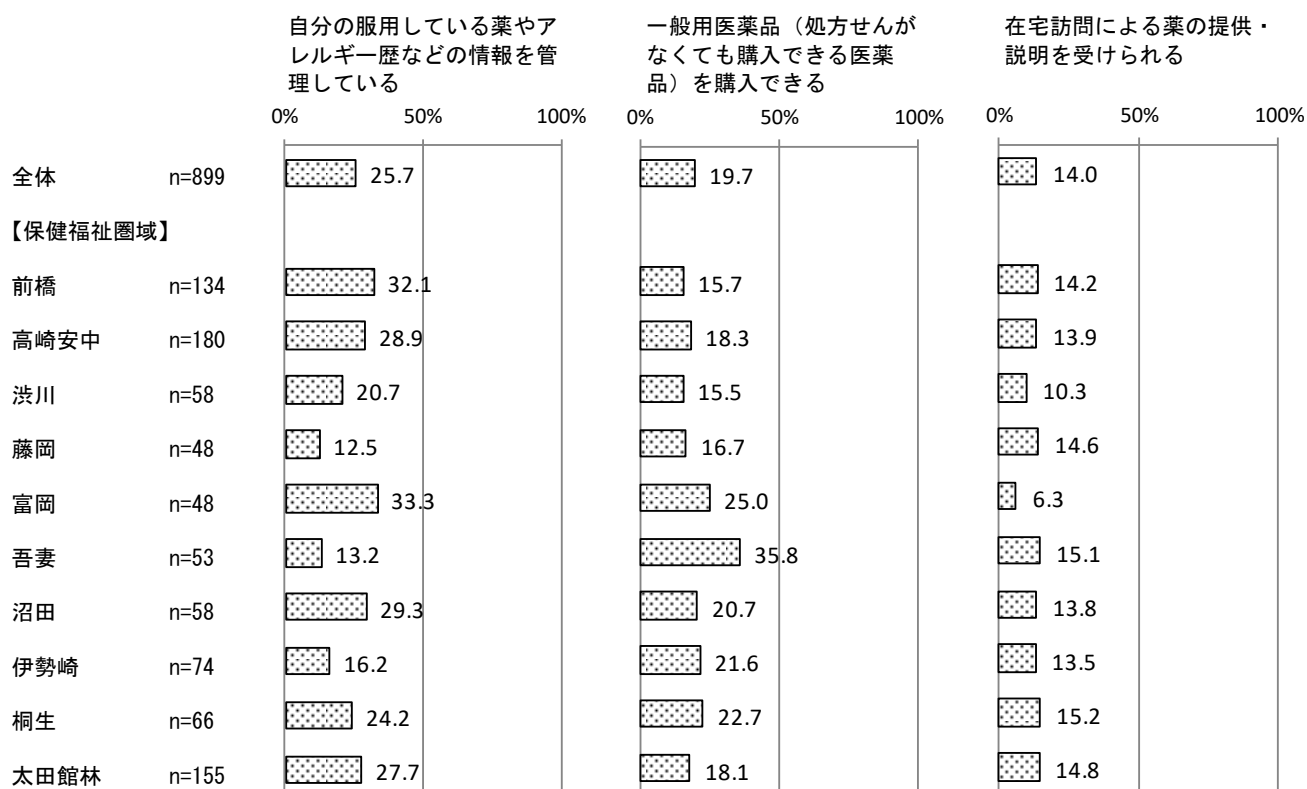
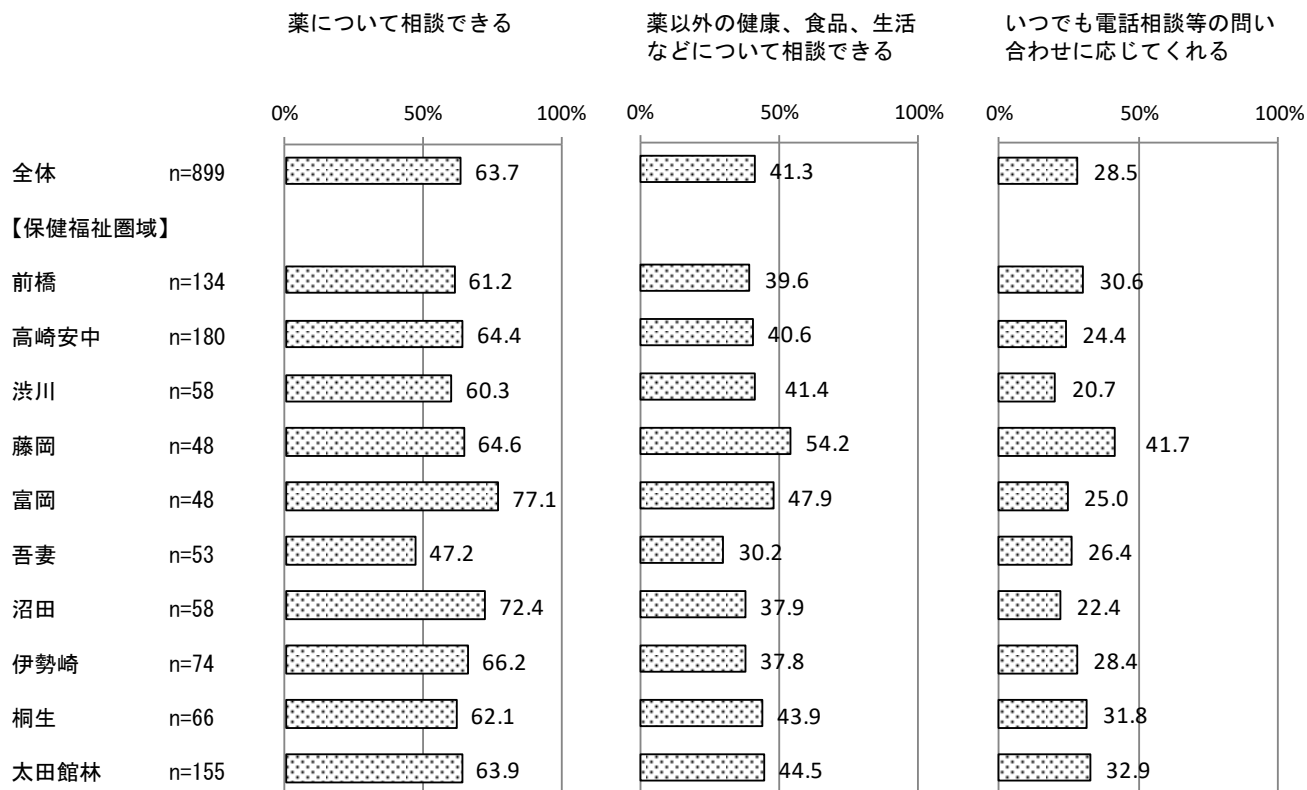
健康状態別でみると、「知っている」はあまり健康ではない方で 55.3%、健康ではない方で 54.2% と半数を超えている。

(2) 今後、薬局に期待すること

◎ 「薬について相談できる」が6割前半



今後、薬局に期待することは、「薬について相談できる」が63.7%で最も高く、次いで「薬以外の健康、食品、生活などについて相談できる」(41.3%)、「いつでも電話相談等の問い合わせに応じてくれる」(28.5%)となっている。

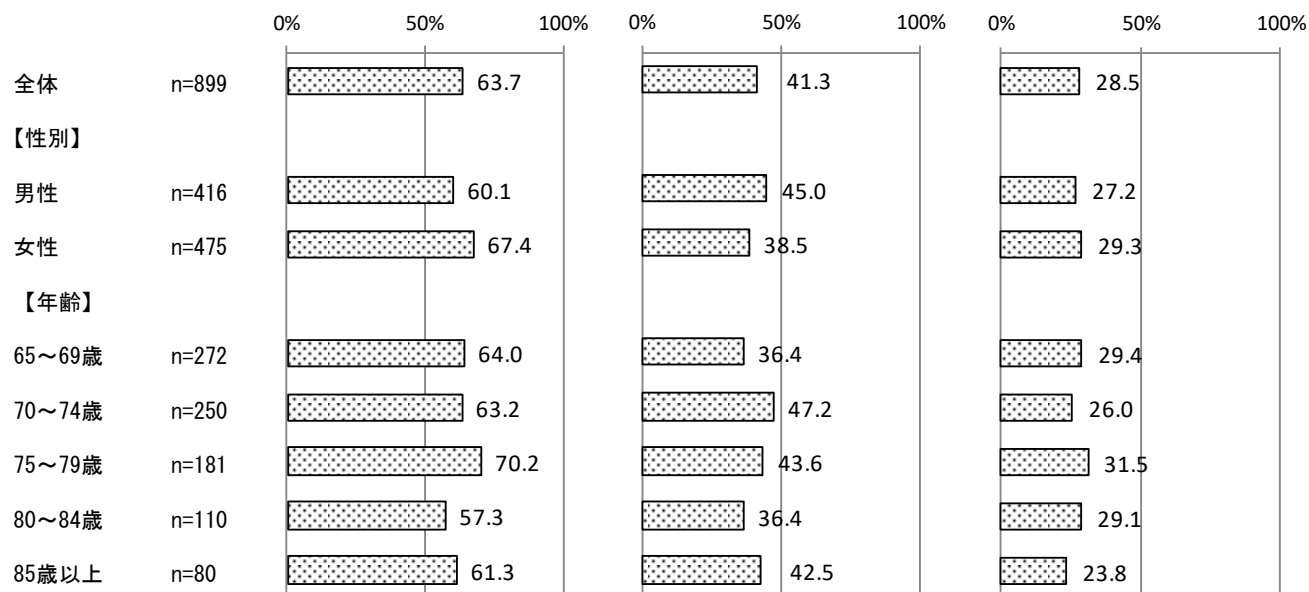


上位6項目について、保健福祉圏域別でみると、「薬について相談できる」は吾妻圏域が47.2%で、その他のすべての圏域では半数を超えている。

「薬以外の健康、食品、生活などについて相談できる」、「いつでも電話相談などの問合せに応じてくれる」は藤岡圏域でそれぞれ54.2%、41.7%となっている。

「一般用医薬品（処方せんがなくても購入できる医薬品）を購入できる」は吾妻圏域で35.8%となっている。

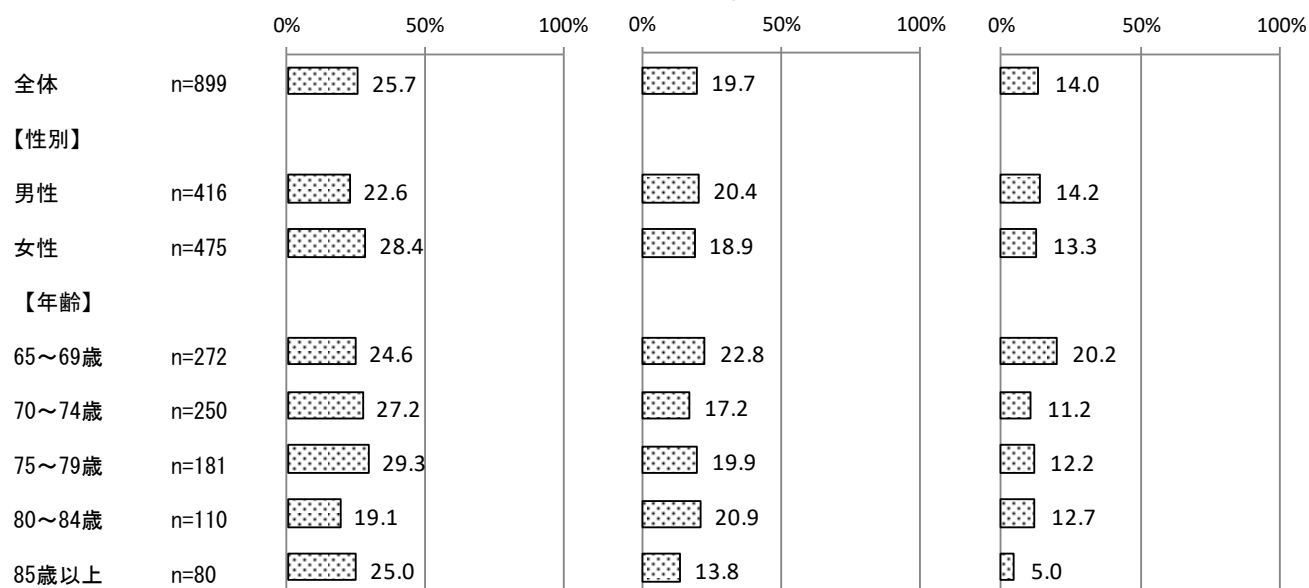
薬について相談できる

薬以外の健康、食品、生活
などについて相談できるいつでも電話相談等の問い
合わせに応じてくれる

自分の服用している薬やアレルギー歴などの情報を管理している

一般用医薬品（処方せんがなくても購入できる医薬品）を購入できる

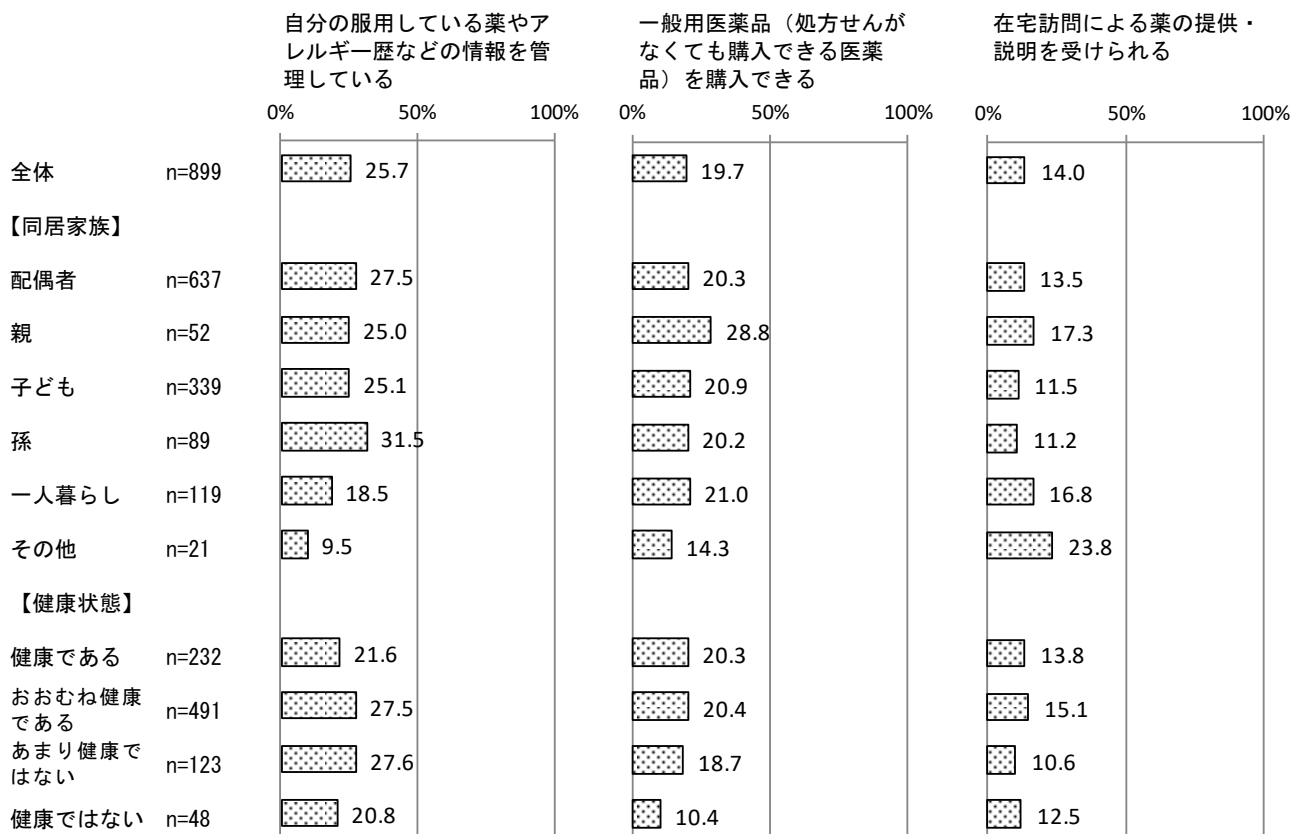
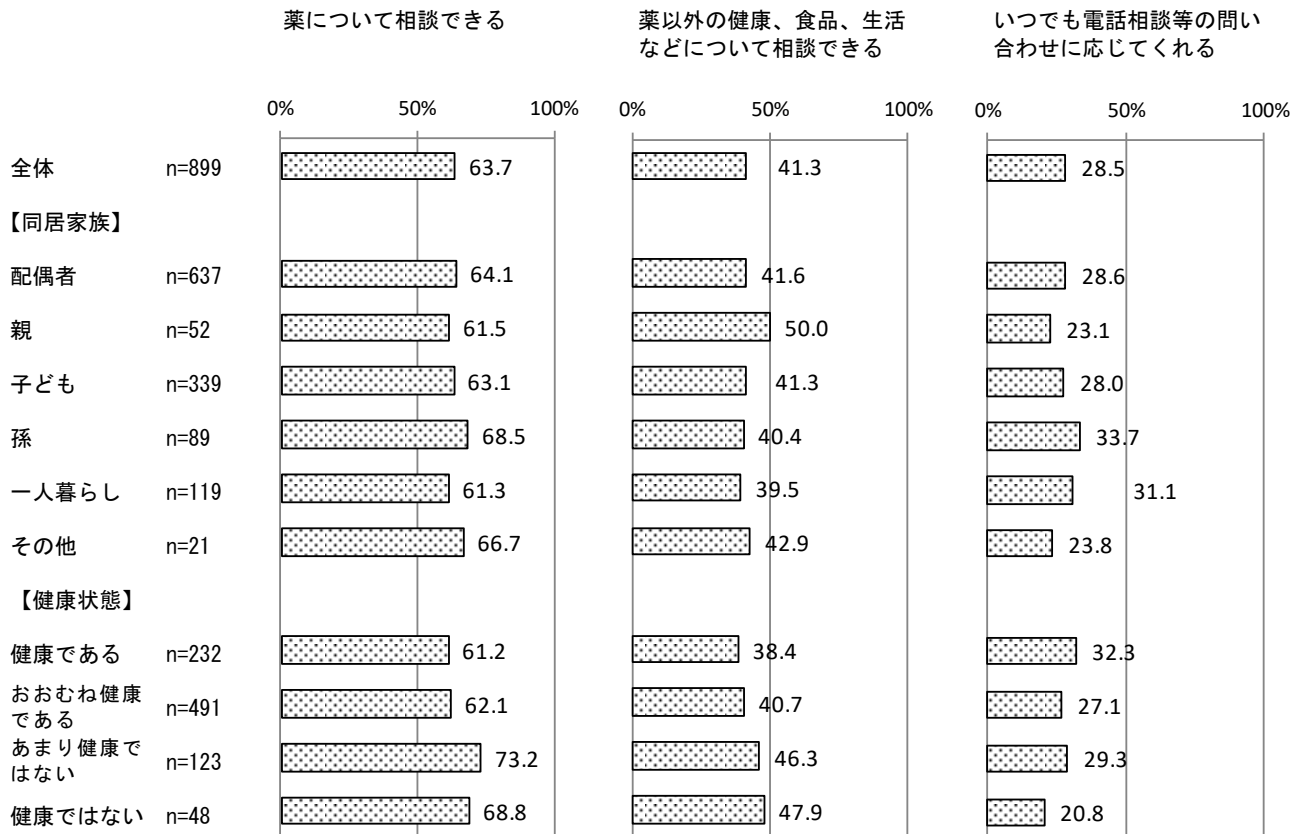
在宅訪問による薬の提供・説明を受けられる



性別で見ると、「薬について相談できる」は女性（67.4%）が男性（60.1%）を7.3ポイント上回っている。

「薬以外の健康、食品、生活などについて相談できる」は男性（45.0%）が女性（38.5%）を6.5ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「薬について相談できる」はすべての年齢で半数を超えている。



同居家族別でみると、「薬以外の健康、食品、生活などについて相談できる」は親と同居している方で50.0%となっている。

「自分の服用している薬やアレルギー歴などの情報を管理している」は孫と同居されている方で31.5%となっている。

健康状態別でみると、「薬以外の健康、食品、生活などについて相談できる」は健康状態が良好であるにつれ低くなっている。

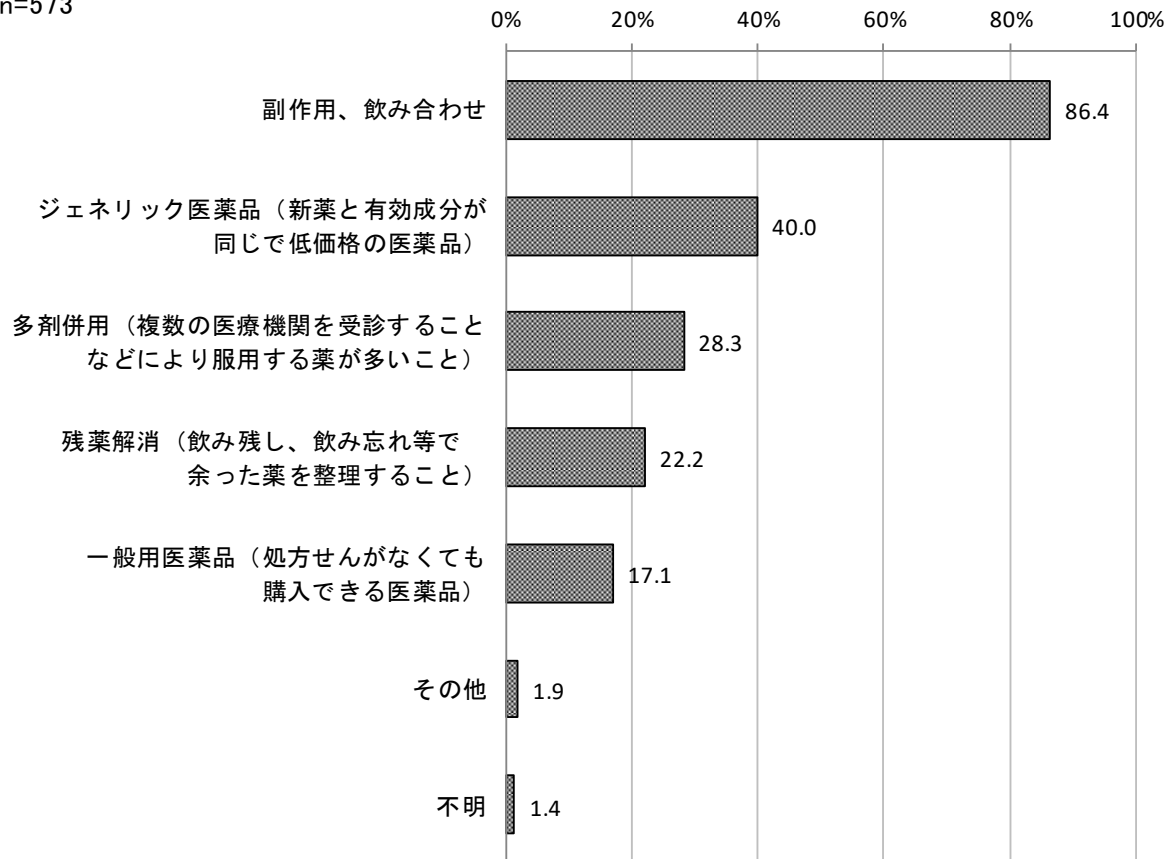
(3) 薬について相談したいこと

◎ 「副作用、飲み合わせ」が8割半ば

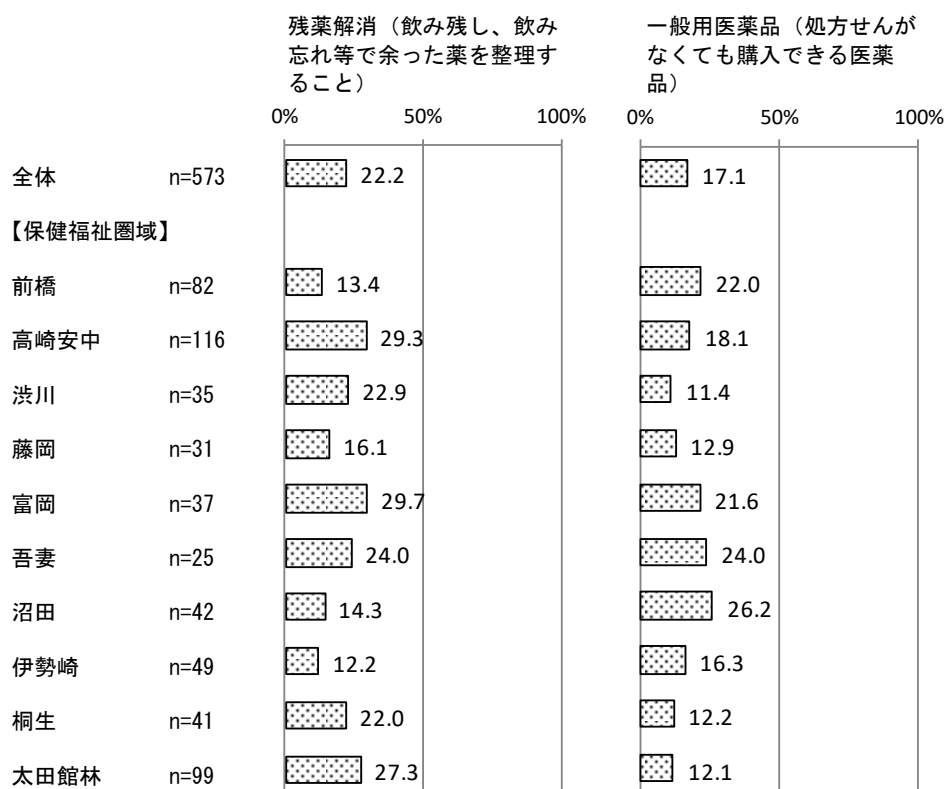
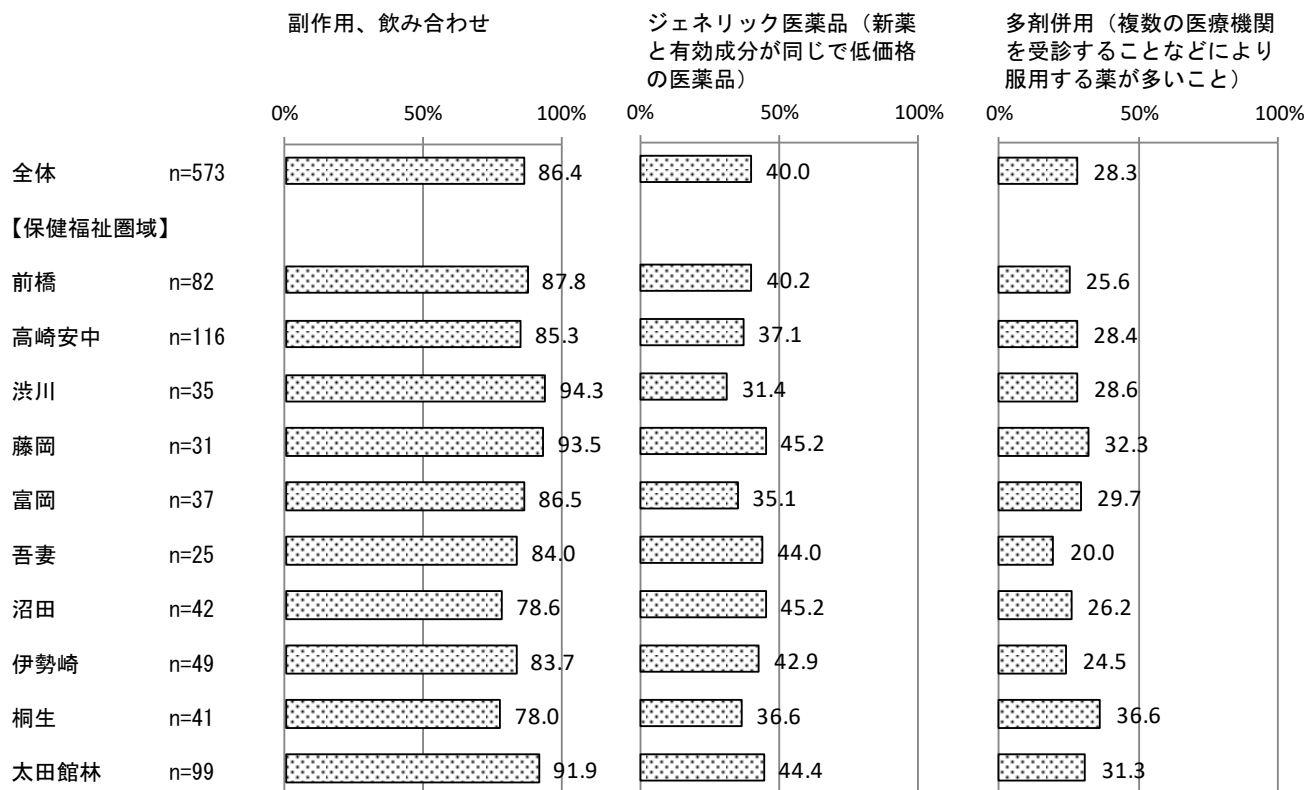
【問 25 で 1 と回答】

問 25-2 薬のどんなことをお聞きしたいですか。(主なもの3つ以内に○)

n=573



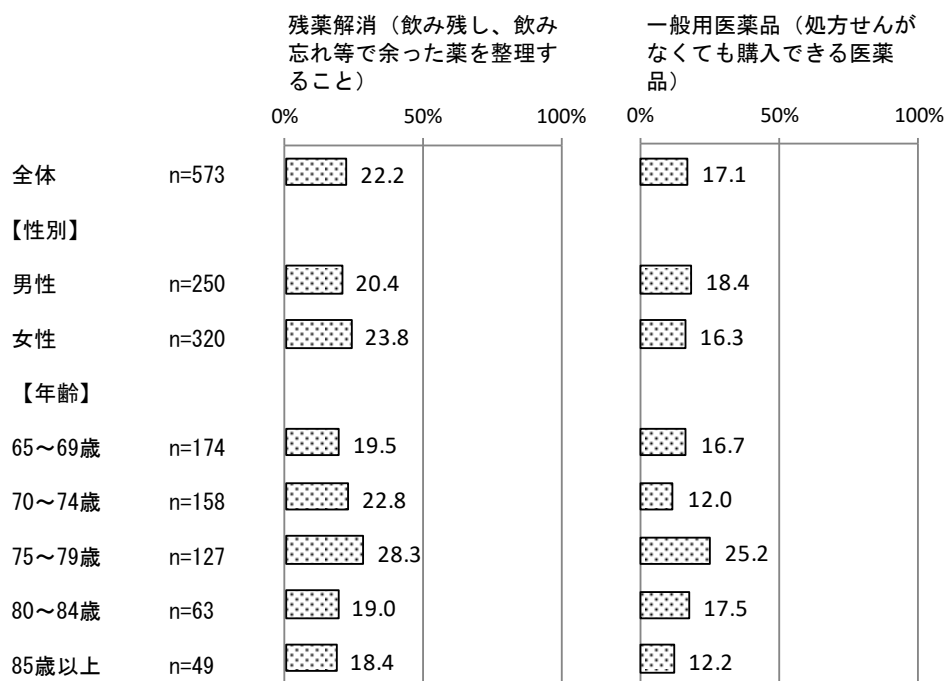
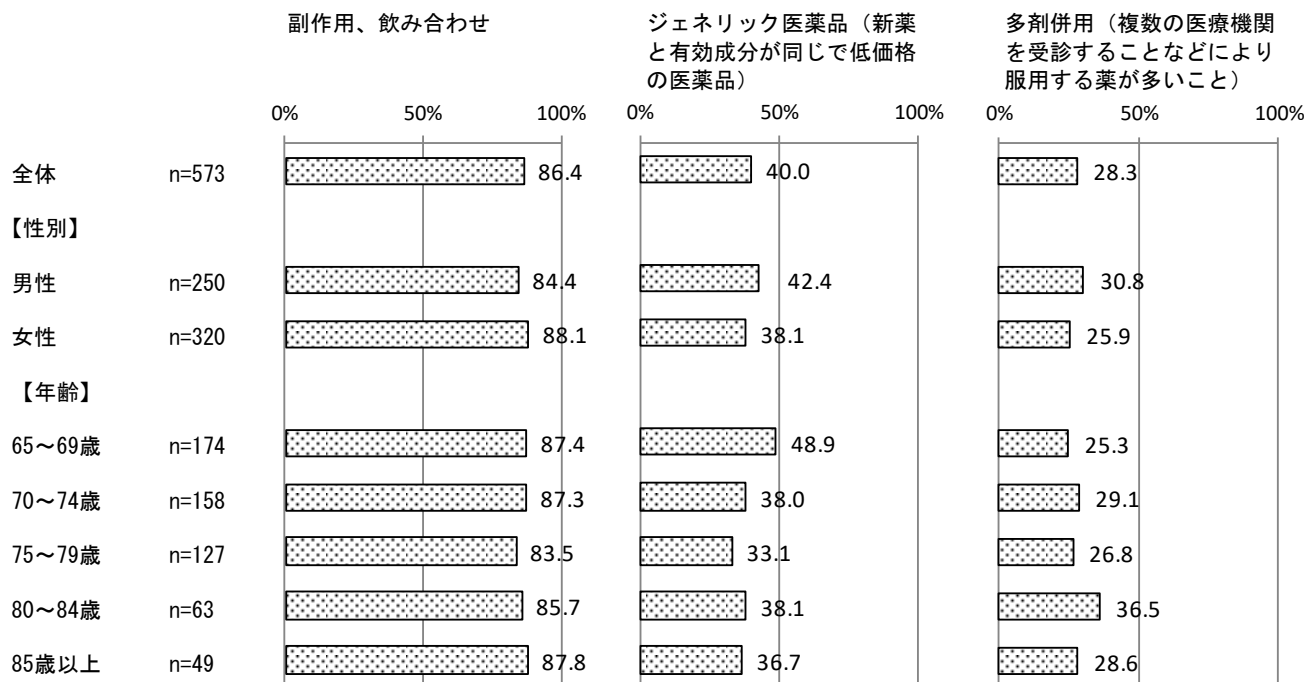
薬について相談したいことは、「副作用、飲み合わせ」が 86.4%で最も高く、次いで「ジェネリック医薬品 (新薬と有効成分が同じで低価格の医薬品)」(40.0%)、「多剤併用 (複数の医療機関を受診することなどにより服用する薬が多いこと)」(28.3%) となっている。



保健福祉圏域別でみると、「副作用、飲み合わせ」はすべての圏域で7割以上となっている。

「多剤併用（複数の医療機関を受診することなどにより服用する薬が多いこと）」は桐生圏域が36.6%と高くなっている。

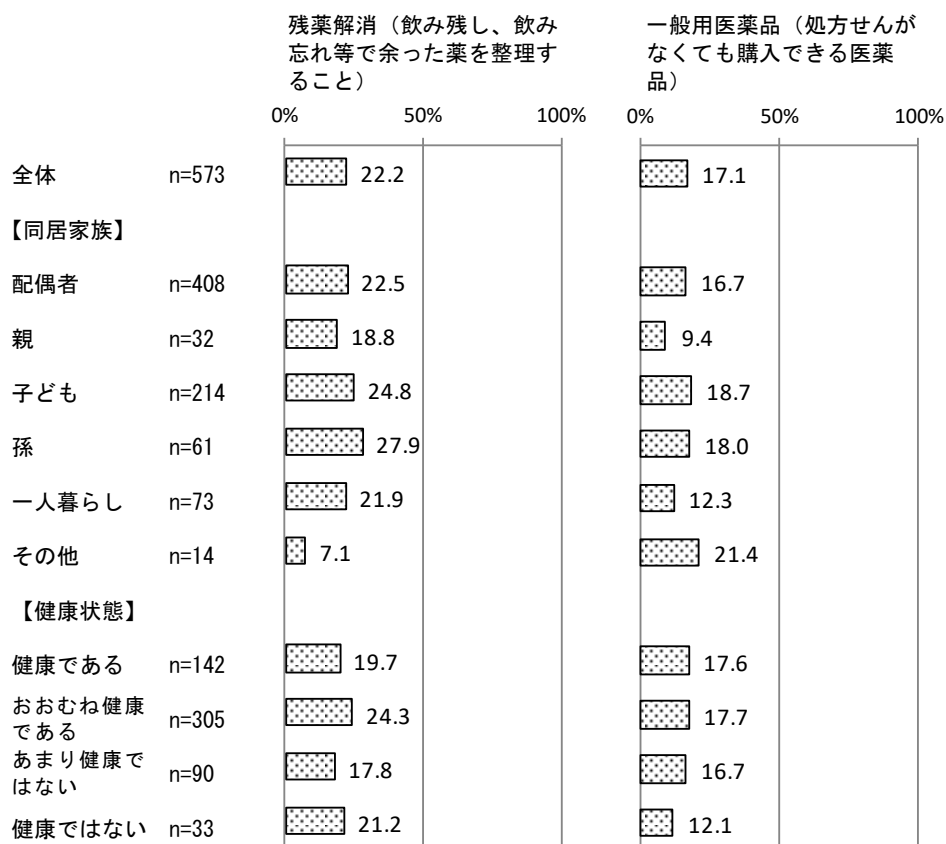
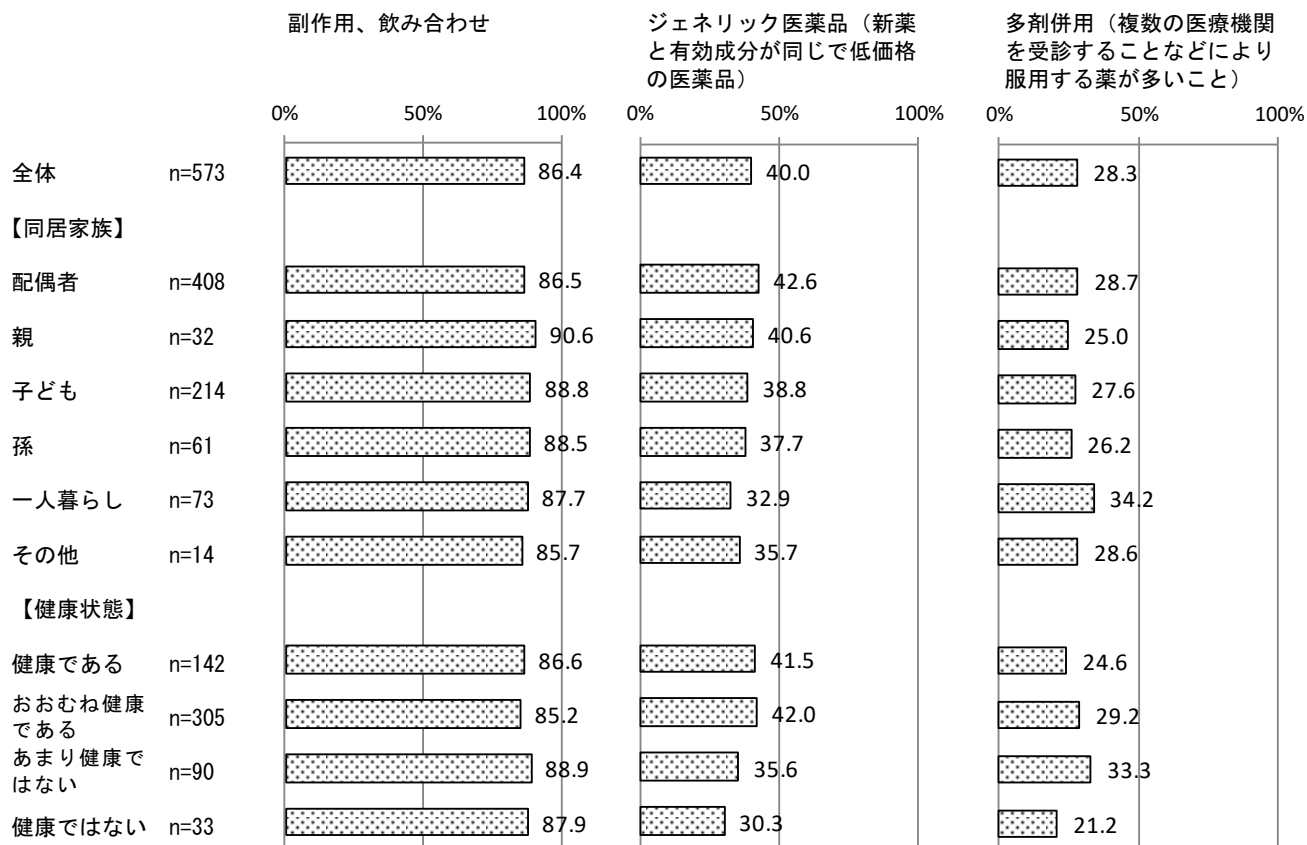
「残薬解消（飲み残し、飲み忘れ等で余った薬を整理すること）」は富岡圏域で29.7%、高崎安中圏域で29.3%となっている。



性別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

年齢別でみると、「ジェネリック医薬品 (新薬と有効成分が同じで低価格の医薬品)」が 65~69 歳で 48.9% と高くなっている。

「多剤併用 (複数の医療機関を受診することなどにより服用する薬が多いこと)」は 80~84 歳で 36.5% と高くなっている。



同居家族別でみると、「多剤併用（複数の医療機関を受診することなどにより服用する薬が多いこと）」は一人暮らしの方で34.2%と高くなっている。

健康状態別でみると、「多剤併用（複数の医療機関を受診することなどにより服用する薬が多いこと）」はあまり健康ではない方で33.3%と3割台となっている。

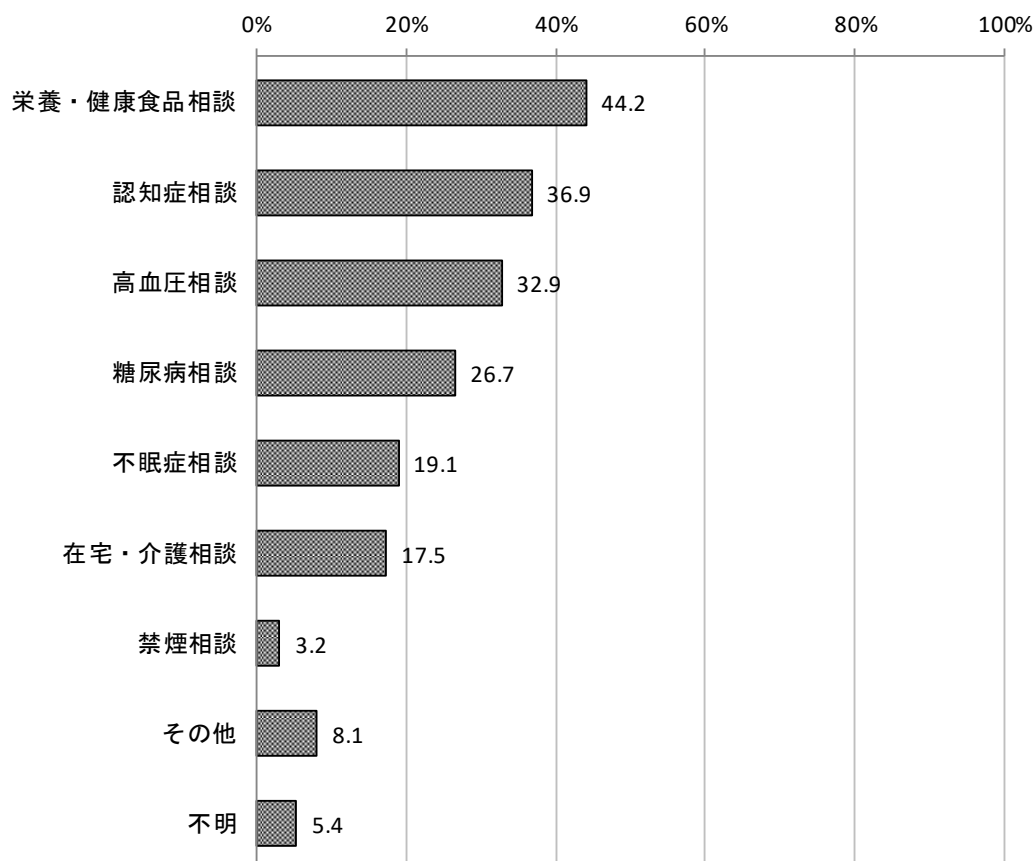
(4) 薬以外の健康、食品、生活などについて相談したいこと

◎ 「栄養・健康食品相談」が4割半ば

【問 25 で 2 と回答】

問 25-3 薬以外の健康、食品、生活に関する事で、今後、薬局にぜひ対応してもらいたい相談内容は何ですか。(3つ以内に○)

n=371

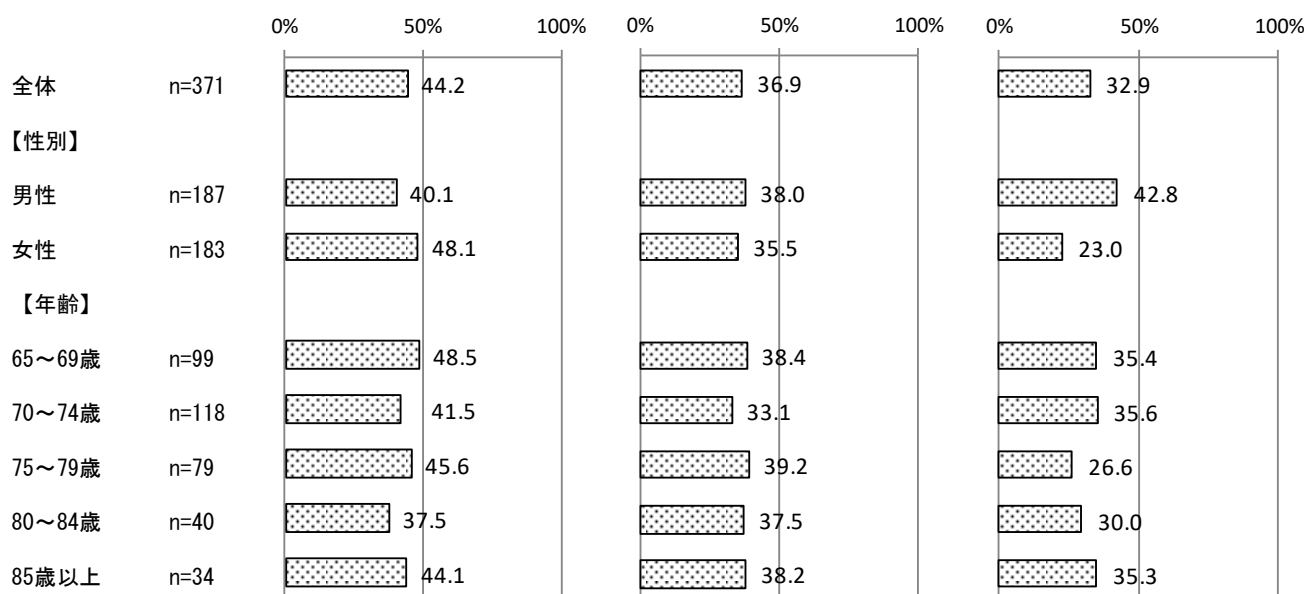


薬以外の健康、食品、生活などについて相談したいことは、「栄養・健康食品相談」が44.2%で最も高く、次いで「認知症相談」(36.9%)、「高血圧相談」(32.9%)となっている。

栄養・健康食品相談

認知症相談

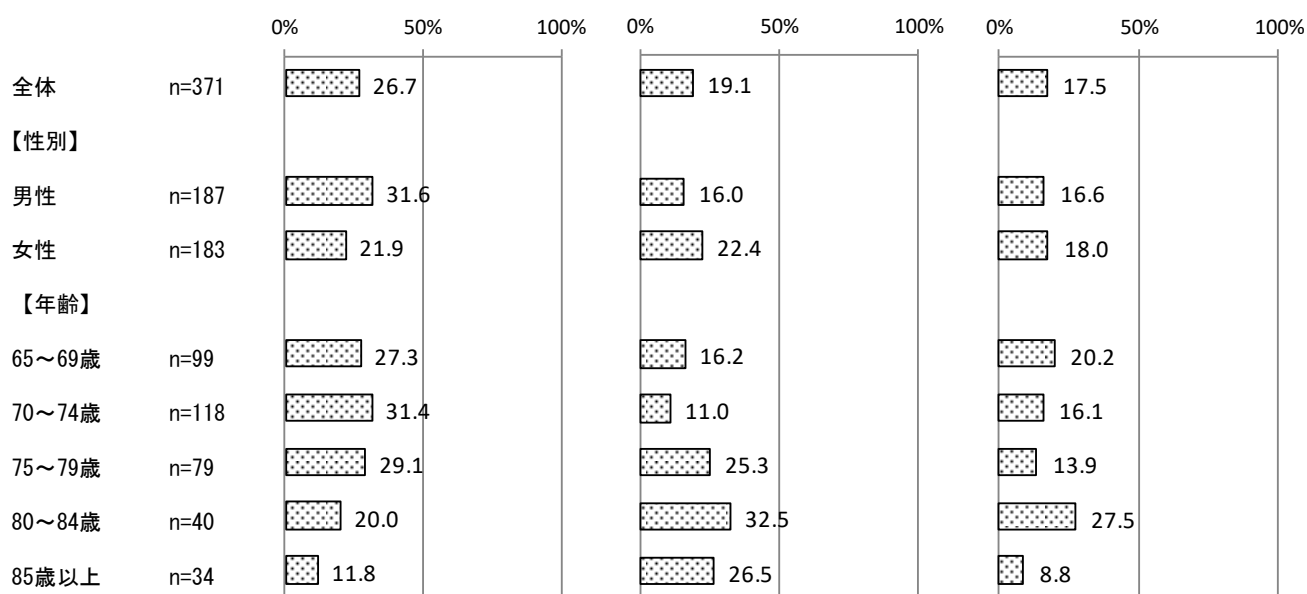
高血圧相談



糖尿病相談

不眠症相談

在宅・介護相談



上位6項目について、性別でみると「高血圧相談」、「糖尿病相談」は男性が女性をそれぞれ19.8ポイント、9.7ポイント上回っている。

「栄養・健康食品相談」、「不眠症相談」は女性が男性をそれぞれ8.0ポイント、6.4ポイント上回っている。

年齢別でみると、「糖尿病相談」は80歳以上では2割以下と低くなっている。

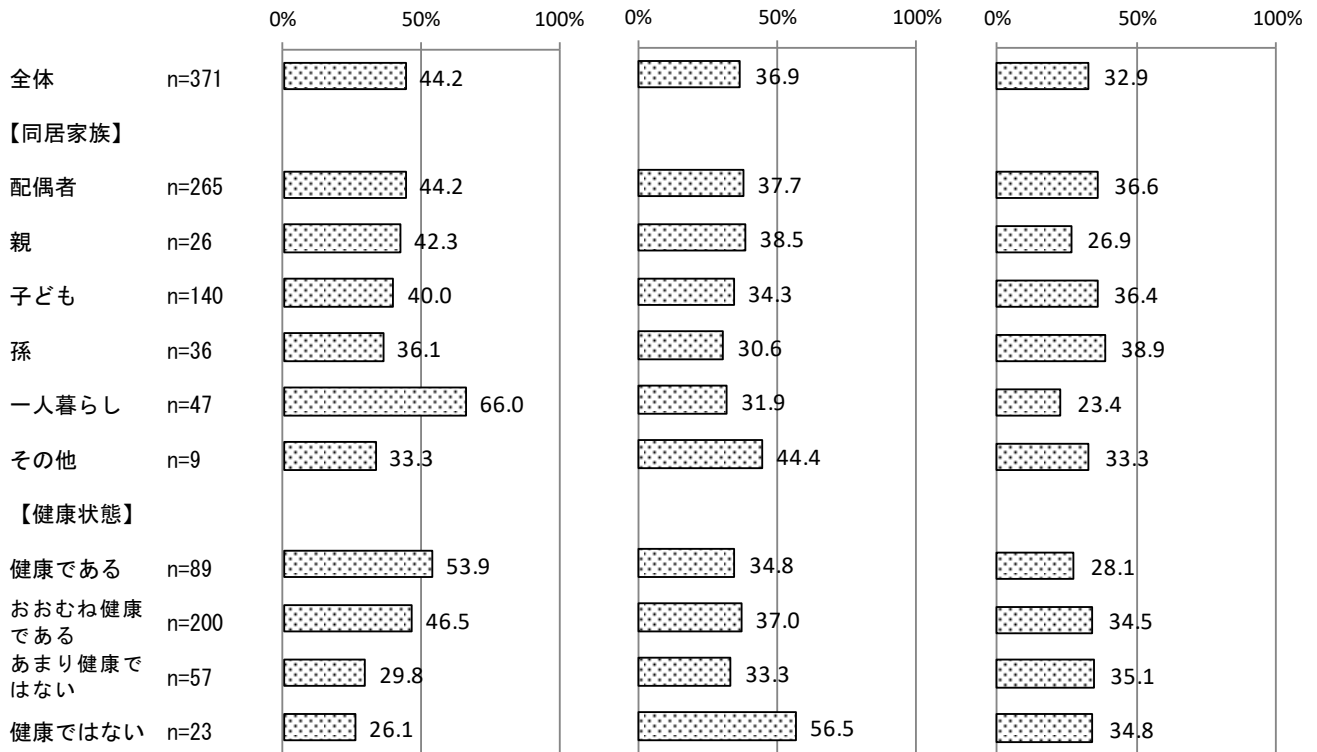
「不眠症相談」は80～84歳で3割前半、75～79歳、85歳以上で2割半ばと高くなっている。

「在宅・介護相談」は80～84歳で27.5%と高くなっている。

栄養・健康食品相談

認知症相談

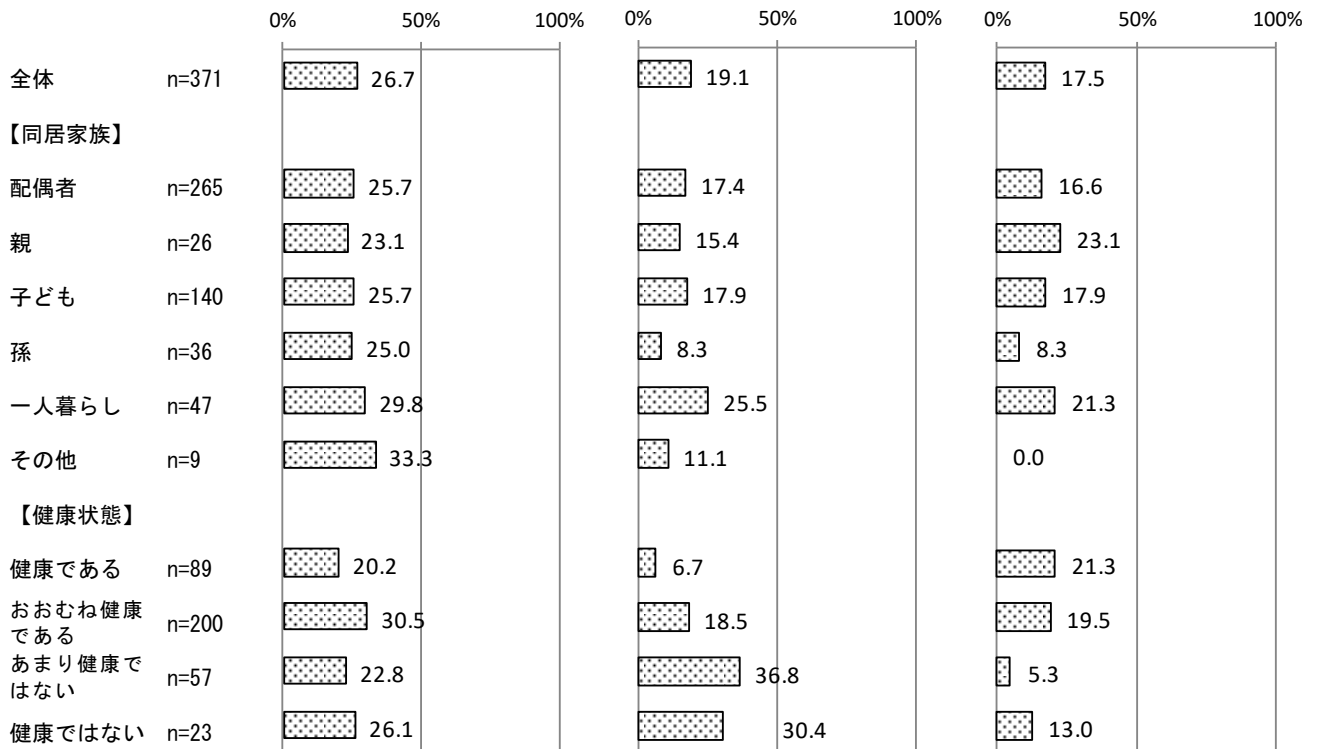
高血圧相談



糖尿病相談

不眠症相談

在宅・介護相談



同居家族別でみると、「栄養・健康食品相談」は一人暮らしの方で66.0%と半数を超えている。また、「不眠症相談」は一人暮らしの方で25.5%と高くなっている。

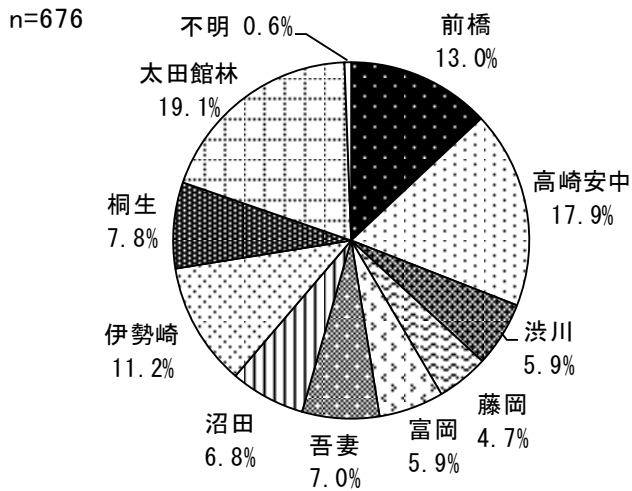
健康状態別でみると、「栄養・健康食品相談」は健康状態が良好であるにつれ高く、健康である方で53.9%と半数を超えている。

「不眠症相談」はあまり健康ではない、健康ではない方で3割台と高くなっている。

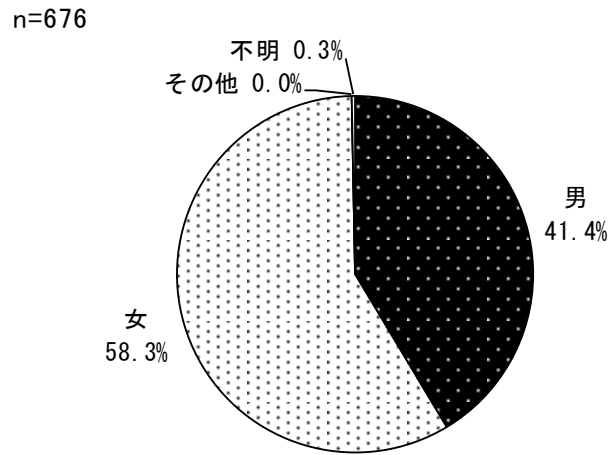
Ⅲ 調査結果（介護家族等に関する県民意識調査）

1 属性

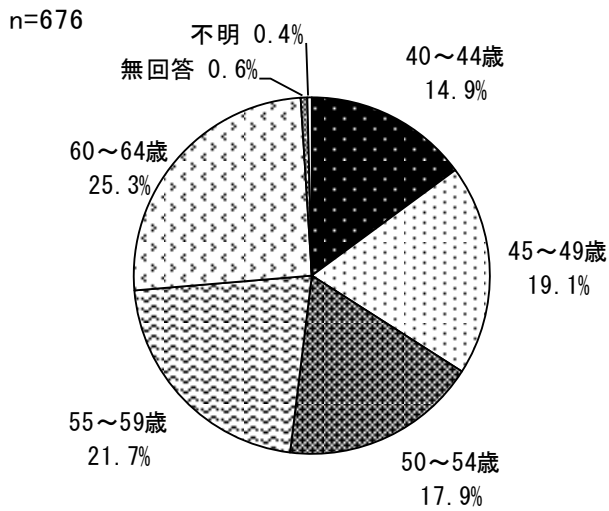
(1) 保健福祉圏域



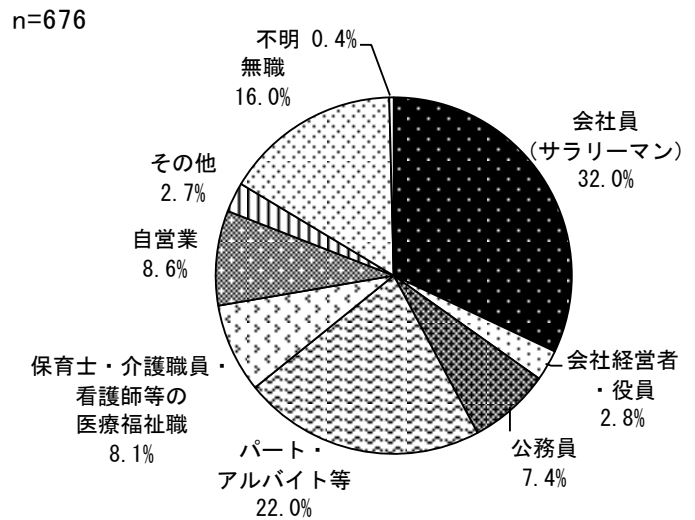
(2) 性別



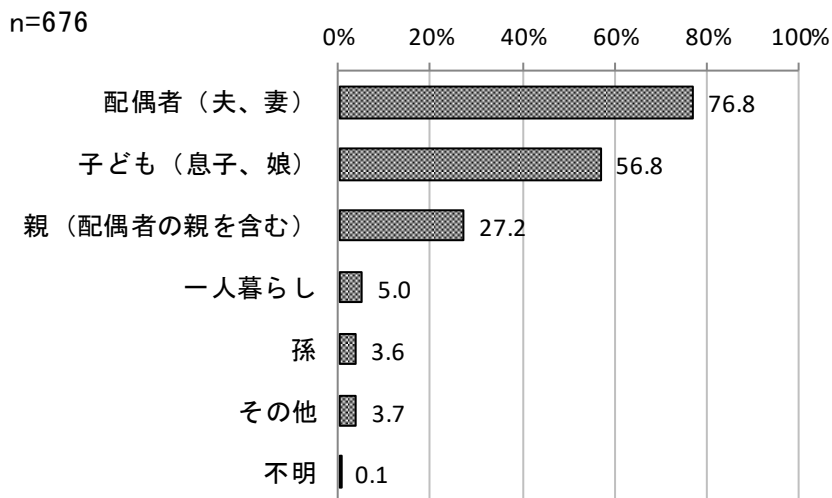
(3) 年齢



(4) 職業



(5) 同居している家族 (当てはまるもの全て)



※複数回答による集計

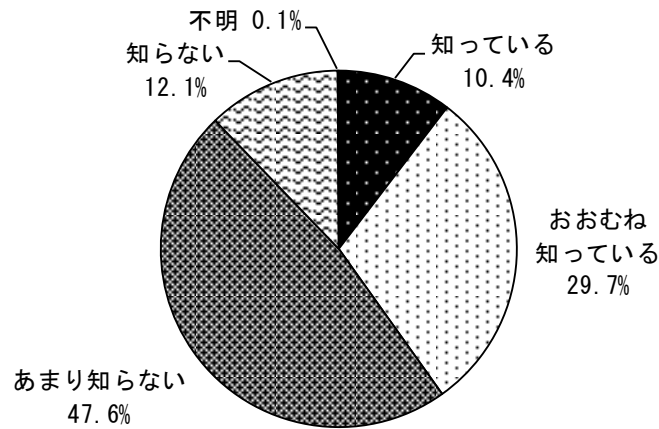
2 介護保険制度について

(1) 介護についての知識や介護保険の仕組みの認知度

◎ <知っている>は約4割

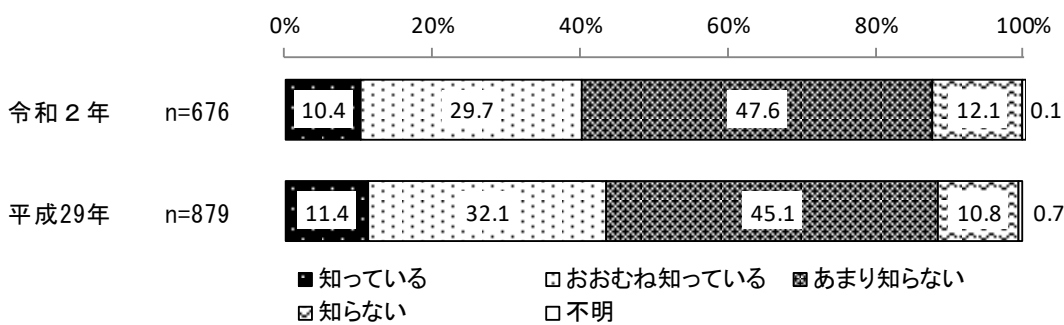
問6 介護についての知識や介護保険の仕組みを知っていますか。(1つだけに○)

n=676

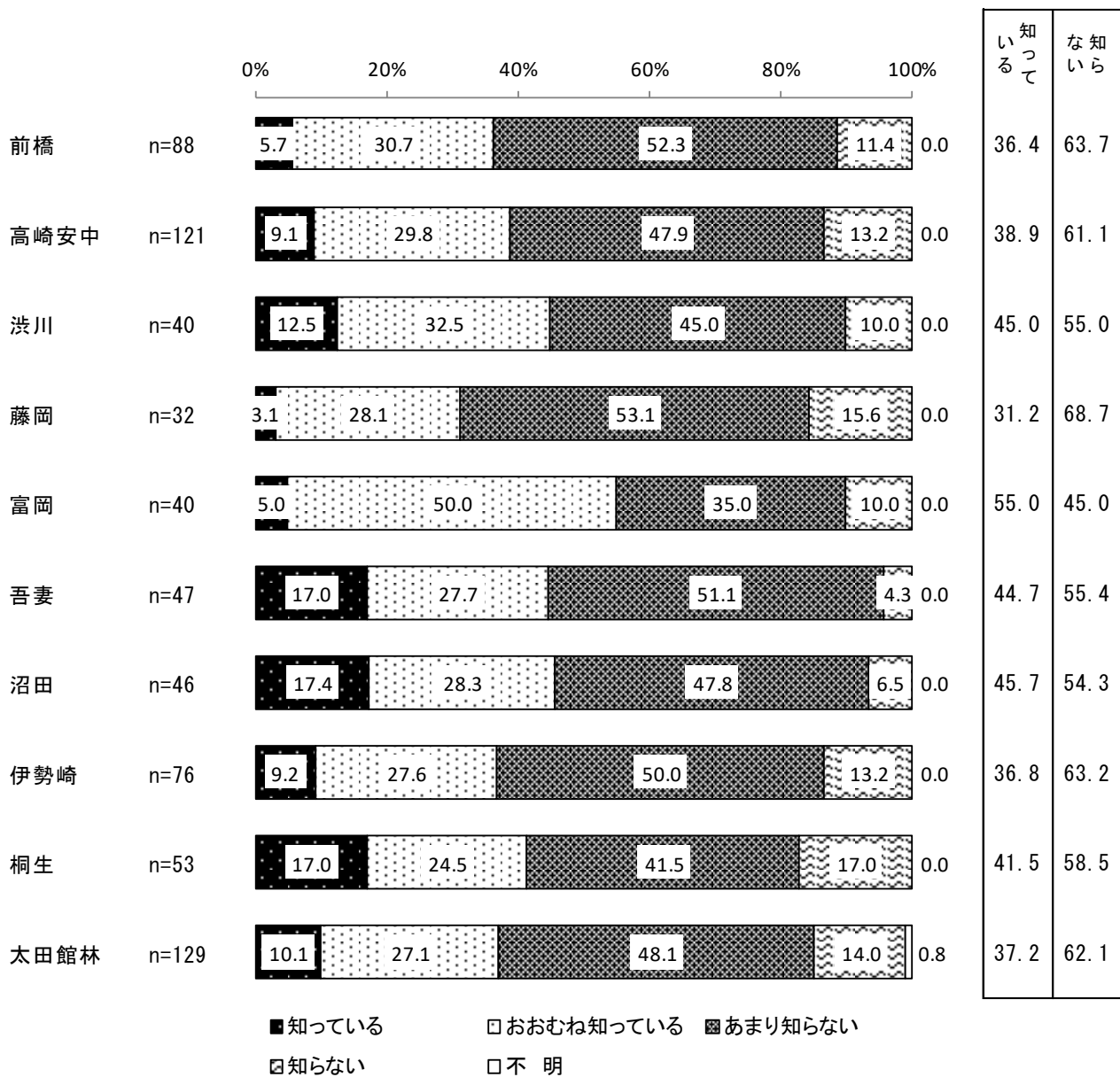


介護についての知識や介護保険の仕組みの認知度は、「知っている」(10.4%)、「おおむね知っている」(29.7%)を合わせた<知っている>は40.1%となっている。一方、「あまり知らない」(47.6%)、「知らない」(12.1%)を合わせた<知らない>は59.7%となっている。

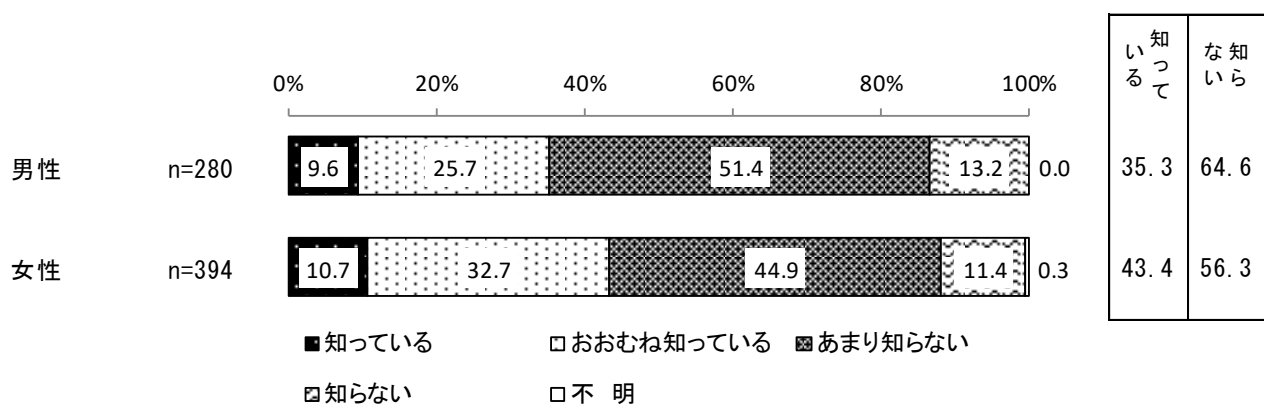
<経年比較>



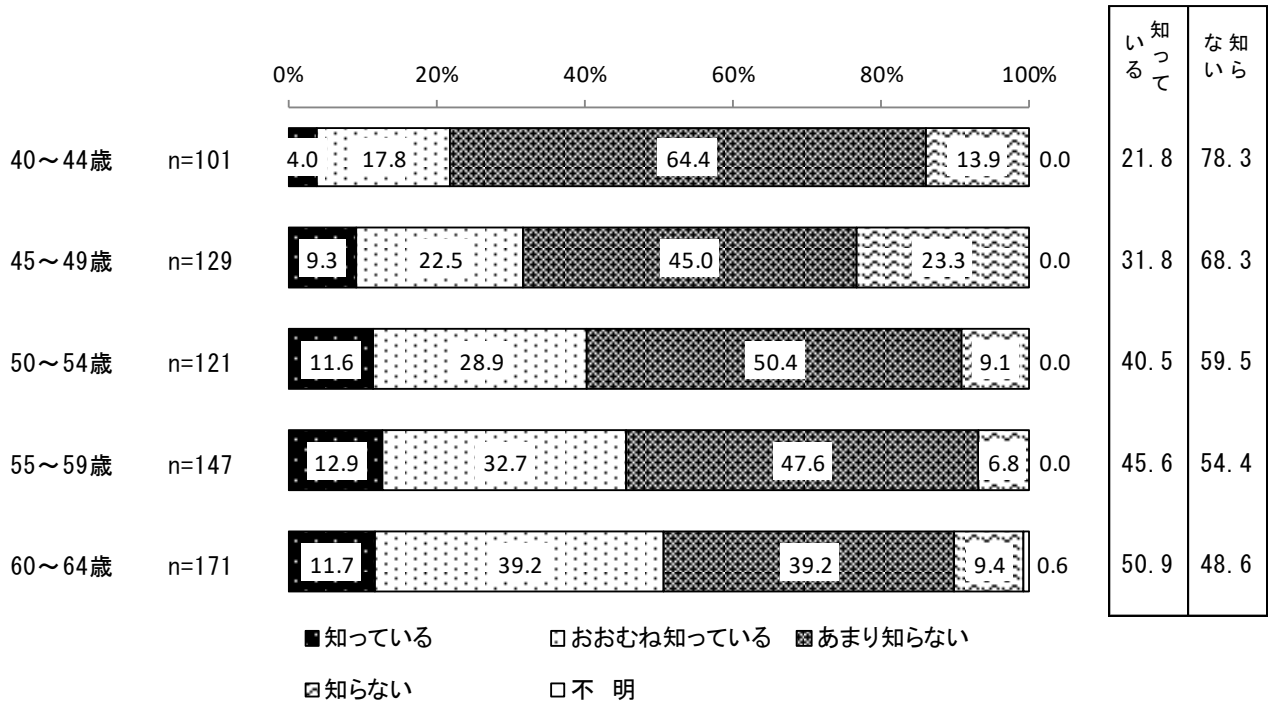
知っている	知らない
40.1	59.7
43.5	55.9



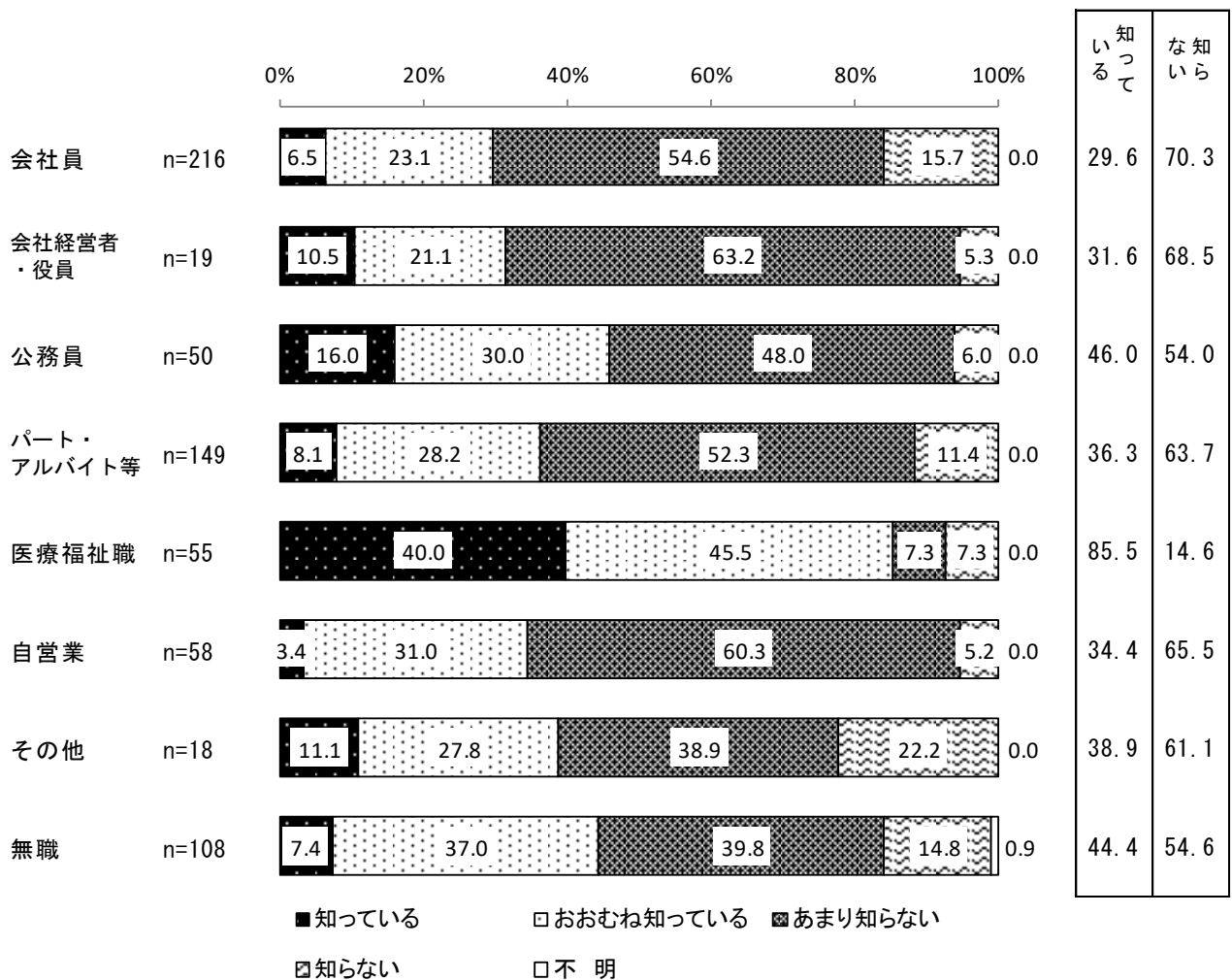
保健福祉圏域別でみると、＜知っている＞は富岡地域で55.0%と半数を超えている。



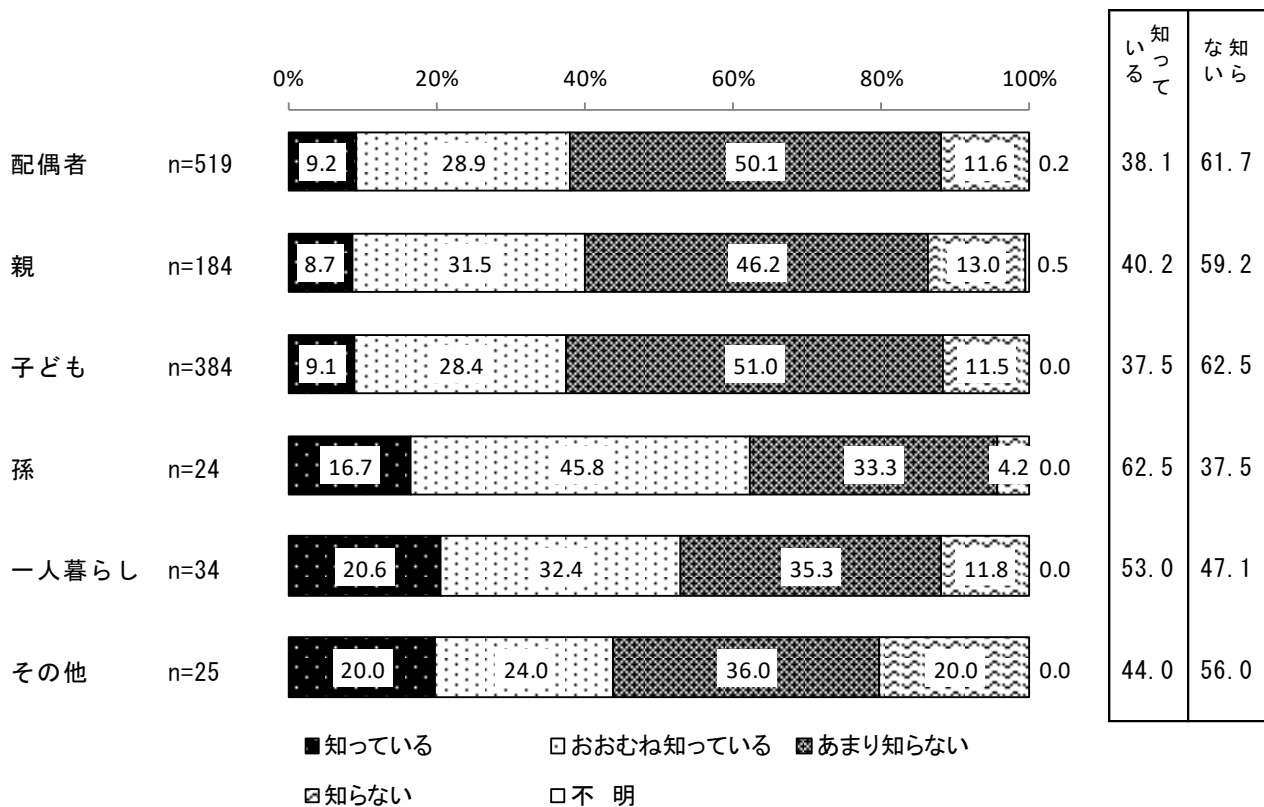
性別でみると、＜知っている＞は女性（43.4%）が男性（35.3%）を8.1ポイント上回っている。



年齢別で見ると、＜知っている＞は年齢が上がるにつれ高くなっており、60歳～64歳（50.9%）で約5割となっている。



職業別で見ると、＜知っている＞は医療福祉職で85.5%となっている。



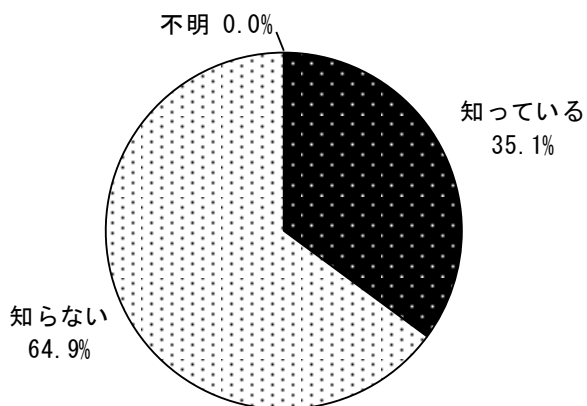
同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

(2) 介護保険料について

◎ 「知っている」は3割半ば

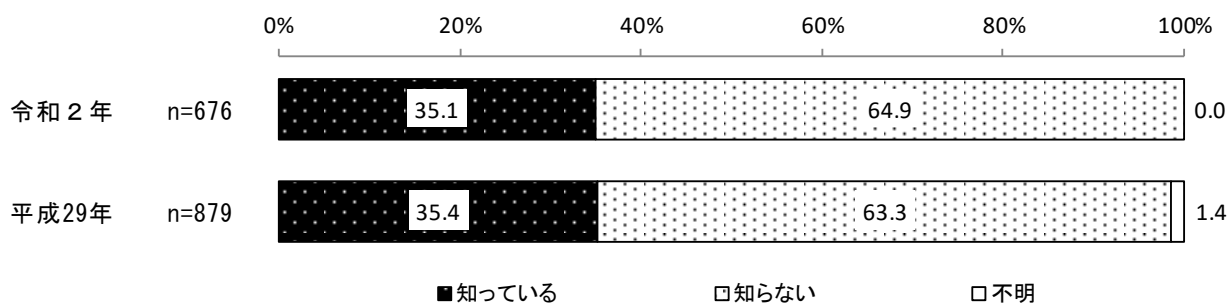
問7 あなたの介護保険料（医療保険の介護分）が概ねいくらか知っていますか。（1つだけに○）

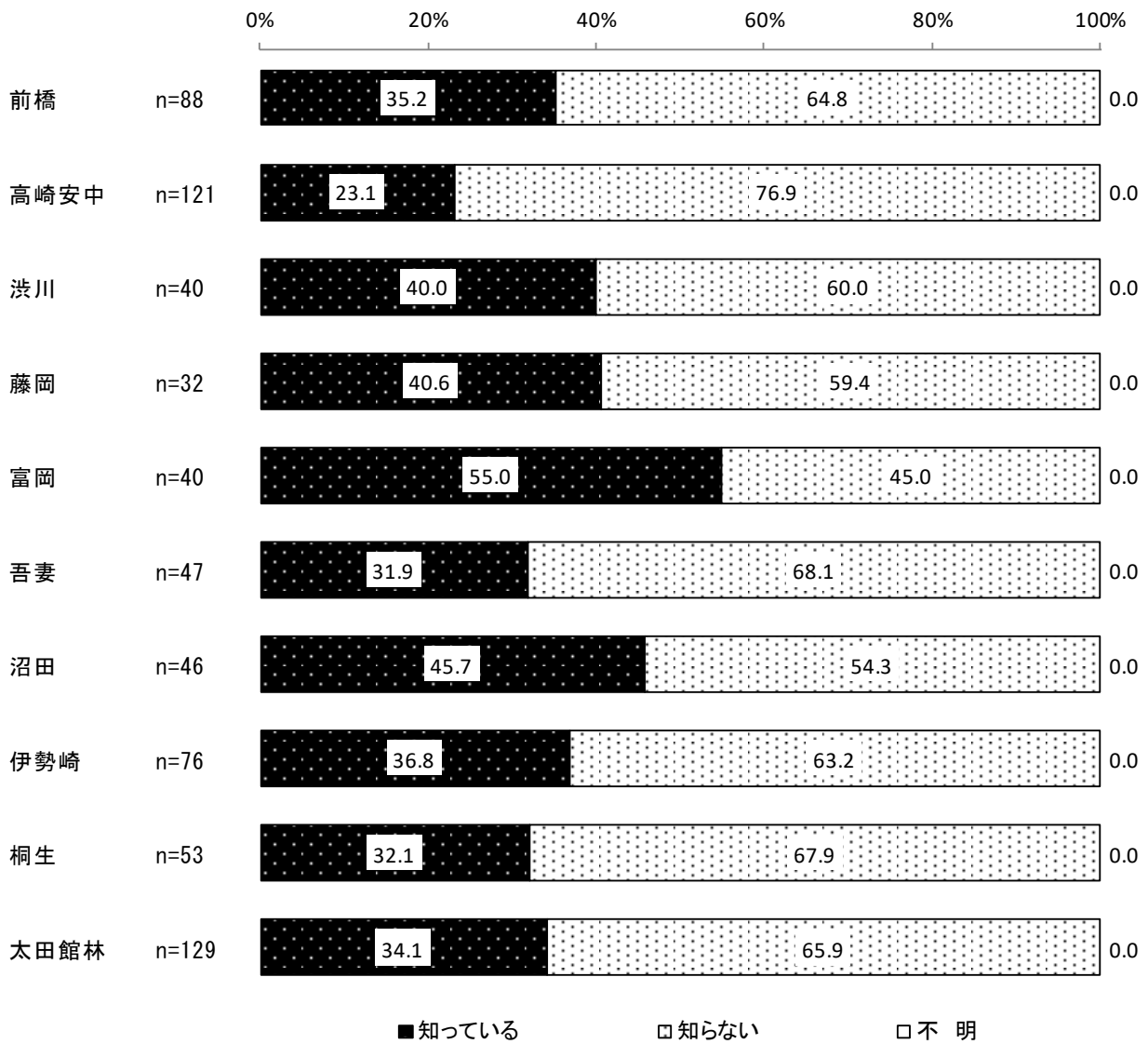
n=676



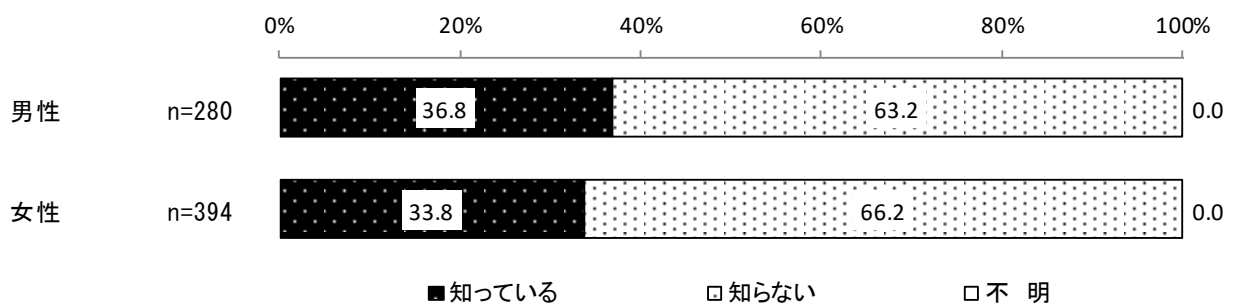
介護保険料について、ご自身の金額を「知っている」が 35.1%、「知らない」が 64.9%となっている。

<経年比較>

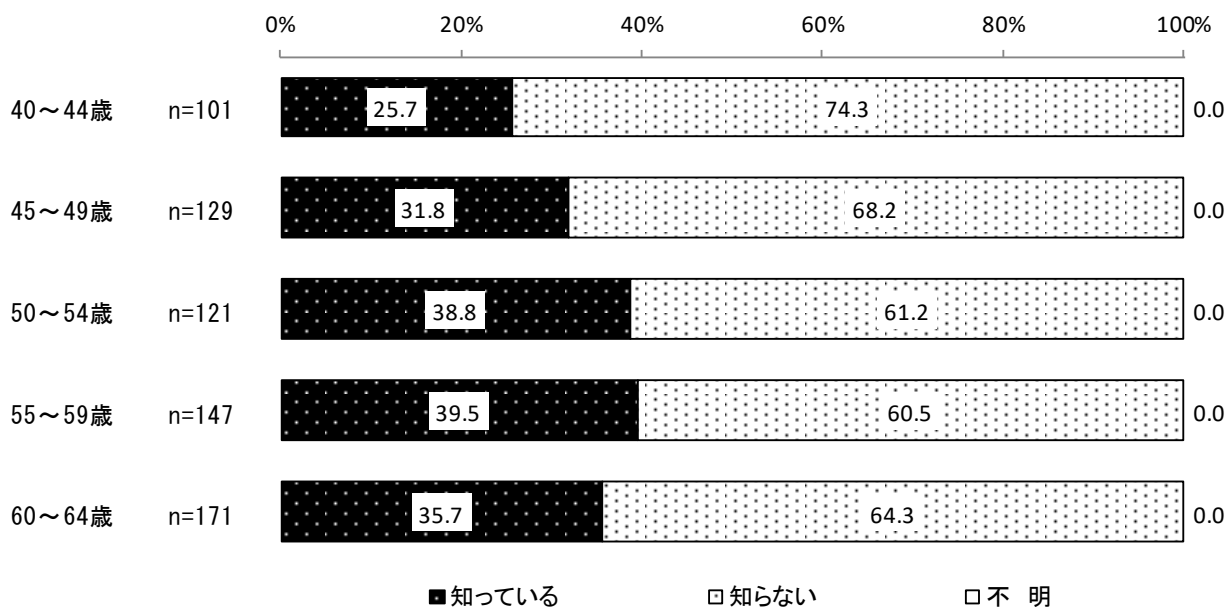




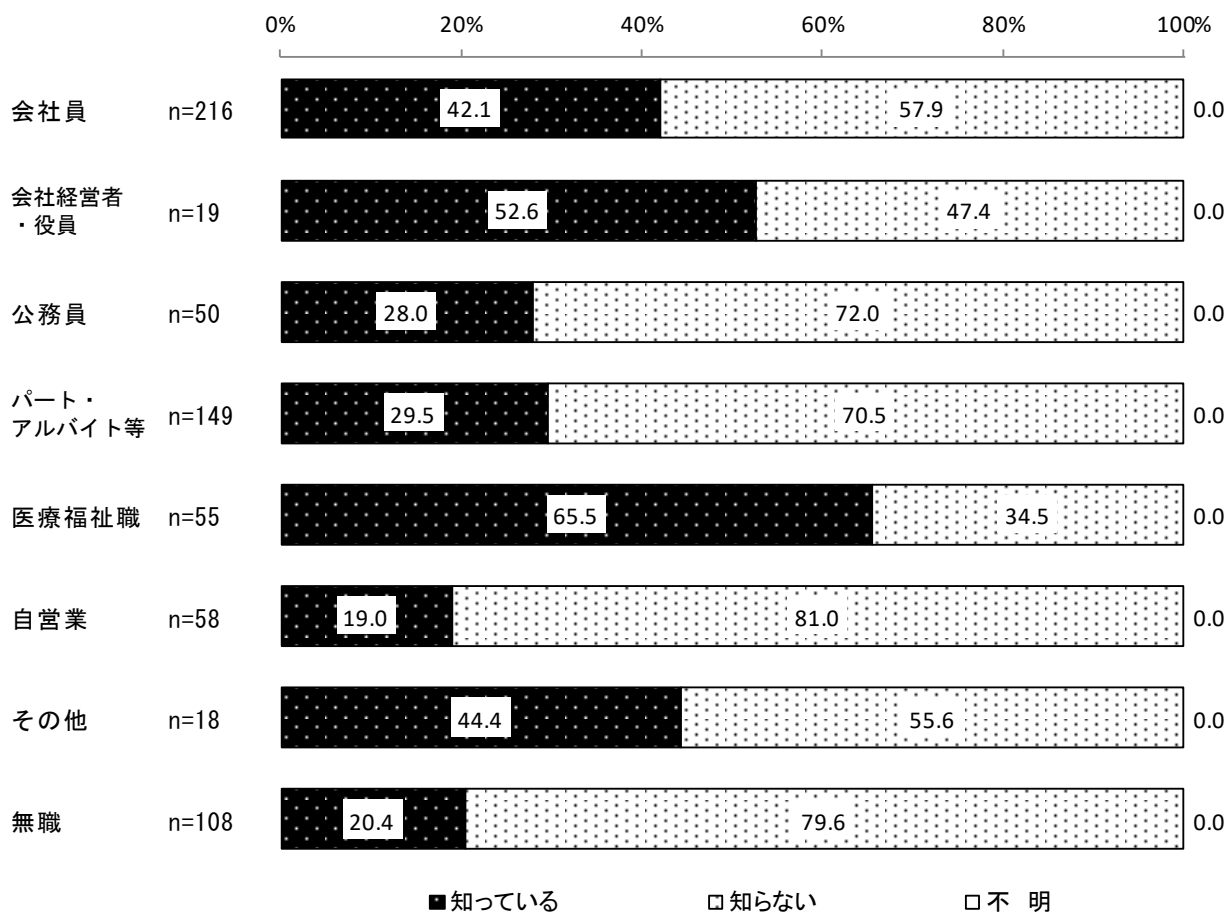
保健福祉圏域別でみると、ご自身の金額を「知っている」は富岡地域で55.0%と半数を超えている。



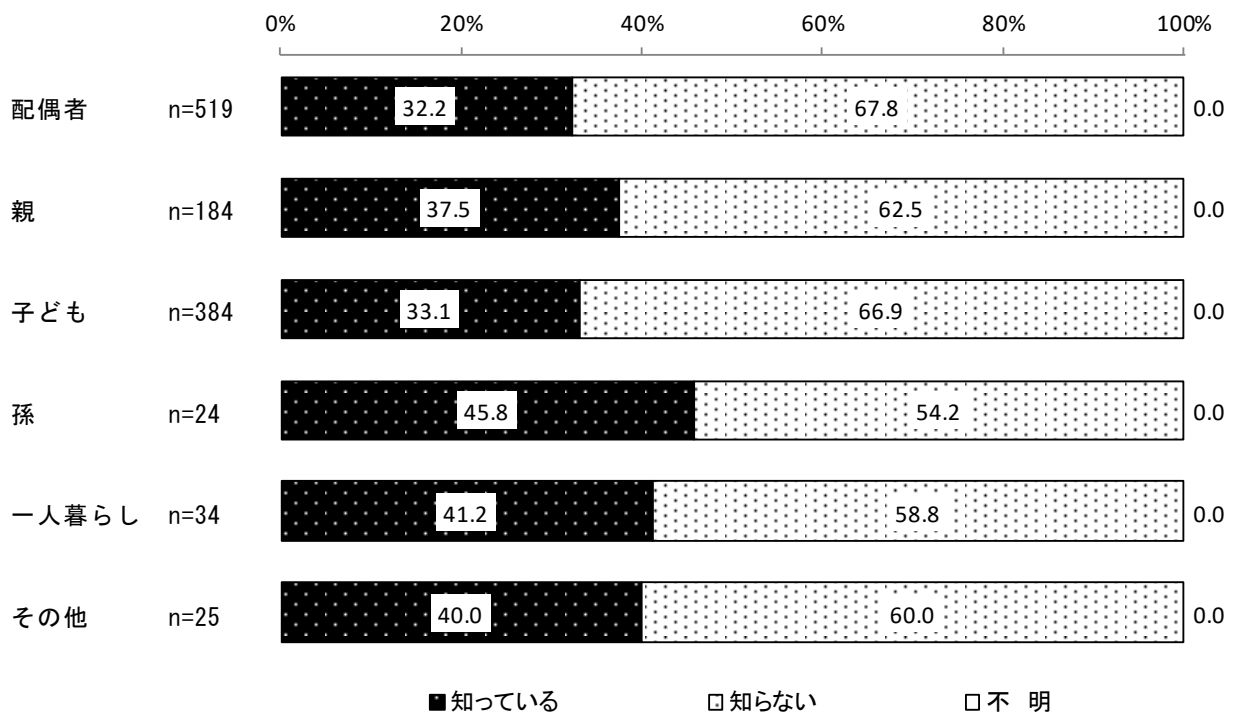
性別では、特徴的な差異は見られなかった。



年齢別で見ると、ご自身の金額を「知っている」は40~44歳で2割半ば、その他の年齢では3割台となっている。



職業別で見ると、ご自身の金額を「知っている」は医療福祉職 (65.5%) が6割半ば、会社員 (42.1%) が4割前半となっている。



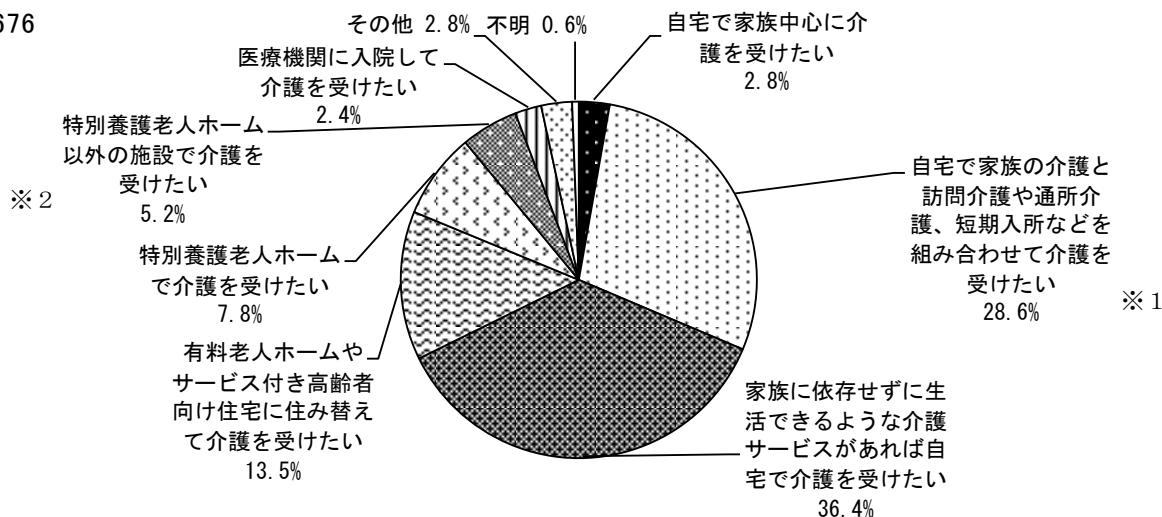
3 家庭における介護や介護保険サービスの利用について

(1) 介護が必要となった場合の希望

◎ 「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が3割半ば

問8 あなたが介護が必要となった場合、どのような介護を受けることを望みますか。(あなたの考えに最も近いもの1つだけに○)

n=676

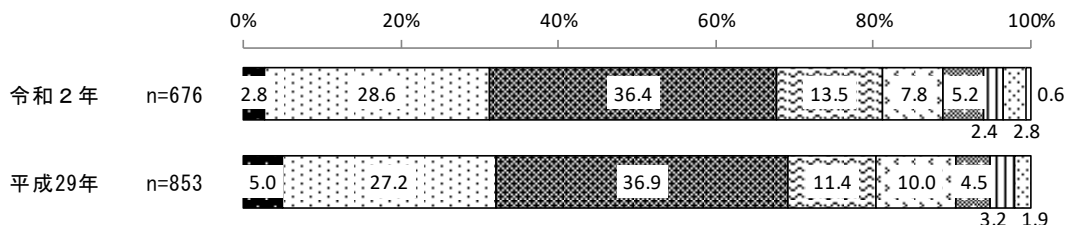


※1 自宅で家族の介護と訪問介護（ホームヘルプサービス）や通所介護（デイサービス）、短期入所（ショートステイ）などを組み合わせて介護を受けたい

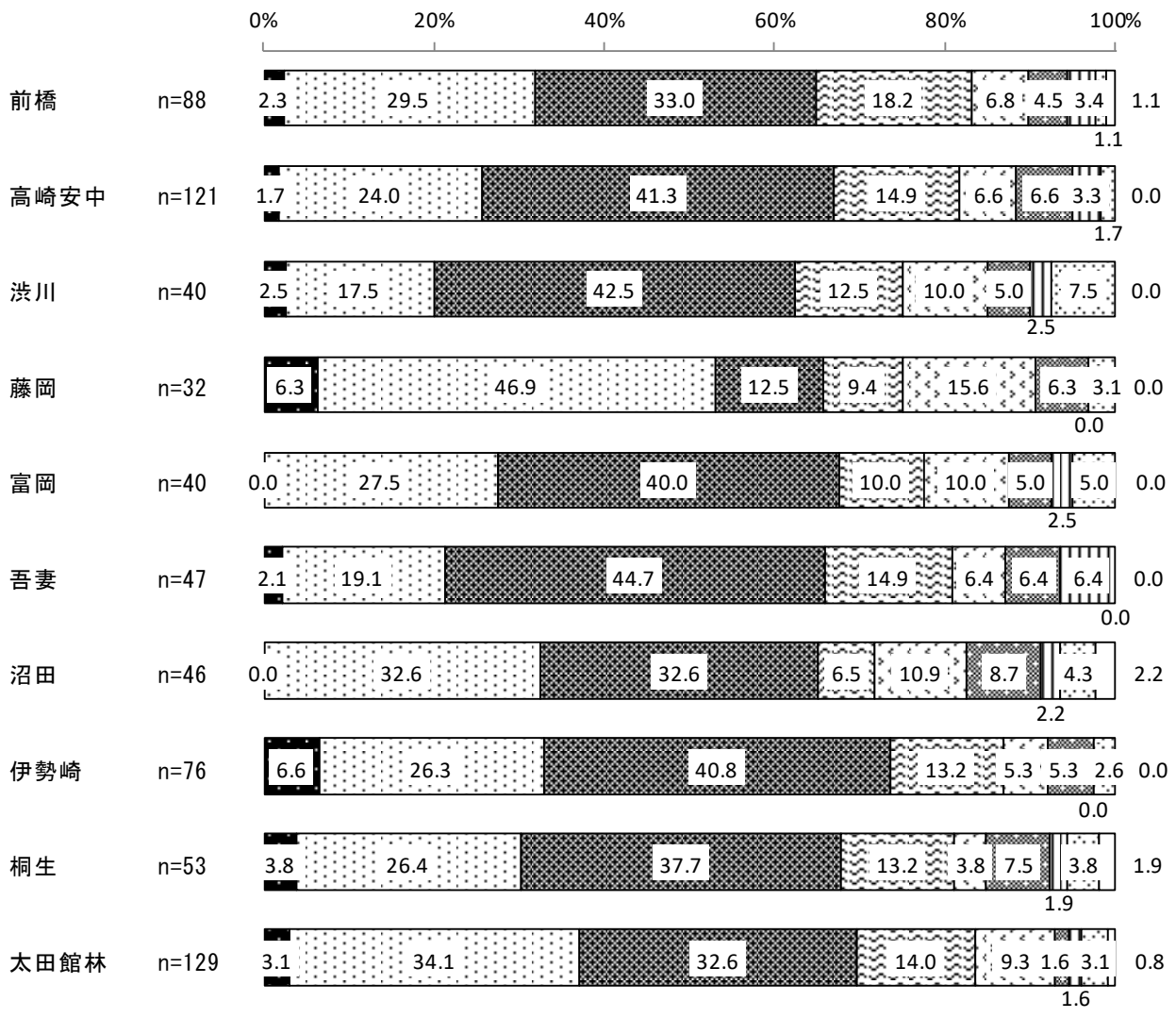
※2 特別養護老人ホーム以外の施設（介護老人保健施設やグループホームなど）で介護を受けたい

介護が必要となった場合の希望は、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が36.4%で最も高く、次いで「自宅で家族の介護と訪問介護（ホームヘルプサービス）や通所介護（デイサービス）、短期入所（ショートステイ）などを組み合わせて介護を受けたい」（28.6%）、「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい」（13.5%）となっている。

<経年比較>

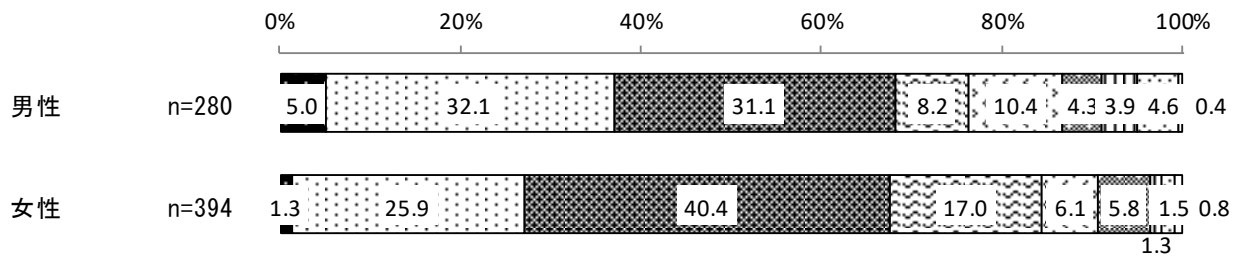


- 自宅で家族中心に介護を受けたい
- 自宅で家族の介護と訪問介護や通所介護、短期入所などを組み合わせて介護を受けたい
- ▣ 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい
- ▤ 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい
- ▥ 特別養護老人ホームで介護を受けたい
- ▧ 特別養護老人ホーム以外の施設(介護老人保健施設やグループホームなど)で介護を受けたい
- ▨ 医療機関に入院して介護を受けたい
- その他
- 不明



- 自宅で家族中心に介護を受けたい
- 自宅で家族の介護と訪問介護や通所介護、短期入所などを組み合わせて介護を受けたい
- 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい
- 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい
- 特別養護老人ホームで介護を受けたい
- 特別養護老人ホーム以外の施設(介護老人保健施設やグループホームなど)で介護を受けたい
- 医療機関に入院して介護を受けたい
- その他
- 不明

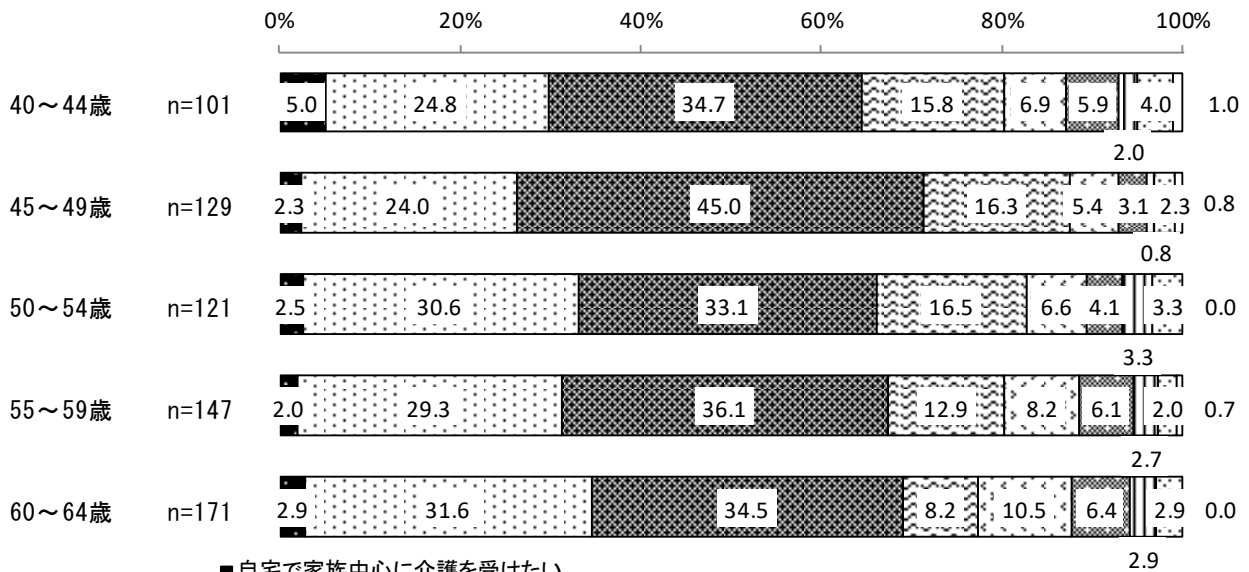
保健福祉圏域別でみると、「自宅で家族の介護と訪問介護（ホームヘルプサービス）や通所介護（デイサービス）、短期入所（ショートステイ）などを組み合わせて介護を受けたい」は藤岡圏域（46.9%）、太田館林圏域（34.1%）で最も高くなっている。



- 自宅で家族中心に介護を受けたい
- 自宅で家族の介護と訪問介護や通所介護、短期入所などを組み合わせて介護を受けたい
- 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい
- 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい
- 特別養護老人ホームで介護を受けたい
- 特別養護老人ホーム以外の施設(介護老人保健施設やグループホームなど)で介護を受けたい
- 医療機関に入院して介護を受けたい
- その他
- 不明

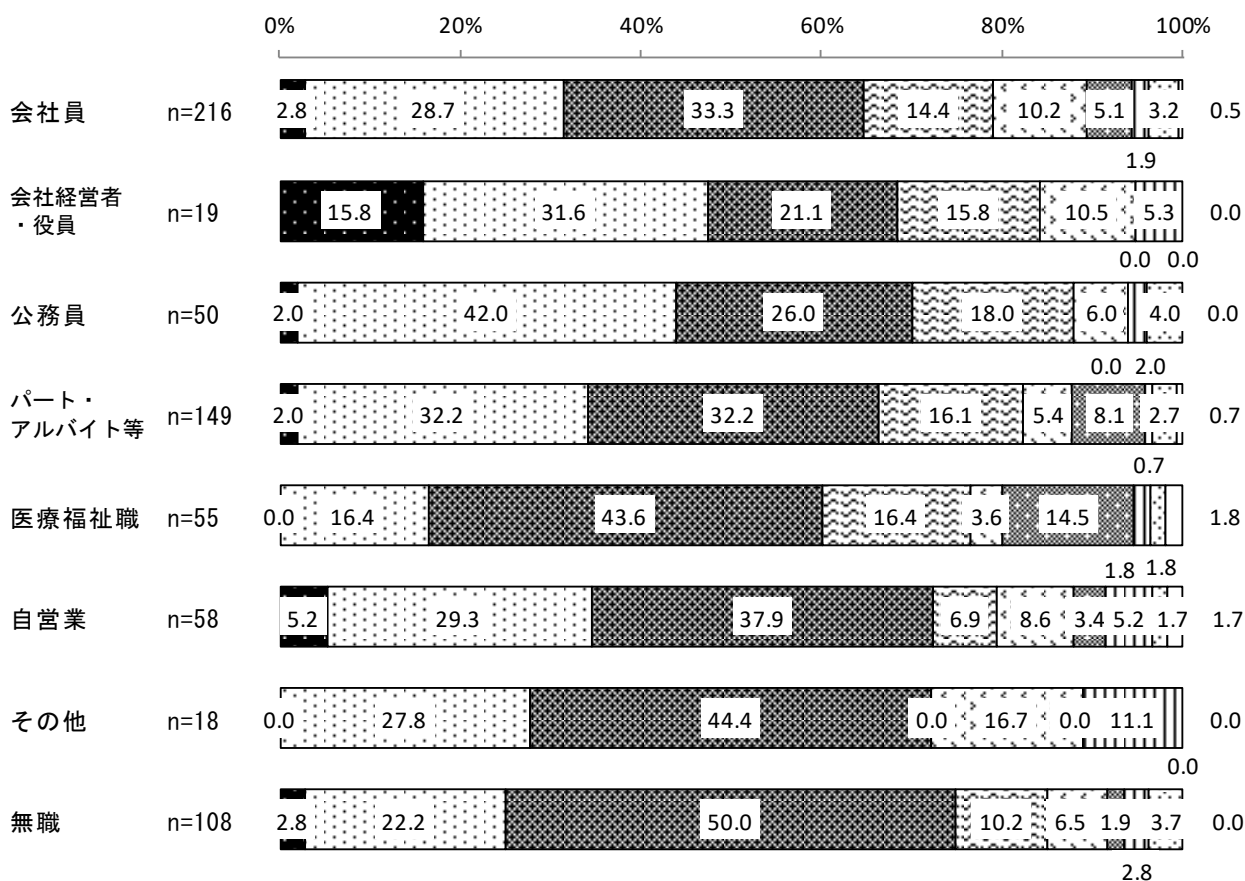
性別で見ると、男性では「自宅で家族の介護と訪問介護（ホームヘルプサービス）や通所介護（デイサービス）、短期入所（ショートステイ）などを組み合わせて介護を受けたい」が32.1%で最も高く、次いで「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が31.1%となっている。

女性では「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が40.4%で最も高くなっている。



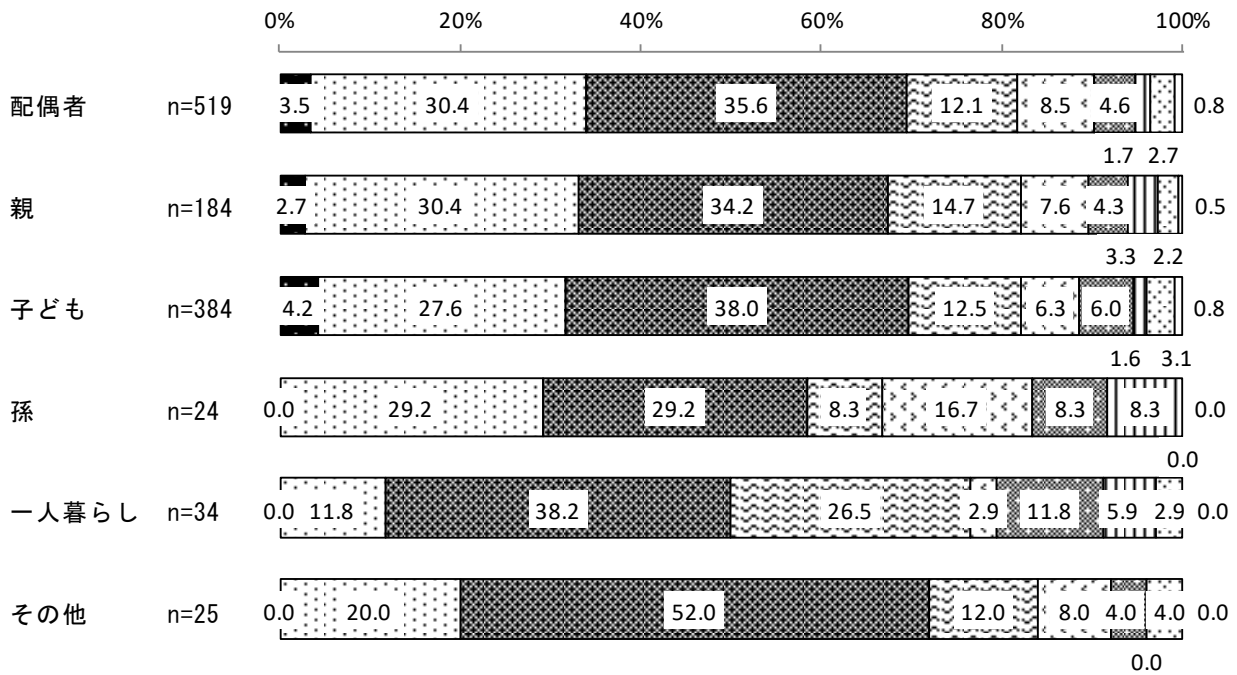
- 自宅で家族中心に介護を受けたい
- 自宅で家族の介護と訪問介護や通所介護、短期入所などを組み合わせて介護を受けたい
- 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい
- 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい
- 特別養護老人ホームで介護を受けたい
- 特別養護老人ホーム以外の施設(介護老人保健施設やグループホームなど)で介護を受けたい
- 医療機関に入院して介護を受けたい
- その他
- 不明

年齢別で見ると、すべての年代で「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が最も高く、45~49歳では45.0%となっている。



- 自宅で家族中心に介護を受けたい
- 自宅で家族の介護と訪問介護や通所介護、短期入所などを組み合わせて介護を受けたい
- 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい
- 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい
- 特別養護老人ホームで介護を受けたい
- 特別養護老人ホーム以外の施設(介護老人保健施設やグループホームなど)で介護を受けたい
- 医療機関に入院して介護を受けたい
- その他
- 不明

職業別でみると、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」は会社経営者・役員、公務員を除いたすべての職業で最も高くなっている。会社経営者・役員、公務員では「自宅で家族の介護と訪問介護（ホームヘルプサービス）や通所介護（デイサービス）、短期入所（ショートステイ）などを組み合わせて介護を受けたい」が最も高く、パート・アルバイトにおいても「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」と同率で最も高くなっている。



- 自宅で家族中心に介護を受けたい
- 自宅で家族の介護と訪問介護や通所介護、短期入所などを組み合わせて介護を受けたい
- ▣ 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい
- 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい
- 特別養護老人ホームで介護を受けたい
- ▣ 特別養護老人ホーム以外の施設(介護老人保健施設やグループホームなど)で介護を受けたい
- 医療機関に入院して介護を受けたい
- その他
- 不明

同居家族別で見ると、すべての属性で「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が最も高くなっている。

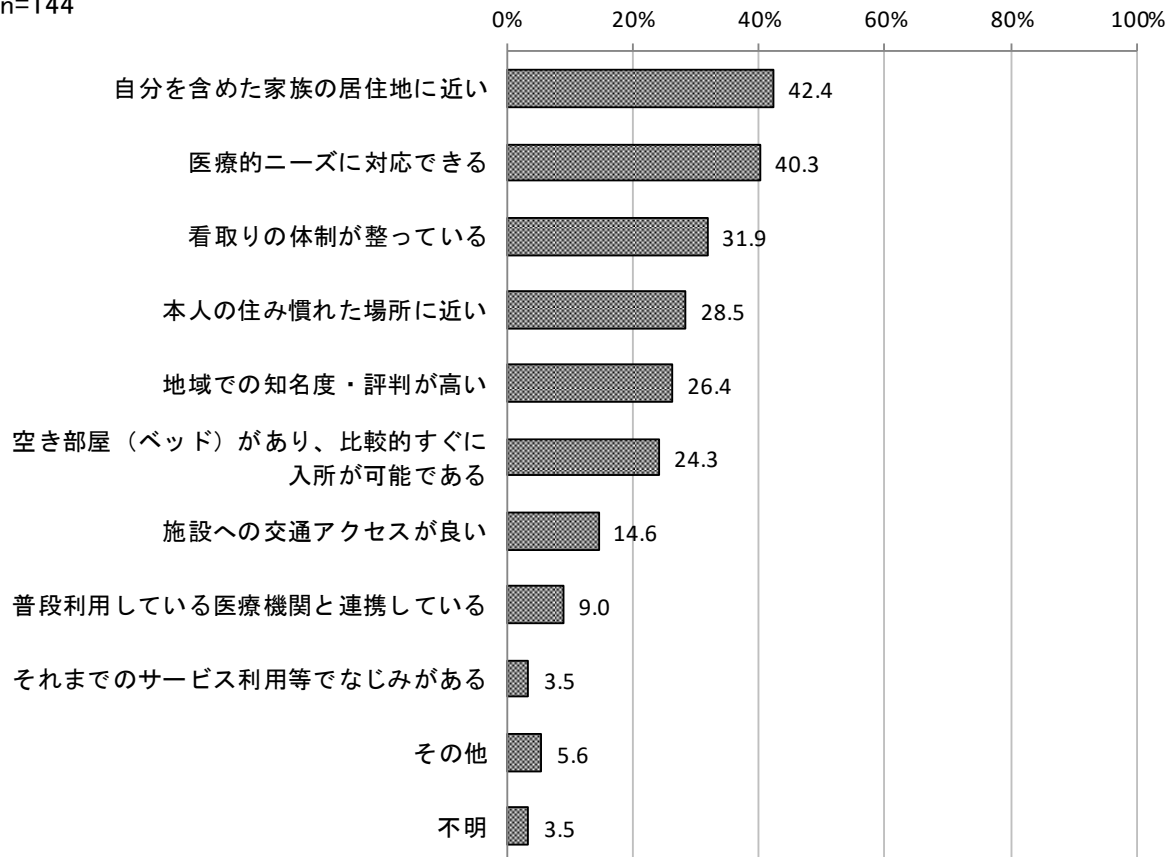
(2) 施設を選ぶ際の条件

◎ 「自分を含めた家族の居住地に近い」が4割前半

【問8で4または5と回答】

問8-2 施設を選ぶ際に何を考慮するか選んでください。(主なもの3つ以内に○)

n=144



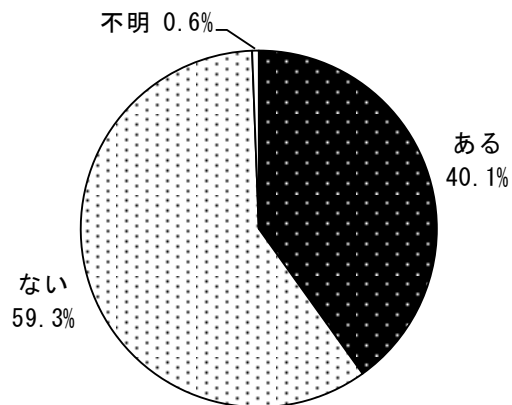
施設を選ぶ際の条件は、「自分を含めた家族の居住地に近い」が42.4%で最も高く、次いで「医療的ニーズに対応できる」(40.3%)、「看取りの体制が整っている」(31.9%)となっている。

(3) 親族の介護経験

◎ 「ある」が約4割

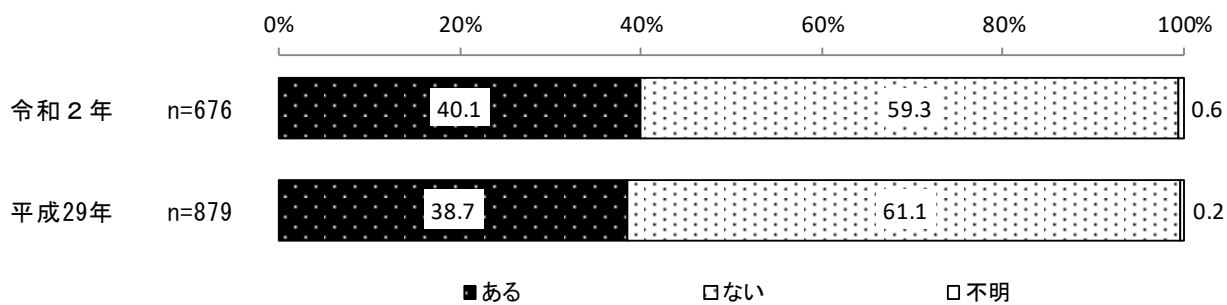
問9 親族の介護をした経験はありますか。(1つだけに○)

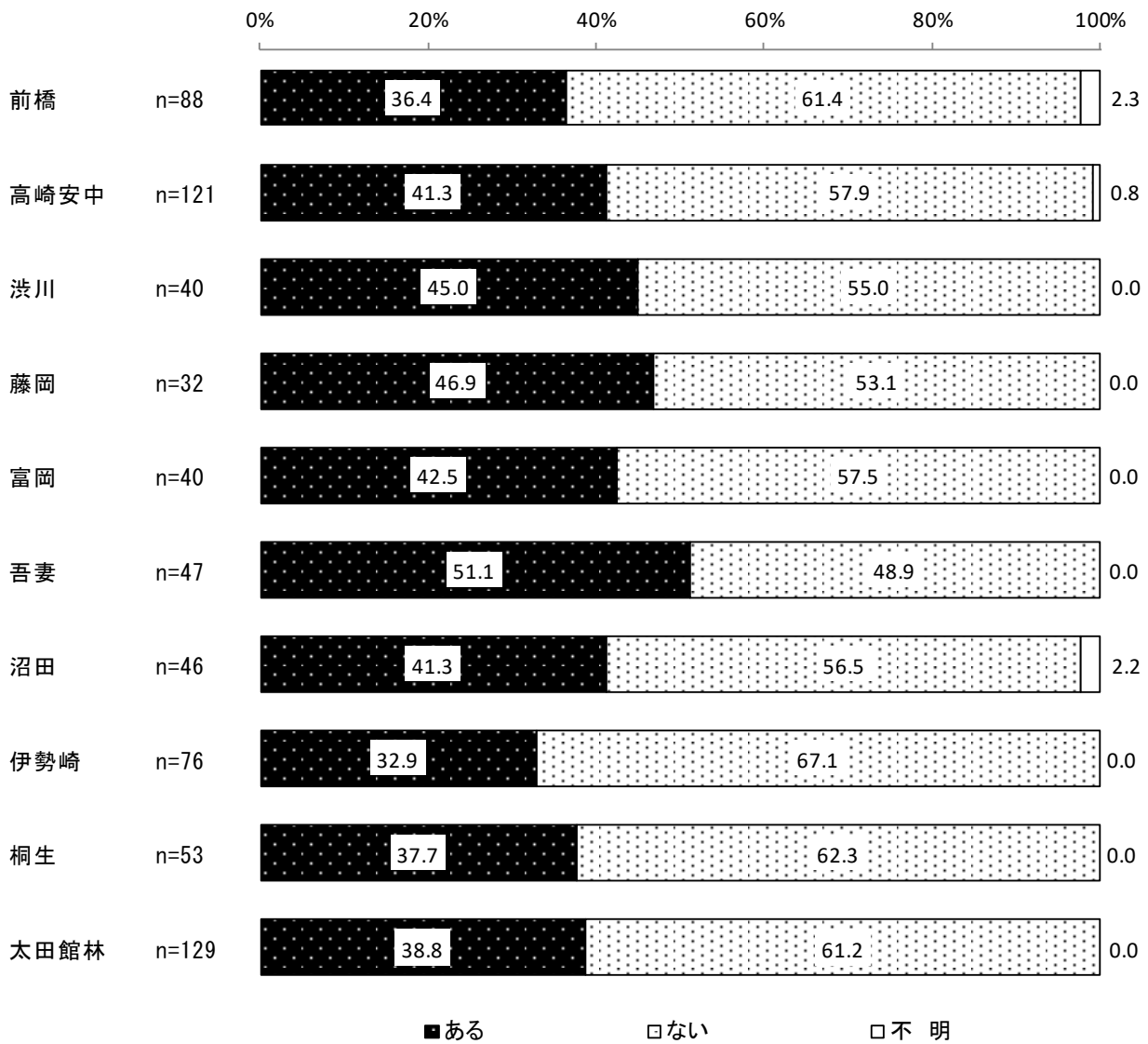
n=676



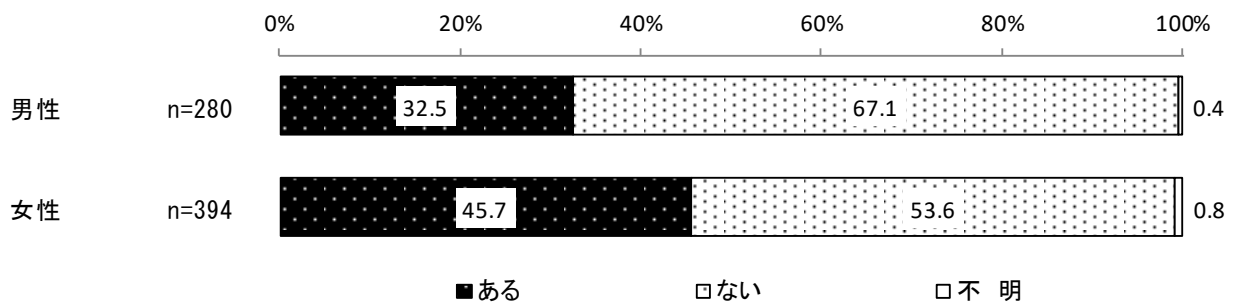
親族の介護経験は、「ある」が40.1%、「ない」が59.3%となっている。

<経年比較>

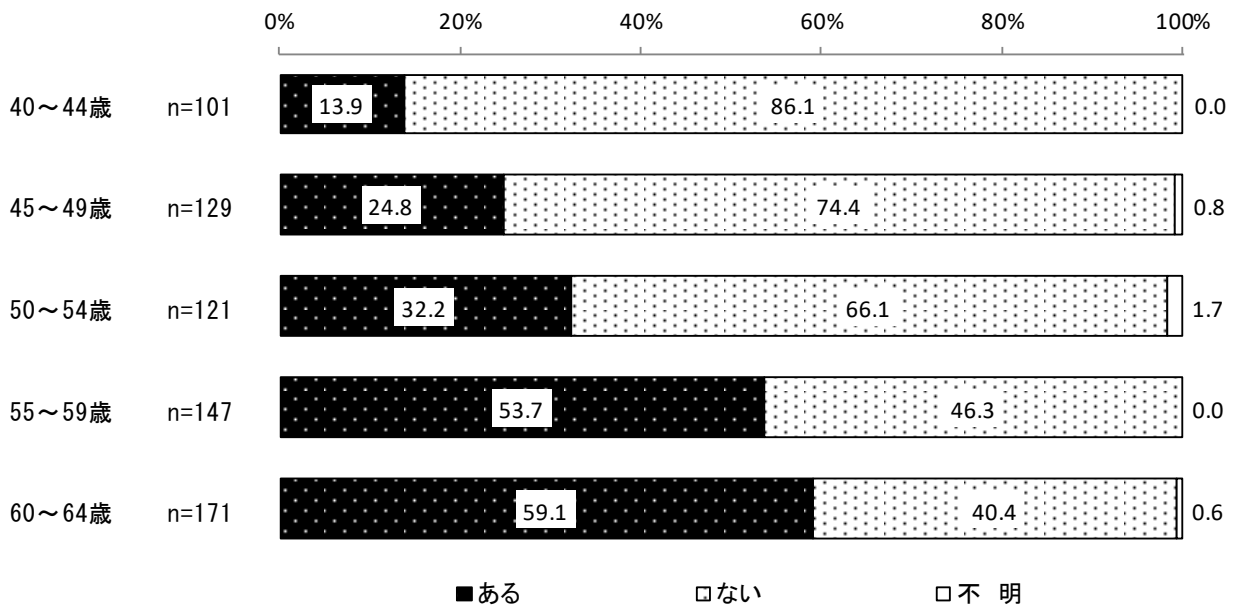




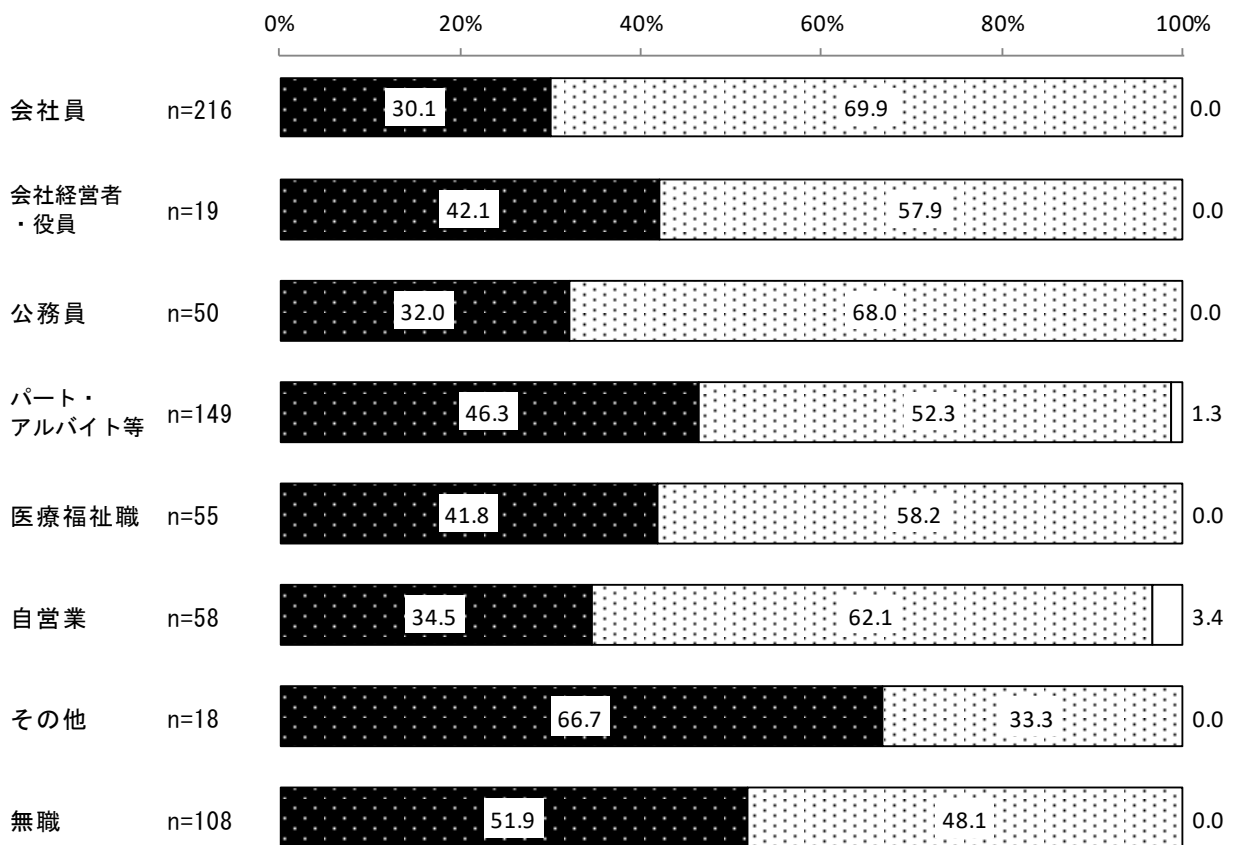
保健福祉圏域別でみると、「ある」は吾妻圏域で51.1%と半数を超えている。



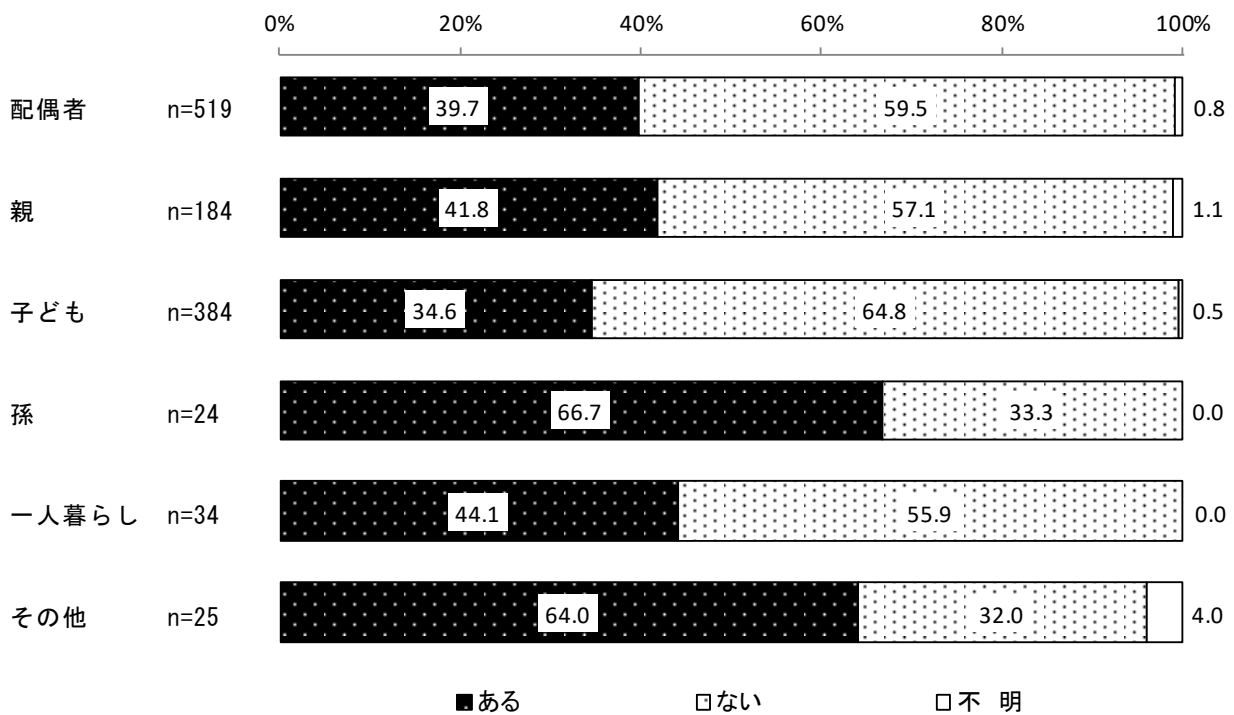
性別でみると、「ある」は女性（45.7%）が男性（32.5%）を13.2ポイント上回っている。



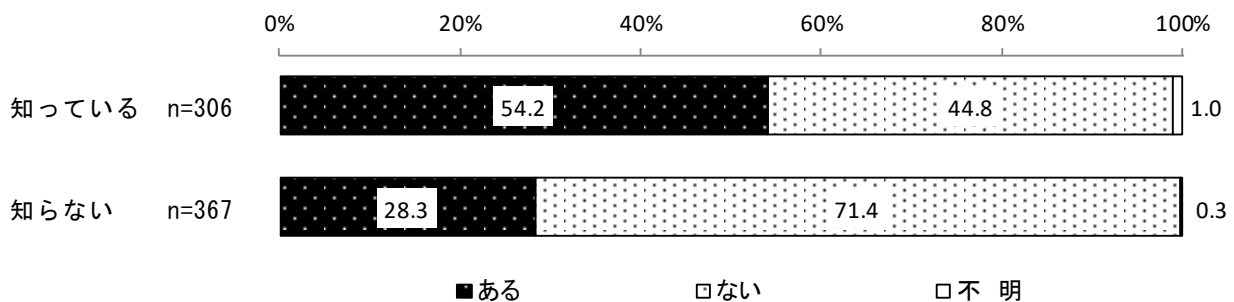
年齢別で見ると、「ある」は年齢が上がるにつれ高くなっており、55~59歳が53.7%、60~64歳が59.1%と半数を超えている。



職業別で見ると、「ある」は無職で51.9%と半数を超えている。



同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



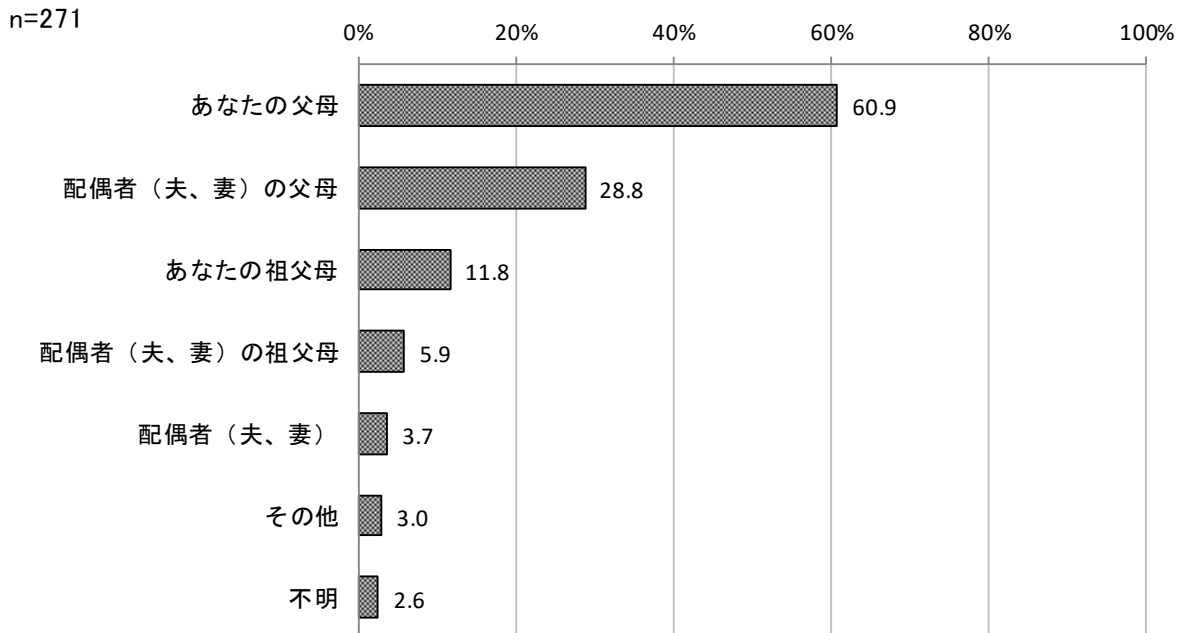
地域包括支援センターの認知度別でみると、「ある」は地域包括支援センターを知っている方 (54.2%) が知らない方 (28.3%) を 25.9 ポイント上回っている。

(4) 介護の対象者との関係性

◎ 「あなたの父母」が約6割

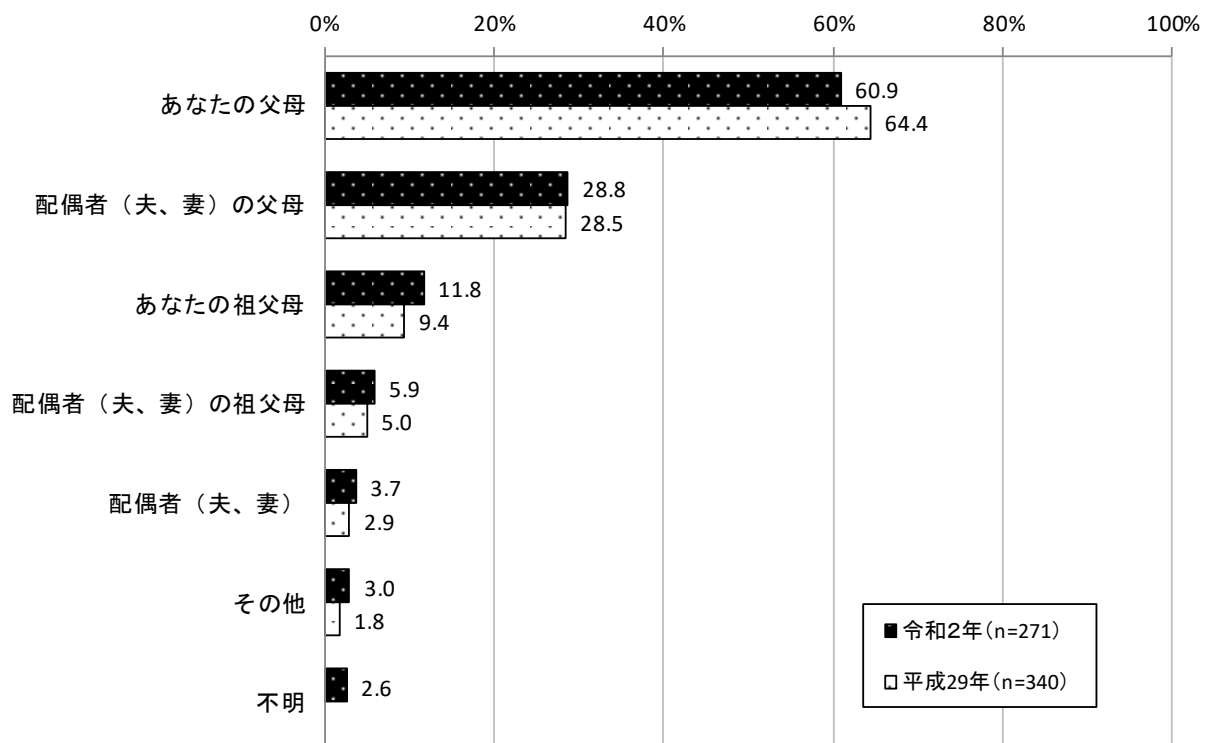
【問9で「1 ある」と回答】

問10 その時の介護の対象者は誰ですか。(当てはまるもの全てに○)



介護の対象者との関係性は、「あなたの父母」が60.9%で最も高く、次いで「配偶者（夫、妻）の父母」（28.8%）、「あなたの祖父母」（11.8%）となっている。

<経年比較>



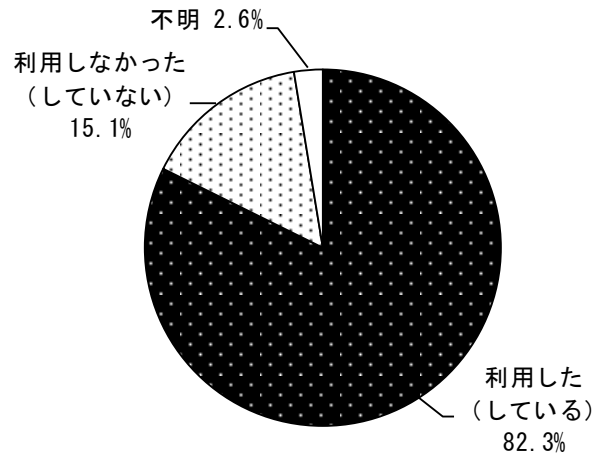
(5) 介護保険サービスの利用の有無

◎ 「利用した(している)」が8割前半

【問9で「1 ある」と回答】

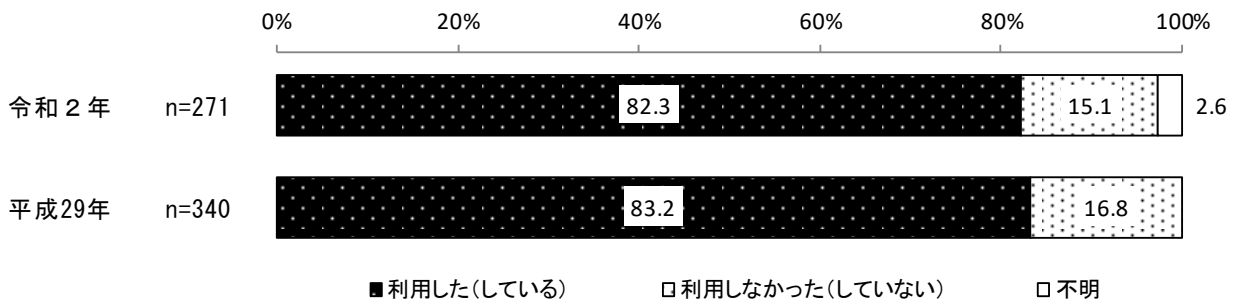
問11 介護をしている時、介護保険サービスを利用しましたか。(1つだけに○)

n=271



介護保険サービスの利用の有無は、「利用した(している)」が82.3%、「利用しなかった(していない)」が15.1%となっている。

<経年比較>



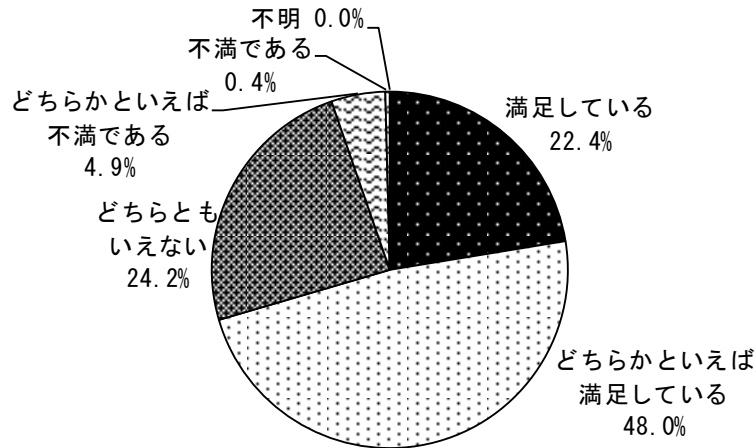
(6) 利用サービスの満足度

◎ <満足>が約7割

【問11で「1 利用した(している)」と回答】

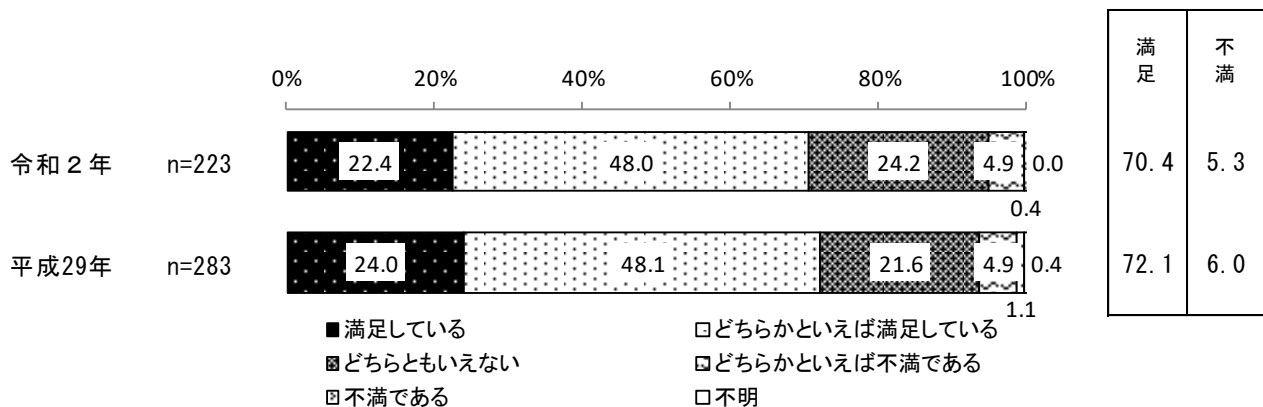
問12 介護保険サービスを利用した場合、その満足度はいかがでしたか。(1つだけに○)

n=223



利用サービスの満足度は、「どちらかといえば満足している」が48.0%で最も高く、「満足している」(22.4%)と合わせた<満足>は70.4%となっている。一方、「どちらかといえば不満である」(4.9%)、「不満である」(0.4%)を合わせた<不満>は5.3%となっている。

<経年比較>



4 介護離職について

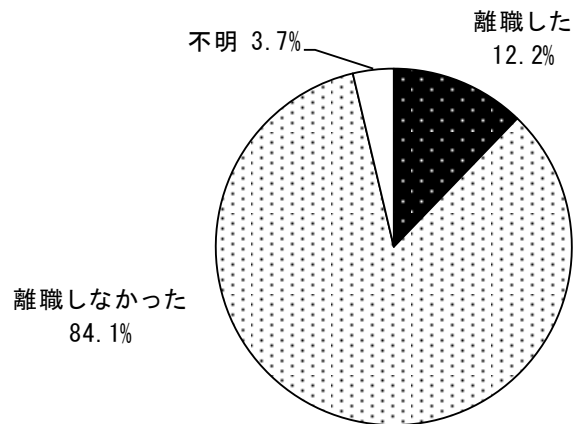
(1) 介護離職の経験の有無

◎ 「離職した」は1割前半

【問9で「1 ある」と回答】

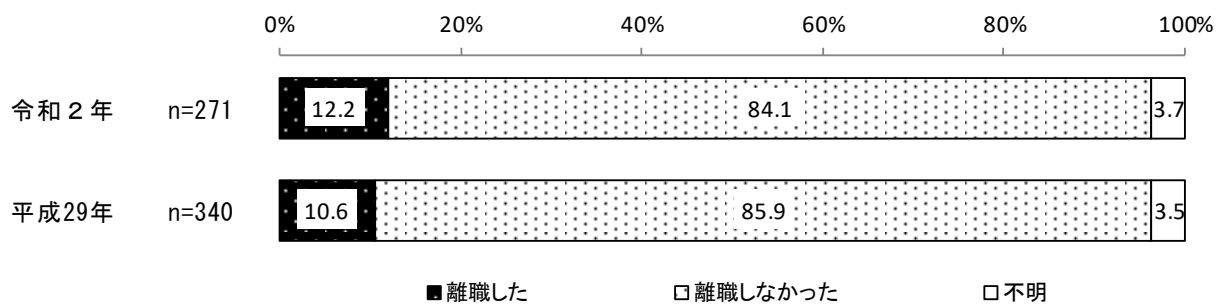
問13 あなたまたは配偶者が、介護のために離職をしましたか。(1つだけに○)

n=271



介護離職の経験は、「離職した」が12.2%、「離職しなかった」が84.1%となっている。

<経年比較>



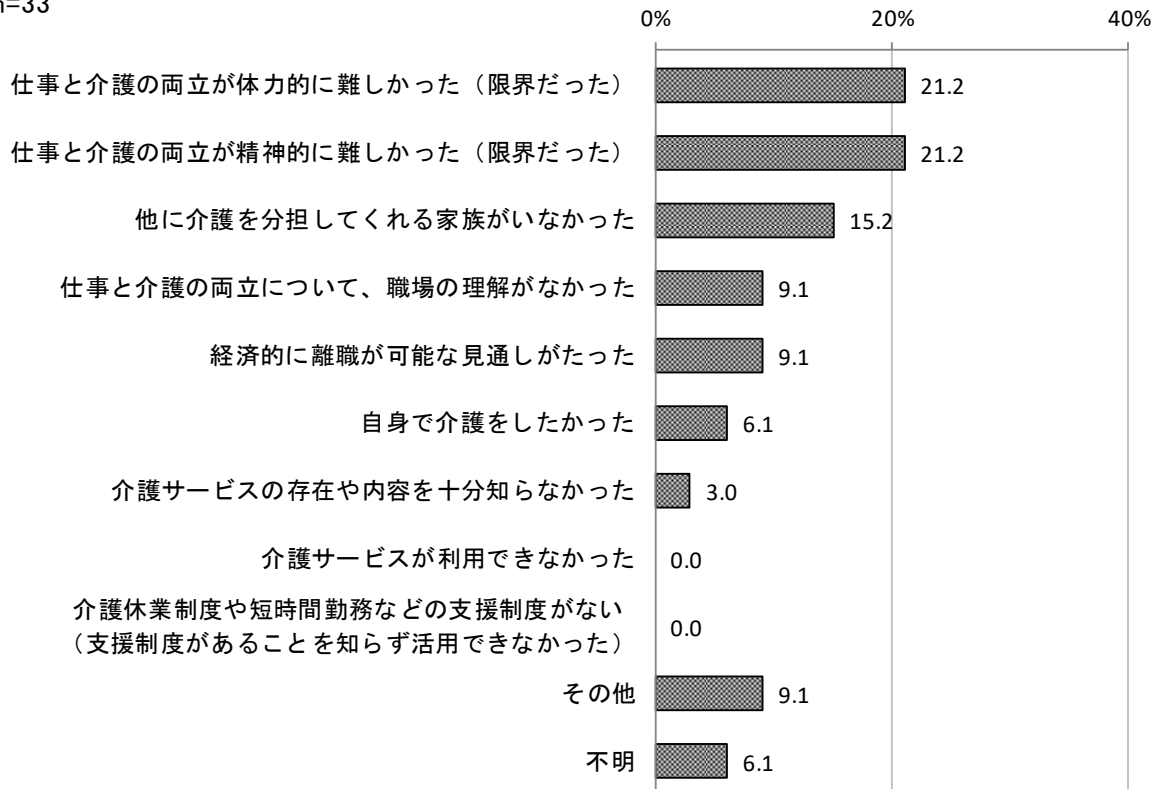
(2) 介護離職の理由について

◎ 「仕事と介護の両立が体力的／精神的に難しかった（限界だった）」が約2割

【問13で「1 離職した」と回答】

問13-2 離職した理由を選んでください。(最大のもの1つだけに○)

n=33



介護離職した理由は、「仕事と介護の両立が体力的に難しかった（限界だった）」、「仕事と介護の両立が精神的に難しかった（限界だった）」が21.2%で最も高く、次いで「他に介護を分担してくれる家族がいなかった」（15.2%）となっている。

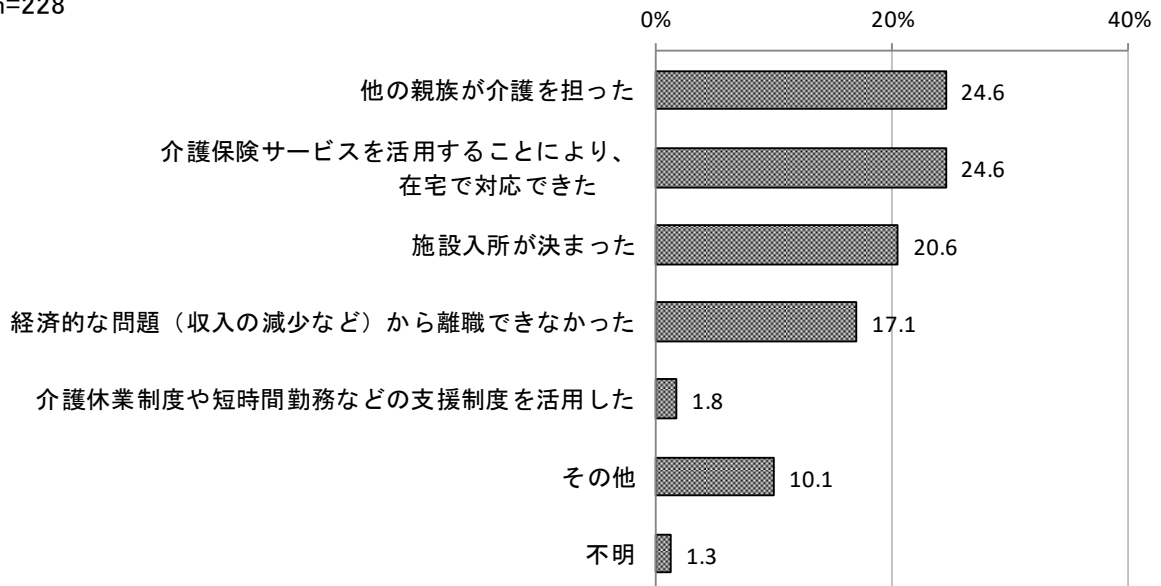
(3) 介護離職しなかった理由について

- ◎ 「他の親族が介護を担った」、「介護保険サービスを活用することにより、在宅で対応できた」が2割半ば

【問13で「2 離職しなかった」と回答】

問13-3 離職しなかった理由を選んでください。(最大のもの1つだけに○)

n=228



介護離職しなかった理由は、「他の親族が介護を担った」「介護保険サービスを活用することにより、在宅で対応できた」が24.6%で最も高く、次いで「施設入所が決まった」(20.6%)となっている。

5 介護・育児の同時対応や子どもによる介護・育児について

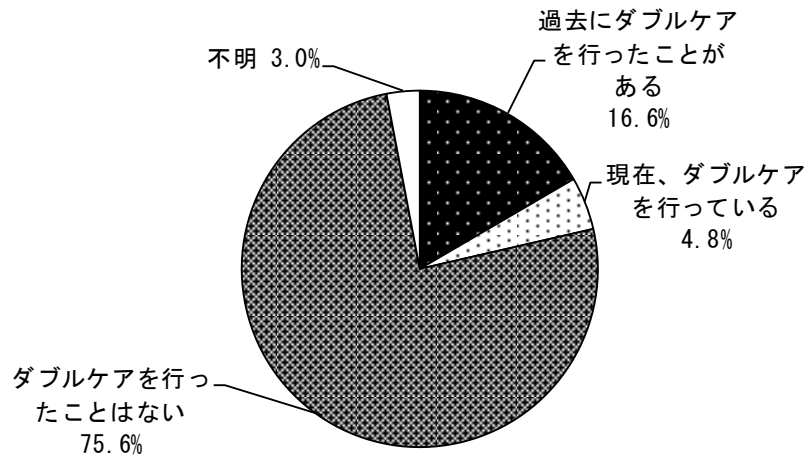
(1) 介護と育児のダブルケアの経験について

◎ <ダブルケアを行った>は約2割

【問9で「1 ある」と回答】

問14 親族の介護と同時に、子どもの育児のダブルケアを行ったことがありますか。(1つだけに○)

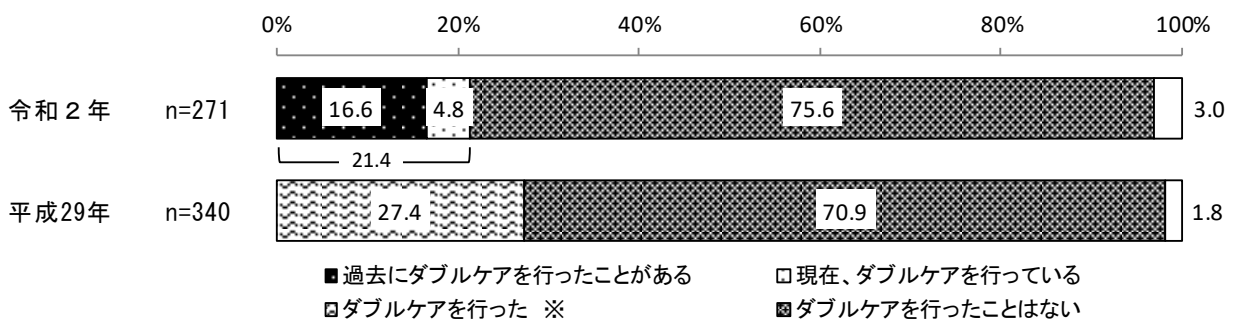
n=271



介護と育児のダブルケアの経験は、「過去にダブルケアを行ったことがある」(16.6%)、「現在、ダブルケアを行っている」(4.8%)を合わせた<ダブルケアを行った>は21.4%となっている。

一方、「ダブルケアを行ったことはない」が75.6%となっている。

<経年比較>



※平成29年は「ダブルケアを行った」「ダブルケアを行ったことはない」の2択

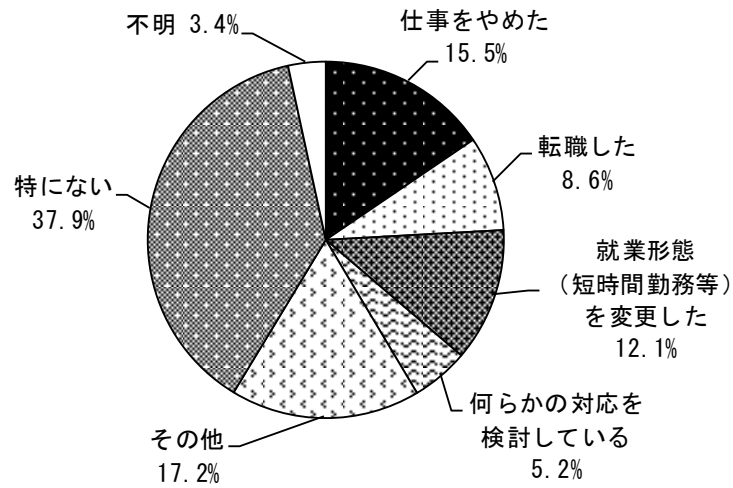
(2) ダブルケアによる就業への影響

◎ 「特にない」が3割後半、影響では「仕事をやめた」が1割半ば

【問14で「1」または「2」と回答】

問14-2 ダブルケアを行ったことがある（行っている）ことによる就業への影響をお聞かせください。
（1つだけに○）

n=58



ダブルケアによる就業への影響は、「仕事をやめた」が15.5%で最も高く、次いで「就業形態（短時間勤務等）を変更した」（12.1%）、「転職した」（8.6%）となっている。

一方、「特にない」は37.9%となっている。

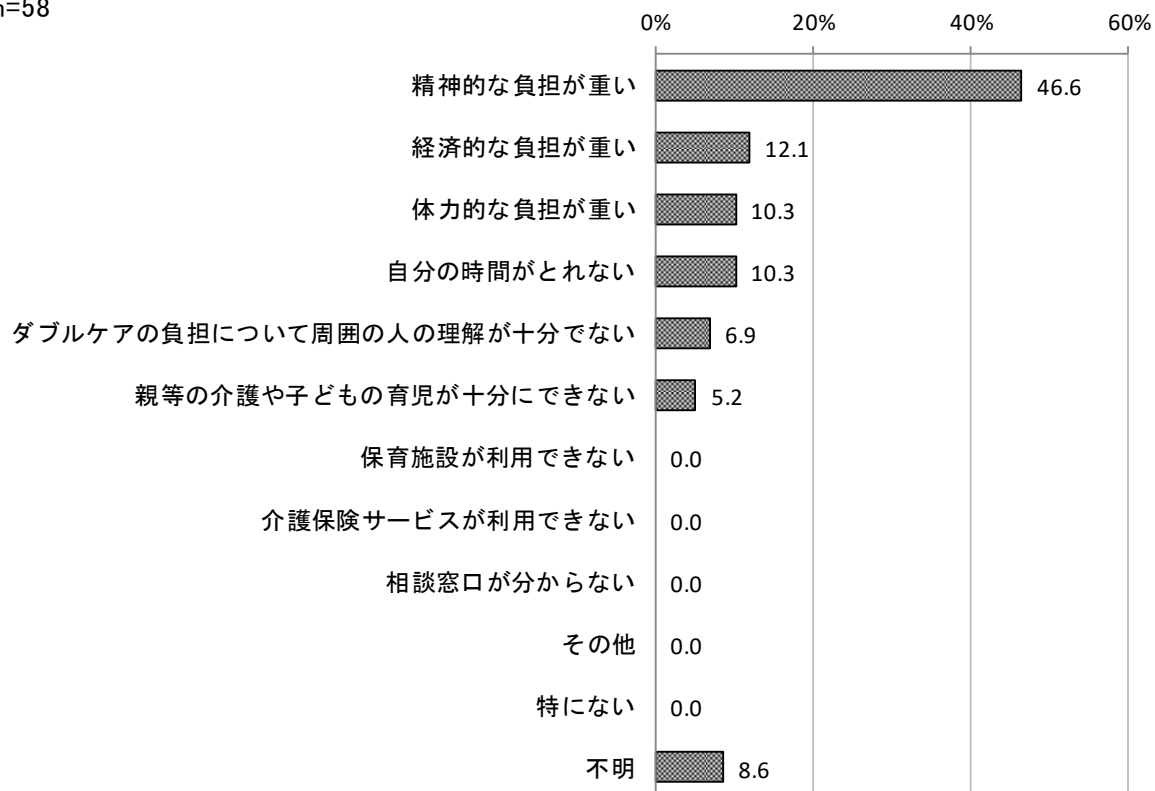
(3) ダブルケアの負担感について

◎ 「精神的な負担が重い」が4割半ば

【問14で「1」または「2」と回答】

問14-3 ダブルケアの負担感についてお聞かせください。(最大のもの1つだけに○)

n=58



ダブルケアの負担感には、「精神的な負担が重い」が46.6%で最も高く、次いで「経済的な負担が重い」(12.1%)、「体力的な負担が重い」(10.3%)、「自分の時間がとれない」(10.3%)となっている。

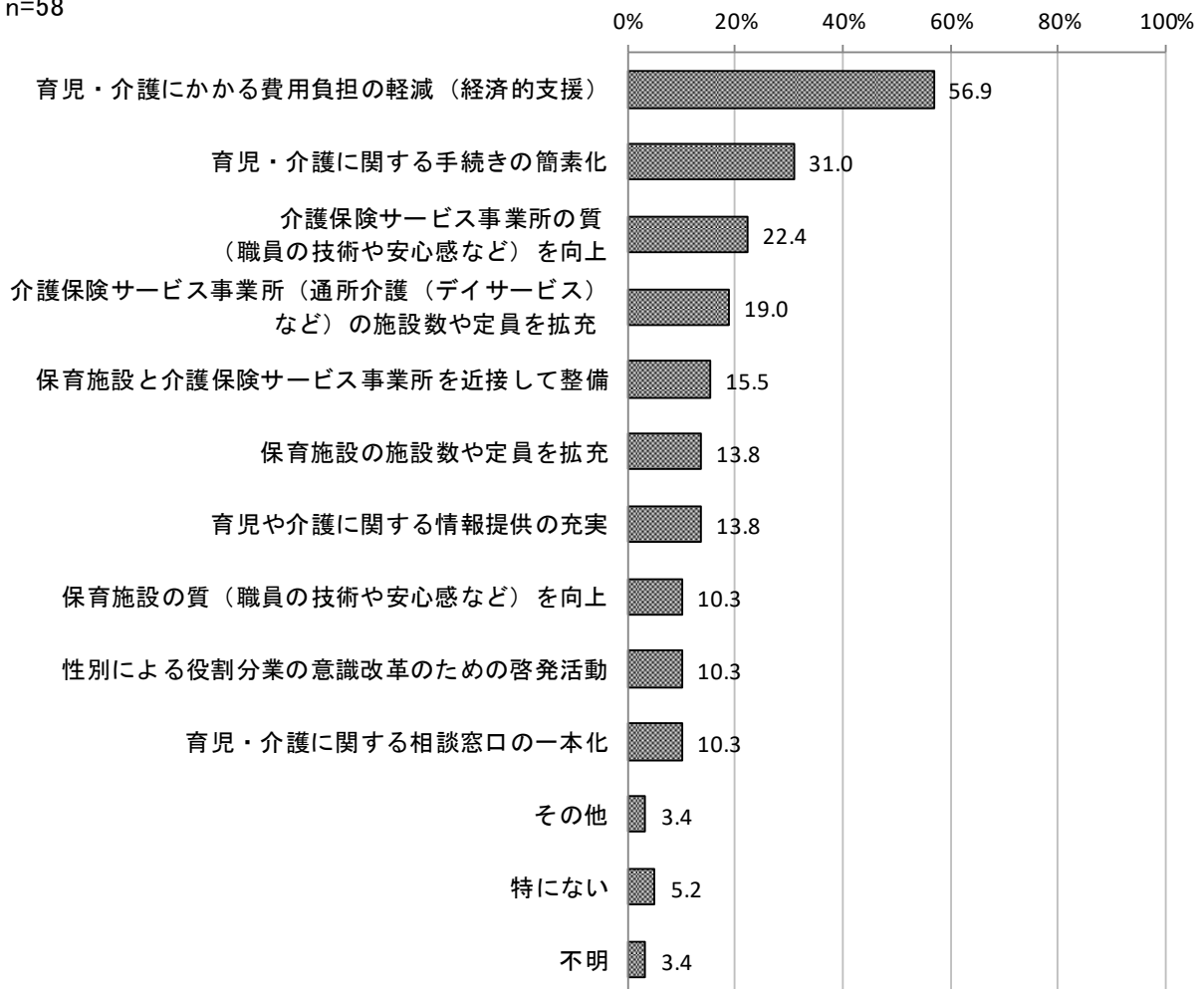
(4) ダブルケアの課題に対して取り組むべき支援策

◎ 「育児・介護にかかる費用負担の軽減（経済的支援）」が5割半ば

【問14で「1」または「2」と回答】

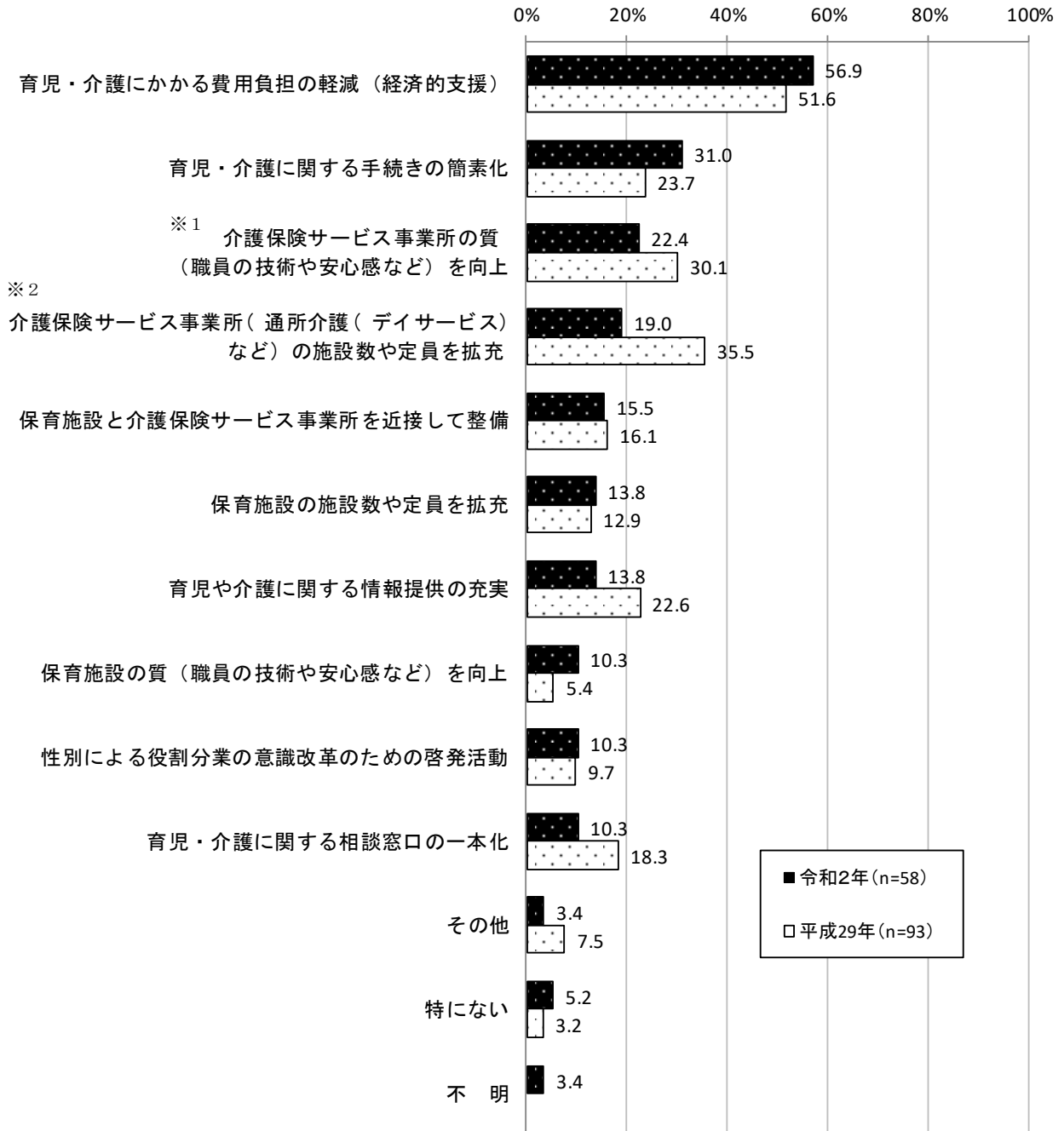
問14-4 県・市町村が、ダブルケアの課題に対して取り組むべき支援策についてお聞かせください。
(主なもの3つ以内に○)

n=58



ダブルケアの課題に対して取り組むべき支援策は、「育児・介護にかかる費用負担の軽減（経済的支援）」が56.9%で最も高く、次いで「育児・介護に関する手続きの簡素化」（31.0%）、「介護保険サービス事業所の質（職員の技術や安心感など）を向上」（22.4%）となっている。

<経年比較>



※1 平成29年では「介護保険サービス事業所の質を向上」と表示

※2 平成29年では「介護保険サービス事業所の施設の数や定員を拡充」と表示

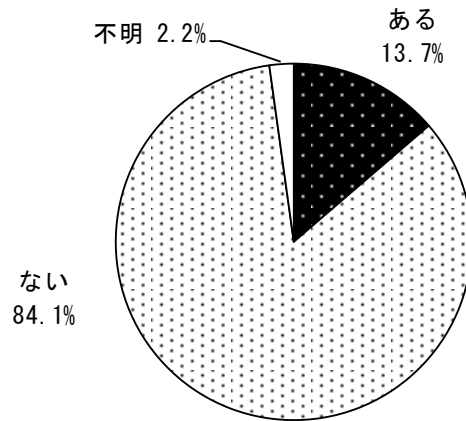
(5) 子どもに介護・育児を手伝ってもらった経験

◎ 「ある」は1割前半

【問9で「1 ある」と回答】

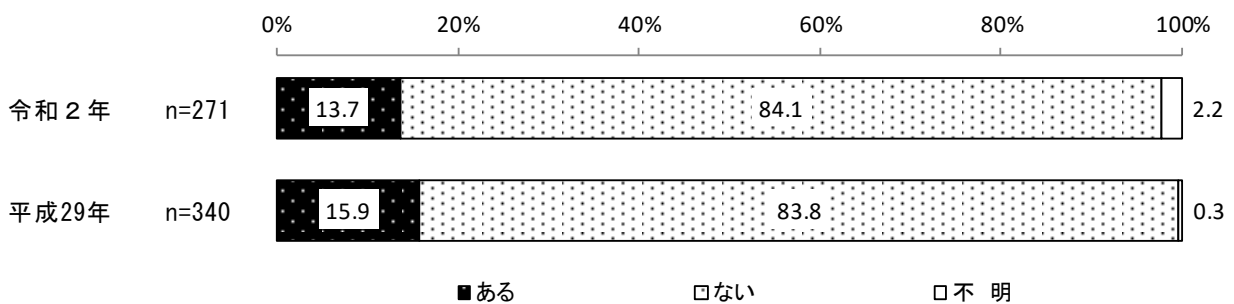
問15 20歳未満の子どもに、高齢者の介護や障害・病気のある親族（祖父母・親・きょうだいなど）の介護・育児を手伝ってもらった経験がありますか。（1つだけに○）

n=271



子どもに介護・育児を手伝ってもらった経験は、「ある」が13.7%、「ない」が84.1%となっている。

<経年比較>



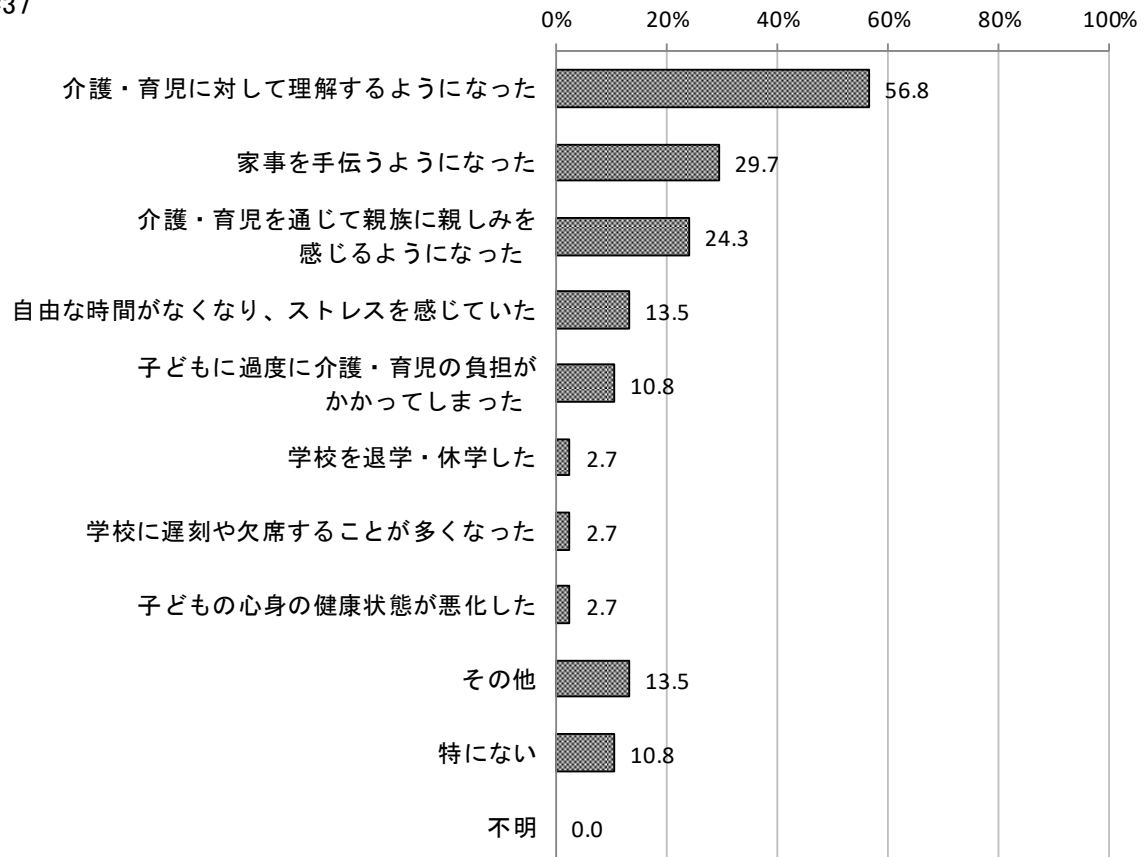
(6) 子どもの状態の変化について

◎ 「介護・育児に対して理解するようになった」が5割半ば

【問15で「1 ある」を回答】

問15-2 そのときの子どもの状態に変化はありましたか。(主なもの3つ以内に○)

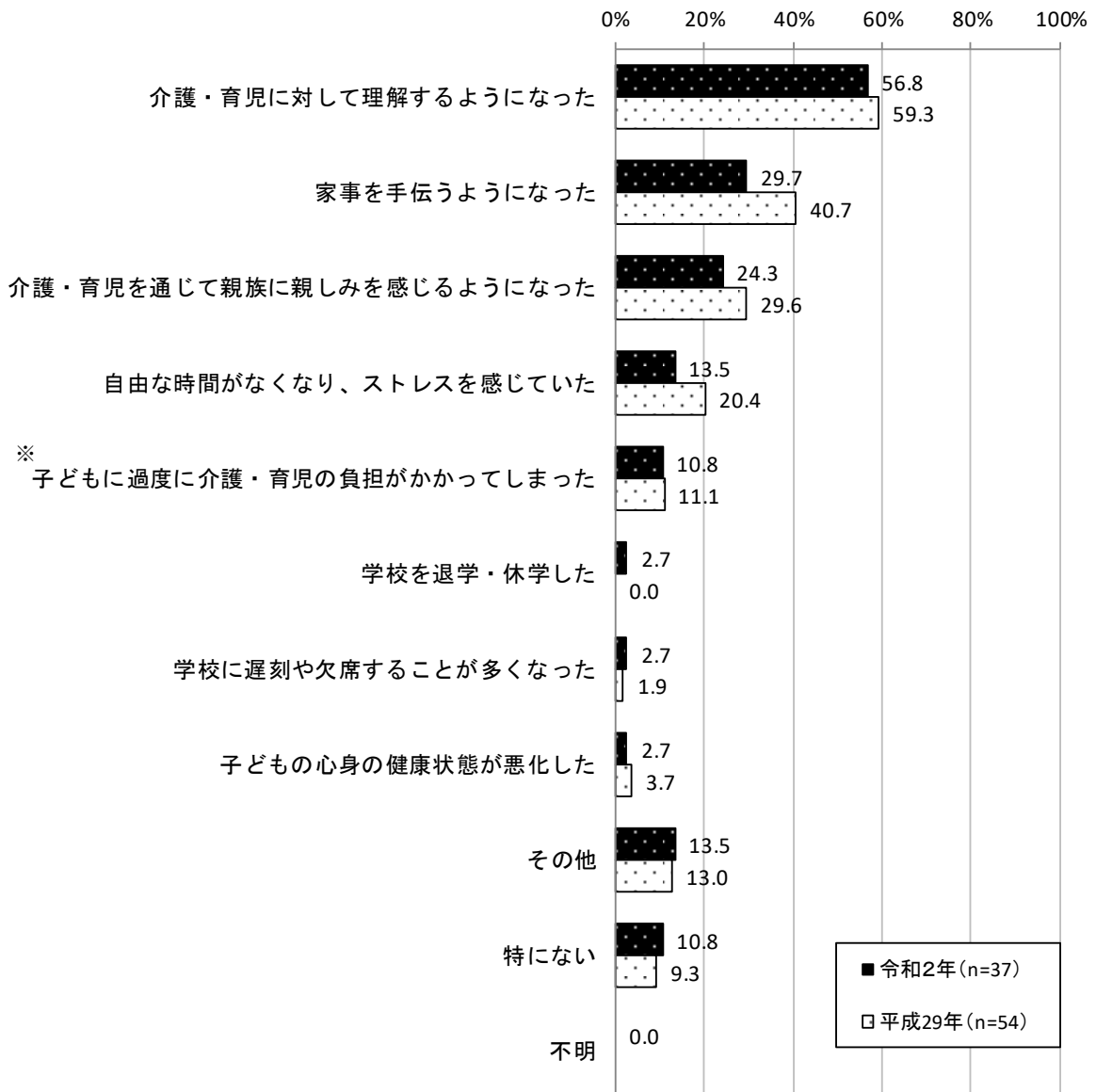
n=37



介護・育児を手伝ってもらったときの子どもの状態の変化は、「介護・育児に対して理解するようになった」が56.8%で最も高く、次いで「家事を手伝うようになった」(29.7%)、「介護・育児を通じて親族に親しみを感じるようになった」(24.3%)となっている。

一方で、「特にない」は10.8%となっている。

<経年比較>



※平成 29 年では「子どもに過度に介護の負担がかかってしまった」と表示

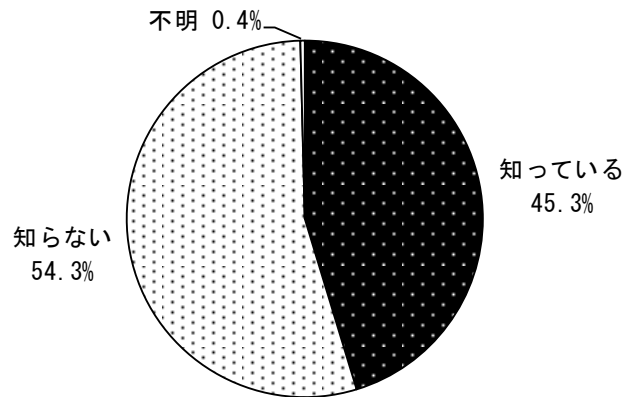
6 地域包括支援センターについて

(1) 「地域包括支援センター」の認知度

◎ 「知っている」は4割半ば

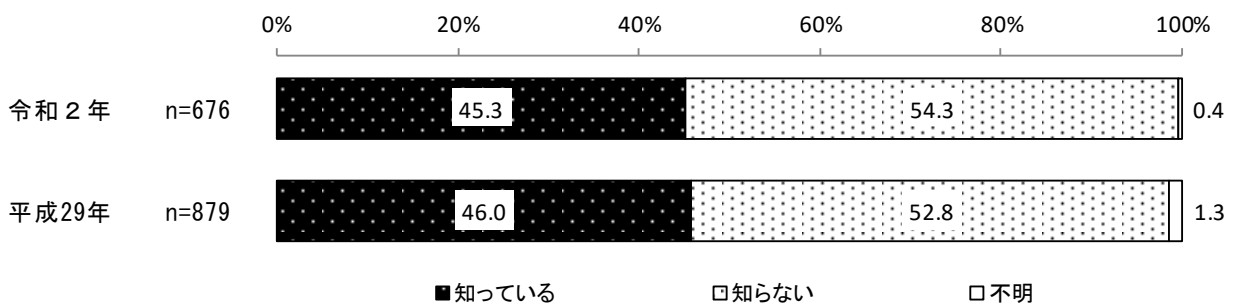
問 16 あなたは「地域包括支援センター」を知っていますか。

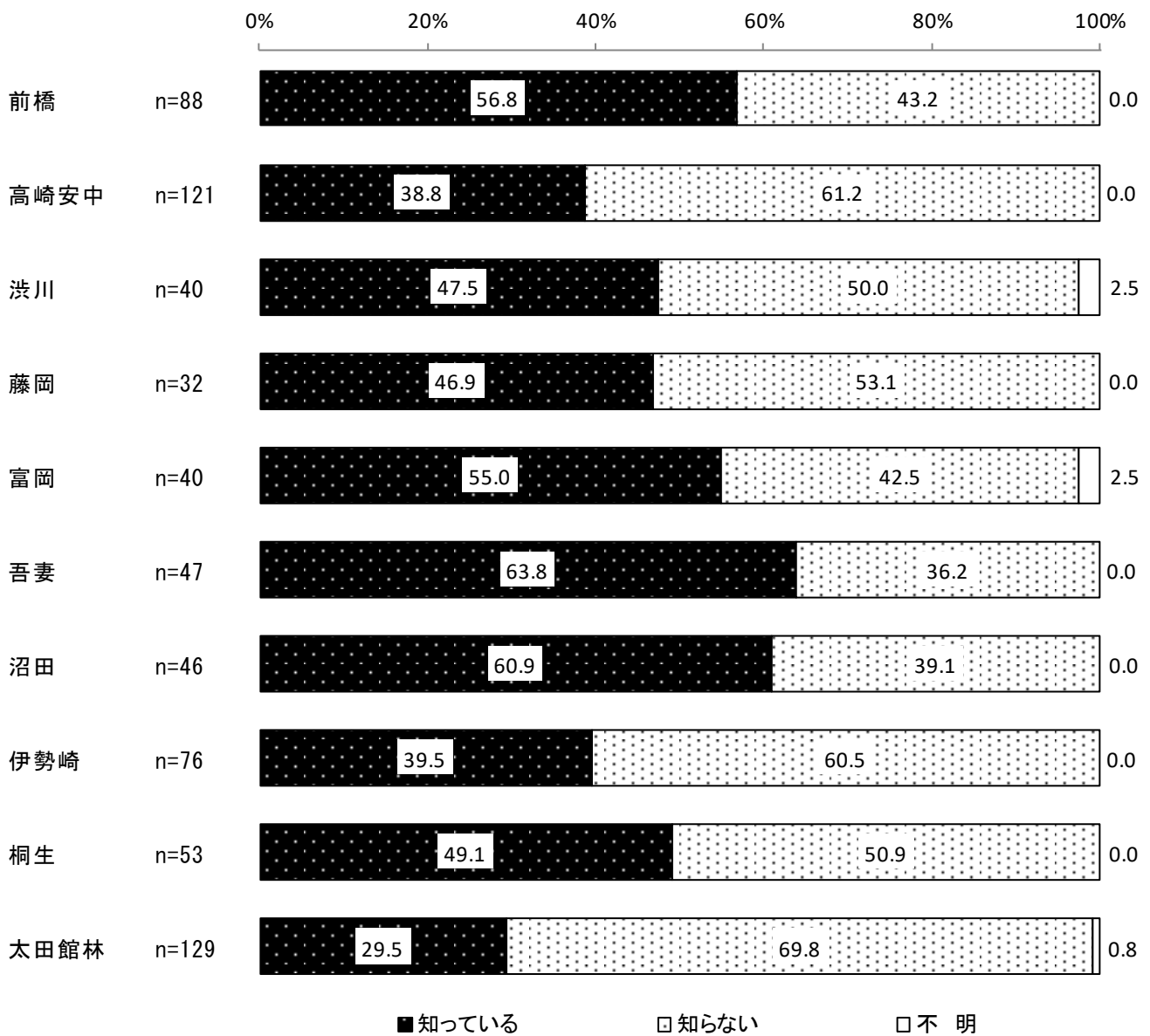
n=676



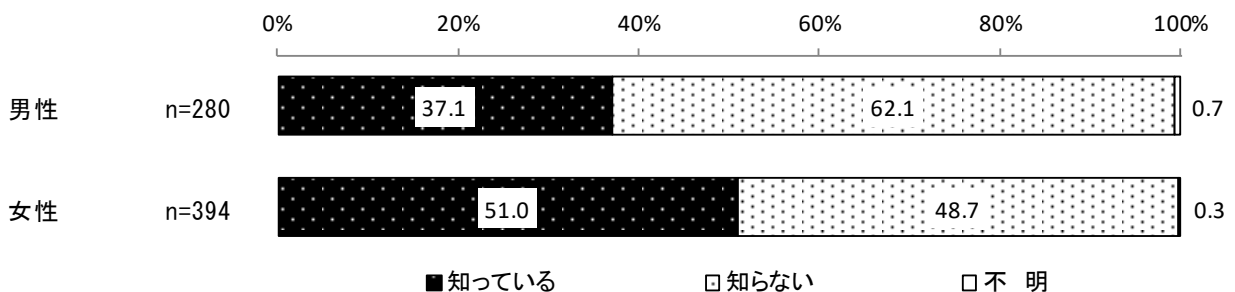
「地域包括支援センター」の認知度は、「知っている」が45.3%、「知らない」が54.3%となっている。

<経年比較>

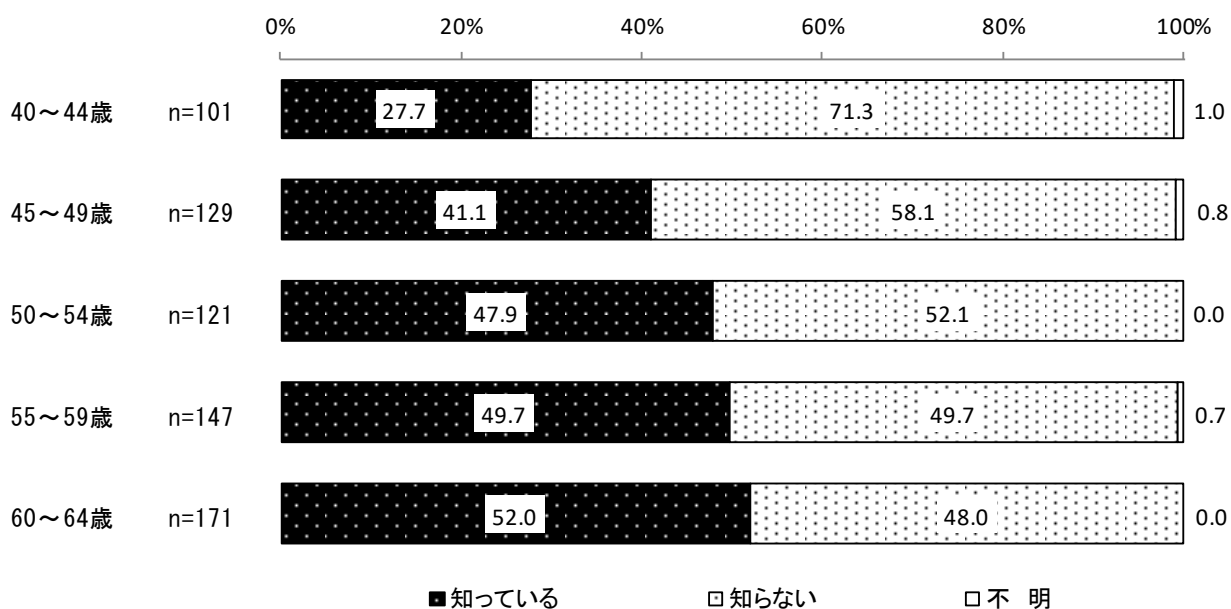




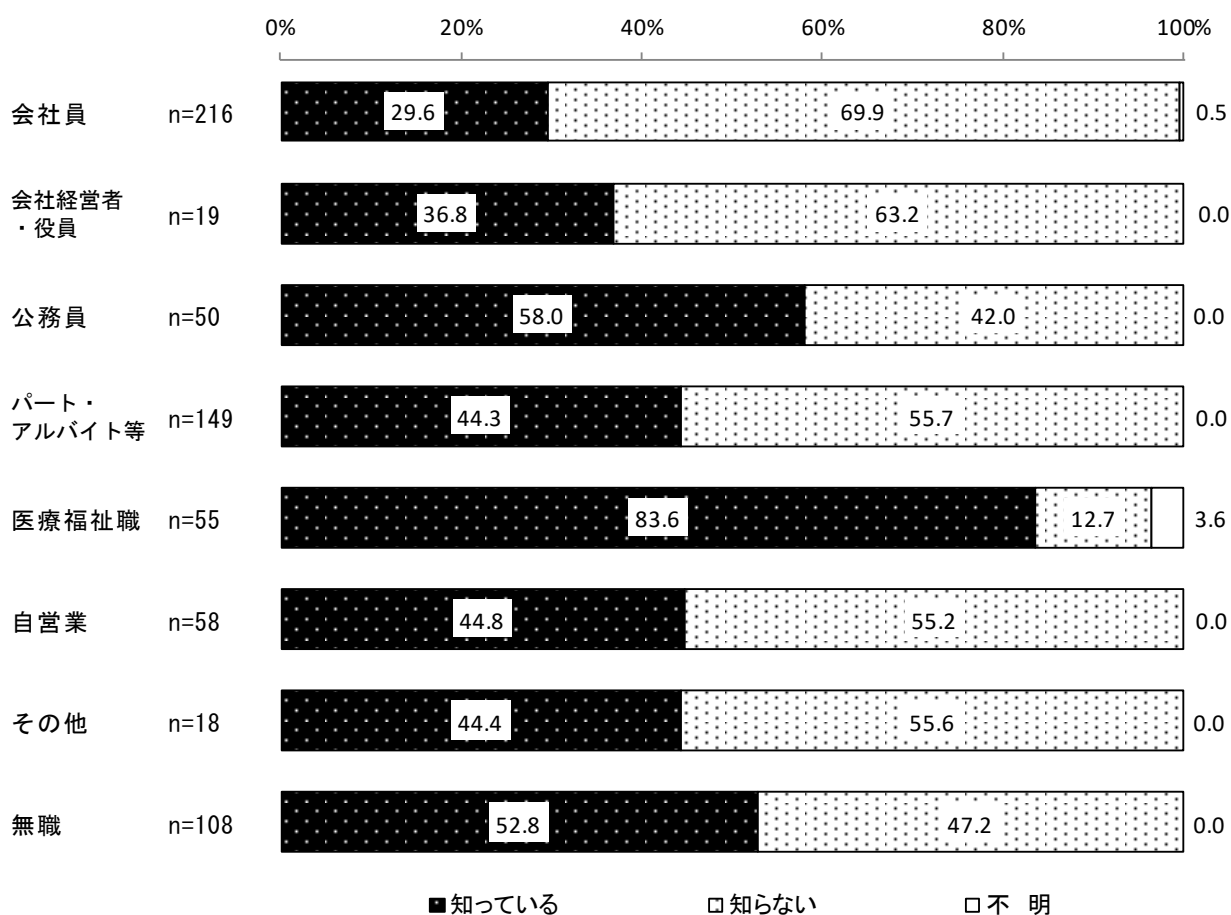
保健福祉圏域別でみると、「知っている」は吾妻圏域が 63.8%、沼田圏域が 60.9%で6割台となっている一方、太田館林圏域が 29.5%と約3割となっている。



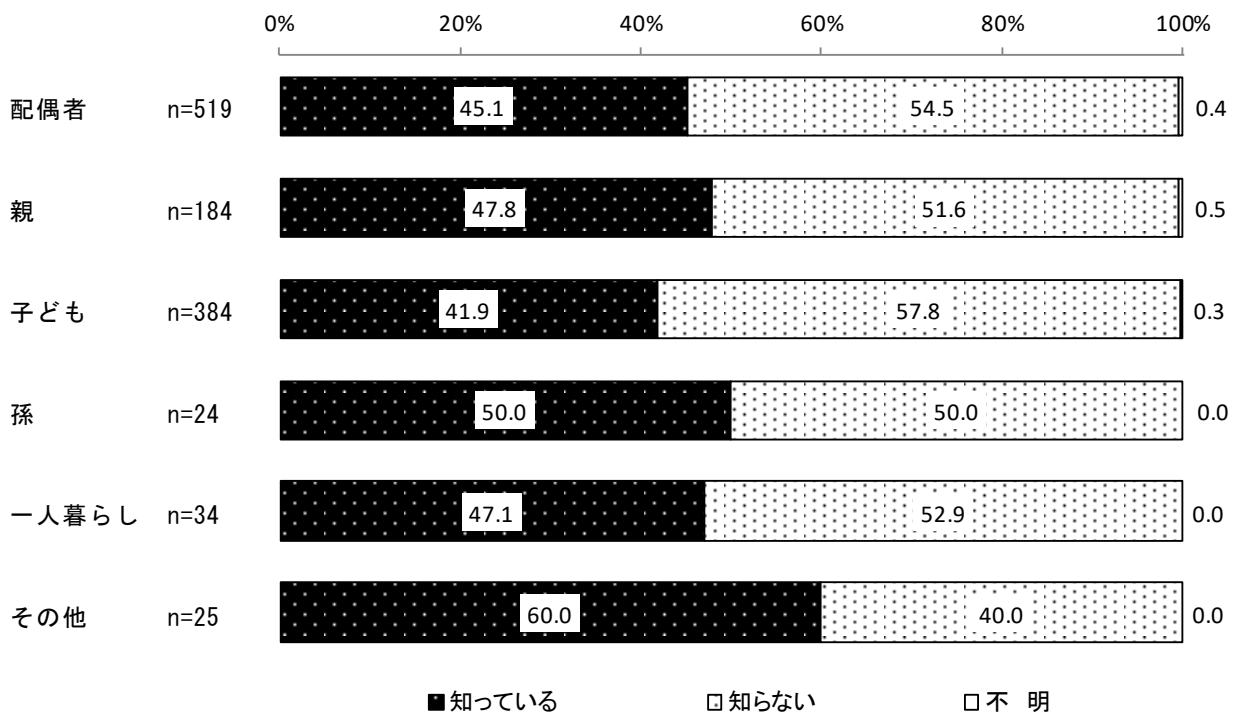
性別でみると、「知っている」は女性 (51.0%) が男性 (37.1%) を 13.9 ポイント上回っている。



年齢別で見ると、「知っている」は年齢が上がるにつれ高くなっており、60~64歳で52.0%と半数を超えている。



職業別で見ると、「知っている」は医療福祉職が83.6%と8割台となっている。



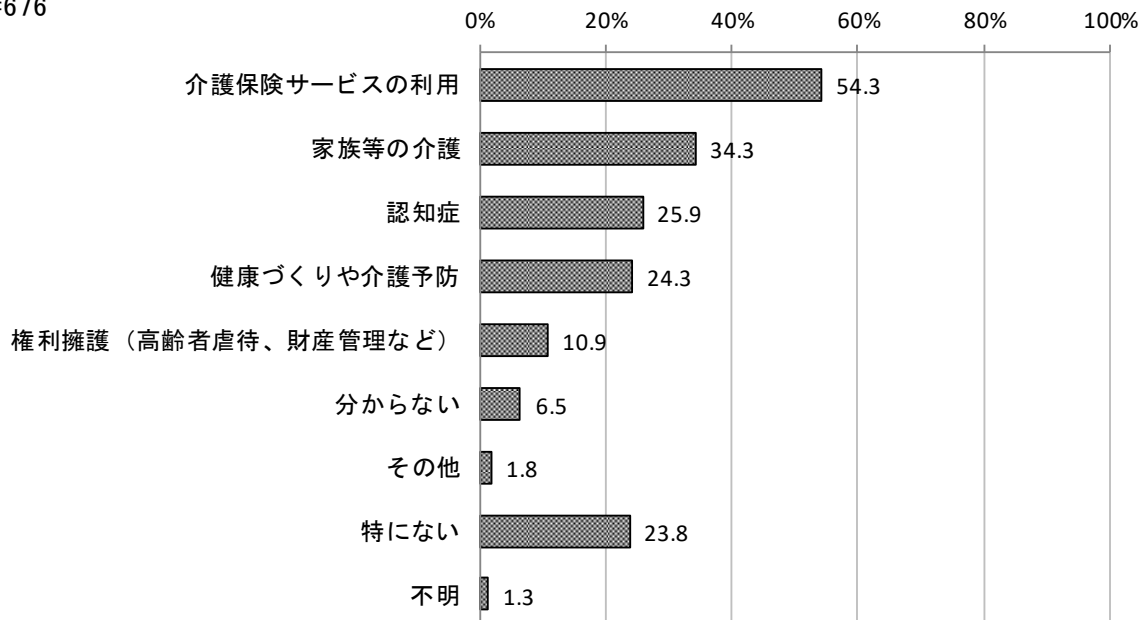
同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

(2) 地域包括支援センターに相談したいことについて

◎ 「介護保険サービスの利用」が5割半ば

問 17 地域包括支援センターでは、高齢者が住みなれた地域で安心して生活できるよう、様々な相談に応える総合相談支援業務を行っています。あなた自身や家族のことなどで相談してみたいことがあれば、教えてください。(主なもの3つ以内に○)

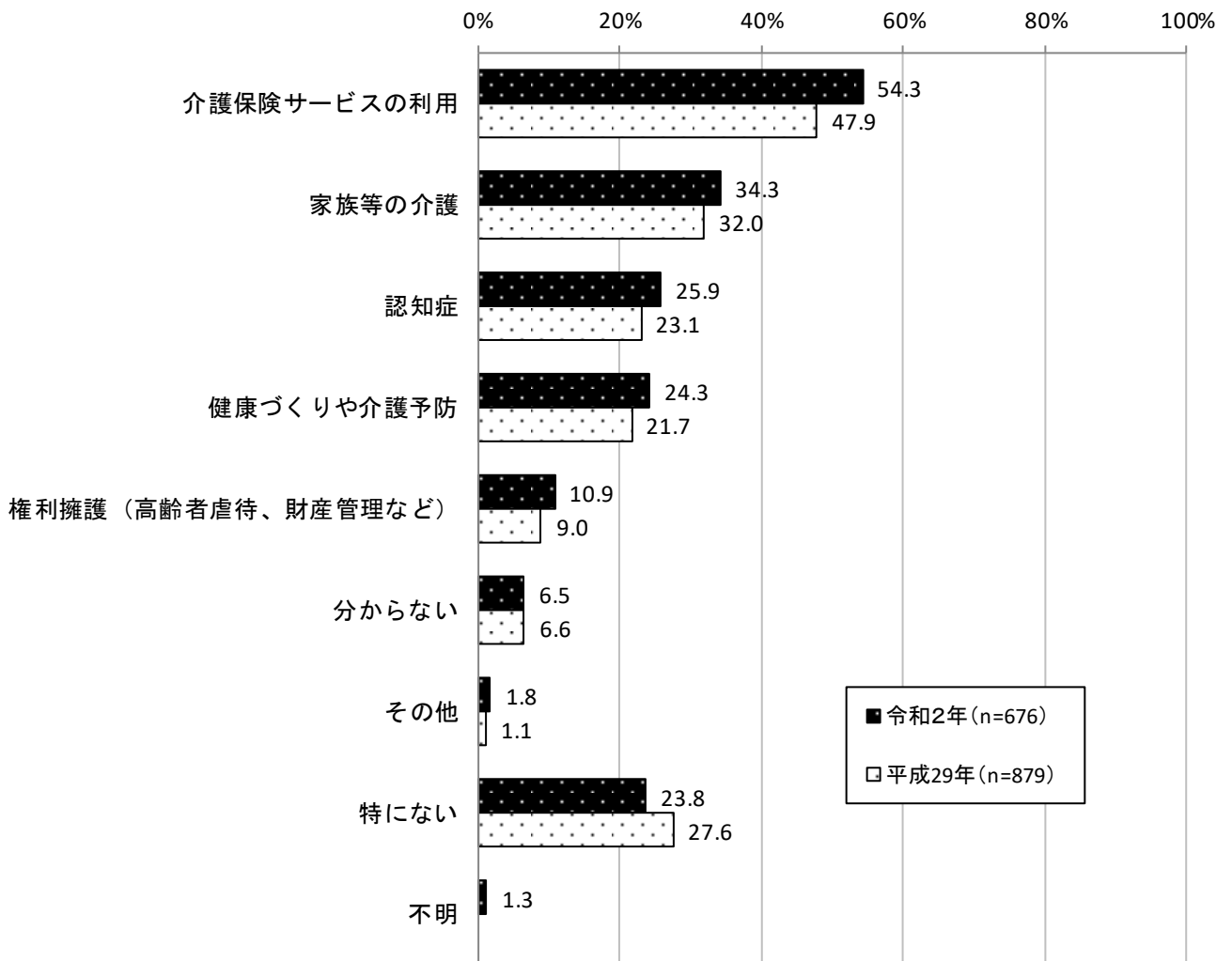
n=676

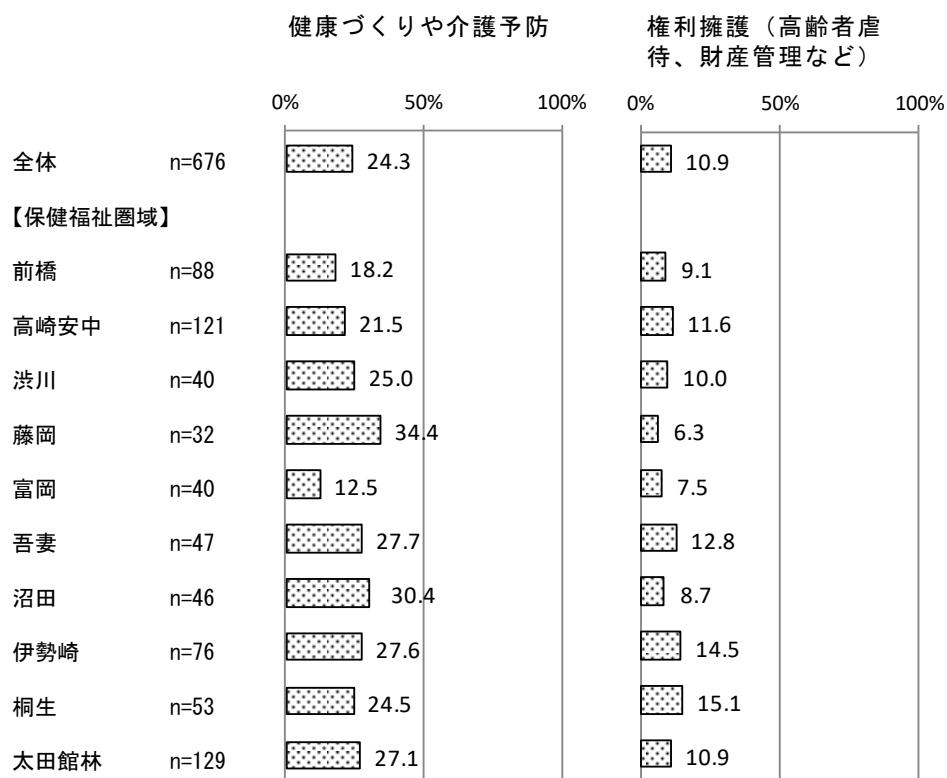
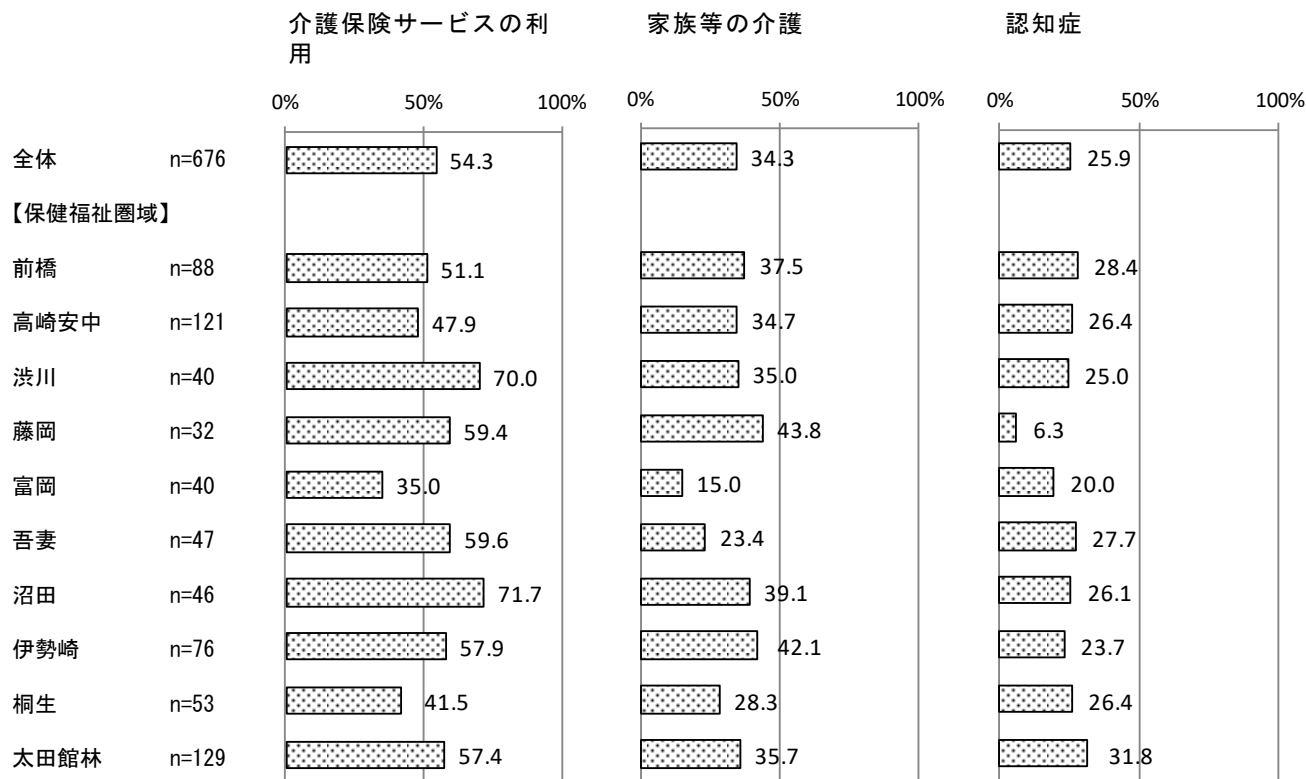


地域包括支援センターに相談したいことは、「介護保険サービスの利用」が54.3%で最も高く、次いで、「家族等の介護」(34.3%)、「認知症」(25.9%)となっている。

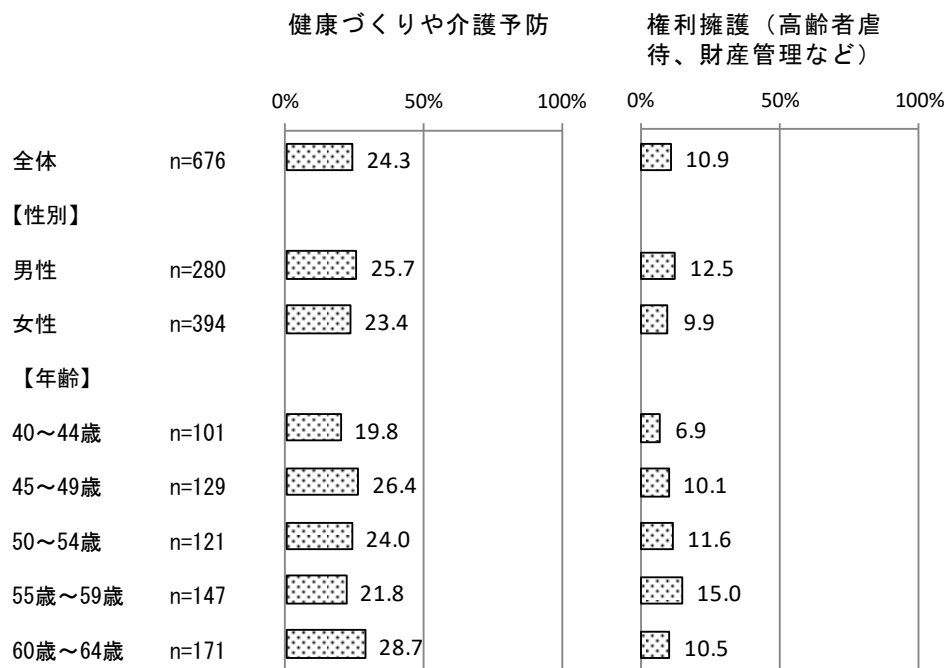
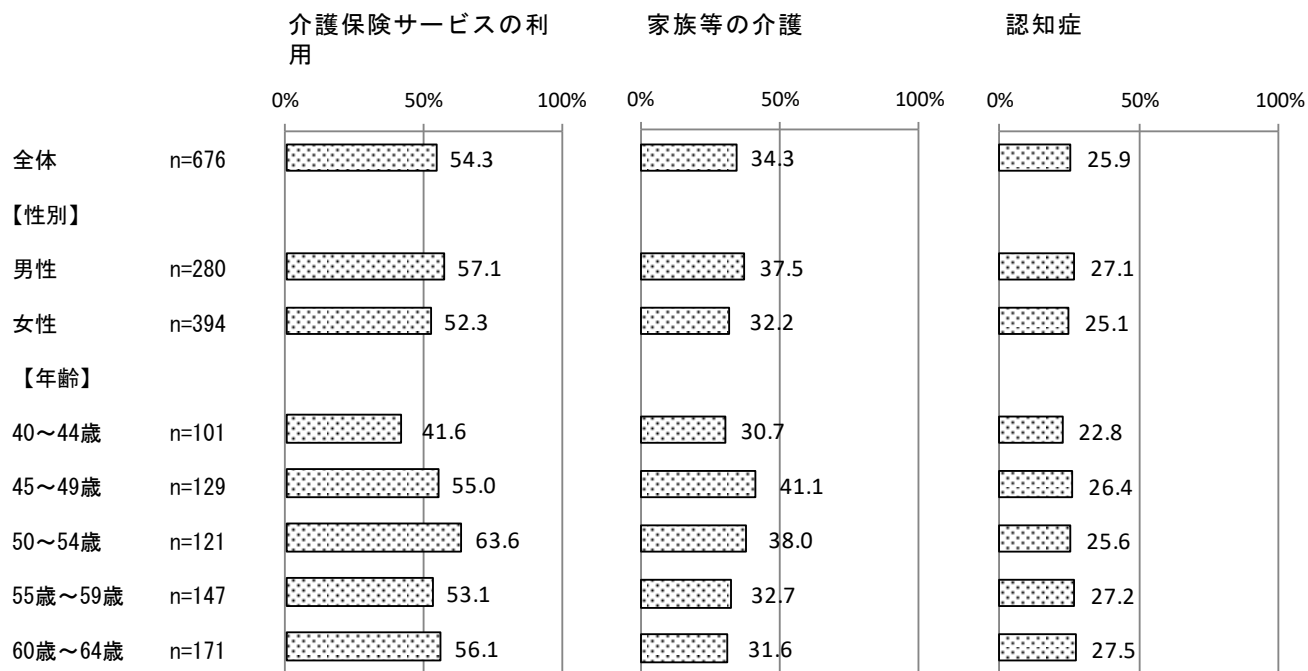
一方、「特にない」は23.8%となっている。

<経年比較>





保健福祉圏域別でみると、「介護保険サービスの利用」は渋川圏域、沼田圏域で7割台となっている。



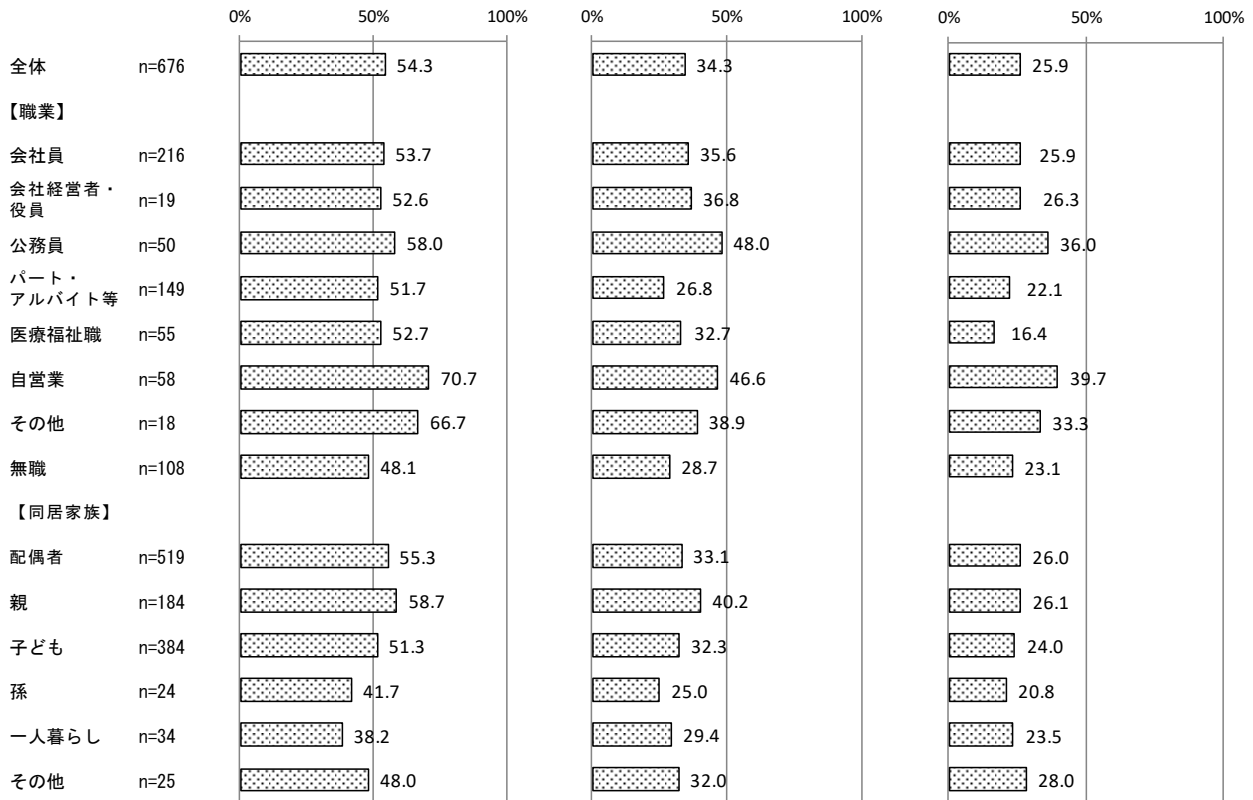
性別で見ると、特徴的な差異は見られなかった。

年齢別で見ると、「介護保険サービスの利用」は 40~44 歳を除いたすべての年齢で半数を超えている。

介護保険サービスの利用

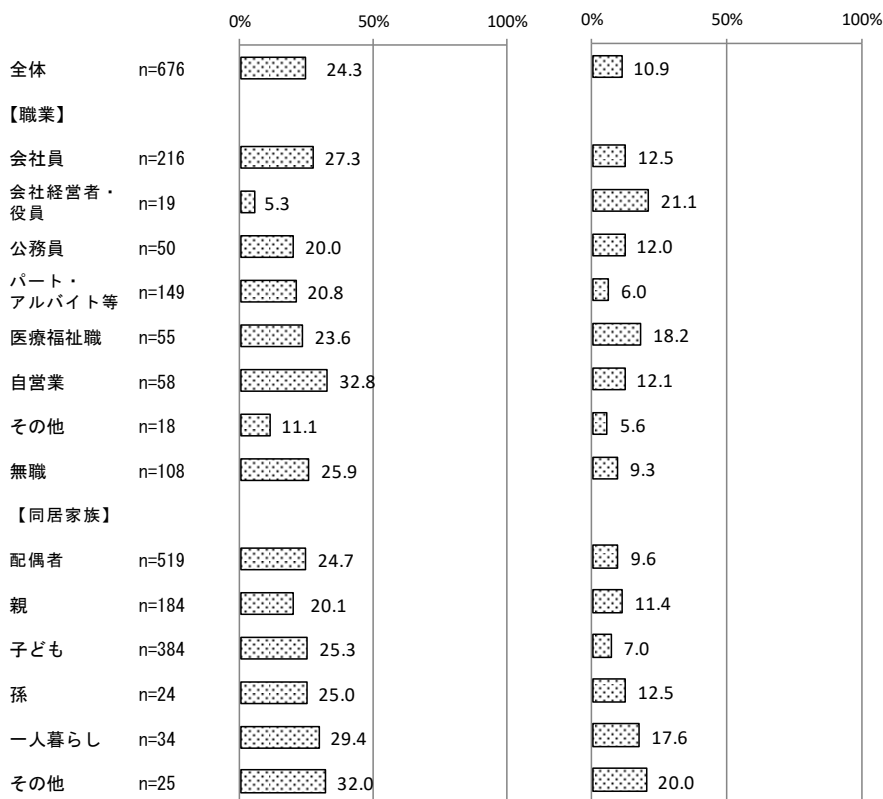
家族等の介護

認知症



健康づくりや介護予防

権利擁護（高齢者虐待、財産管理など）



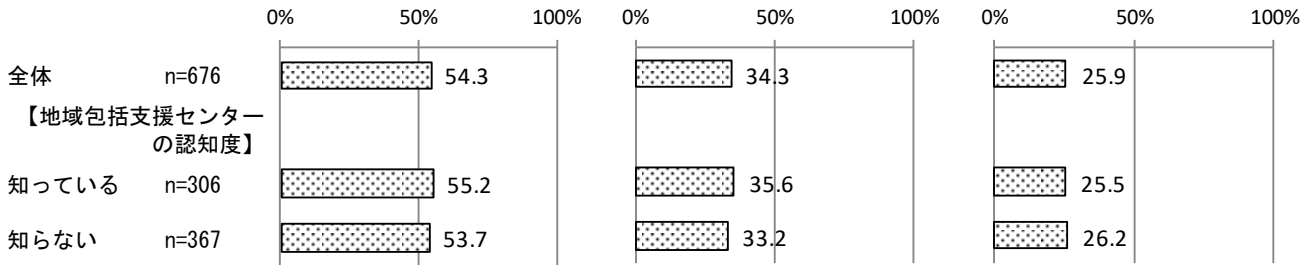
職業別でみると、「介護保険サービスの利用」は無職を除いたすべての職業で半数を超えており、自営業では70.7%となっている。

同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

介護保険サービスの利用

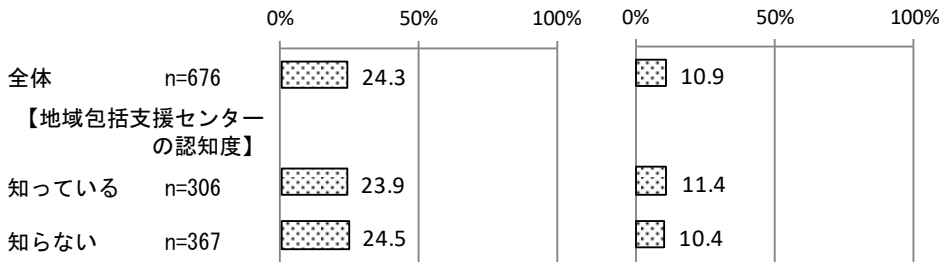
家族等の介護

認知症



健康づくりや介護予防

権利擁護（高齢者虐待、財産管理など）



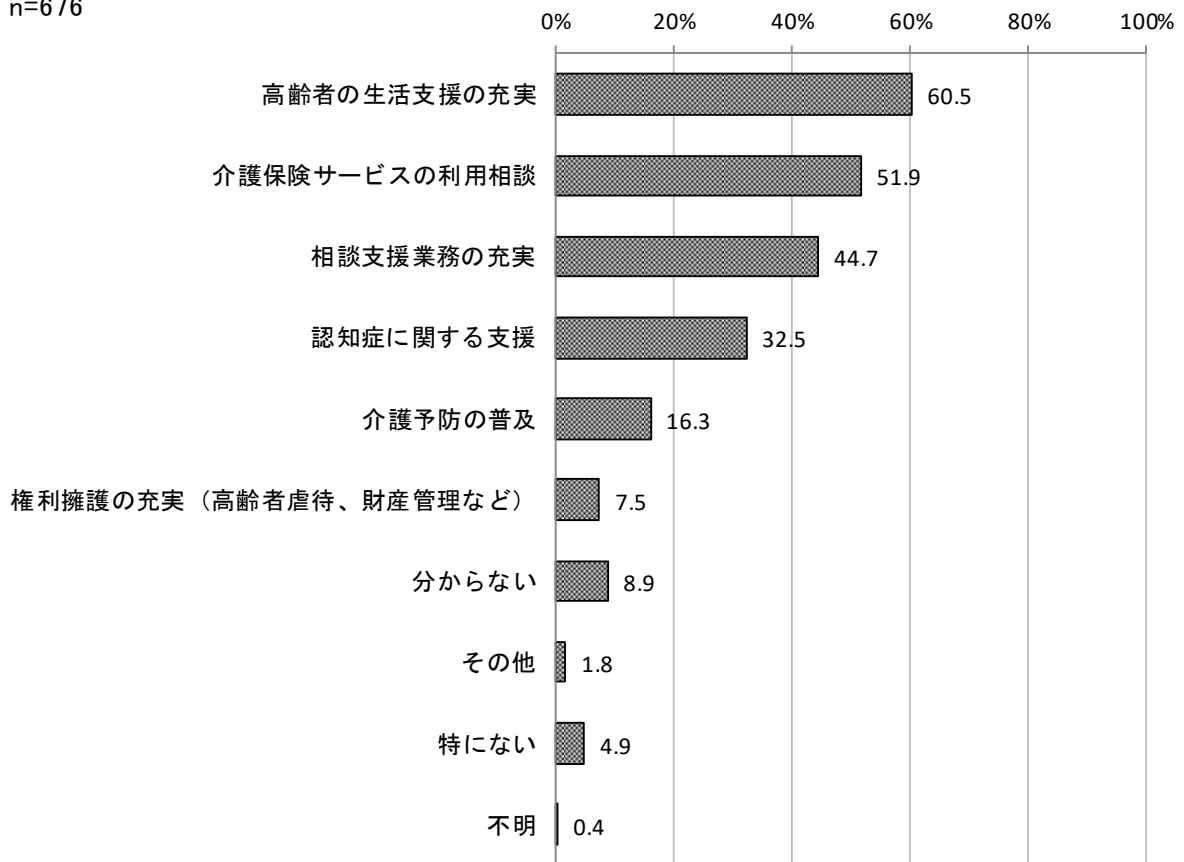
地域包括支援センターの認知度別でみると、「介護保険サービスの利用」は地域包括支援センターを知っている、知らない方いずれも半数を超えている。

(3) 地域包括支援センターに期待すること

◎ 「高齢者の生活支援の充実」が約6割

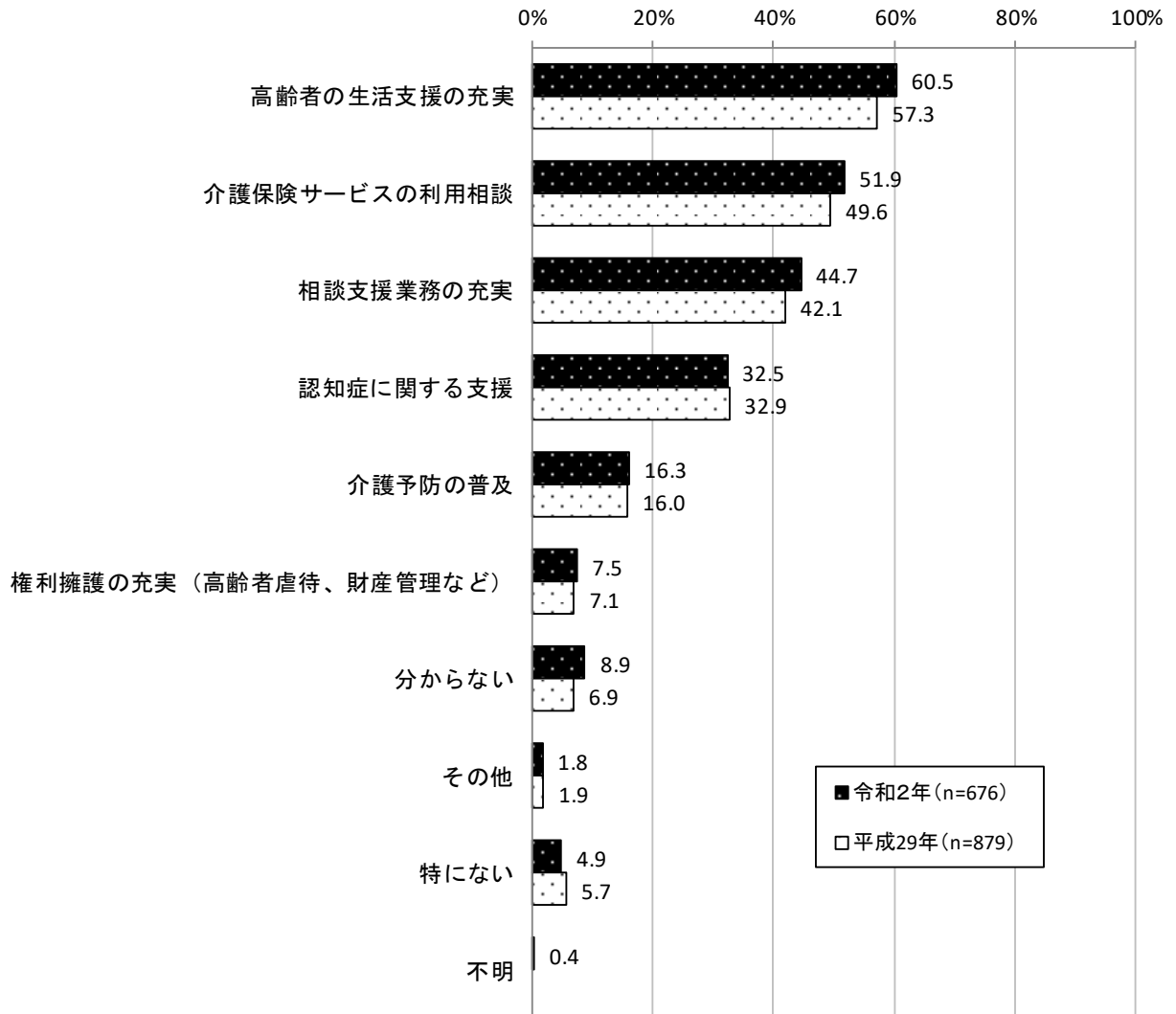
問 18 地域包括支援センターにどのようなことを期待しますか。(主なもの3つ以内に○)

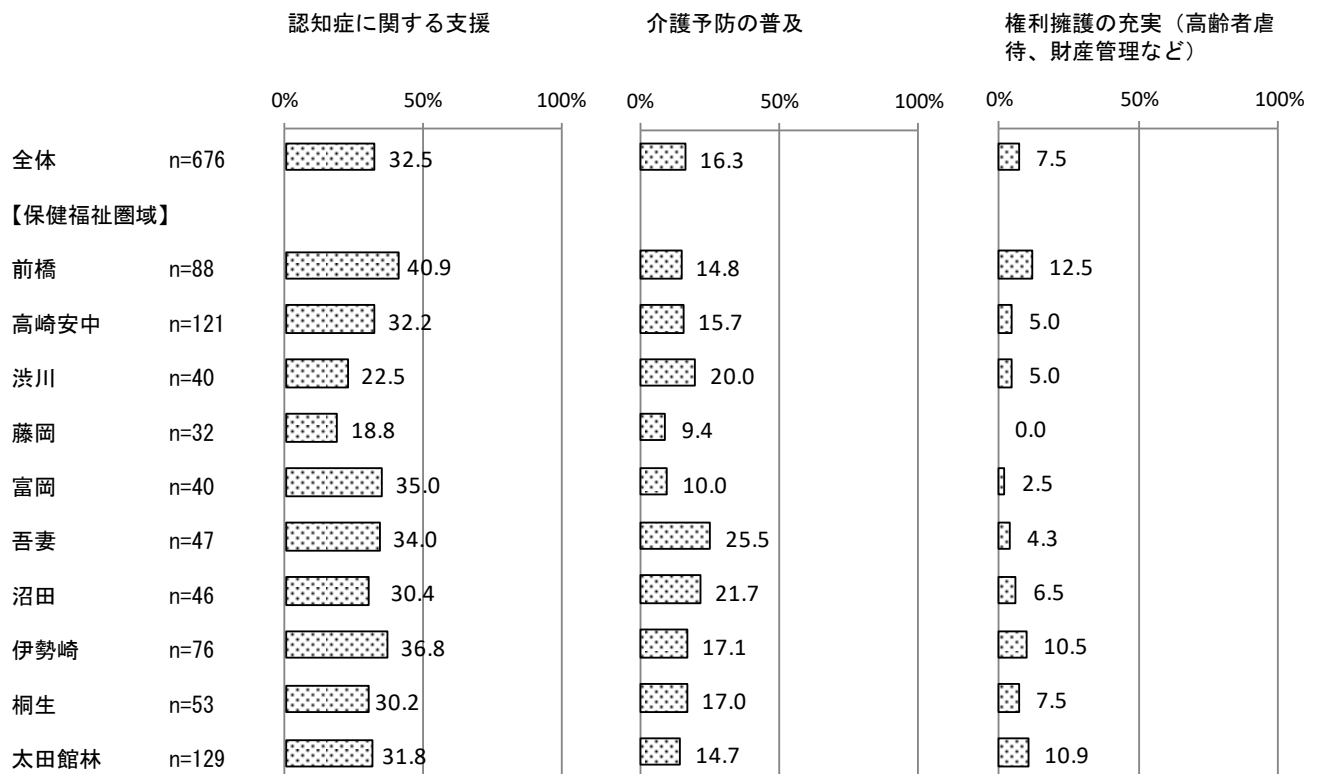
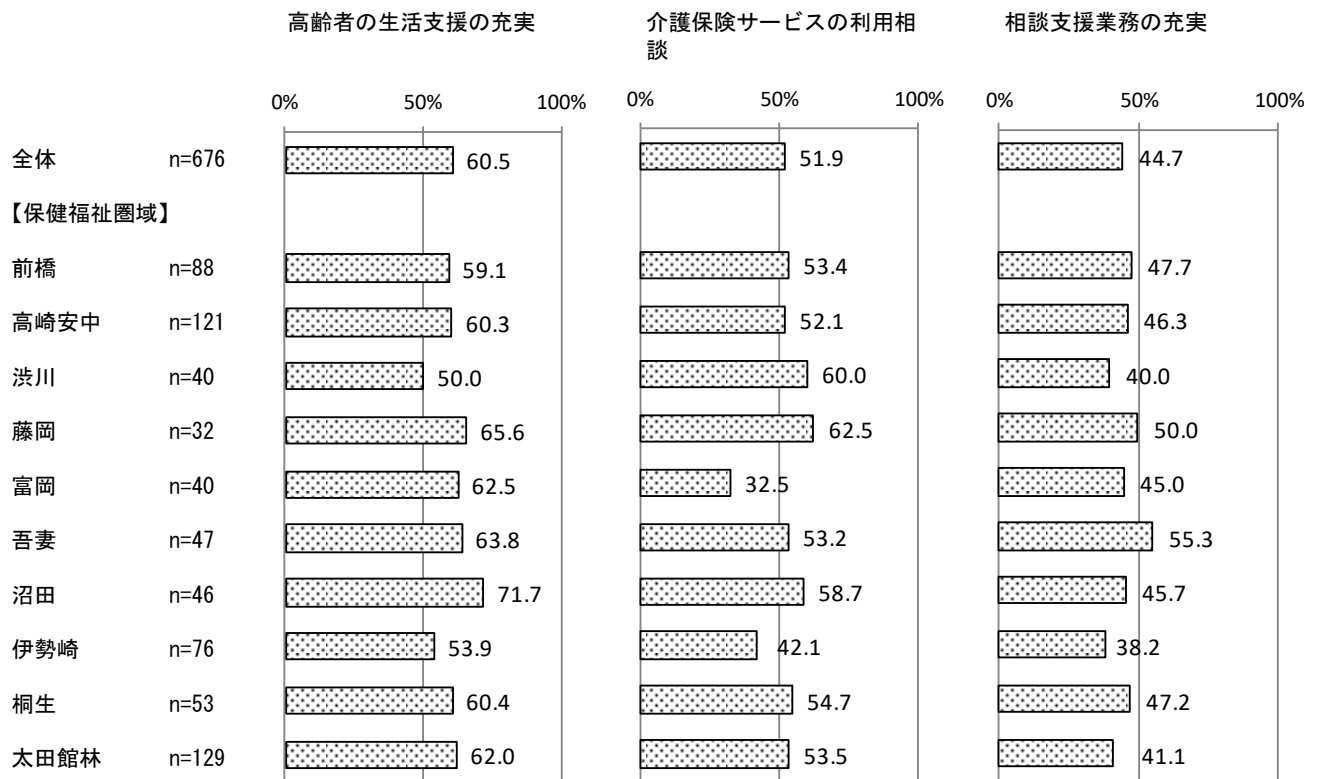
n=676



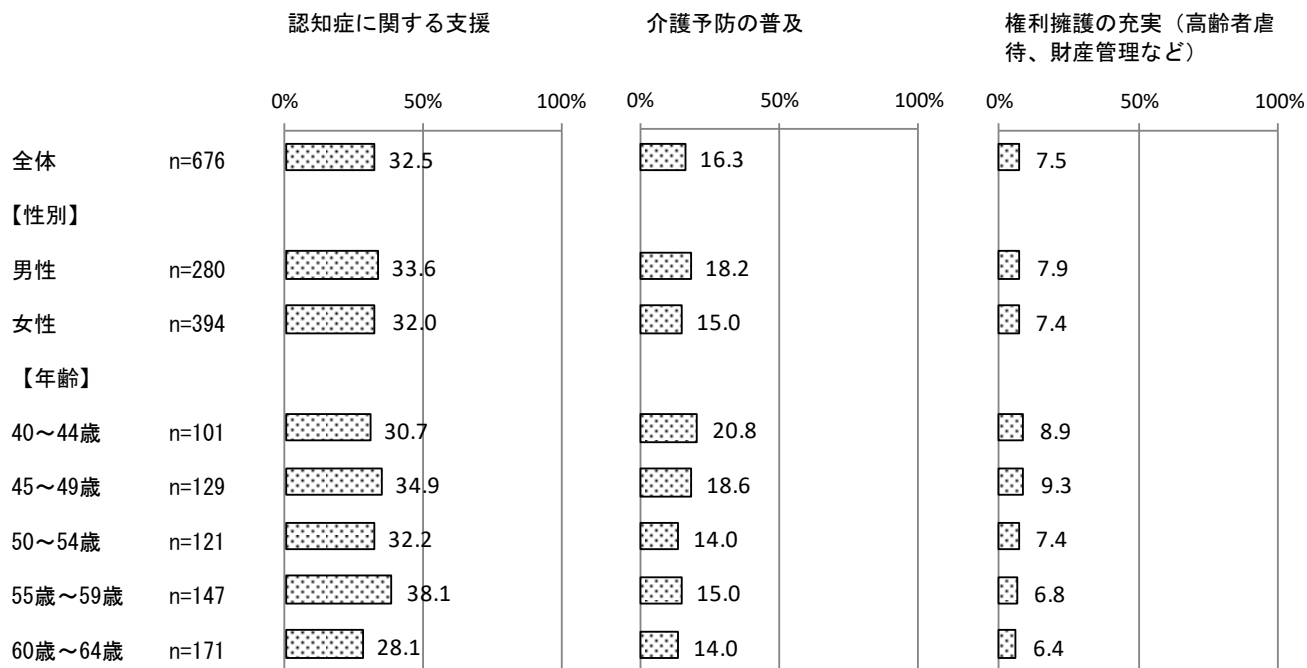
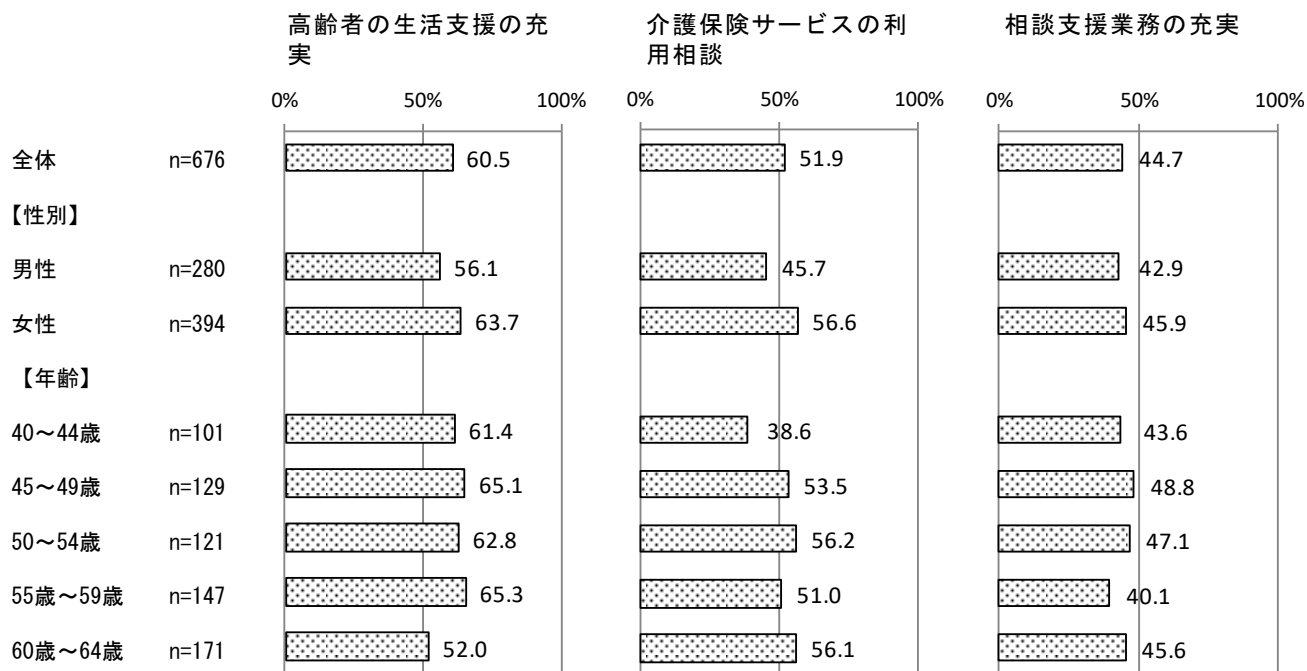
地域包括支援センターに期待することは、「高齢者の生活支援の充実」が60.5%で最も高く、次いで「介護保険サービスの利用相談」(51.9%)、「相談支援業務の充実」(44.7%)、となっている。

<経年比較>





保健福祉圏域別でみると、「高齢者の生活支援の充実」はすべての圏域で半数を超えており、沼田圏域では71.7%となっている。



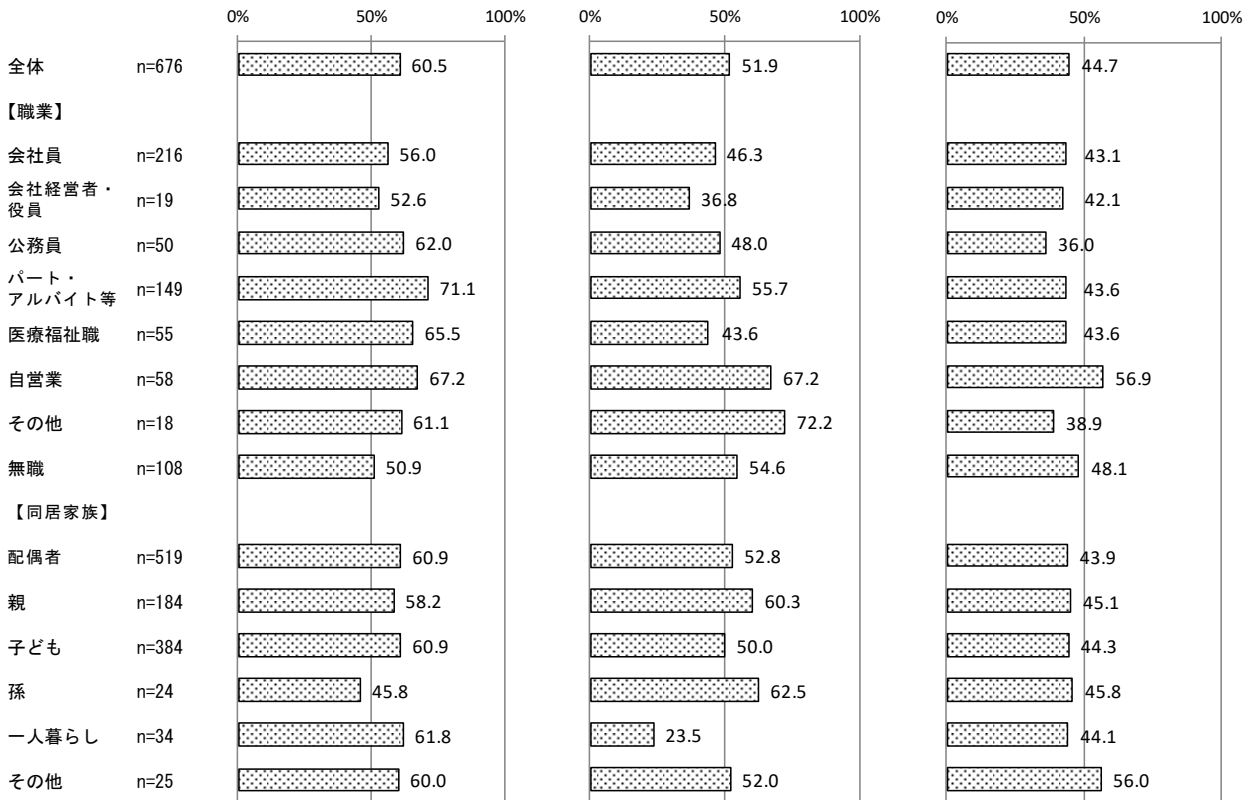
性別で見ると、「高齢者の生活支援の充実」は女性（63.7%）が男性（56.1%）を7.6ポイント上回っている。また、「介護保険サービスの利用相談」は女性（56.6%）が男性（45.7%）を10.9ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「高齢者の生活支援の充実」はすべての年齢で半数を超えている。

高齢者の生活支援の充実

介護保険サービスの利用相談

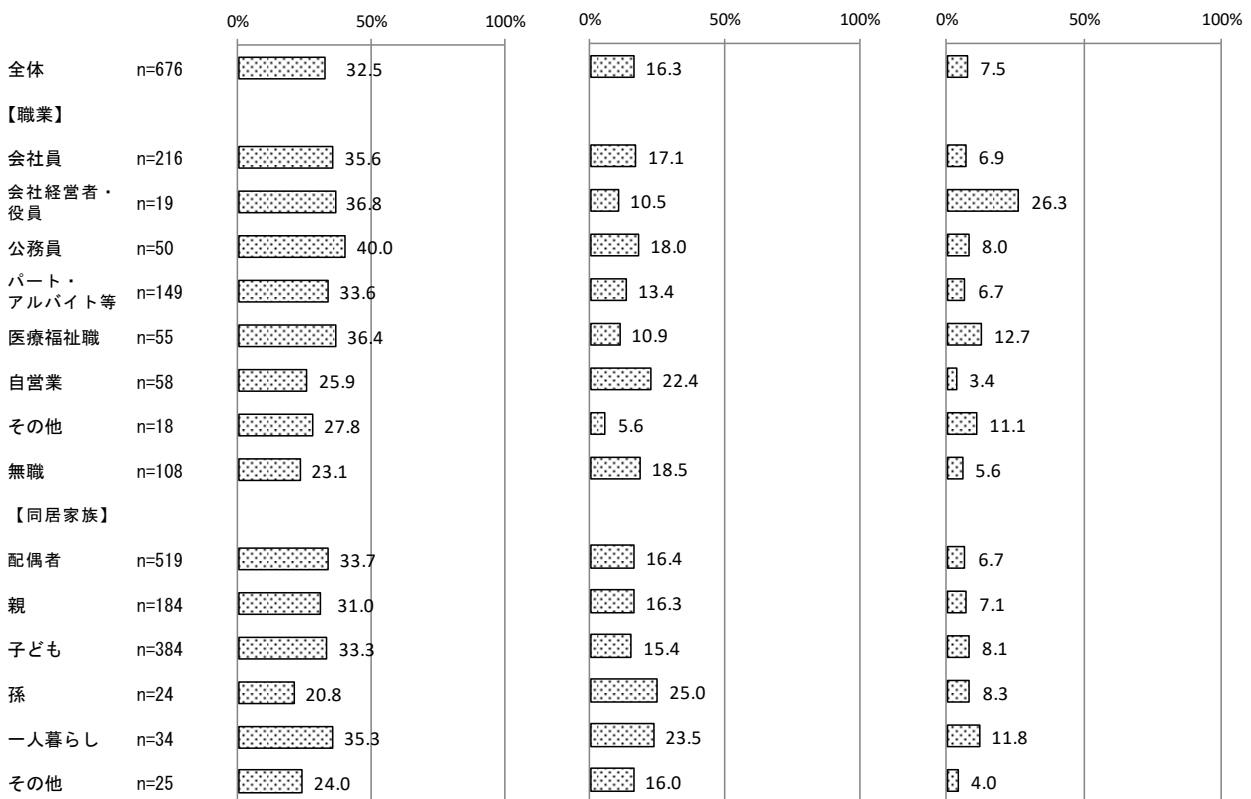
相談支援業務の充実



認知症に関する支援

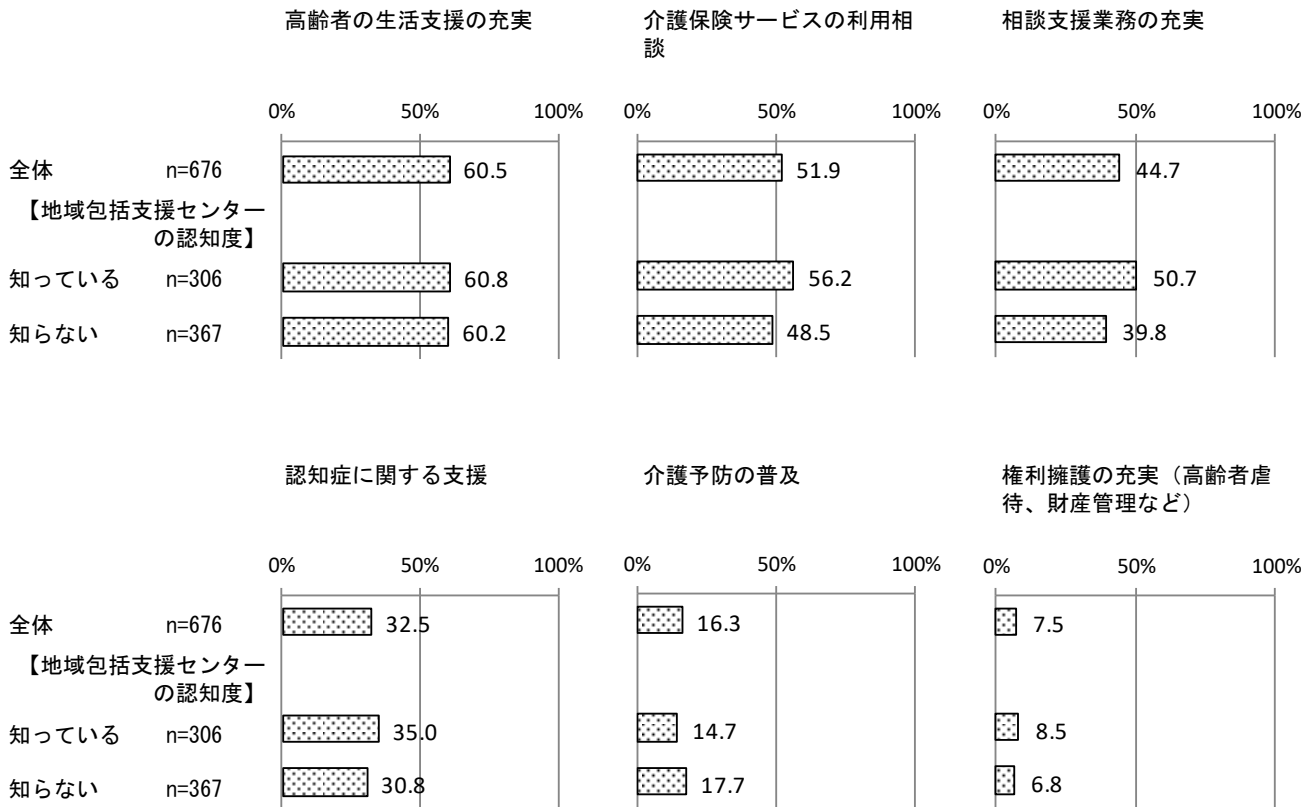
介護予防の普及

権利擁護の充実（高齢者虐待、財産管理など）



職業別でみると、「高齢者の生活支援の充実」はすべての職業で半数を超えており、パート・アルバイト等では71.1%となっている。自営業では、「介護保険サービスの利用相談」が67.2%、「相談支援業務の充実」が56.9%と半数を超えている。

同居家族別でみると、特徴的な差異は見られなかった。



地域包括支援センターの認知度別でみると、「高齢者の生活支援の充実」は地域包括支援センターを知っている、知らない方いずれも約6割となっている。地域包括支援センターを知っている方は「介護保険サービスの利用相談」、「相談支援業務の充実」で半数を超えている。

7 その他

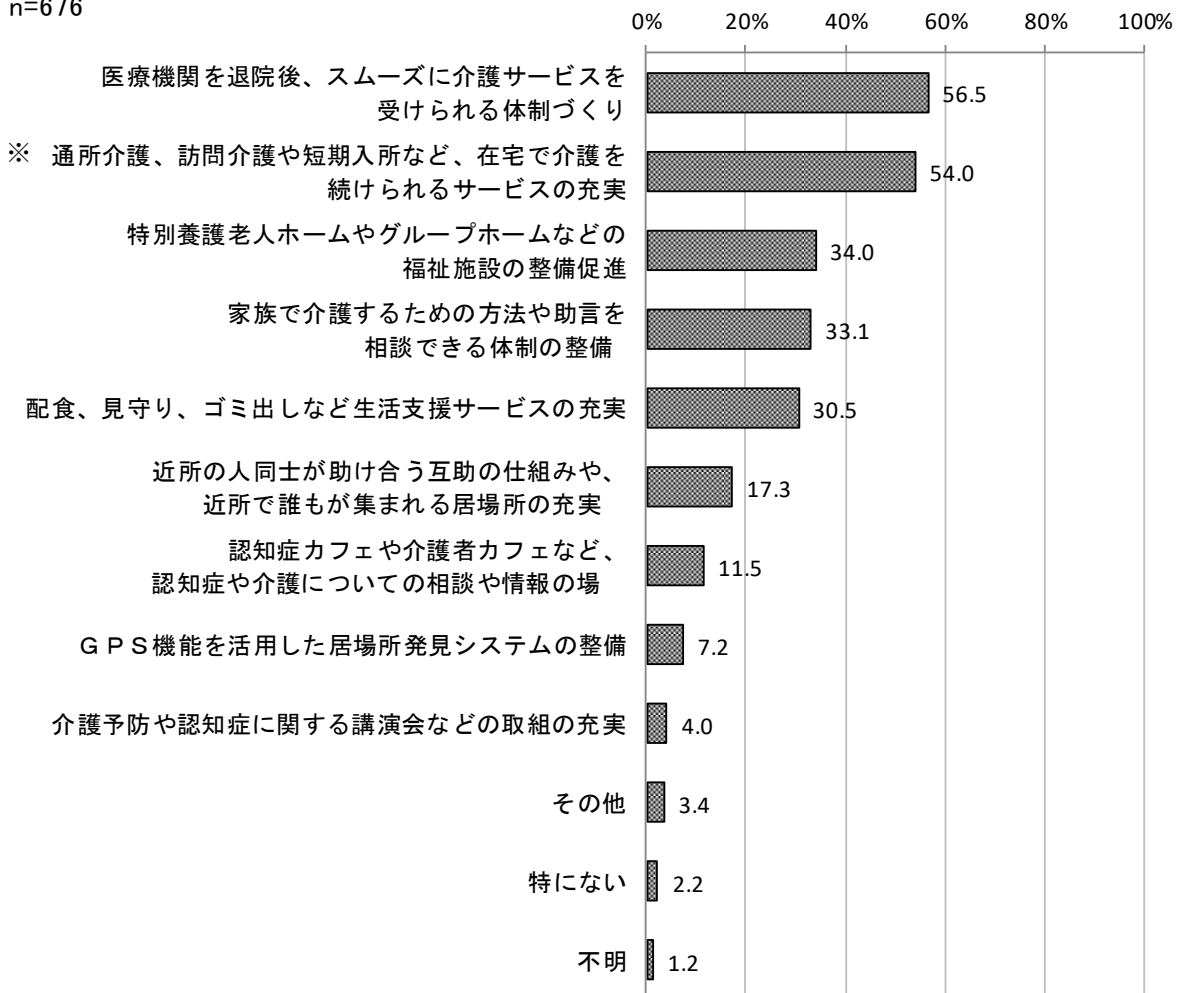
(1) 県・市町村が取り組むべき介護への支援

◎ 「医療機関を退院後、スムーズに介護サービスを受けられる体制づくり」が5割半ば

問 19 県や市町村が、介護について取り組むべき支援についてお聞かせください。

(主なもの3つ以内に○)

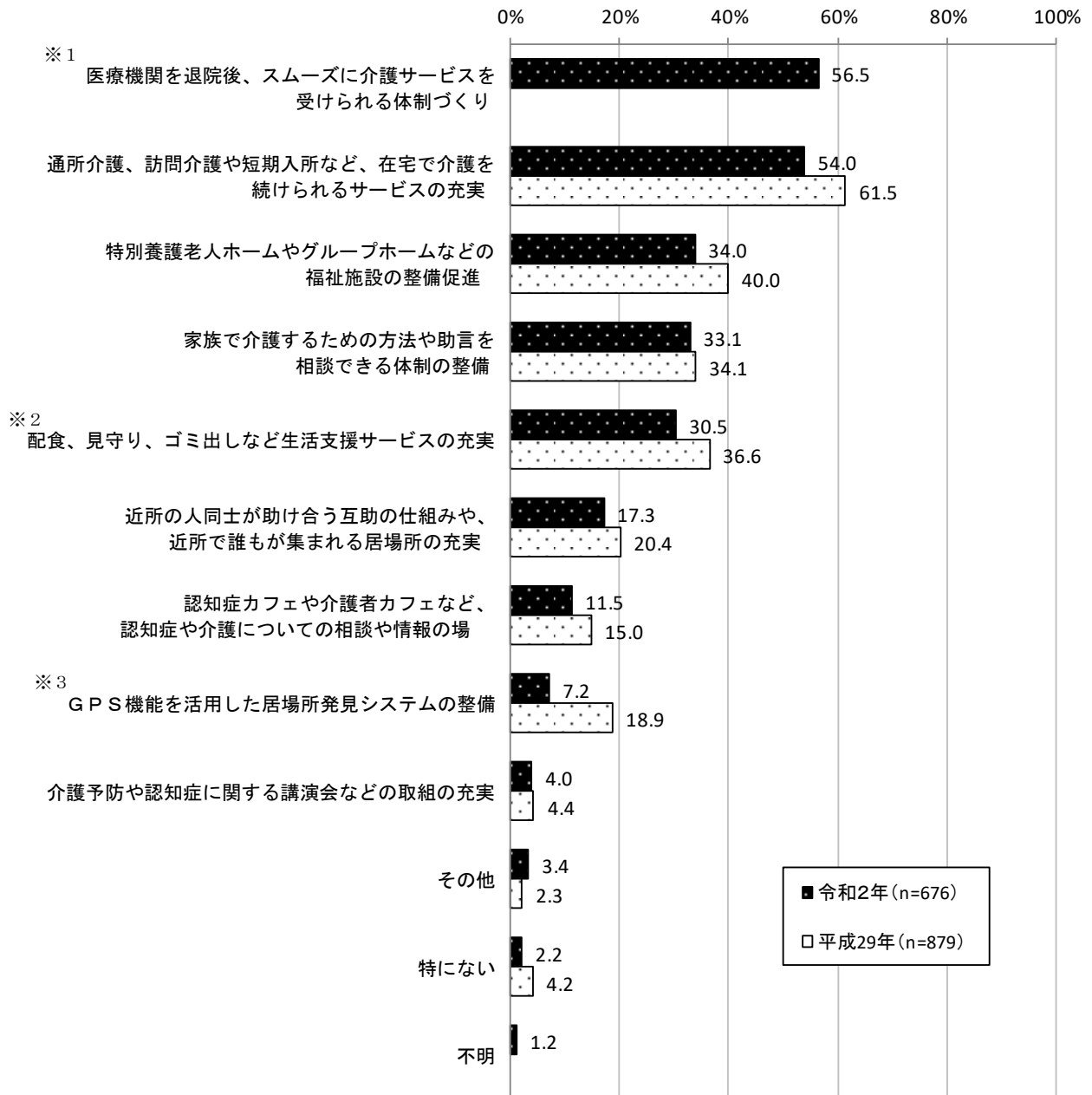
n=676



※通所介護（デイサービス）、訪問介護（ホームヘルパーサービス）や短期入所（ショートステイ）など、在宅で介護を続けられるサービスの充実

県・市町村が取り組むべき介護への支援は、「医療機関を退院後、スムーズに介護サービスを受けられる体制づくり」が56.5%で最も高く、次いで「通所介護（デイサービス）、訪問介護（ホームヘルパーサービス）や短期入所（ショートステイ）など、在宅で介護を続けられるサービスの充実」（54.0%）、「特別養護老人ホームやグループホームなどの福祉施設の整備促進」（34.0%）となっている。

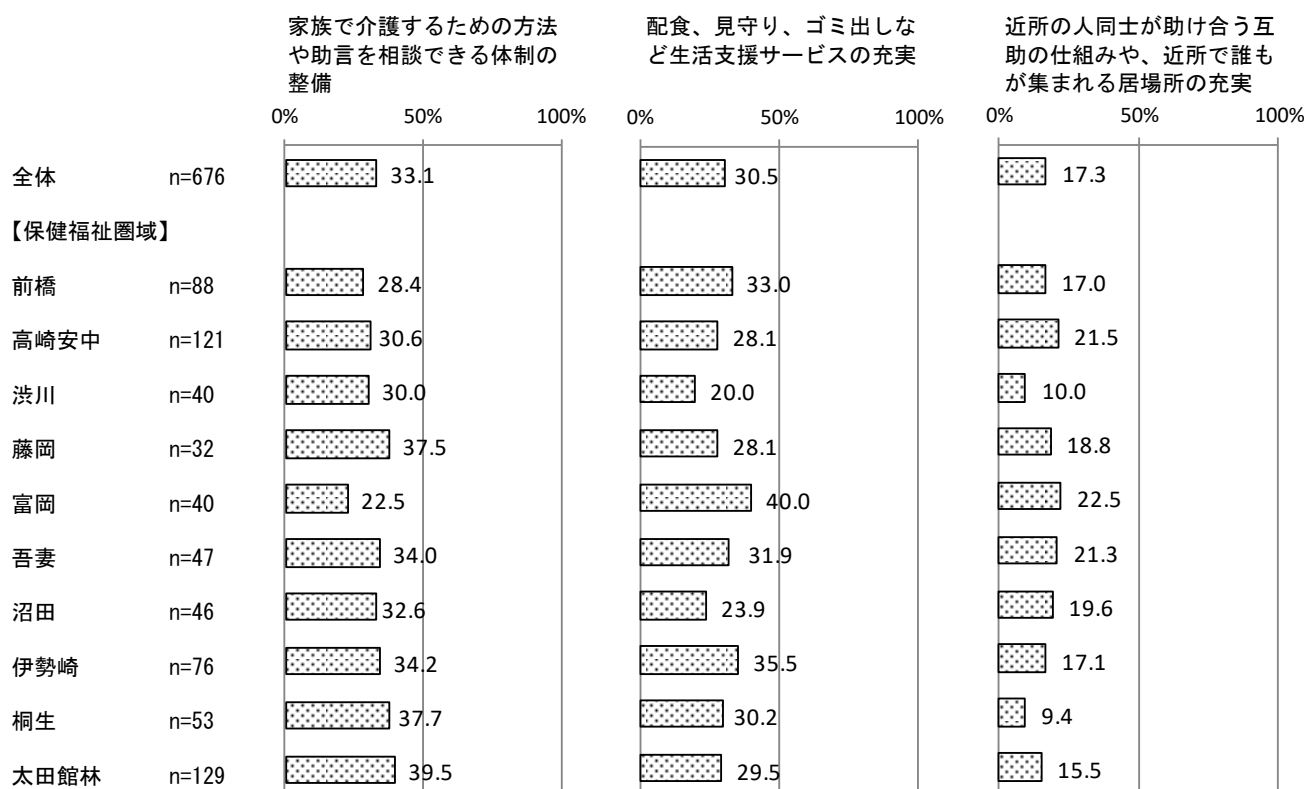
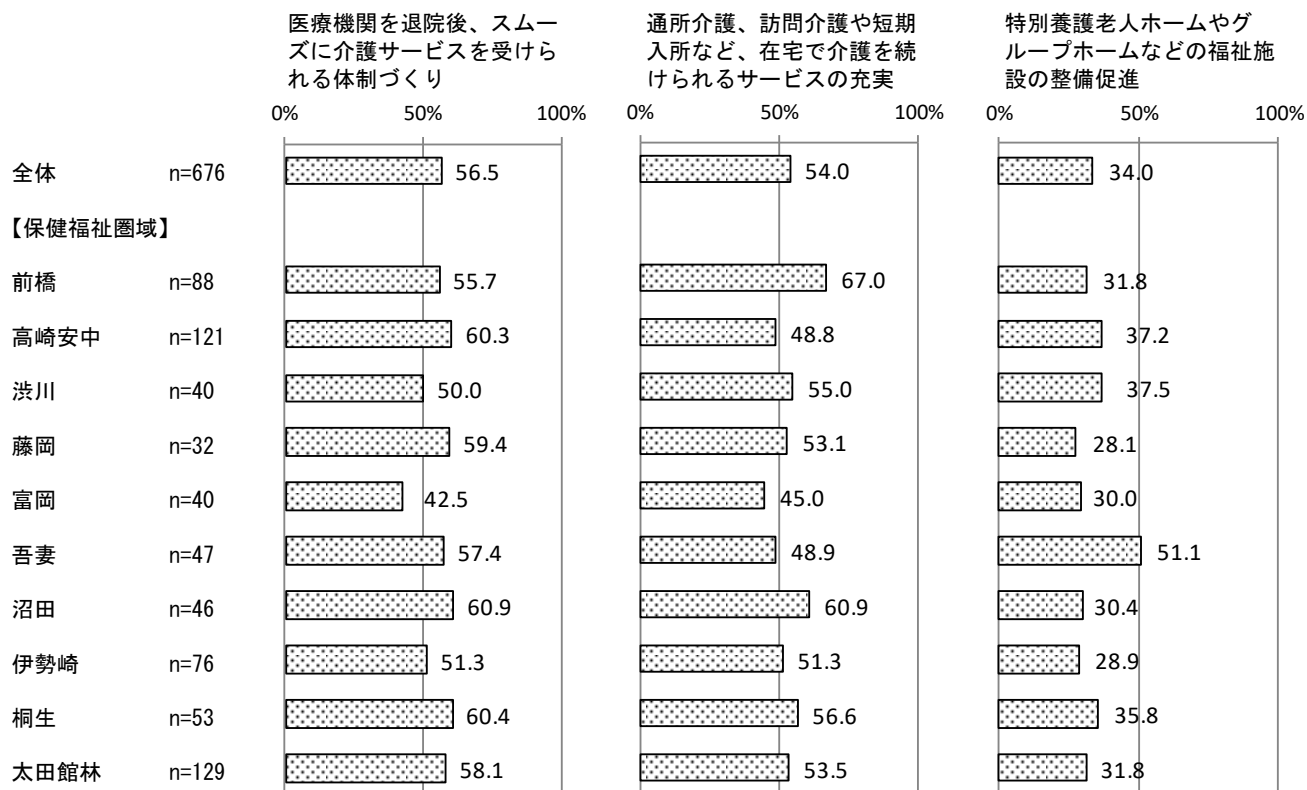
<経年比較>



※3 令和2年で追加した選択肢

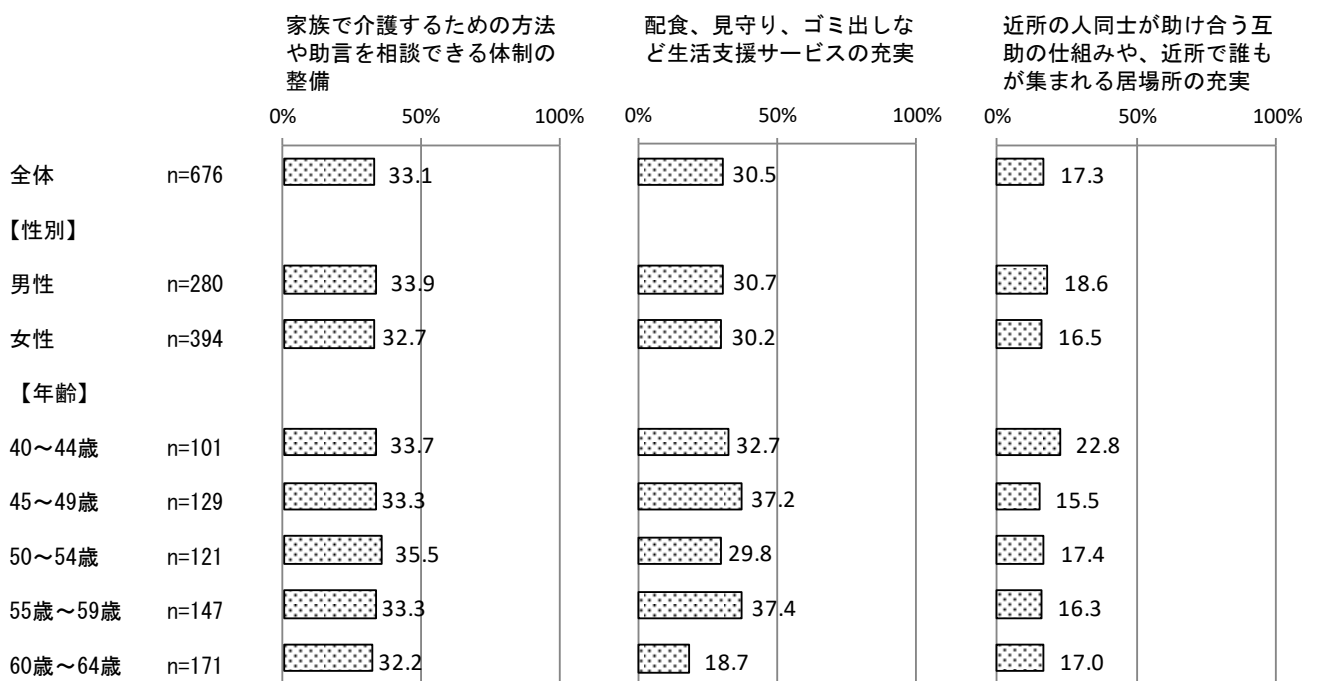
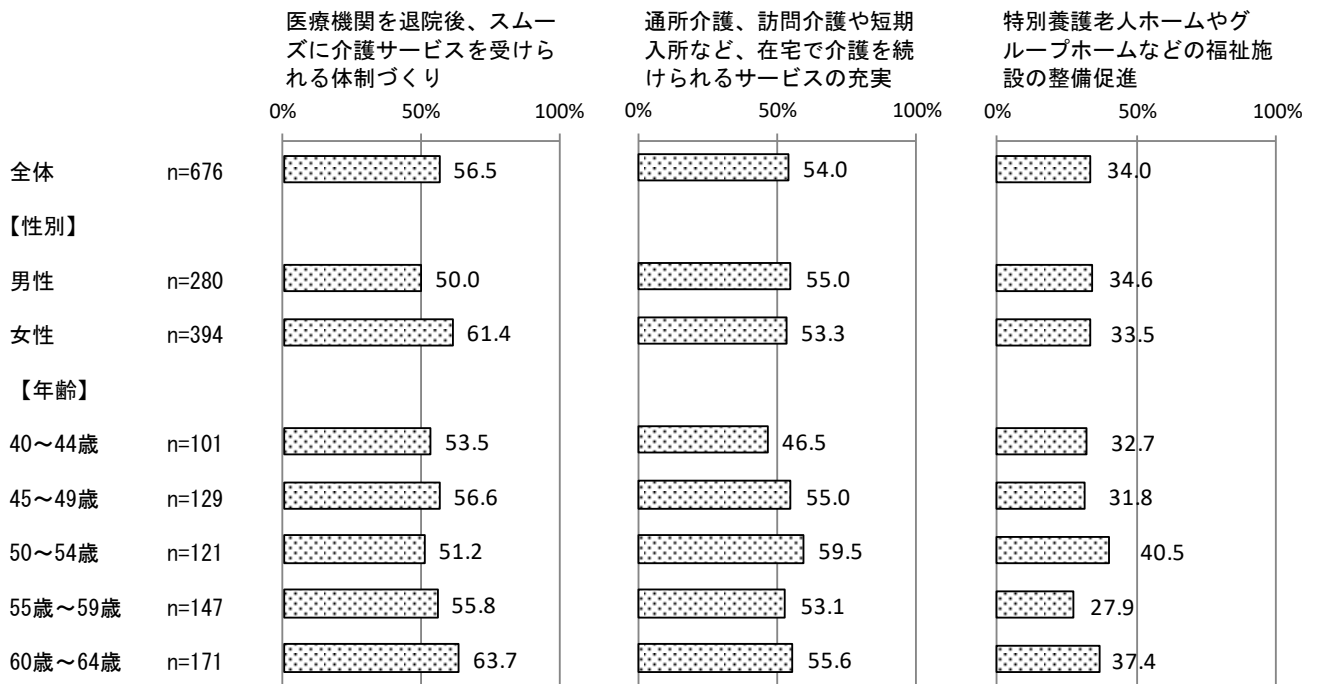
※2 平成29年では「介護保険サービス以外の配食、見守り、ゴミ出しなど生活支援サービスの充実」と表示

※3 平成29年では「緊急時通報システムやGPS機能を活用した居場所発見システムの整備」と表示



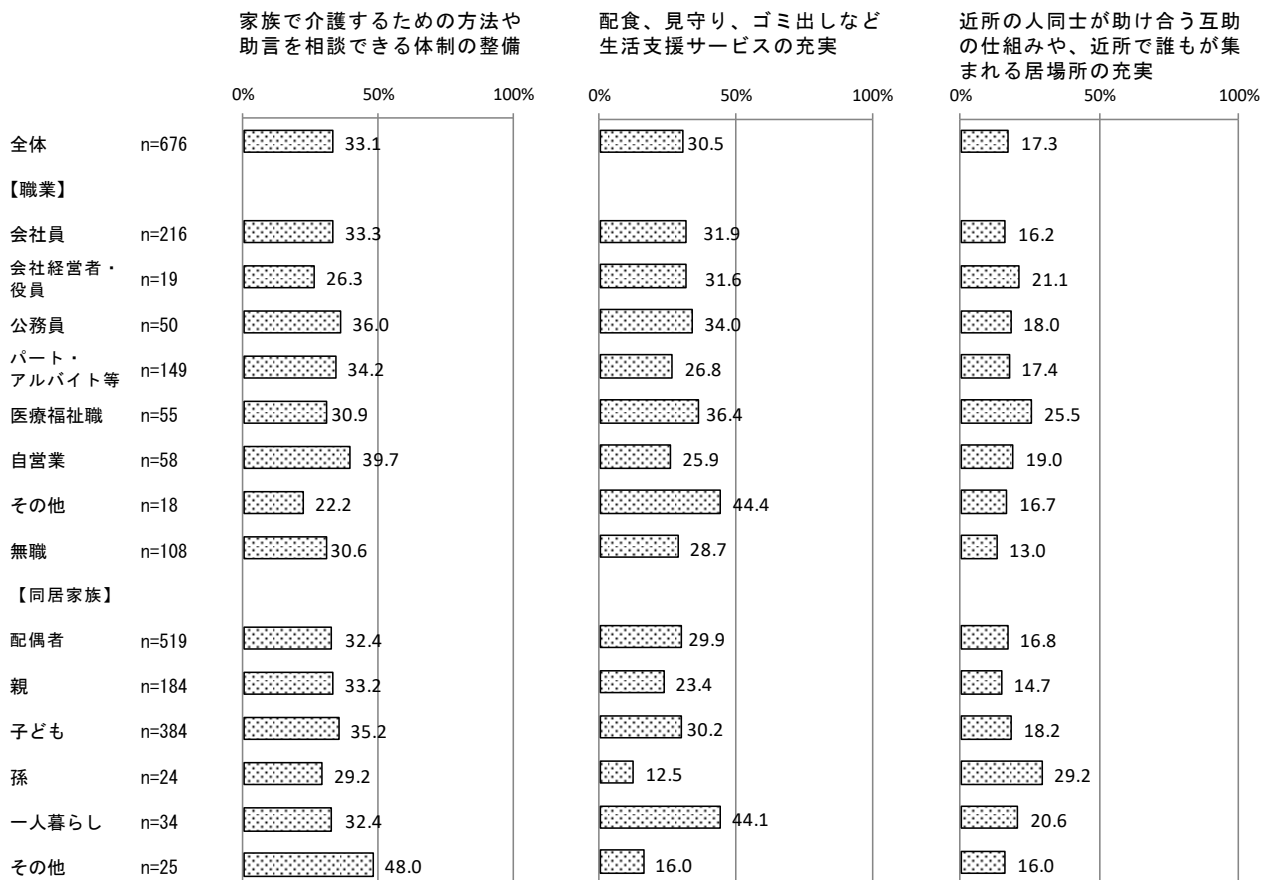
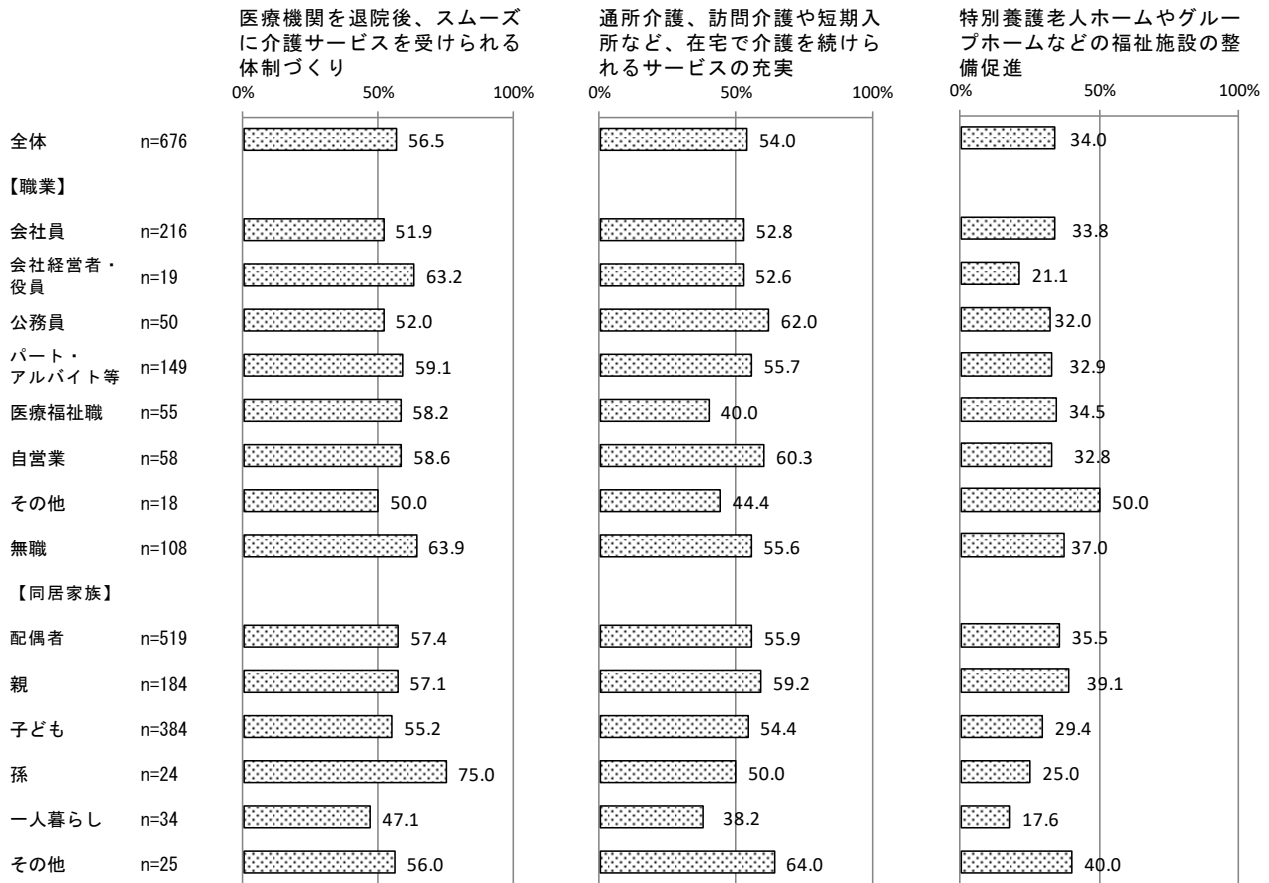
上位6項目について、保健福祉圏域別でみると、「医療機関を退院後、スムーズに介護サービスを受けられる体制づくり」は富岡圏域が42.5%、その他のすべての圏域では半数を超えている。

「特別養護老人ホームやグループホームなどの福祉施設の整備促進」は吾妻圏域で51.1%となっている。



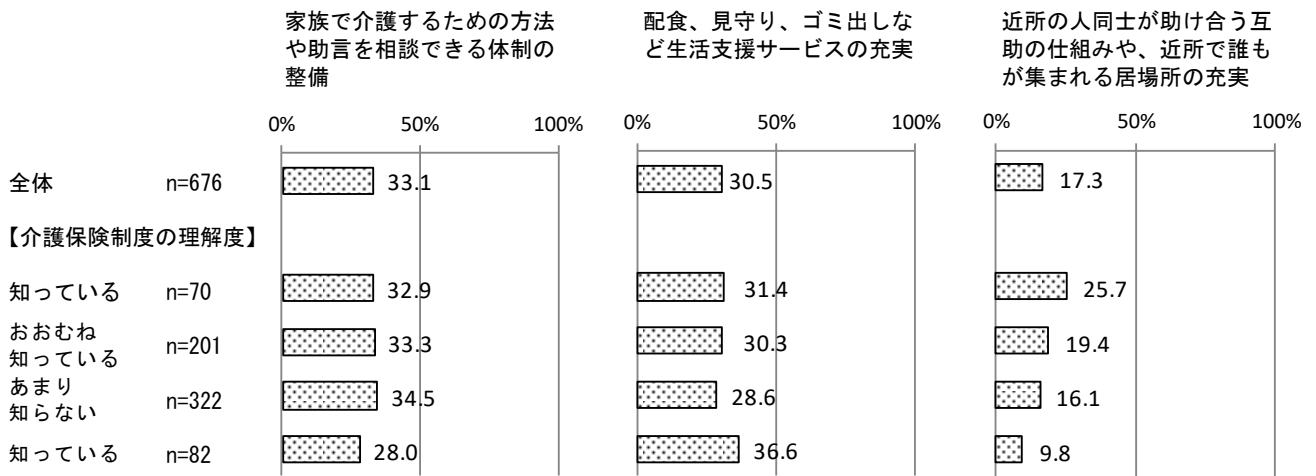
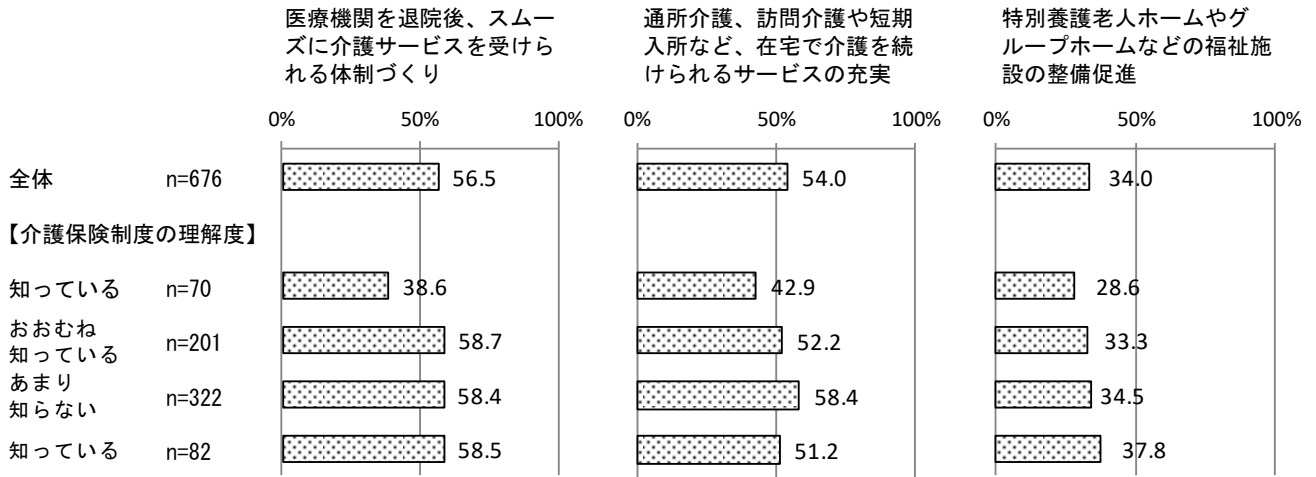
性別でみると、「医療機関を退院後、スムーズに介護サービスを受けられる体制づくり」は女性（61.4%）が男性（50.0%）を11.4ポイント上回っている。

年齢別でみると、「医療機関を退院後、スムーズに介護サービスを受けられる体制づくり」はすべての年齢で半数を超えている。



職業別でみると、特徴的な差異は見られなかった。

同居家族別でみると、「配食、見守り、ゴミ出しなど生活支援サービスの充実」が一人暮らしの方で44.1%と高くなっている。



介護や介護保険制度の理解度別でみると、「医療機関を退院後、スムーズに介護サービスを受けられる体制づくり」は知っている方以外で半数を超えている。「近所の人同士が助け合う互助の仕組みや、近所で誰もが集まれる居場所の充実」は理解度が高いほど高くなっている。

第8期群馬県高齢者保健福祉計画の策定のための県民意識調査

報告書

令和2年3月

群馬県 健康福祉部 介護高齢課

〒371-8570

群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2576
